保存用1

御津町埋蔵文化財発掘調査報告 3

原　遺　跡

圃場整備事業に伴う
発　掘　調　査

1988年3月

御津町教育委員会

岡山県御津町教育委員会

原遺跡調査前全景（南東上空から）

序

御津町宇垣の原遺跡は県下周知の遺跡である。

この遺跡は、御津町をほぼ北から南へ貫流する旭川の西岸、町の中心的平地である宇垣地区原にあり、氾濫原の微高地、自然堤防上に立地している。その発見は昭和26年３月当時の岡山県立金川高等学校教諭であった故人江坂進氏が瓦土採取現場で眼をとめた土器片がその最初の発見であった。

それ以来現岡山理科大学鎌木義昌教授等研究者によって調査研究が進められた結果、貝塚をともなわない内陸部の縄文時代晩期の遺跡として注目されてきたのである。

今回、県営圃場整備事業（河内地区）の実施に当り、この遺跡の歴史的・文化的重要性に鑑みその損傷を最少限に留めるべく岡山地方振興局・岡山県教育庁文化課・御津町農業土木課等関係諸機関と協議を重ね、全体として盛土工法によることとし、用水路、排水溝等止むを得ない部分について、「トレンチ調査」・「表層部分調査」を実施して記録保存をすることとした。

そして、昭和60年４月から３カ年間、岡山県古代吉備文化財センター職員二宮治夫主事の派遣により発掘調査を進めた結果、当初の予想以上の石器・土器類・住居址・建物跡等貴重な発見が相つぎ、御津町の古代史解明の上に誠に重要な資料を与えられているのである。

出土品の保護と活用については、本年度中に整理・保存し一般に紹介いたす予定である。

ここに、この報告書を発刊するに当たり、その意義と成果の一端を述べ関係各位のご協力に対し深く感謝申し上げます。

どうぞ，この報告書が古代史解明の一助となり、併せて文化財保護と活用の資ともなりますよう念願いたします。

昭和63年３月

御津町教育委員会
教育長　宮　本　久　雄

例　　言

1．本書は、県営圃場整備事業に伴い、御津町教育委員会が昭和60・61年度国庫補助を受けて実施した「原(はら)遺跡」の発掘調査概要報告書である。

2．遺跡は御津郡御津町大字宇垣に所在する。

3．発掘調査は御津町教育委員会職員二宮治夫が担当し、昭和60年4月～昭和61年5月31日、昭和61年10月31日～昭和62年3月31日まで実施した。

4．発掘調査においては、岡山県教育委員会、御津町役場農業土木課、地権者等より援助を受けた。特に発掘作業に従事していただいた地区の方々には大変おせわになりました。記して感謝の意を表します。

5．遺物の整理は宇垣コミュニティーセンターで二宮が行った。尚、遺物、実測図、写真等は御津町教育委員会において保管している。

6．本書の作成にあたっては、岡山県古代吉備文化財センター職員　正岡睦夫氏の協力を得た。

7．本書に使用したレベル高は海抜高であり、方位は第1～3図が真北、他は磁北である。

8．本書第2図に用いた地形図は建設省国土地理院発行の50,000分の1地形図（金川）を複製したものである。

9．図版中の遺物番号は本文中の遺物番号と同一である。

目　　次

第１章　地理的・歴史的環境 …… 1
第２章　調査の経緯 …… 5
第３章　原遺跡の調査 …… 9
　第１節　D12区の調査 …… 9
　第２節　D19区の調査 …… 28
　第３節　D21区の調査 …… 51
　第４節　D22・D23区の調査 …… 55
　第５節　D13・D28区の調査 …… 70
　第６節　D25区の調査 …… 76
　第７節　D20区の調査 …… 80
　第８節　D26区の調査 …… 117

表　目　次

表１　遺跡分布表 …… 3
表２　原遺跡水田層花粉分析表 …… 123
表３　原遺跡出土土器観察表 …… 124

図　目　次

第１図　位置図（１／1,320,000）…… 1
第２図　原遺跡周辺遺跡分布図（１／50,000）…… 2
第３図　原遺跡微高地範囲図（アミメ部分）…… 6
第４図　圃場整備前地形図（１／4,000）…… 7
第５図　圃場整備後地形および調査区 …… 8
第６図　D12区遺構配置図（1／400）…… 9
第７図　D12区１号住居址平・断面図（１／60）…… 10
第８図　D12区２号住居址平・断面図（１／60）…… 11
第９図　D12区３号住居址平・断面図（１／80）…… 12
第10図　D12区１～３号住居址出土遺物 …… 13
第11図　D12区４号住居址平・断面図（１／60）…… 14

第12図　D12区５号住居址平・断面図（１／60）…… 15
第13図　D12区５号住居址出土遺物 …… 16
第14図　D12区６号住居址平・断面図（１／60）…… 17
第15図　D12区７号住居址平・断面図（１／60）…… 18
第16図　D12区８号住居址平・断面図（１／80）…… 19
第17図　D12区８号住居址他出土遺物 …… 20
第18図　D12区住居址内出土遺物 …… 21
第19図　D12区井戸－１平・断面図（１／60）…… 22
第20図　D12区井戸－１出土遺物 …… 23
第21図　D12区建物－１平・断面図（１／80）…… 24
第22図　D12区土器溜り出土遺物 …… 25
第23図　D12区土器溜り・包含層・表採遺物 …… 26
第24図　D12区住居址他出土遺物 …… 27
第25図　D19区上段全体図（１／200） …… 28
第26図　D19区１号住居址平・断面図（１／80）…… 29
第27図　D19区２号住居址平・断面図（１／80）…… 31
第28図　D19区３号住居址平・断面図(1)（１／80）…… 32
第29図　D19区３号住居址断面図(2)（１／80）…… 33
第30図　D19区３号住居址断面図(3)（１／80）…… 34
第31図　D19区４・５号住居址平・断面図（１／80）…… 35
第32図　D19区６号住居址平・断面図（１／60）…… 36
第33図　D19区１・２・３号住居址出土遺物 …… 37
第34図　D19区３・４号住居址他出土遺物 …… 38
第35図　D19区２号住居址出土遺物 …… 39
第36図　D19区１・２号住居址出土遺物 …… 40
第37図　D19区２号住居址出土遺物 …… 41
第38図　D19区３～９号住居址出土遺物 …… 42
第39図　D19区住居址出土遺物 …… 43
第40図　D19区７号住居址平・断面図（１／60）…… 44
第41図　D19区８号住居址平・断面図（１／60）…… 45
第42図　D19区袋状土壙平・断面図（１／30）…… 46
第43図　D19区土壙墓平・断面図（１／40）…… 46

第44図　D19区土壙－２平・断面図（１／30）…… 47
第45図　D19区土壙－１・２出土遺物(1) …… 48
第46図　D19区土壙－１・２出土遺物(2) …… 49
第47図　D19区他住居址・包含層出土遺物 …… 50
第48図　D21区１号住居址平・断面図（１／60）…… 51
第49図　D21区土壙－１平・断面図（１／30）…… 51
第50図　D21区１号住居址内土壙－２平・断面図（１／30）…… 51
第51図　D21区住居址内土壙出土遺物(1) …… 52
第52図　D21区住居址内土壙出土遺物(2) …… 53
第53図　D21区住居址内土壙出土遺物(3) …… 54
第54図　D22区１号住居址平・断面図（１／80）…… 55
第55図　D22区２号住居址平・断面図（１／60）…… 56
第56図　D22区３号住居址平・断面図（１／40）…… 57
第57図　D22区４号住居址平・断面図（１／80）…… 58
第58図　D22区５号住居址平・断面図（１／60）…… 59
第59図　D22・23区６号住居址平・断面図（１／80）…… 60
第60図　D23区７号（右）・８号（左）住居址平・断面図（１／60）…… 61
第61図　D22区土壙－１平・断面図（１／30）…… 62
第62図　D22区土壙－２平・断面図（１／40）…… 62
第63図　D22区２・３・４・６号住居址出土遺物 …… 63
第64図　D22・23区６・８号住居址・溝－２出土遺物 …… 64
第65図　D22区溝－３出土遺物 …… 65
第66図　D22区土壙－１出土遺物 …… 66
第67図　D22区柱穴出土遺物 …… 67
第68図　D22区Ｐ－59出土遺物 …… 68
第69図　D22区柱穴・包含層出土遺物 …… 69
第70図　D13区溝－１遺物出土状況（１／20）…… 70
第71図　D13区溝－１～３断面図（中央部南壁）（１／60）…… 71
第72図　D13区Ｐ－３・溝－１出土遺物 …… 72
第73図　D13区溝・土壙・包含層出土遺物 …… 73
第74図　D28区水田址平・断面図（１／60）…… 74
第75図　D28区水田層出土遺物 …… 75

第76図　D28区土器溜り出土遺物 …… 75
第77図　D25区縄文土器出土状況平・断面図（1／20）…… 76
第78図　D25区遺構配置図（1／400）および東西土層断面図（1／80）…… 77～78
第79図　D25区溝・斜面出土遺物 …… 79
第80図　D20区1号住居址平・断面図（1／60）…… 81
第81図　D20区1号住居址出土遺物 …… 82
第82図　D20区2号住居址平・断面図（1／60）…… 83
第83図　D20区3号住居址平・断面図（1／80）…… 84
第84図　D20区3号住居址（上）平・断面図（1／80）…… 85
第85図　D20区3号住居址内遺物出土状況（1／80）…… 86
第86図　D20区3号住居址出土遺物(1) …… 87
第87図　D20区3号住居址出土遺物(2) …… 88
第88図　D20区3号住居址出土遺物(3) …… 89
第89図　D20区3号住居址出土遺物(4) …… 90
第90図　D20区3号住居址出土遺物(5) …… 91
第91図　D20区3号住居址出土遺物(6) …… 92
第92図　D20区3号住居址出土遺物(7) …… 93
第93図　D20区3号住居址出土遺物(8) …… 94
第94図　D20区3号住居址出土遺物(9) …… 95
第95図　D20区3号住居址出土遺物(10) …… 96
第96図　D20区3号住居址出土遺物(11) …… 97
第97図　D20区3号住居址出土遺物(12) …… 98
第98図　D20区3号住居址出土遺物(13) …… 99
第99図　D20区3号住居址付近柱穴他出土遺物 …… 100
第100図　D20区4号住居址平・断面図（1／60）…… 101
第101図　D20区建物－1平・断面図（1／80）…… 101
第102図　D20区建物－2平・断面図（1／80）…… 102
第103図　D20区井戸－1平・断面図（1／30）…… 102
第104図　D20区井戸－2平・断面図（1／60）…… 103
第105図　D20区井戸－3平・断面図（1／30）…… 104
第106図　D20区井戸－4平・断面図（1／30）…… 105
第107図　D20区井戸－5平・断面図（1／40）…… 105

第108図　D20区井戸－1・2・4・5出土遺物 …… 106
第109図　D20区土壙－1平・断面図（1／40） …… 107
第110図　D20区袋状土壙平・断面図（1／30） …… 107
第111図　D20区土壙墓－1平・断面図（1／20） …… 107
第112図　D20区土壙他出土遺物 …… 108
第113図　D20・21区出土遺物 …… 109
第114図　D20区西側南北平・断面図（1／100） …… 110
第115図　D20区溝－1平・断面図（1／60） …… 111
第116図　D20区溝－4・5平・断面図（1／60） …… 111
第117図　D20区溝－6平・断面図（1／60） …… 112
第118図　D20区溝－8・9平・断面図（1／60） …… 113
第119図　D20区溝－10平・断面図（1／60） …… 113
第120図　D20区溝出土遺物 …… 114
第121図　D20区東端南北北側平・断面図（1／60） …… 115
第122図　D20区東端南北凹部・土器溜り出土遺物 …… 116
第123図　D26区・同拡張区全体図（1／200） …… 117
第124図　D26区拡張区住居址平・断面図（1／100） …… 118
第125図　D26区土壙－1平・断面図（1／60） …… 120
第126図　D26区拡張区土壙－2平・断面図（1／40） …… 120
第127図　D26区土壙出土遺物 …… 121
第128図　D26区拡張区内土壙・包含層出土遺物 …… 122
付　図　原遺跡D13区・D20区・D22区・D23区・D28区遺構全体図

図　版　目　次

図版1　1．調査前（北東丘陵上から）
　　2．第2期工事区域（北西から）
図版2　1．D12区遺構検出状況（東から）
　　2．D12区遺構検出状況（北から）
図版3　1．D12区1号住居址完掘状況（東から）
　　2．D12区2号住居址完掘状況（南から）
図版4　1．D12区2号住居址北壁土層断面（南から）
　　2．D12区3，4，5土器溜り完掘状況（北から）

図版５　１．Ｄ12区５号住居址内遺物出土状況・南北土層断面（西から）
　　２．Ｄ12区土器溜り全景（北西から）
図版６　１．Ｄ12区下層遺構検出状況（北から）
　　２．Ｄ12区６号住居址炭化物検出状況（南東から）
図版７　１．Ｄ12区６号住居址完掘状況（南東から）
　　２．Ｄ12区７号住居址検出状況（北東から）
図版８　１．Ｄ12区７号住居址検出状況（北東から）
　　２．Ｄ12区住居址かまど検出状況（南東から）
図版９　１．Ｄ12区井戸（下）８号住居址（上）完掘状況（北から）
　　２．Ｄ12区８号住居址完掘状況（西から）
図版10　１．Ｄ12区井戸検出状況（北から）
　　２．Ｄ12区井戸南北土層断面（西から）
図版11　１．Ｄ12区井戸完掘状況（西から）
　　２．Ｄ12区建物全景（北から）
図版12　１．Ｄ12区下層遺構完掘全景（北から）
　　２．Ｄ19区（一次）遺構検出状況（東から）
図版13　１．Ｄ19区（一次）１・２号住居址完掘状況（東から）
　　２．Ｄ19区（一次）２号住居址床面出土遺物近影
図版14　１．Ｄ19区（一次）３号住居址床面遺構検出状況（南から）
　　２．Ｄ19区３号住居址完掘状況（南から）
図版15　１．Ｄ19区（一次）３号住居址完掘状況（南から）
　　２．Ｄ19区（一次）完掘状況（東西部分）（東から）
図版16　１．Ｄ19区４号住居址検出状況（西から）
　　２．Ｄ19区４号住居址床面遺構検出状況（西から）
図版17　１．Ｄ19区４・５号住居址完掘状況（北から）
　　２．Ｄ19区下段東西完掘状況（西から）
図版18　１．Ｄ19区袋状貯蔵穴半掘断面（西から）
　　２．Ｄ19区袋状貯蔵穴完掘状況（南から）
図版19　１．Ｄ19区（下一次，上二次）二次遺構検出状況（南から）
　　２．Ｄ19区（二次）８号住居址検出状況（南から）
図版20　１．Ｄ19区８号住居址完掘状況（南から）
　　２．Ｄ19区土壙－１・２遺物出土状況（東から）

図版21　1．D19区土壙－2遺物出土状況（東から）
2．D19区土壙－2完掘状況（東から）
図版22　1．D19区1・2号住居址等完掘状況（南から）
2．D19区2号住居址完掘状況（南から）
図版23　1．D19区3・5号住居址検出状況（東から）
2．D19区3・5号住居址掘り下げ状況（東から）
図版24　1．D19区東西（上段）完掘状況全景（東から）
2．D19区東西（上段）3号住居址完掘状況（南から）
図版25　1．D19区6号住居址完掘状況（南西から）
2．D19区土壙墓完掘状況（南南西から）
図版26　1．D19区2号住居址柱穴内石器出土状況
2．D19区2号住居址床面石器出土状況
3．D19区3号住居址南北土層断面（西から）
4．D19区3号住居址壁体溝内遺物出土状況
5．D19区3号住居址中央土壙半掘状況（南から）
6．D19区3号住居址埋土中管玉出土状況
7．D19区3号住居址床面ガラス玉出土状況(1)
8．D19区3号住居址床面ガラス玉出土状況(2)
図版27　1．D13区全景（西から）
2．D13区溝－1検出状況（東から）
図版28　1．D13区溝－1完掘・溝－2土壙検出状況（東から）
2．D13区溝－1内遺物出土状況（南から）
図版29　1．D13区溝－1内遺物出土状況
2．D13区溝－1東西南壁土層断面（北西から）
図版30　1．D13区溝・土壙完掘状況（東から）
2．D13区完掘状況（一次）遺構検出状況（二次）（東から）
図版31　1．D13区完掘状況（一次・二次）（東から）
2．D28区土器溜り（東から）
図版32　1．D28区完掘状況（南側）（南から）
2．D28区水田部分（北から）
図版33　1．D28区水田畦畔・水口部分検出状況（南東から）
2．D28区北壁土層断面（畦畔）（南から）

図版34　1．28区土層断面(1)
2．D28区土層断面(2)畦畔検出状況
3．D28区土層断面(3)
4．D28区土層断面(4)（南南西から）
5．D28区土層断面(5)（南南西から）
6．D28区土層断面(6)（南西から）
図版35　1．D25区溝状遺構検出状況（西から）
2．D25区溝状遺構完掘状況（南東から）
図版36　1．D25区北壁土層断面（南から）
2．D25区北壁畦畔部分（南から）
図版37　1．D25区北壁土層断面（南から）
2．D25区北壁土層断面（南東から）
図版38　1．D25区凹部完掘状況（南から）
2．D25区斜面遺物出土状況（南から）
図版39　1．D21区住居址・土壙検出状況（東から）
2．D21区土壙－1遺物検出状況（南から）
図版40　1．D21区土壙－2完掘状況（南から）
2．D21区住居址・土壙完掘状況（南東から）
図版41　1．調査前（D19区から北東側を望む）
2．調査前（D19区から北々東側を望む）
図版42　1．D22区住居址・土壙検出状況（西から）
2．D22区1号住居址掘り下げ中（西から）
図版43　1．D22区1号住居址完掘状況（西から）
2．D22区2号住居址完掘状況（南から）
図版44　1．D22区3号住居址完掘・土壙－1半掘状況（南から）
2．D22区3号住居址内遺物出土状況（北から）
図版45　1．D22区3号住居址完掘・土壙遺物出土状況（南から）
2．D22区土壙－1半掘断面（南東から）
図版46　1．D22区土壙内遺物出土状況（南東から）
2．D22区3号住居址より東側遺構検出状況（西から）
図版47　1．D22区4号住居址床面遺構検出状況（北から）
2．D22区4号住居址西側部分（北から）

図版48　1．D22区４号住居址完掘状況（北から）
2．D22区４号住居址西側中央ピット半掘状況（東から）
図版49　1．D22区４号住居址東側中央ピット半掘状況（東から）
2．D22区１号住居址より東側遺構完掘状況（東から）
図版50　1．D22区中央部分柱穴完掘状況（東から）
2．D22区５号住居址検出状況（北東から）
図版51　1．D22区土壙－59（南から）
2．D22区土壙－54（北から）
図版52　1．D22・23区６号住居址土層断面（西から）
2．D22・23区６号住居址柱穴内遺物出土状況
図版53　1．D22・23区６号住居址完掘状況（北北西から）
2．D23区７号（下）８号（上）住居址完掘状況（北から）
図版54　1．D20区南北部分調査状況（南から）
2．D22区南北部分西壁土層断面（東から）
図版55　1．D20区南北部分西壁土層断面（東から）
2．D20区南北部分西壁土層断面（北東から）
図版56　1．D20区南北部分落ち込み部土層断面（東から）
2．D20区南北部分西壁土層断面（東から）
図版57　1．D20区１号住居址・溝検出状況（西から）
2．D20区１号住居址１段掘り下げ状況（西から）
3．D20区１号住居址床面下遺構掘り上げ状況（北から）
4．D20区１号住居址完掘状況（西から）
図版58　1．D20区２号住居址検出状況（南東から）
2．D20区２号住居址床面遺構検出状況（南東から）
図版59　1．D20区２号住居址完掘状況（南東から）
2．D20区３号住居址検出状況（南から）
図版60　1．D20区３号住居址遺物出土状況（南から）
2．D20区３号住居址検出状況（南から）
図版61　1．D20区３号住居址遺物出土状況（南から）
2．D20区３号住居址南部土器出土状況(1)
3．D20区３号住居址南部土器出土状況(2)
4．D20区３号住居址南部土器出土状況(3)

5．D20区３号住居址南部土器出土状況(4)
6．D20区３号住居址北西部土器出土状況
7．D20区３号住居址南西部土器出土状況
8．D20区３号住居址床面石器出土状況
図版62　1．D20区３号住居址遺物取り上げ後全景（東から）
2．D20区３号住居址上部床面完掘状況（東から）
3．D20区３号住居址下部床面検出状況（東から）
4．D20区３号住居址下部床面完掘状況（東から）
図版63　1．D20区４号住居址完掘状況（北から）
2．D20区井戸－１検出状況（西から）
図版64　1．D20区井戸－１遺物出土状況（北から）
2．D20区井戸－１完掘状況（北から）
図版65　1．D20区井戸－２（上）３（手前）検出状況（東から）
2．D20区井戸－２・３掘り上げ状況（東から）
3．D20区井戸－２土壙墓掘り上げ状況（東から）
4．D20区井戸－２完掘状況（北から）
5．D20区井戸－３完掘状況（東から）
6．D20区井戸－２・３土壙墓完掘状況（東から）
図版66　1．D20区井戸－４埋土掘り上げ状況（北西から）
2．D20区井戸－４内部近景（北西から）
3．D20区井戸－４底部石組み状況（北西から）
4．D20区井戸－４完掘状況（北西から）
図版67　1．D20区井戸－５一段掘り下げ状況（南から）
2．D20区井戸－５完掘状況（西から）
3．D20区井戸－５遺物出土状況
図版68　1．D20区１号住居址・溝検出状況（西から）
2．D20区溝－９（下）・５（上）完掘状況（西から）
3．D20区溝－８・９北壁土層断面（南東から）
4．D20区溝－６完掘状況（東から）
図版69　1．D20区建物－１・２全景（西から）
2．D20区建物－１全景（西から）
3．D20区建物－２柱穴掘り上げ状況（北から）

4．D20区建物－2北側柱穴木片出土状況
図版70　1．D20区袋状土壙上層焼土検出状況（北から）
2．D20区袋状土壙完掘状況（北から）
3．D20区土壙－1遺物出土状況（東から）
4．D20区土壙－1完掘状況（東から）
5．D20区土壙墓石組み検出状況（南から）
6．D20区土壙墓－1完掘状況（南から）
図版71　1．D20区東端南北部遺構検出状況（南から）
2．D20区東端南北部遺構検出状況（北から）
3．D20区東端南北部遺物出土状況
4．D20区東端南北部遺物出土状況
5．D20区南半分一部完掘状況（北から）
6．D20区南側凹部完掘状況（南から）
7．D20区北端溝検出状況（北から）
8．D20区北端溝完掘状況（北から）
図版72　1．D26区遺構検出状況（南から）
2．D26区北端部遺構検出状況（南から）
図版73　1．D26区土壙－1土層断面（南から）
2．D26区土壙－1・柱穴完掘状況（南から）
図版74　1．D26区拡張区遺構検出状況（南西から）
2．D26区拡張区完掘状況（南西から）
図版75　1．D26区拡張区内土壙－2遺物検出状況（南から）
2．D26区拡張区内土壙－2完掘状況（南から）
図版76　1．D20区1号住居址（左下）D26区拡張区内完掘状況（南東から）
2．D27区調査区全景（南東から）
図版77　1．D27区土層断面（南から）
2．D27区土層断面（南西から）
図版78　1．ポンプ場跡遺構検出状況（西から）
2．ポンプ場跡遺構完掘状況（西から）
3．同，畦畔部分凹状遺構完掘状況（東から）
4．同，凹状遺構内礫検出状況(1)（東から）
5．同，凹状遺構内礫検出状況(2)（東から）

6．同，凹状遺構内礫検出状況(3)（東から）
7．同，凹状遺構完掘状況（東から）
8．同，住居址完掘状況（北から）
図版79　出土遺物(1)
図版80　出土遺物(2)
図版81　出土遺物(3)
図版82　出土遺物(4)
図版83　出土遺物(5)
図版84　出土遺物(6)
図版85　出土遺物(7)
図版86　出土遺物(8)

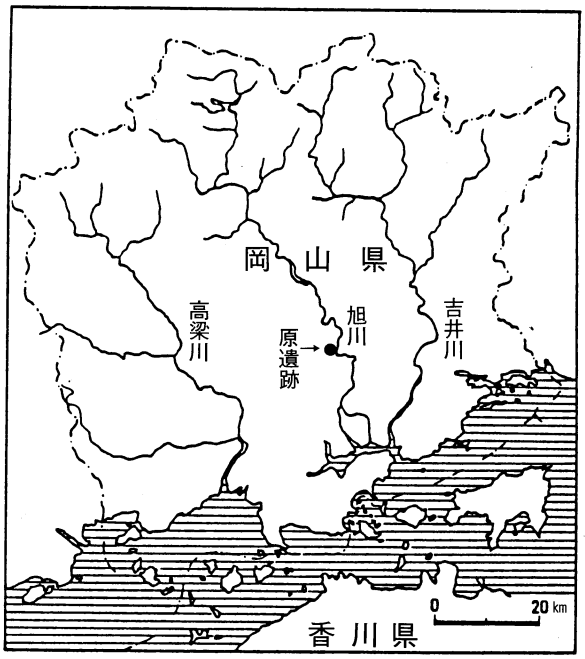
第１章　地理的・歴史的環境

原遺跡の所在する御津郡御津町は、岡山県の中央部を南流する旭川のほぼ中流域に位置し、１市４町（東は赤坂町・山陽町，西は御津郡加茂川町、南は岡山市、北は建部町）に接し面積は約114㎢を有する。

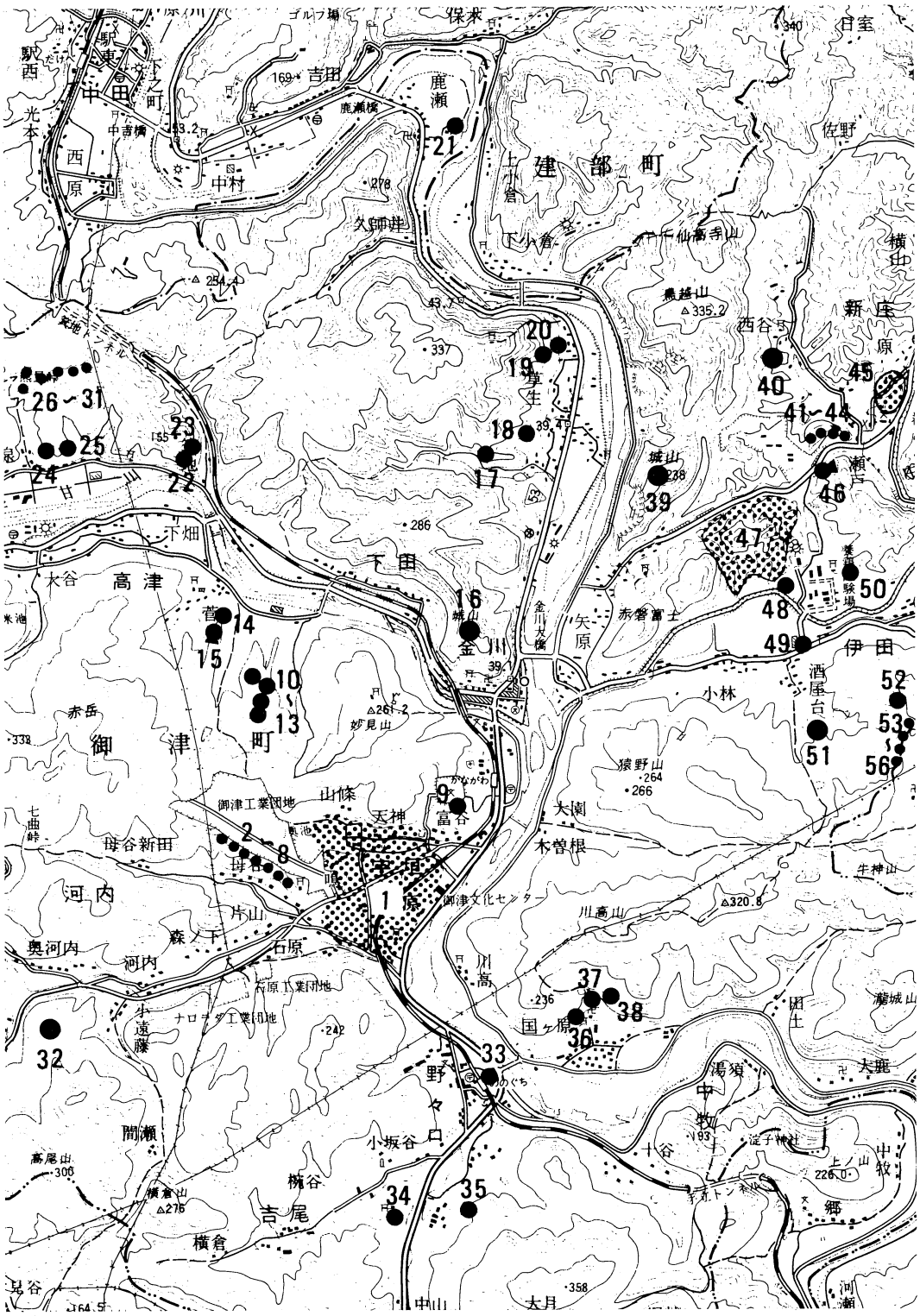
御津町の主要な集落は北から南に流れる旭川と、北西から南東に流れ、金川で旭川に合流する宇甘川、さらに北東から南西に流れ金川で旭川と合流する新庄川とによって形成された沖積平野に立地している。

原遺跡は南流する旭川の右岸に形成された広大な沖積平野上に所在している。この沖積平野上には富谷から西方の鳴集落に蛇行し、さらに、南へ向かい、東流している三谷川に合流する低位部が認められている。原遺跡は低位部によって分断され，微高地上面には全体に遺構が認められる。

御津町内で現在知られている最も古い遺物（縄文時代後期）を出土している遺跡は伊田井山遺跡、伊田沖遺跡である。晩期においては、鹿瀬遺跡、野々口遺跡が知られている。鹿瀬遺跡は、町の北端部で旭川が大きく蛇行した西岸の段丘上に所在し、土器片が出土している。原遺跡は、沖積地上に位地し、昭和26年頃から瓦粘土採掘時に土器、石器が出土して注目され、昭和33年、鎌木義昌氏、江坂進氏によって出土した土器に関する共同研究が発表され、縄文時代晩期の「原下層式」設定の契機となった遺跡である。。野々口遺跡は、原遺跡の南東約1.5kmの旭川西岸に位置し、瓦粘土採掘中に土器とともに椎の実、ドングリ、および木の葉などが見つかってい



第１図　位置図（１／1,320,000）



第２図　原遺跡周辺遺跡分布図（１／50,000）

る。以上３遺跡はいずれも旭川の西岸で弥生時代の集落址と複合して認められている。

弥生時代の遺跡としては、旭川流域に位置する前述の鹿瀬遺跡、原遺跡、野々口遺跡が縄文時代から引き続き営まれているのに加え、町の北東部を流れる新庄川を見下す山麓に中期から後期にかけての遺跡である岩井山遺跡、上伊田遺跡、宅美池遺跡、新庄尾上遺跡等が確認されている。岩井山遺跡は、昭和50年に発掘調査が実施され、中期後半の竪穴住居址が検出されている。こうした弥生時代の遺跡は、原遺跡、岩井山遺跡を除くと偶然に土器等が採集されているものが多く、実態は明らかではないが、未発見の遺跡も含め、水系を見下す丘陵、山裾にも弥生時代の人々が生活を営み始めたことをうかがうことができる。

古墳時代に入ると、各水系のを見下す丘陵上には多くの古墳が存在しており、その流域に広がる平野を生産基盤として古墳時代の人々が生活していたことが知られる。

分布状況は、旭川水系約20基、宇多川水系約20基、新庄川水系で約50基が確認されている。このうち旭川流域の草生、宇垣、野々口、国ケ原の平野を基盤とする古墳は後期古墳が主体をなしている。宇甘川流域では全長44ｍを測る前方後円墳の菅２号墳、一辺約10ｍの方墳の菅１号墳や小円墳などの前半期の古墳から後期古墳が造営されている。中でも新庄川流域においては、平野を見下る丘陵上に、前方後円墳（天神鼻１号墳、八つ塚古墳）が近接して存在し、周辺にも前半期の古墳が知られている。昭和50年に発掘調査が実施された岩井山古墳群には箱式石棺、石蓋土壙を内部主体とする５世紀代の方墳であることが明らかとなっている。このような古墳のあり方から古墳時代においては新庄川流域は年代的、数量的にも他の水系に比べて卓越している地域であったと考えられる。

歴史時代に入ると、奈良～室町時代の原、岩井山遺跡がある他、五輪塔、宝篋印塔なども確認されている。とりわけ鎌倉～戦国時代においては、河川および陸上の交通の要衝地にあたる

表１　遺　跡　分　布　表

１．原遺跡
２～８．宇根山古墳群
９．金川古墳（調査済のみ）
10～13．みそのお古墳群
14．菅１号墳
15．菅２号墳（前方後円墳）
16．玉松城
17．いかとり古墳
18．平野古墳
19．宇条１号墳
20．宇条２号墳
21．鹿瀬遺跡
22．実盛山古墳
23．雲生宅跡
24．中泉２号墳
25．中泉３号墳
26～31．熊見古墳群
32．徳倉城
33．野々口遺跡
34．恋坂古墳
35．虫名古墳
36．国ケ原神社西古墳
37．香雲寺１号墳
38．香雲寺裏２号墳
39．熊谷城
40．西谷城
41～44．天神鼻古墳群（43は前方後円墳）
45．新庄原遺跡
46．八ツ塚古墳（前方後円墳）
47．岩井山古墳群
48．岩井遺跡
49．酒屋谷遺跡
50．伊田沖遺跡
51．殿谷城
52．しんのう塚古墳
53～56　殿谷古墳群

こともあって、戦国期では岡山県下最大級の城郭構造をもつ金川(かながわ)城（玉松城）をはじめ、徳倉(とくら)城、虎倉(こくら)城、熊谷(くまだに)城、殿谷(とのたに)城など多くの山城が構築されていた。中でも金川(かながわ)城（玉松城）主松田元成は落成まで備前国西半を支配する戦国大名として永く君臨していたところである。

このように、御津町は縄文時代後期から中世に至るまでの遺構・遺物が認められ、大きな歴史の一役を担って来た地域であるといえる。

参考文献

(1) 鎌木義昌・江坂進『岡山県御津町原遺跡―縄文晩期の土器を中心として―』　瀬戸内考古学　第2号　1958年

(2) 神原英朗他『岩井山古墳群』　岡山県御津町教育委員会　1976年

(3) 平井　勝『金川古墳』　岡山県御津町教育委員会　1982年

(4) 『岡山県遺跡地図　第4分冊』　岡山県教育委員会　1976年

(5) 松本和男『原遺跡』　岡山県御津町教育委員会　1983年

(6) 平井泰男『新庄尾上遺跡ほか』　岡山県教育委員会　1986年

(7) 光永真一『西奥遺跡』　岡山県教育委員会　1986年

(8) 御津町史編纂委員会『御津町史』　御津町　1985年

第2章　調 査 の 経 緯

調査に至る経緯

御津郡御津町大字宇垣に所在する原遺跡は、縄文時代晩期、弥生時代中期、同後期の遺跡で、昭和33年に鎌木義昌、江坂進の両氏によって紹介された遺跡である。特に遺跡の下層から出土した縄文時代晩期の土器は「原下層式」と呼ばれ、瀬戸内地方の縄文時代晩期中葉の標式土器として著名なものである。

この宇垣地区一帯で県営圃場整備事業が計画されたのに伴い、岡山地方振興局長から文化財保護法第57条3にもとづく協議文書が岡山県教育委員会に提出された。このため、昭和56年11月に関係者による協議を行い、(1)工事着手前に確認調査を実施する。(2)調査の結果、重要な遺構等が発見された場合は別途協議することとなった。この協議結果にもとづき、岡山県教育委員会において、遺跡の保護・保存のための基礎資料を得るために、昭和57年度国庫補助を受けて、昭和57年11月4日から昭和58年2月28日まで確認調査が実施された。

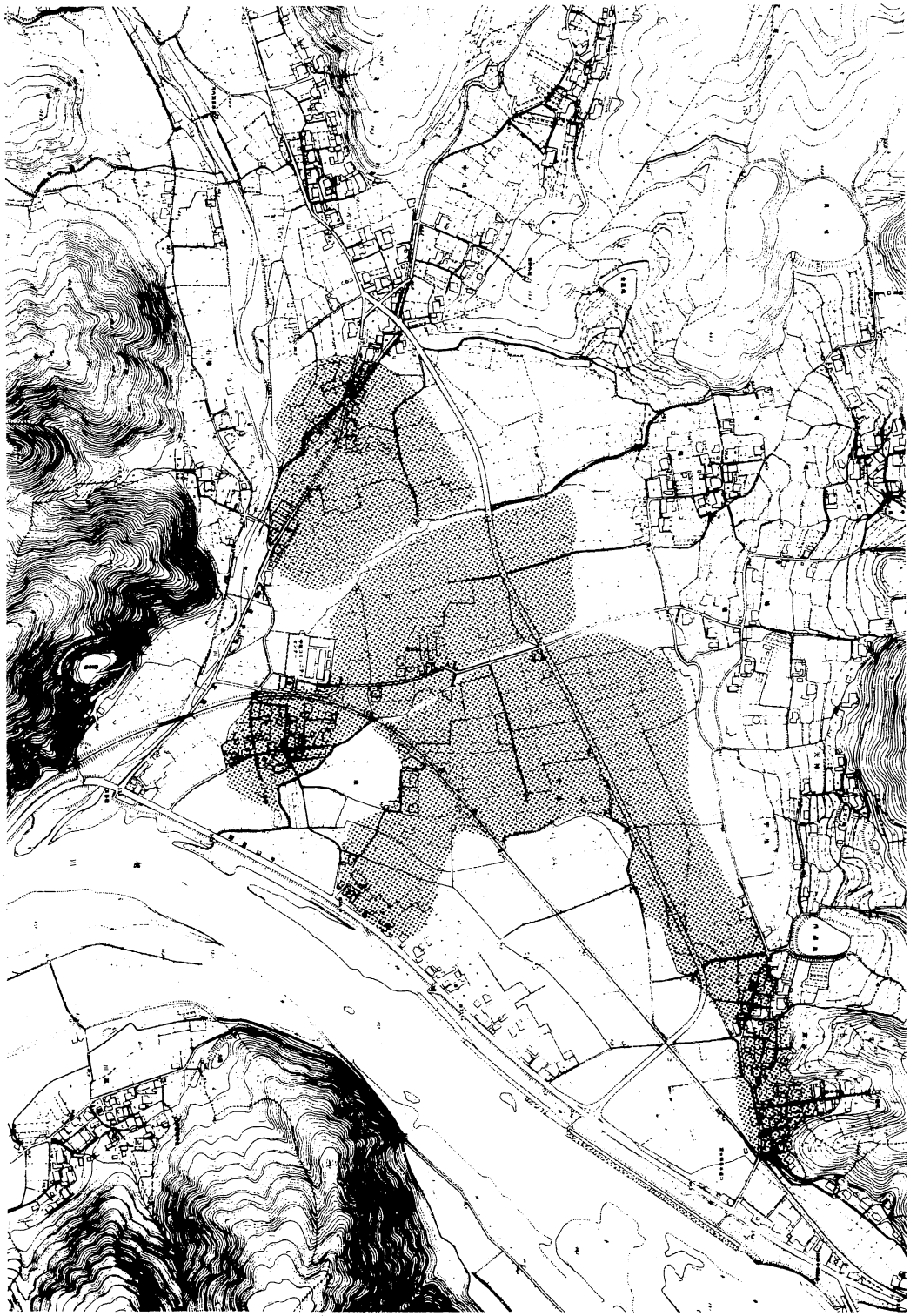
確認調査は圃場整備が計画されている地区を中心にトレンチによる調査が行われた。その結果、遺構・遺物が検出される4つの微高地を確認した。遺跡全体の面積は約354,000㎡におよぶ広大なものであることが判明した。

岡山県教育委員会による原遺跡の確認調査結果をもとに、岡山地方振興局、岡山県教育委員会、御津町、御津町教育委員会等で遺跡保存について協議が行われた。当初計画では遺跡の集中する微高地部分を削平して低位部を埋めて広い水田区画を造成することになっていたが、協議により、低位部に盛土を行い、削平する部分をなくすことにした。しかし、用・排水路については調整がつかず、やむをえず記録保存のための発掘調査を実施することになった。発掘調査は御津町教育委員会が担当し、昭和60・61年度の国庫補助を受け、昭和60年4月～昭和61年5月31日、昭和61年10月31日～昭和62年3月31日まで行った。報告書の作成は昭和62年度に実施した。

調 査 体 制

昭和60・61年度

教　育　長	宮 本 久 夫	次　　長	石 原 洋 昭
課 長 補 佐	藤 原　　正	係　　長	金 光 明 男
社会教育主事	祐 森 秀 男	社会教育主事（調査担当）	二 宮 治 夫



第３図　原遺跡微高地範囲図（アミメ部分）

昭和62年度

教　育　長　宮本久夫　　教育委員会主幹　藤原　正

係　　長　宇野尚憲　　社会教育主事（調査担当）　二宮治夫

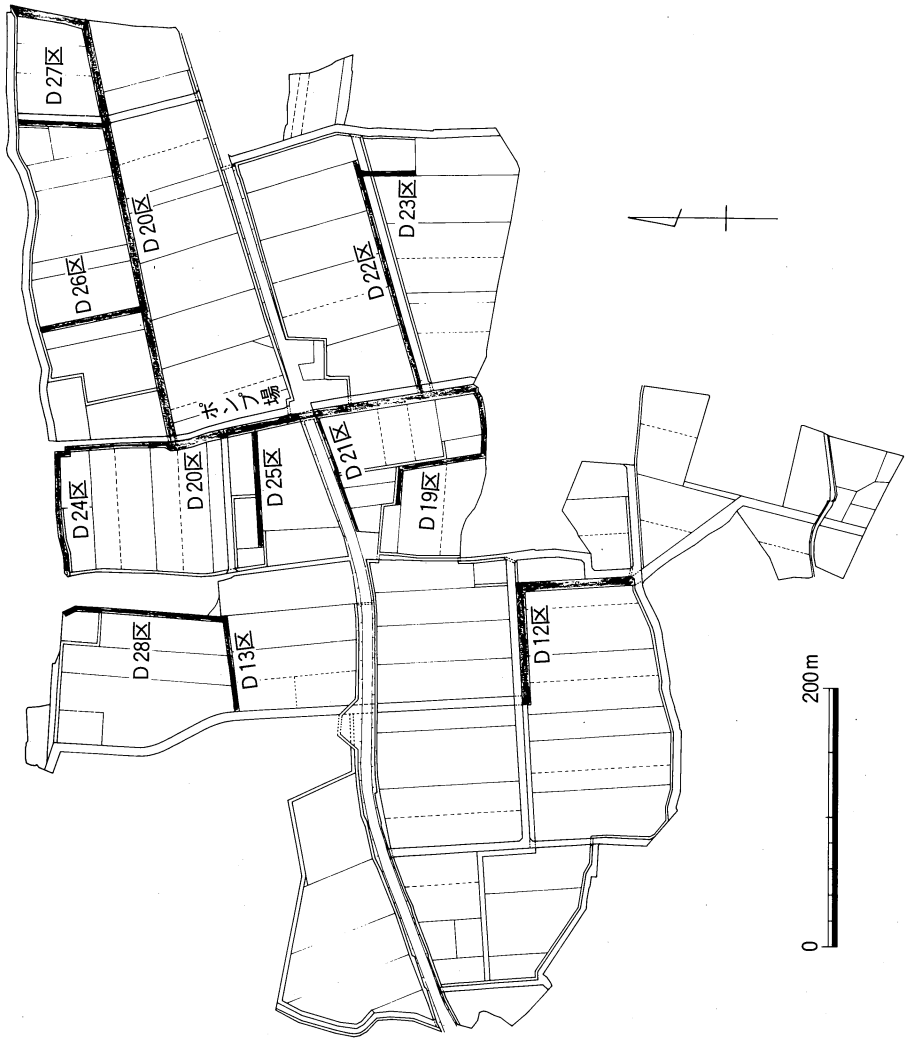
発掘作業員　西岡　定勝・西田　一正・舞原　一志・寺門　秀夫・寺門　和寿・吉村　弘・北山　謙吾・花房　義質・安宗　貞男・遠藤　笑野・高角　光恵・田口　静子・藤原　絹恵・藤原貴奴江・吉村　芳子・北山　君恵・寺門　順子・大森　文香・松尾千鶴子

整理作業員　海野ゆかり・江見　和子・信定ヤヨイ・春名　年枝

第4図　圃場整備前地形図（1／4,000）

調査区の設定

原遺跡の範囲は第３図のように広大な面積となる。圃場整備前の地割は第４図のように地形に影響されながら小区画の水田がひろがっていた。第５図は圃場整備後の水田区画であるが、道路、水路、水田区画が大きく整然と整備されている。用水路や排水路については第３図に示された遺跡の範囲内について発掘調査を実施した。調査区は第５図に示すように、D○区という標示を行った。D24区とD27区については明確な遺構・遺物は検出されなかった。なお、ポンプ場跡地の調査を実施した。



第５図　圃場整備後地形および調査区

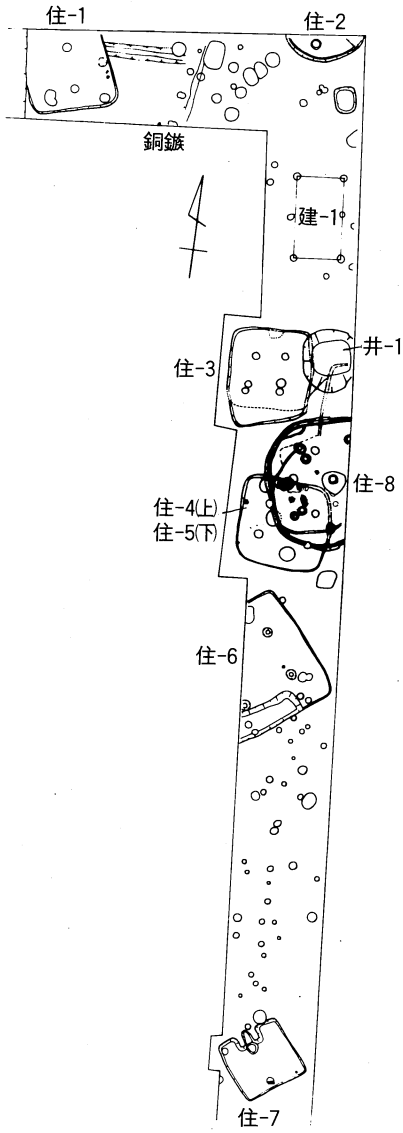
第３章　原遺跡の調査

第１節　D12区の調査

１．D12区の概要

県道の南側に位置し、原遺跡全体のなかでは南西部分にあたる。県道から南へ100ｍのところで、東西方向の長さ100ｍの部分と東端部から南へ80ｍが調査対象地域である。東側が少し高くなっていて、西へ緩やかに傾斜する。そのため、東端部の南北方向の調査区域を中心に多数の遺構が検出された。調査前はすべて水田で、耕土下の浅いところで遺構・遺物が検出される。

検出された主な遺構としては、弥生時代の竪穴住居址２軒、古墳時代の竪穴住居址６軒、中世の建物１棟，弥生時代後期の井戸１基がある。遺物としては、弥生時代中期から同後期の土器、古墳時代の須恵器、土師器、中世の土器、弥生時代の土器、時期不明の銅鏃などがある。



第６図　D12区遺構配置図（１／400）

２．D12区の遺構・遺物

１号住居址（第７・10図、図版３－１）

調査区の北西端部に位置する。平面形は方形を呈し、西側の一部は後世の溝によって削られている。北側の一部は調査区域外になっていて全容を知ることはできないが、概要を知ることは可能である。東側の壁の方向は北からわずかに西へふれているが、ほぼ南北方向を示している。西壁の南寄りの一部が調査されているので、この部分で測ると東西4.62

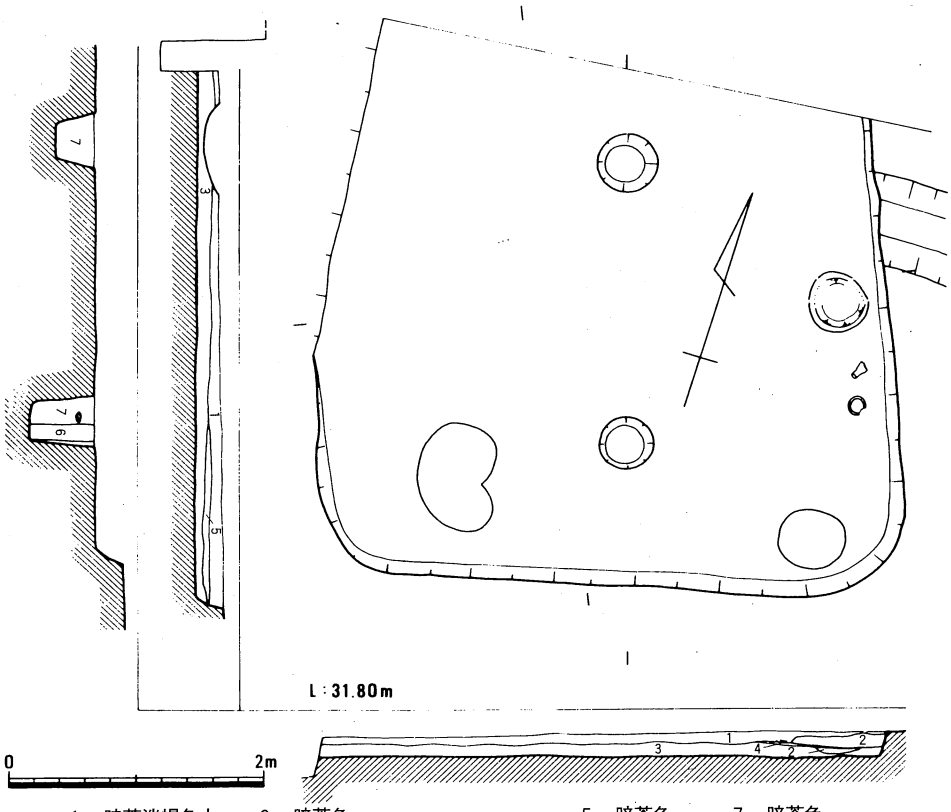
mである。中央部には南北に並ぶ２本の柱穴があり、南側の柱穴から南壁までは86cmを測ることから、北側の柱穴から北壁までの距離が同じであるとすると、南北4.44mとなり、ほぼ正方形を呈している。中央の柱穴２本の中心間の距離は2.2mである。この住居址の主柱穴は２本である。北側の柱穴は直径43cm、深さ25cm、南側の柱穴は直径22cm、深さ26cmである。南側の柱穴には柱痕跡が確められ、直径14cmである。検出面から床面までの深さは20cmである。床面はほぼ平坦である。床面の東端部、南東隅、南西隅に浅い土壙が認められる。埋土の上面に溝が東西方向に走っている。

埋土中からは第10図１が出土している。時期は出土遺物から７世紀前半に比定される。

２号住居址（第８図、図版３－２・４－１）

調査区の北西隅に位置している。円形を呈する竪穴住居址であるがほとんどは北側の調査区外にあり、南側の一部を調査したにすぎない。調査した部分から直径を復元すると約4.5mである。保存状況は良好で、検出面から床面までの深さは74cmを測る。

床面には壁に沿って、壁体溝があり、幅約８cm、深さ約４cmである。床面はほぼ平坦で、壁



第７図　D12区１号住居址平・断面図（１／60）

体溝から40㎝の位置に１本の柱穴が検出された。柱穴の大きさは直径58㎝、深さ60㎝である。

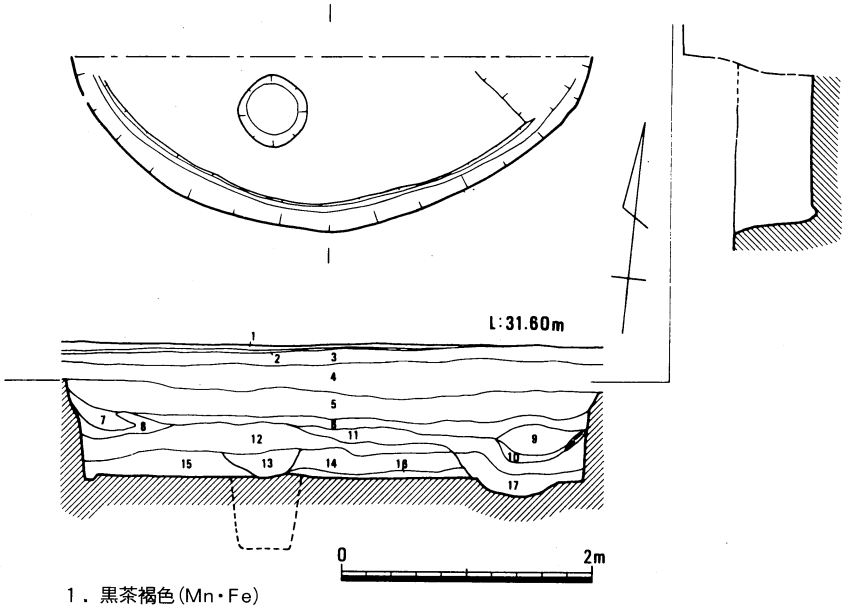
埋土中から第18図１のヤリガンナが出土してる。ほかに、第10図４～11がある。４・５は甕、６・７は鉢、９～11は高杯である。

住居址の時期は埋土中の遺物から百・後・Ⅳ（百間川遺跡弥生時代後期第Ⅳ期の略、以下同様<注>）に比定される。

㈱　岡山県教育委員会「百間川原尾島遺跡Ⅰ」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』39　1980年で用いられた編年に準拠する。

３号住居址（第９・10図、図版４－２）

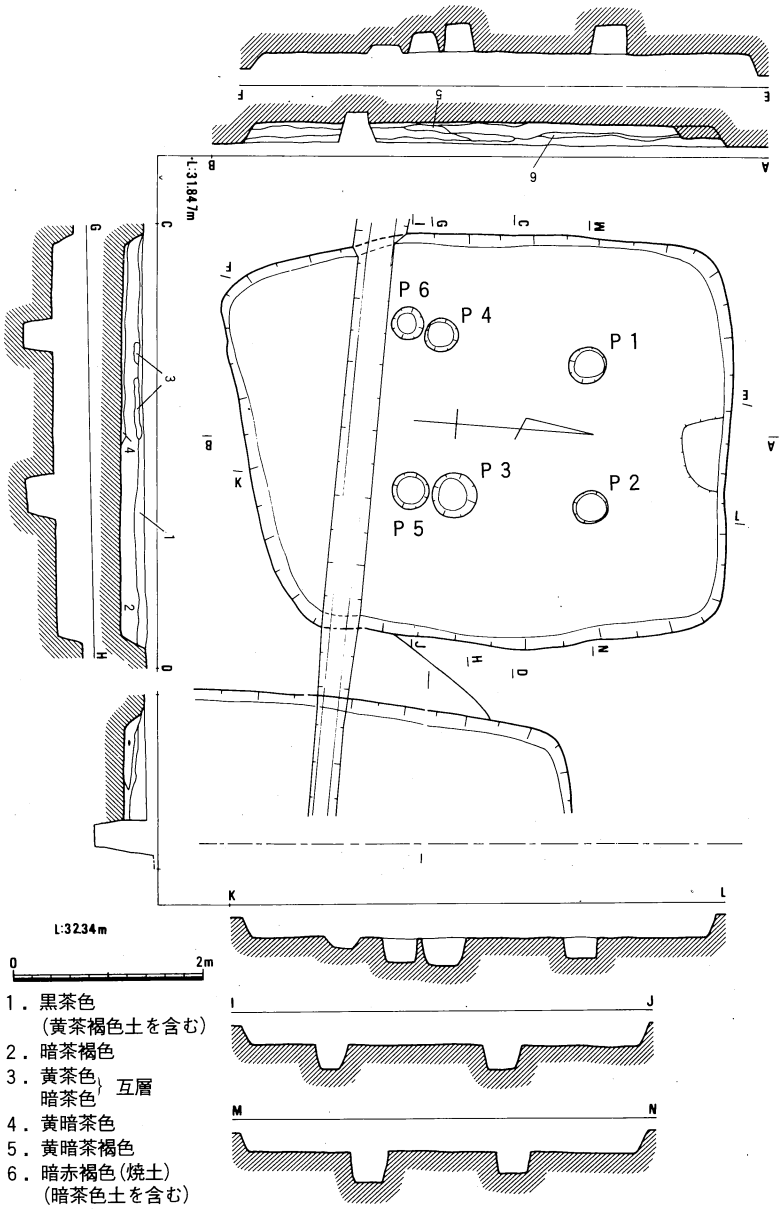
南北方向にのびる調査区の少し北寄りに位置している。平面形は方形を呈し、全容を知ることができる。南側には東西方向に走る幅60㎝の溝があり、住居址の床面より深く掘られている。平面形を詳細にみると南側に少し変形がみられるが、北壁はほぼ東西方向を示している。南側は後に一部拡幅されたようで、南西隅が少し南へ突出するようで少し変形している。規模は東西4.4m、南北4.4～5.4mである。



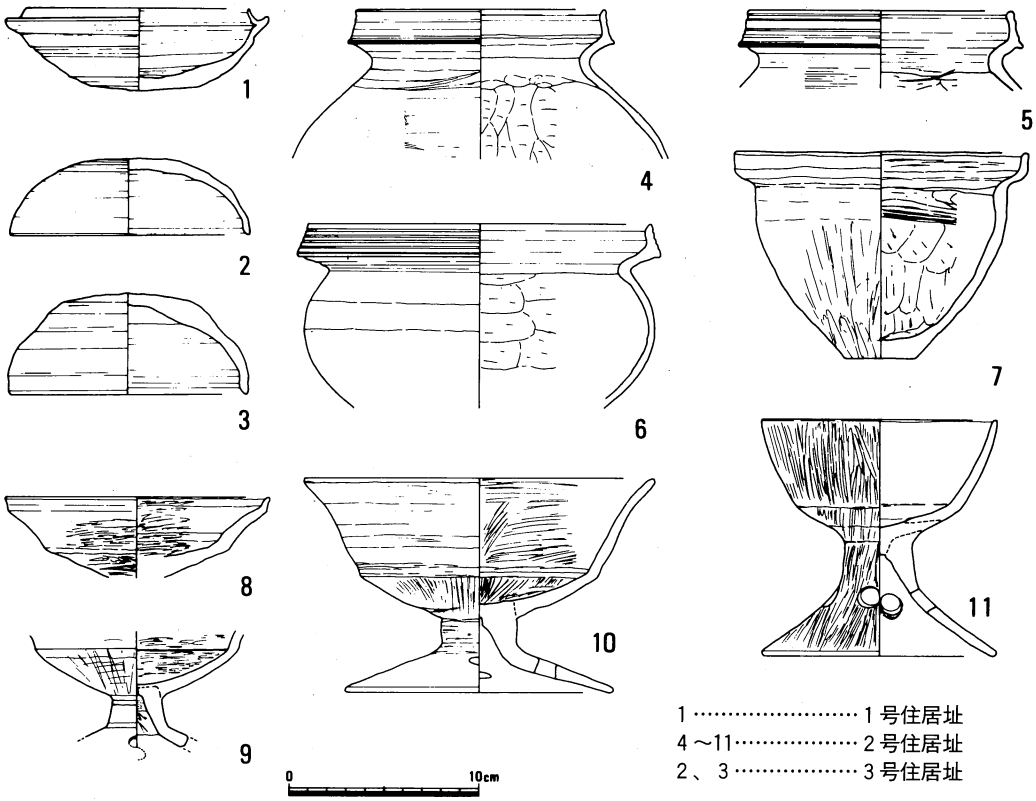
１．黒茶褐色(Mn・Fe)
２．白淡黄茶色(細砂)
３．茶褐色
４．暗茶色
５．黒茶淡褐色
６．
７．　暗黄色・黒茶色
８．黒茶色・暗茶色(少)
９．暗茶色・暗黄色
10．炭・焼土
11．暗茶色・黄色
12．黄淡褐色・暗茶色
13．黒茶色・暗黄茶色
14．
15．　暗黄色・黒茶色
16．黄茶褐色
17．暗茶褐色・黄茶色

第８図　D12区２号住居址平・断面図（１／60）

床面はほぼ平坦で、壁体溝は検出されていない。柱穴は床面で６本検出されているが南側の柱穴は２本ずつ接近していることから建て替えに伴うものと思われる。柱穴の配置は南側の柱穴が少し西方へずれていて菱形を呈する。柱間はＰ１～Ｐ２が1.6m、Ｐ２～Ｐ３が1.5m、Ｐ３～Ｐ４が1.8m、Ｐ１～Ｐ４が1.6mである。柱穴の大きさは直径30～40㎝、深さ20～30㎝で



第９図　Ｄ12区３号住居址平・断面図（１／80）



第10図　D12区１～３号住居址出土遺物

ある。北壁中央部には60×80㎝の貼り土がみとめられる。

埋土中からは須恵器の杯蓋２・３が出土している。住居址の時期は須恵器の特徴から７世紀前半に比定される。

４号住居址（第11図、図版４－２）

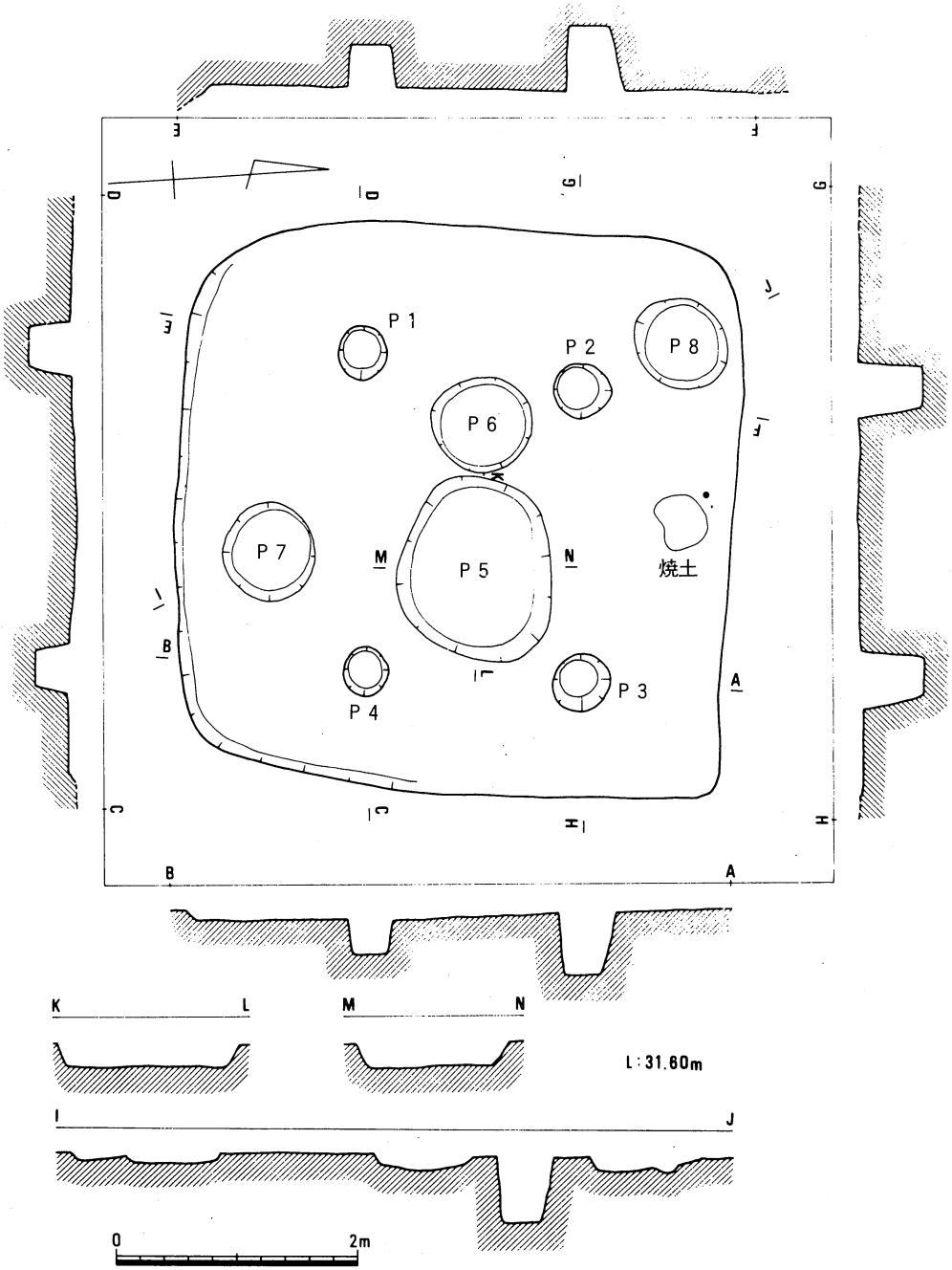
D12区の南北にのびる調査地域のほぼ中央部に位置している。５号住居址および８号住居址と重なっている。平面形は方形を呈していて、北壁はほぼ東西方向である。各コーナーは隅丸になっている。南側では明瞭な掘り込みを確認できたが、北側はやや不明瞭である。

柱穴は４本あり、Ｐ１の柱穴が少し外側へずれているが、ほぼ方形である。柱間の距離は、Ｐ２～Ｐ３が2.4m、Ｐ３～Ｐ４が1.7m、Ｐ１～Ｐ４が2.7m、Ｐ１～Ｐ２が1.85mである。柱穴の大きさは直径約40㎝、深さ20～50㎝である。床面には中央部に２個と北西隅に１個、南側で少し東へ寄ったところに１個の浅い土壙がある。

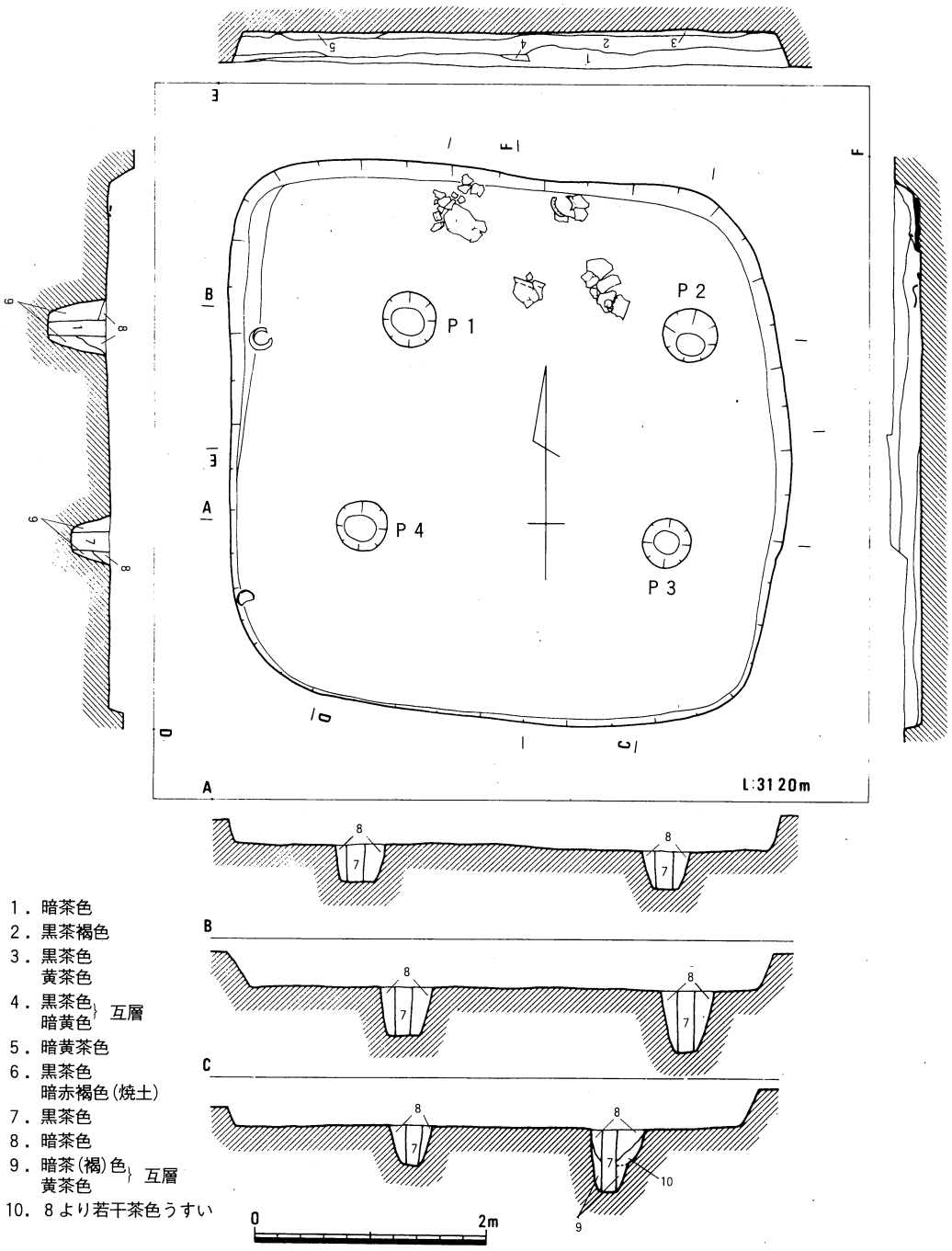
埋土中の出土遺物に良好なものはないが、形態等から古墳時代に比定される。

5号住居址（第12・13図、図版５－１）

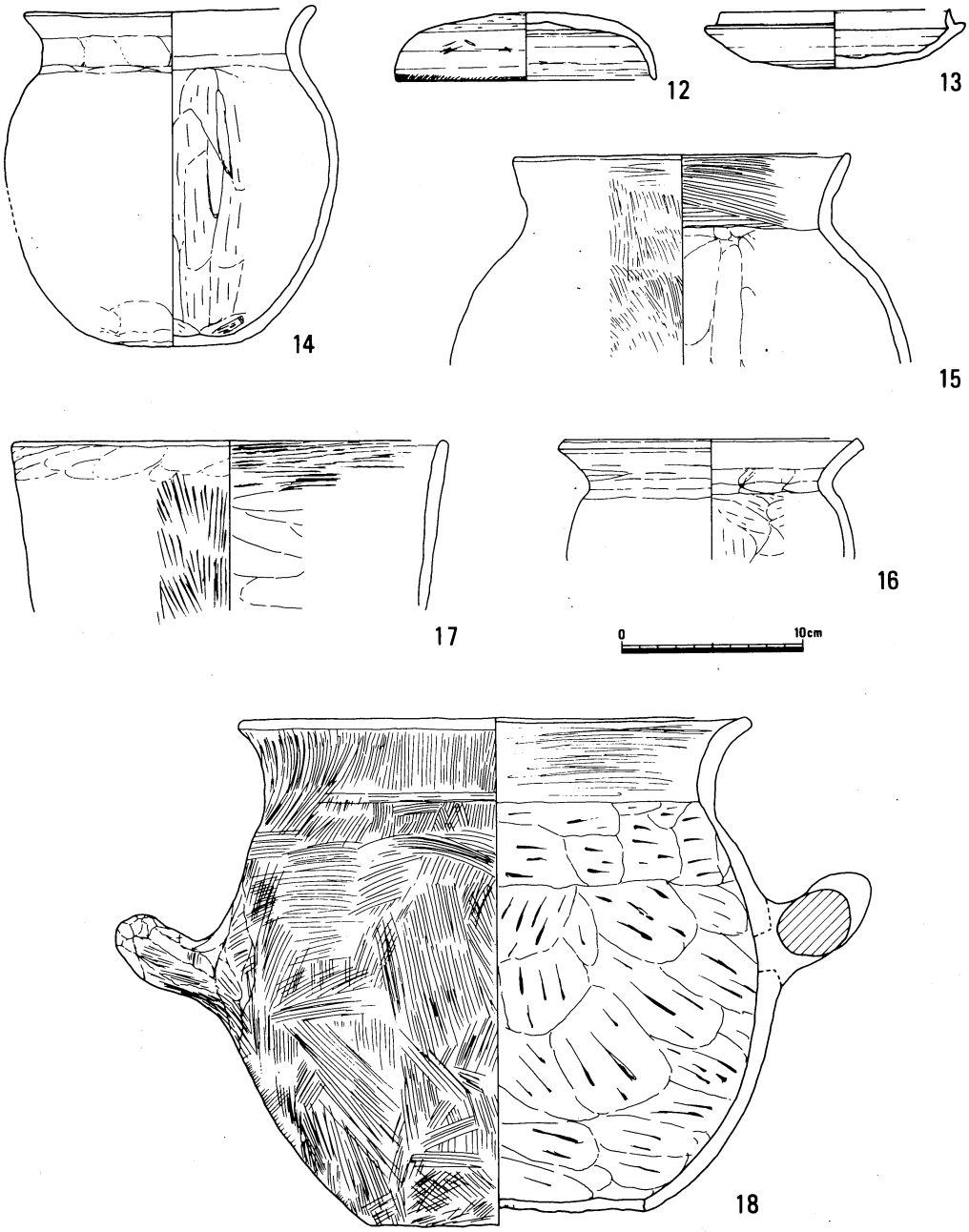
Ｄ12区の南北に続く調査区域のほぼ中央部分に位置し、４号住居址および８号住居址と重複している。平面形は隅丸方形を呈し、北壁はほぼ東西方向である。大きさは南北4.7ｍ、東西



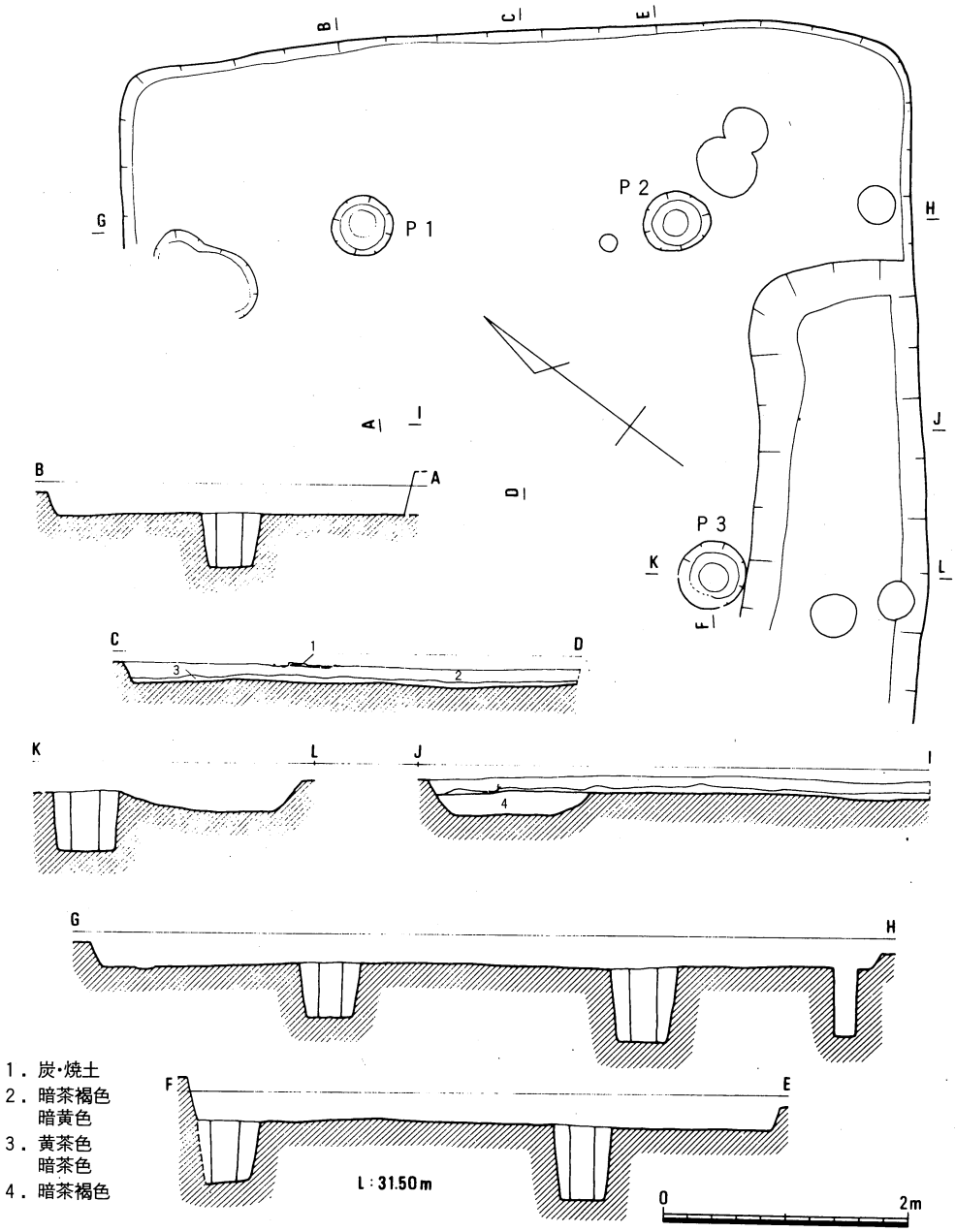
第11図　Ｄ12区４号住居址平・断面図（１／60）



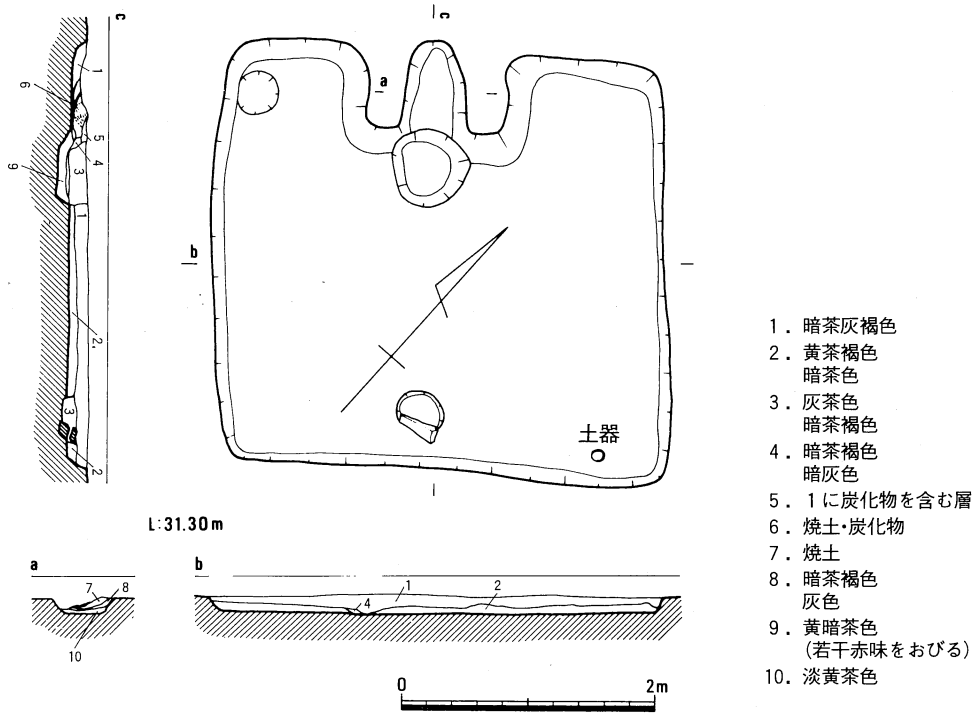
第12図　D12区5号住居址平・断面図（1／60）



第13図　D12区５号住居址出土遺物



第14図　D12区６号住居址平・断面図（１／60）



第15図　D12区7号住居址平・断面図（1／60）

4.8m、深さ30cmである。

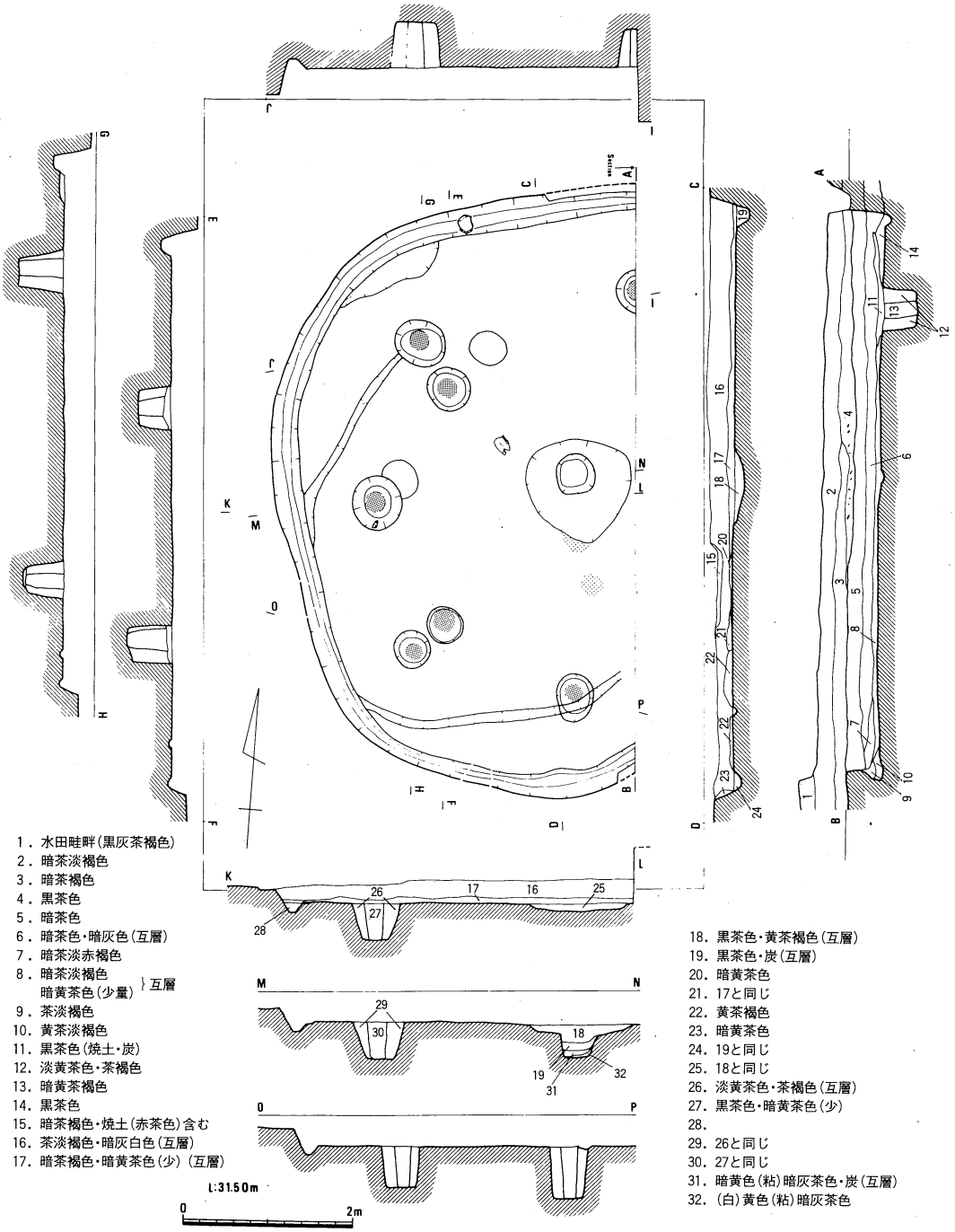
柱穴は4本あり、北側の2本が少し東へずれていて、少し菱形になる。柱間の距離はP1～P2が2.4m、P2～P3が1.8m、P3～P4が2.6m、P1～P4が1.9mである。柱穴の大きさは直径約40cm、深さ30～40cmである。4本とも柱痕跡がみとめられる。これによると直径約10cmの柱であることがわかる。

床面から遺物が検出されている。北壁と北側の柱との間に土師器の甕、こしきがあり、西壁に接して、須恵器の杯身、杯蓋がある。

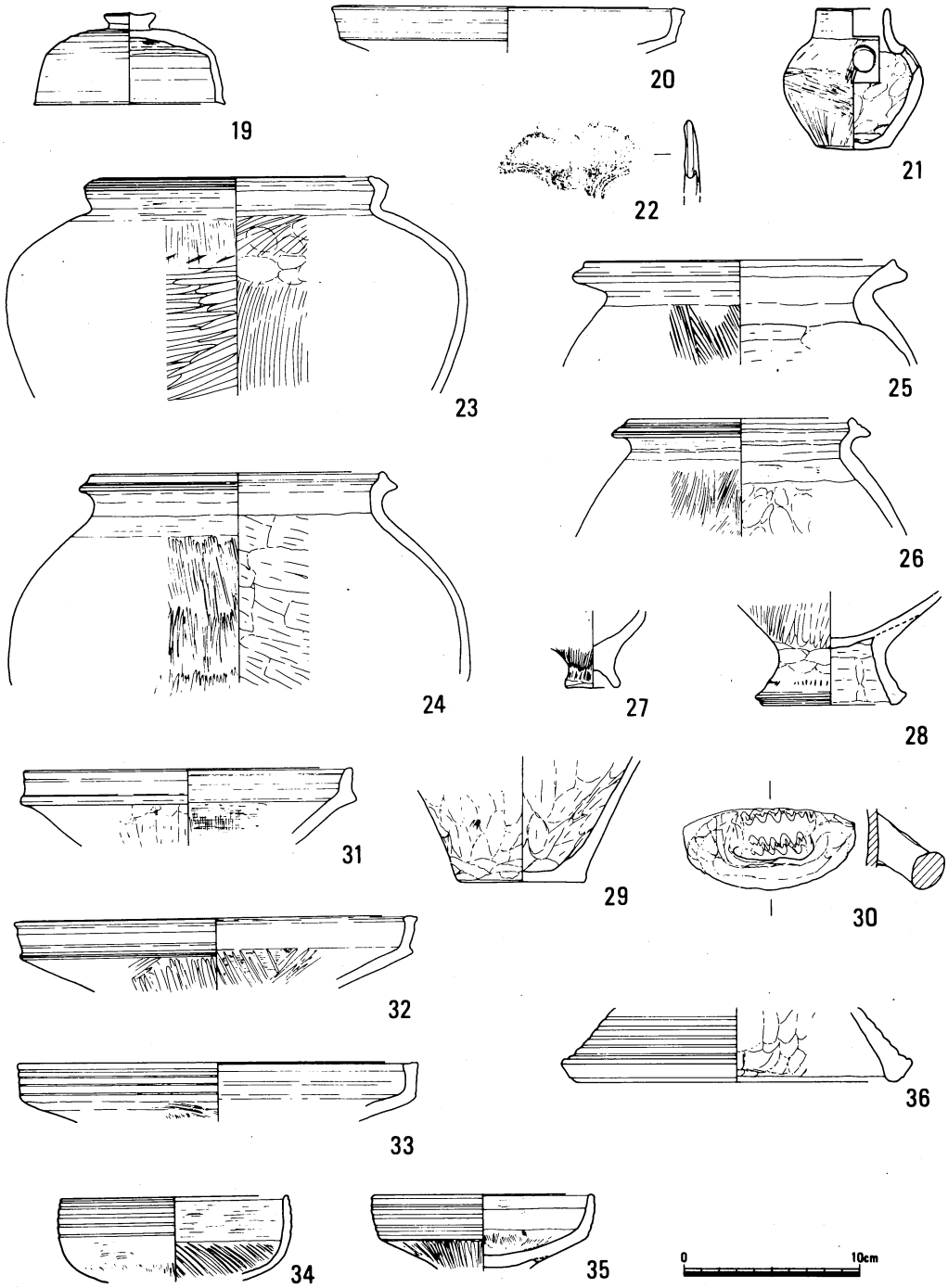
時期は出土遺物から6世紀末～7世紀初に比定される。

6号住居址（第14図、図版6－2）

D12区の南北にのびる調査地域のほぼ中央部に位置し、5号住居址の南に接している。平面形は方形を呈しているが、西側の半分が調査区域外にのびている。東側の壁は全体を確認している。方位はN42°Wを示している。大きさは南北6.45m、東西5.7m以上、深さ30cmである。床面には3本の柱穴がL字形に検出されたことから未調査地区にさらに1本あって、4本柱と推定される。柱間の距離は、P1～P2が2.6m、P2～P3が2.9mである。柱穴の大きさは

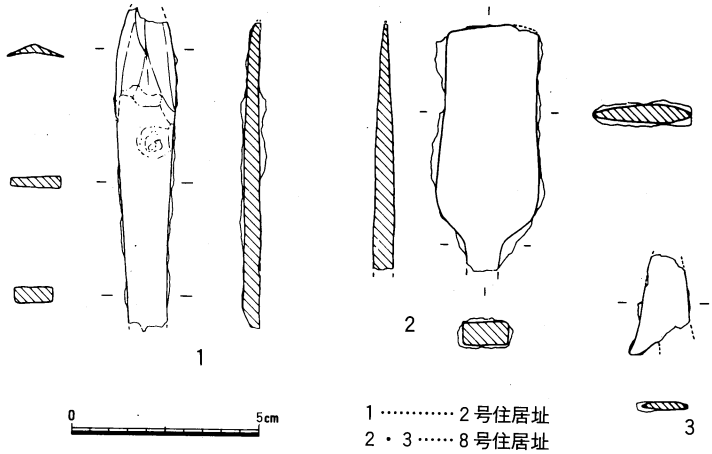


第16図　D12区８号住居址平・断面図（１／80）



19……7号住居址
20～35……8号住居址

第17図　D12区8号住居址他出土遺物



第18図　D12区住居址内出土遺物

直径50～60㎝、深さ40～60㎝である。３本の柱穴とも柱痕跡が認められる。これによると、直径約20㎝の柱穴と推定される。床面には南壁に接して浅い土壙がある。幅1.3ｍ，長さ３ｍ以上、深さ30㎝である。

この住居址は火災にあっていて、床面の少し上に炭化材がみられる。炭化物は垂木と推定されるもので放射状にひろがっている。

埋土中からは良好な出土遺物はないが、形態等から古墳時代に比定される。

７号住居址（第15図、図版７－２・８－１・２）

D12区の南北にのびる調査地域の南端付近に位置する。平面形は方形を呈し、かまどを付設している。東側の壁の方向はN43°Wを示している。北側の壁に接してかまどがあり、上部を削平されているが、ほぼ全容のわかるものである。大きさは南北3.4ｍ、東西3.6ｍである。

床面を詳細に調査したが、柱穴は検出されなかった。かまどはU字形に壁が残り、内面は火を受けて赤変している。かまどの前には不整形の土壙が１基ある。大きさは径約60㎝、深さ10㎝である。かまどの反対側で、南側の壁に近い位置にも浅い土壙がある。大きさは30×40㎝、深さ10㎝のものである。

埋土中の遺物には須恵器壺蓋19が１点ある。時期は出土遺物から６世紀前半に比定される。

８号住居址（第16・17・18図、図版９－１・２）

D12区の南北にのびる調査区域の中央部に位置し、４号住居址および５号住居址の下層から

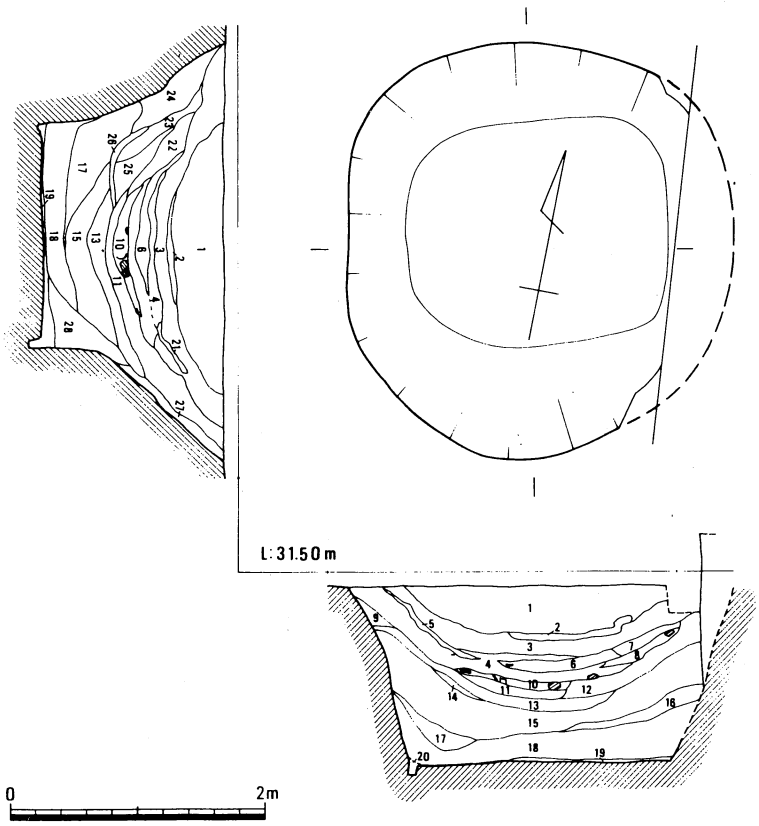
検出された。東側の３分の１が調査区域外になっている。平面形は不整な円形を呈している。壁に沿って、幅20㎝、深さ約10㎝の壁体溝がある。住居址の大きさは南北で7.2ｍである。調査した床面からは９本の柱穴が検出された。２本が隣接しており、建て替えが行われたものと判断される。当初の柱穴と推定されるものは５本あり、中央にある土壙との位置関係から推定すると７本柱と推定される。柱穴の直径は40～60㎝、深さ40～60㎝である。

床面の中央部には１基の土壙がある。浅くて大きな不整円形土壙の中央部に円形の深い穴が掘られている。外側の土壙は長径1.2ｍ、中央部の土壙は長径42㎝、深さ40㎝である。内部には灰を含む土が入っている。中央土壙の南には２か所の火どころがあり、炉跡と判断される。

埋土中からは弥生土器20・21・23～35、分銅形土製品22、鉄鏃２・３がある。時期は出土遺物から百・後・Ⅰ（弥生時代後期前葉）に比定される。

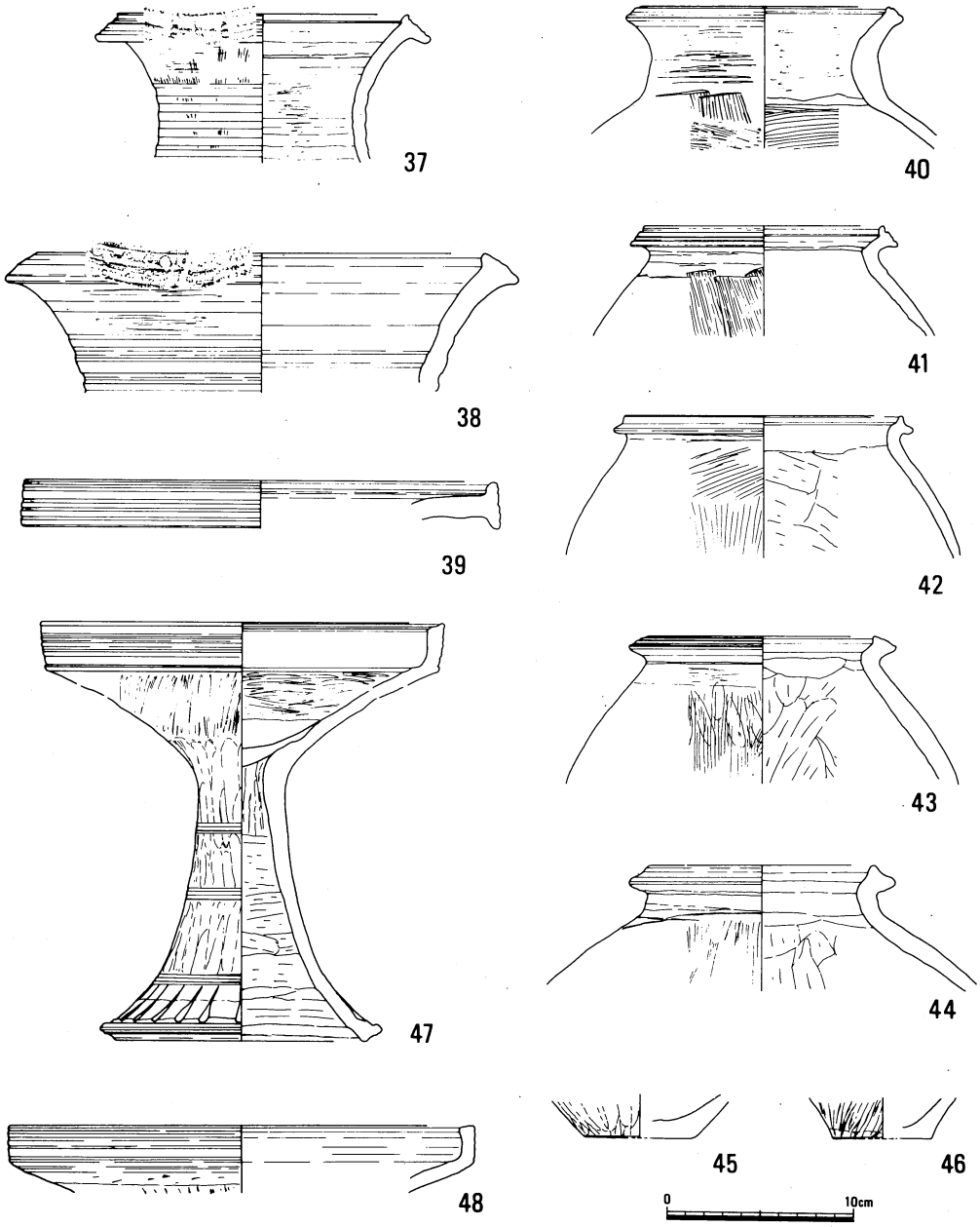
井戸－１（第19・20図、図版10－１、２・11－１）

Ｄ12区の南北につづく調査区域の北寄りに位置し、３号住居址と一部重複している。東側の

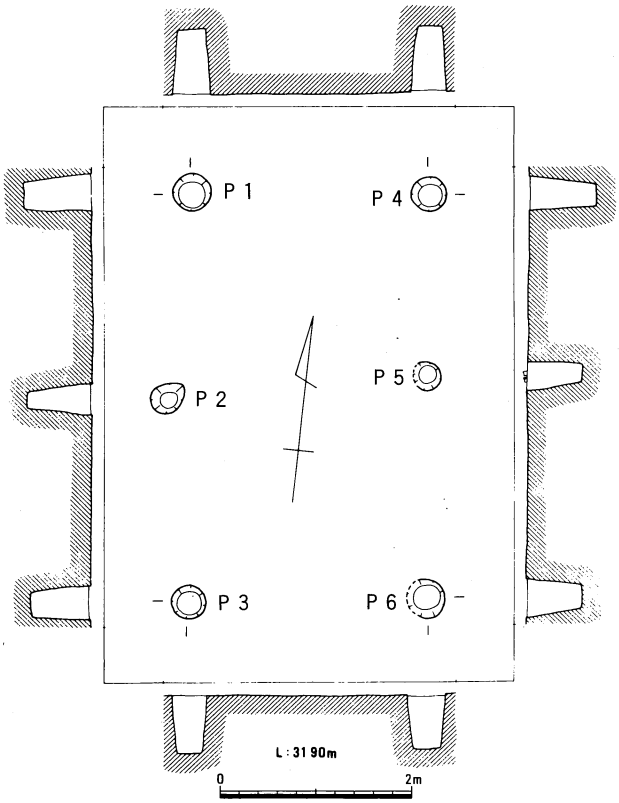


1．暗茶褐色 } 互層
　黄褐色
2．茶褐色（炭・灰）
3．黄褐色・淡黄色
4．暗茶褐色
5．黒茶色・焼土・灰炭
6．５と同じ
7．暗茶色・暗黄色
8．７と同じであるが
　炭を含む
9．茶淡褐色 } 互層
　灰白色土
10．黒茶色
　（若干炭を含む）
11．暗茶褐色
　（若干炭を含む）
12．茶淡褐色 } 互層
　黄褐色
13．暗茶色・暗黄色
14．暗茶褐色 } 互層
　黄褐色（少）
15．茶褐色・暗黄茶色
16．暗黄茶褐色
　（砂を若干含む）
17．暗黄茶褐色
18．暗黄茶色（砂）
19．淡青灰白色（粘）
20．灰白色（粘） } 互層
　黄茶色（砂）
21．２と同じ
22．淡黄色 } 互層
　暗茶色
23．淡黄茶色
24．淡黄白色 } 互層
　暗茶色
25．12と同じ
26．暗黄茶色
27．黄茶褐色
28．黄暗茶褐色

第19図　Ｄ12区井戸－１平・断面図（１／60）



第20図　D12区井戸－１出土遺物



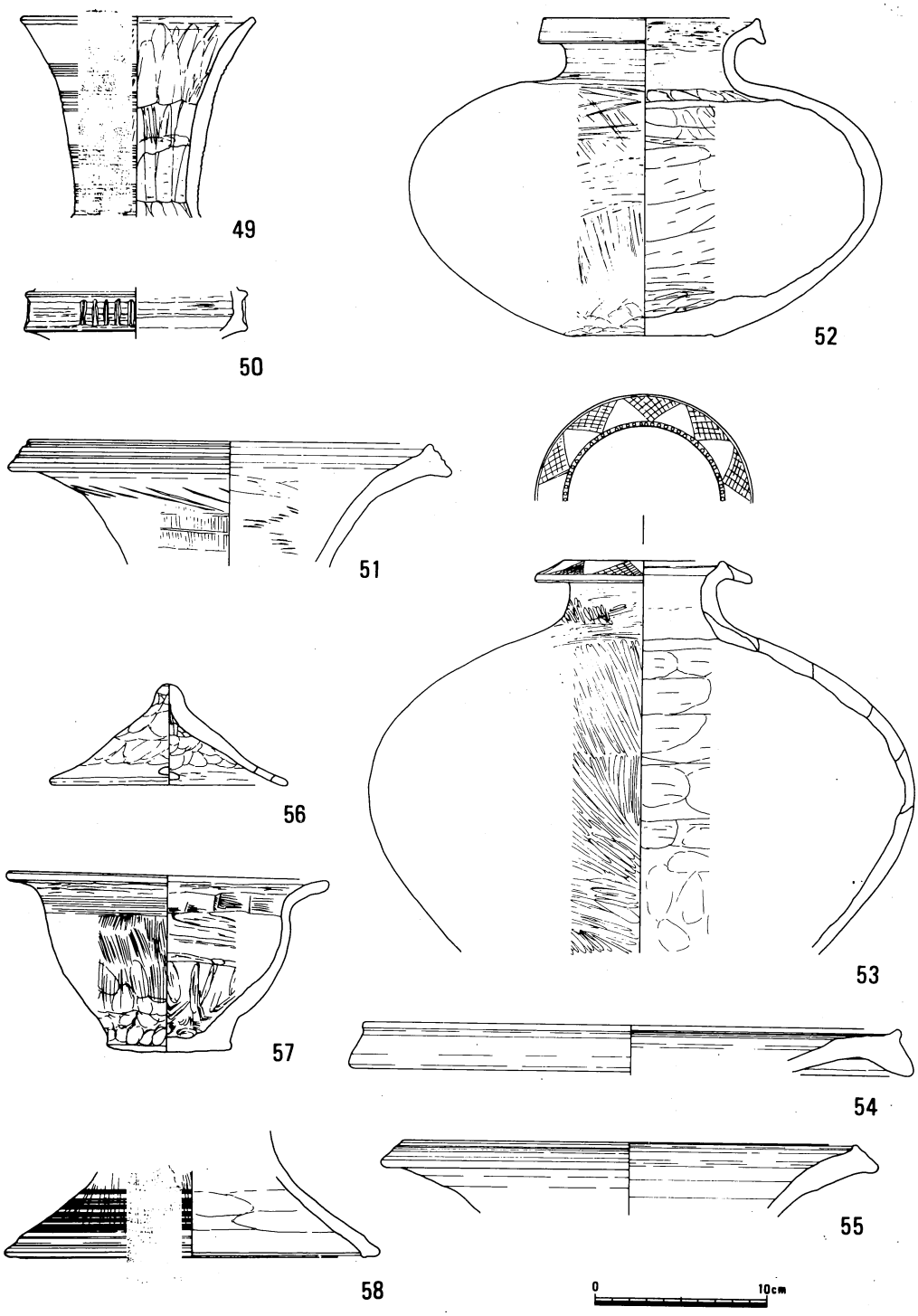
第21図　D12区建物－1平・断面図（1／80）

一部が調査区域外へのびている。平面形は不整円形を呈し、南北3.32m、東西2.6m以上、深さ1.4mを測る。底部は隅丸方形を呈していて、周囲に土留めをしたと思われる痕跡がみられる。底部の大きさは南北1.8m、東西2.04mである。底部から50cmくらいは旧状をとどめていると推定されるが、これより上方は崩れている。埋土の状況をみるとレンズ状の堆積がみられることから、一度に埋めたものではなく、徐々に埋没したものと推測される。

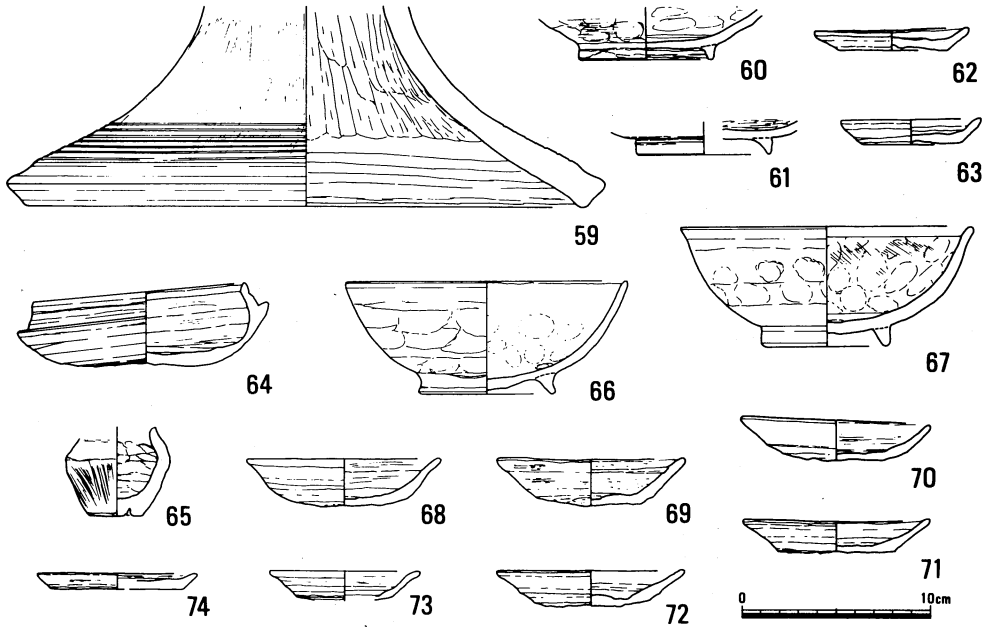
埋土中からは土器がまとまって出土している。土器には壺37～40、甕41～44、高杯47・48がある。時期は百・後・Ⅰ（弥生時代後期前葉）に比定される。

建物－1（第21図、図版11－2）

D12区の南北につづく調査区域の北端部付近に位置する。南北方向に長く、桁行2間、梁間1間の建物である。西側柱列の中央柱穴が24cm外側へずれている。建物の主軸方向はN8°Wである。柱間の距離はP1～P2が2.22m、P2～P3が2.20m、P3～P6が2.46m、P1～P4が2.46m、P4～P5が1.94m、P5～P6が2.40mである。したがって、南北に長い3.34×2.46mの建物である。柱穴は直径30～40cm、深さ30～35cmである。



第22図　D12区土器溜り出土遺物



第23図　D12区土器溜り・包含層・表採遺物

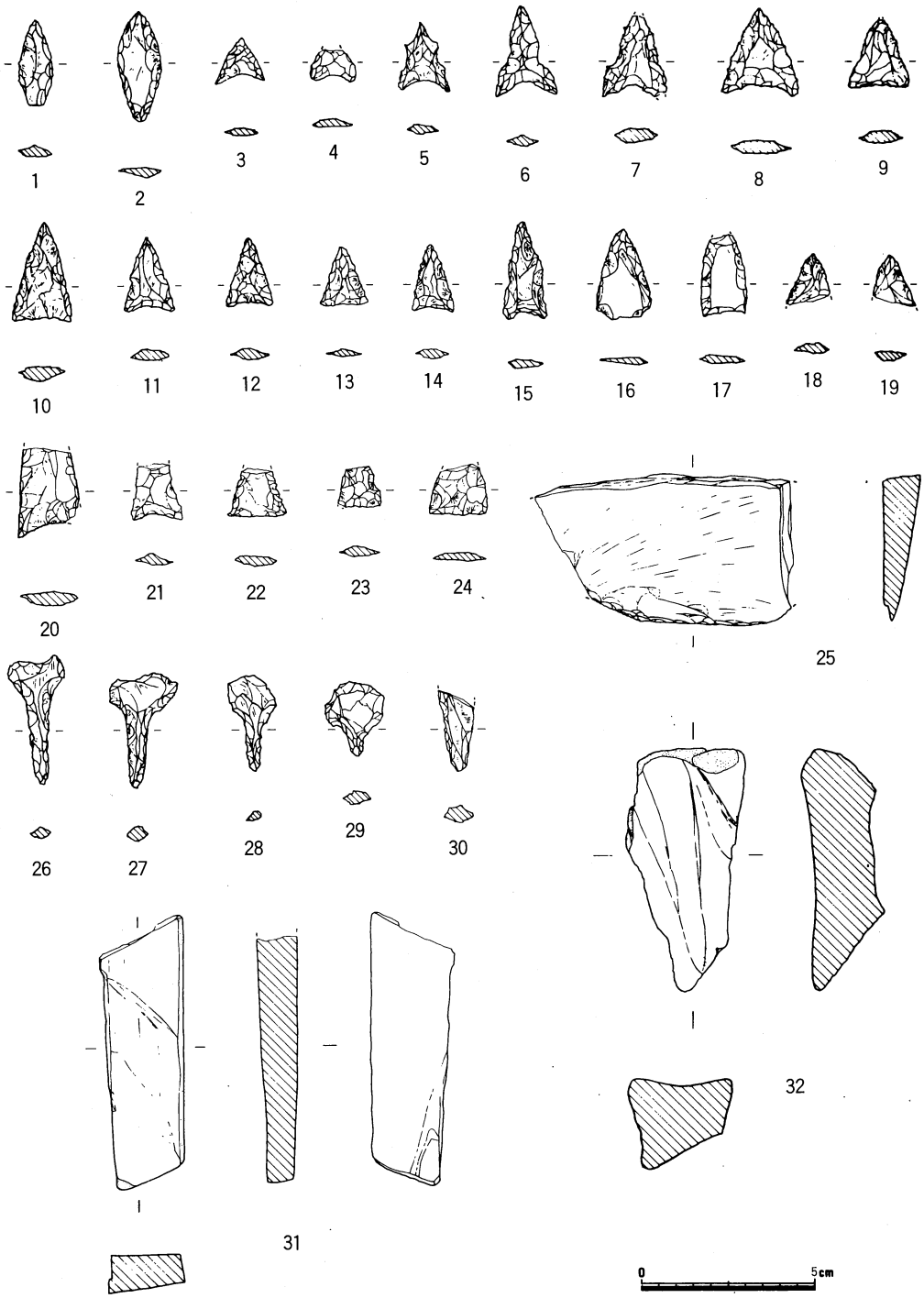
柱穴中から良好な出土遺物はないが、周辺の出土遺物等から中世に比定される。

土器溜り（第22図、図版４－２）

D12区の南北につづく調査区域の北寄りに位置する。３号住居址の南に位置し、４号住居址および５号住居址によって一部切られている。８号住居址の上層にあたり、８号住居址が埋設した後のくぼみにできた土器溜りである。土器には頸の短かい壺52・53、細頸の壺49・50、器台54・55・58、鉢57、蓋56がある。時期は百・後・Ⅱ（弥生時代後期中葉）に比定される。

その他の遺物（第23・24図）

遺構に伴わない遺物には弥生土器59・65、須恵器64、早島式土器、石器などがある。



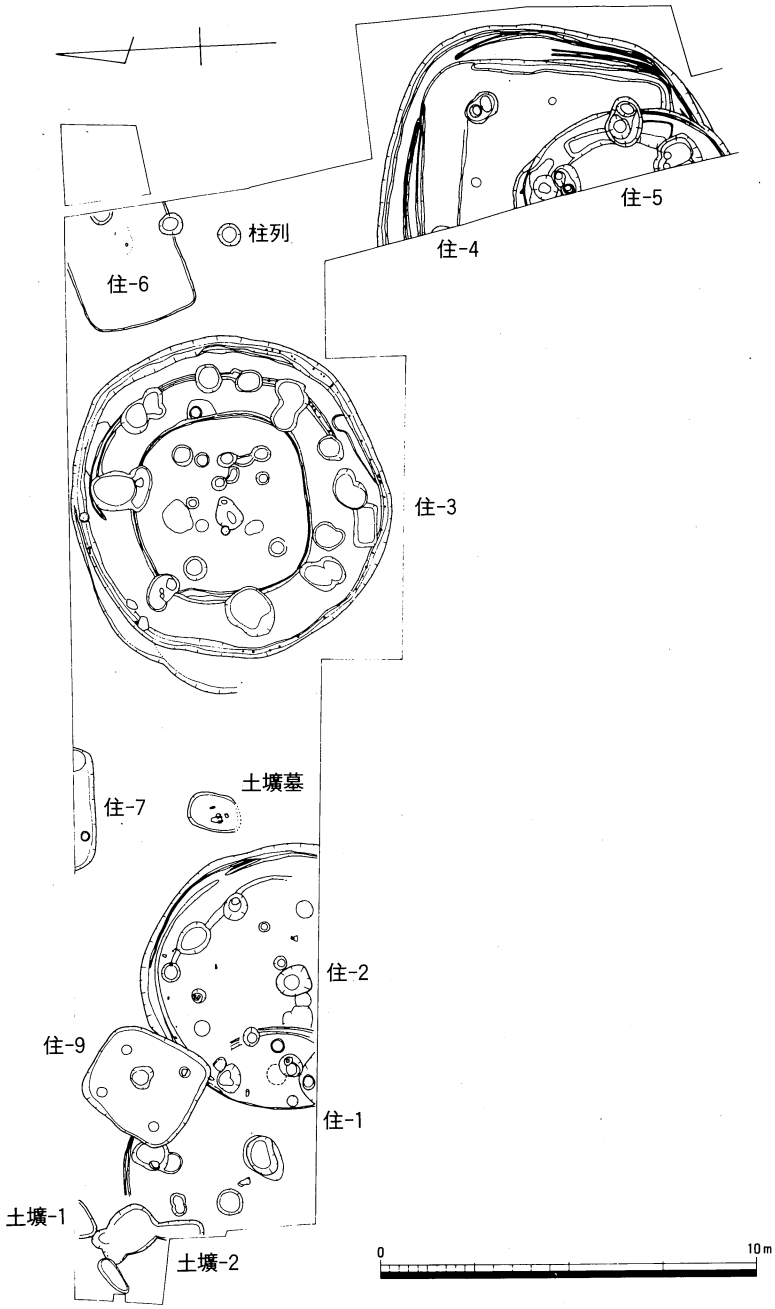
第24図　D12区住居址他出土遺物

第２節　D19区の調査

１．D19区の概要

県道の南50ｍ付近に位置し、東西方向約30ｍの調査区域を中心に東端部で南へ短かくのびる。弥生時代から中世の遺構が検出されるが、特に弥生時代と古墳時代の竪穴住居址が集中している。完掘された３号住居址や８号住居址はあるが、ほとんどの住居址は未調査区域へひろがっていて、全容を知ることはできない。

西寄りに重複して検出された１号・２号住居址は弥生時代中期中葉に属し、多量の石器を出土した。石器には石鏃、叩き石、石包丁、石斧、石鏃、石錐、石槍がある。特に石錐が多い点に注目される。また、ガラス小玉、管玉なども出土している。住居址のほかに、土壙、土壙墓、柱列なども検出された。



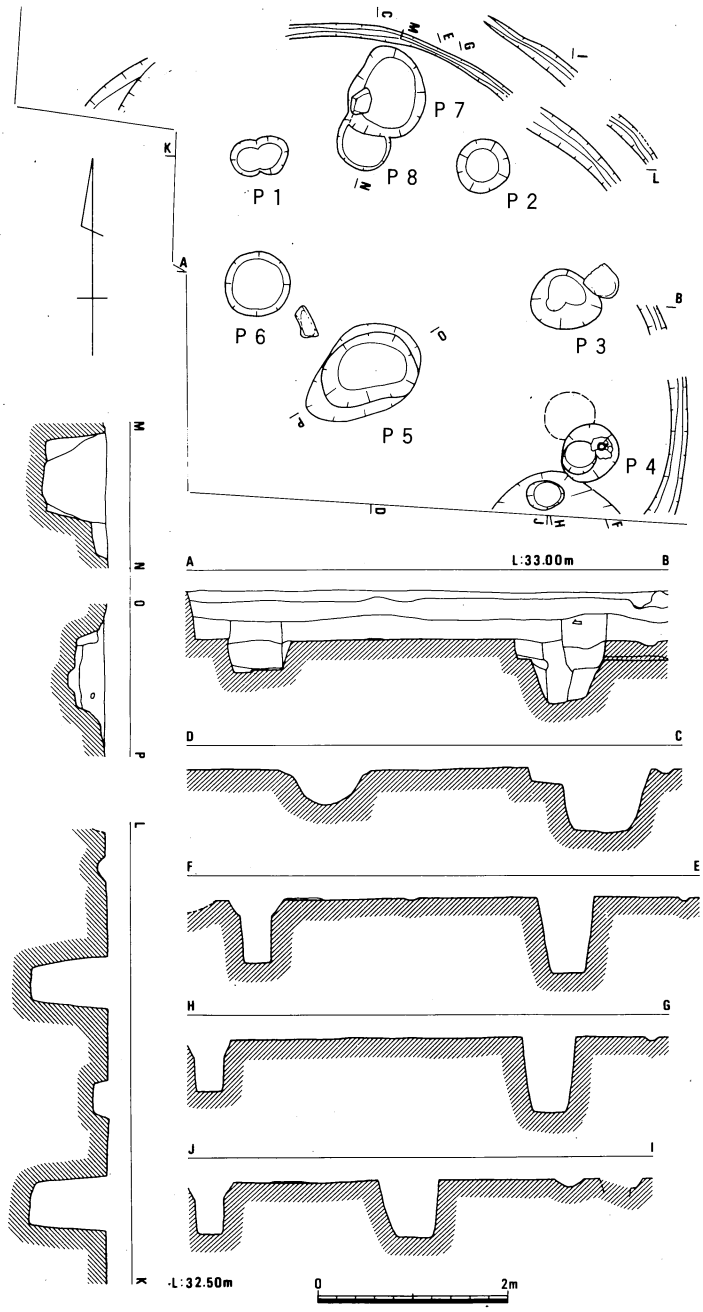
第25図　D19区上段全体図（１／200）

２．D19区の遺構・遺物

１号住居址（第26図、図版13－１、２）

D19区の西端部に位置し、２号および８号住居址と重複している。西側の一部は調査区外におよんでいる。上部が削平されているため、全容はわからないが、壁体溝が円形に２本確認できること、主要な柱穴が２本ずつ確認されることがあることなどから建て替えが行われたことが確認される。

ほぼ連続的に確認される壁体溝から復元すると、直径約7.8ｍを測る。この外に40㎝くらいのところに一部壁体溝が検出される。主要な柱穴と推定される柱穴が４本確認されることから、中央の土壙を考慮して推定すると７本柱と判断される。柱穴の直径は50～60㎝、深さ60～70㎝である。柱間は、Ｐ１～Ｐ２が2.4ｍ、Ｐ２～Ｐ３が1.6ｍ、Ｐ３～Ｐ４が1.7ｍである。中央部には



第26図　D19区１号住居址平・断面図（１／80）

不整楕円形の土壙がある。大きさは長径140㎝、短径97㎝、深さ64㎝である。

床面から出土した遺物には分銅形土製品（101）がある。時期は出土遺物から百・中・Ⅱ（弥生時代中期中葉）に比定される。

2号住居址（第27図、図版13－1、2・、22－1、2）

D19区の西端部近くに位置し、2号および9号住居址と重複している。南側の一部は調査区域外におよんでいる。平面形は円形を呈している。壁体溝は部分的に残存しているものをみると3本確認されていることから2度の建て替えが行われたことがわかる。壁体溝の幅は10～15㎝で、深さは10㎝くらいの浅いもので、南寄りではとぎれている。最終段階の大きさは直径7ｍである。

柱穴は建て替えにともなうと思われる柱穴が多数あり、同時に存在した柱穴を推定するのは難しいが、5～7本柱と推測される。柱穴の大きさは直径25～65㎝、深さ28～66㎝である。中央の土壙は不整楕円形を呈し、長径98㎝、短径68㎝、深さ40㎝である。中央の土壙の北東と南西に接するようにして各1本の柱穴がある。柱穴の大きさは直径25～65㎝、深さ28～66㎝である。

中央の土壙は不整楕円形を呈し、長径98㎝、短径68㎝、深さ40㎝である。中央の土壙の北東と東西に接するようにして、各1本の柱穴がある。柱穴の大きさはＰ1が直径42㎝、深さ60㎝、Ｐ3が直径28㎝、深さ60㎝である。

床面から出土した遺物には、**75～86**の土器、**1～6**、**45～52**の石器、第47図**2～5**の玉類がある。**78・79・82**は縄文時代晩期の土器であるが、**75～77・80・81・83・84**は弥生時代中期の土器である。**76**は弥生時代中期初めに属する。**85・86**は土器片転用の紡錘車未製品である。石器には石鍬、石斧、石槍、石鏃、石錐がある。玉類にはガラス小玉、管玉がある。

時期は出土遺物から百・中・Ⅱ（弥生時代中期中葉）に比定される。

3号住居址（第28～30図、図版14－1、2・15－1）

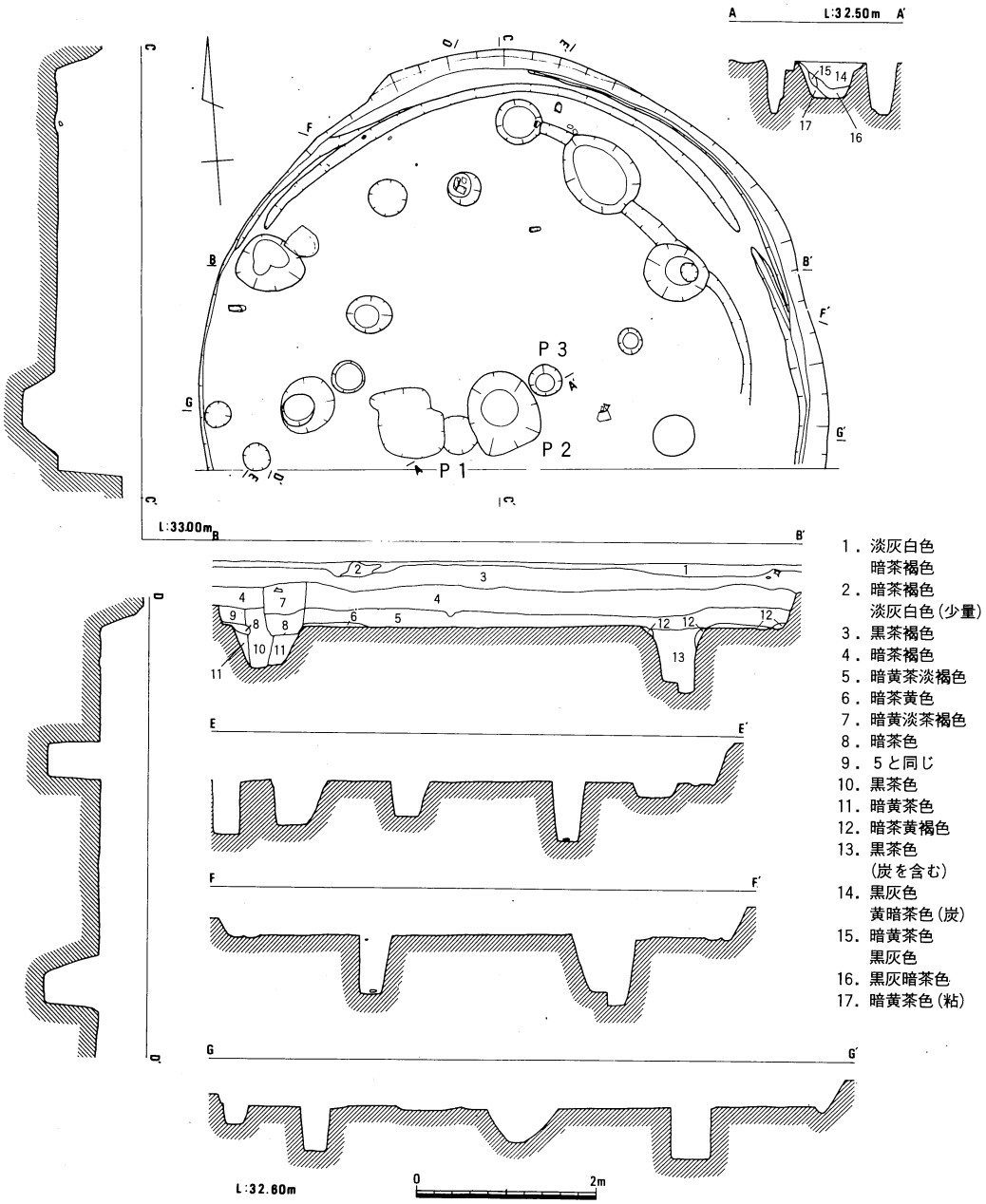
D19区の東寄りに位置している。完掘しているので全容を知ることができる。平面形は円形を呈し、壁体溝が3本認められることから2回建て替えが行われたことが判る。同心円状に壁体溝があることから、順次拡大したものと考えられる。

当初のものは直径4.98ｍで、4本柱と推定される。柱穴はＰ13～Ｐ16と考えられ、北側の柱間が少し広い。柱間はＰ13～Ｐ14が3ｍ、Ｐ14～Ｐ15が2.06ｍ、Ｐ15～Ｐ16が2.58ｍ、Ｐ13～Ｐ16が2.26ｍである。柱穴の大きさは直径46～60㎝、深さ58～60㎝である。

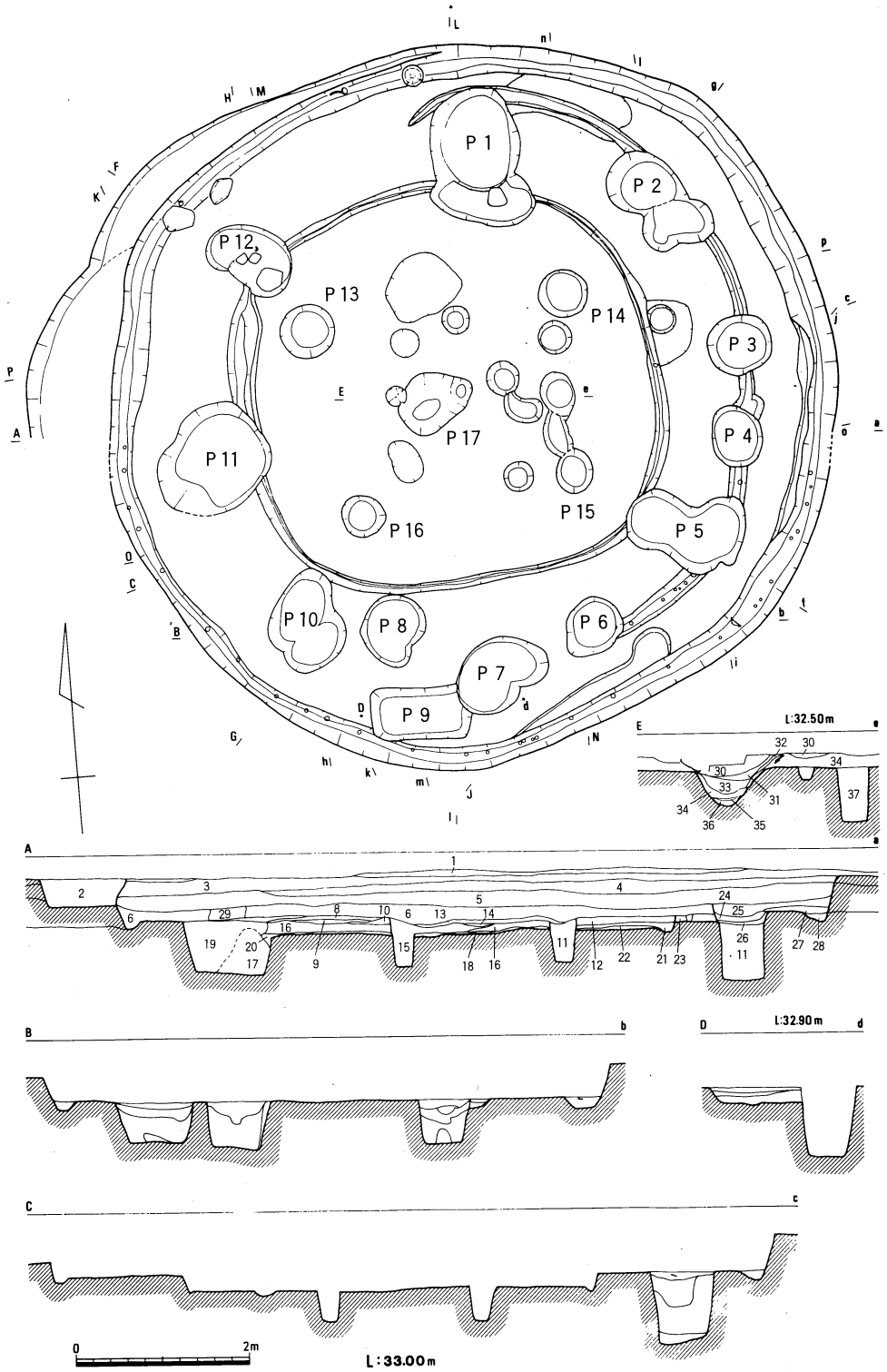
2回目のものは西半分の壁体溝が残っていないので、明瞭ではないが直径約6.8ｍと推定される。柱穴は6本柱と考えられ、Ｐ1、Ｐ18、Ｐ5、Ｐ8、Ｐ11、Ｐ12が推定される。最終段階のものと重複している柱穴もある。柱間はＰ1～Ｐ18が2.4ｍ、Ｐ18～Ｐ5が2.22ｍ、Ｐ5

～Ｐ８が3.26m、Ｐ８～Ｐ１１が2.6m、P11～P12が2.2m、Ｐ１～P12が2.94ｍである。壁体溝の一部に杭穴と推定されるものが検出された。

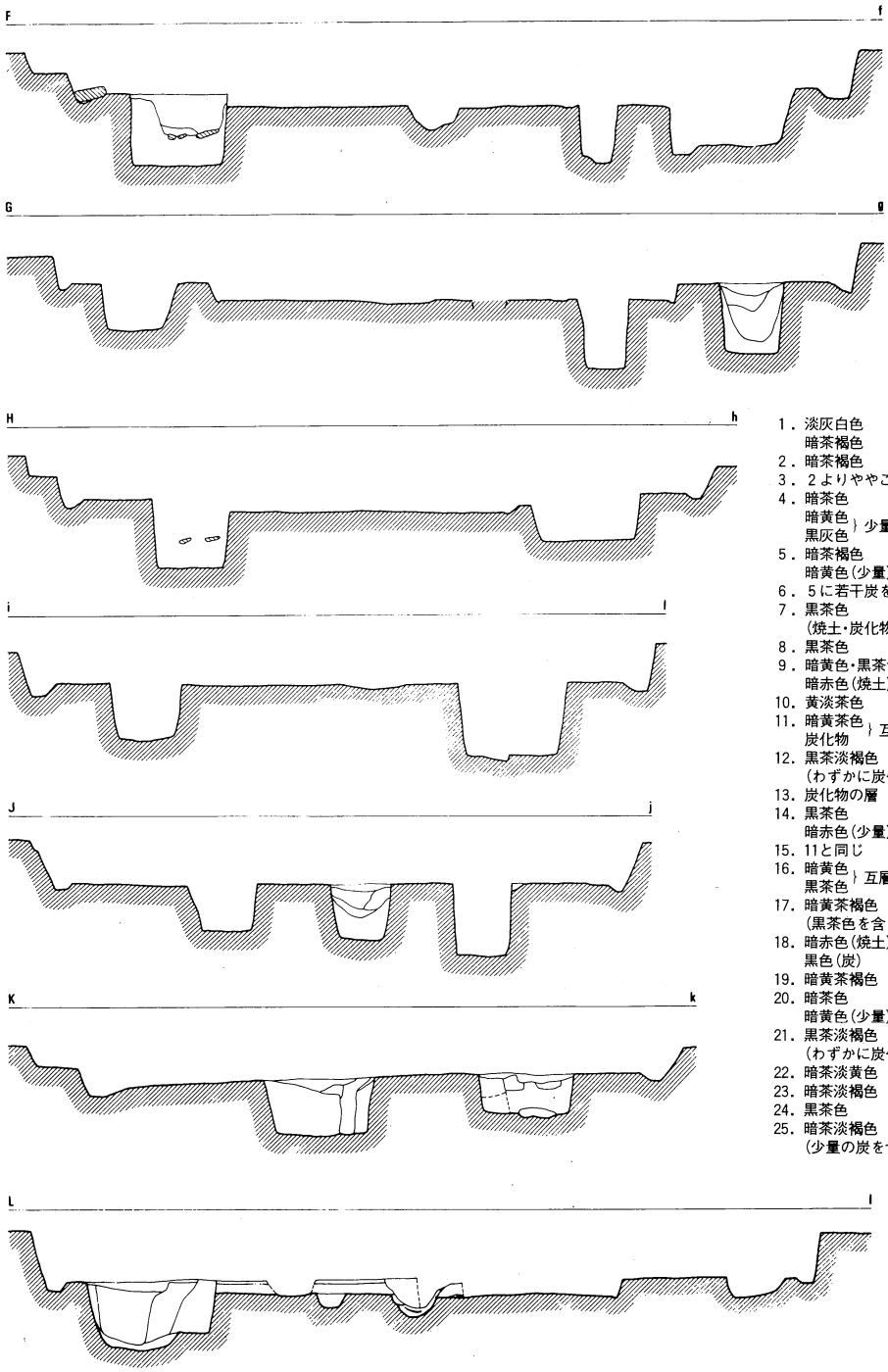
最終段階のものは直径8.5ｍで、やや大型の竪穴住居址である。柱穴は８本と考えられ、Ｐ１、



第27図　D19区２号住居址平・断面図（１／80）



第28図　D19区３号住居址平・断面図(1)（１／80）



1．淡灰白色
　暗茶褐色
2．暗茶褐色
3．２よりややこいめ
4．暗茶色
　暗黄色 } 少量
　黒灰色
5．暗茶褐色
　暗黄色(少量)
6．５に若干炭を含む
7．黒茶色
　(焼土・炭化物を含む)
8．黒茶色
9．暗黄色・黒茶色
　暗赤色(焼土)・灰
10．黄淡茶色
11．暗黄茶色 } 互層
　炭化物
12．黒茶淡褐色
　(わずかに炭化物を含む)
13．炭化物の層
14．黒茶色
　暗赤色(少量)
15．11と同じ
16．暗黄色 } 互層
　黒茶色
17．暗黄茶褐色
　(黒茶色を含む)
18．暗赤色(焼土)
　黒色(炭)
19．暗黄茶褐色
20．暗茶色
　暗黄色(少量)
21．黒茶淡褐色
　(わずかに炭化物を含む)
22．暗茶淡黄色
23．暗茶淡褐色
24．黒茶色
25．暗茶淡褐色
　(少量の炭を含む)

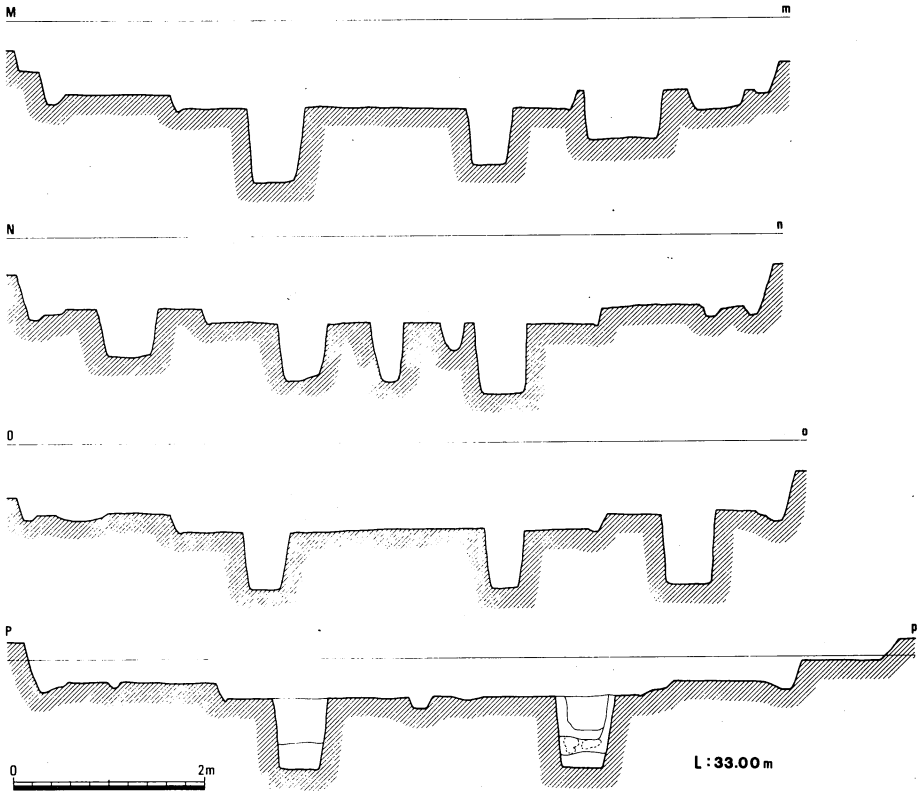
26．暗黄黒茶色
27．暗茶色
　暗黄褐色(少量)
28．黒茶色
　(若干の暗黄茶色を含む)

29．４と同じ
30．暗茶褐色
　(若干の暗黄茶色を含む)
31．黒褐色
　(若干の炭を含む)

32．黒暗褐色
　(焼土・炭)
33．黒暗灰茶色
34、36．淡黄茶色 } 互層
　炭・灰

35．炭化物層
37．黒暗茶褐色

第29図　D19区３号住居址断面図(2)（１／80）



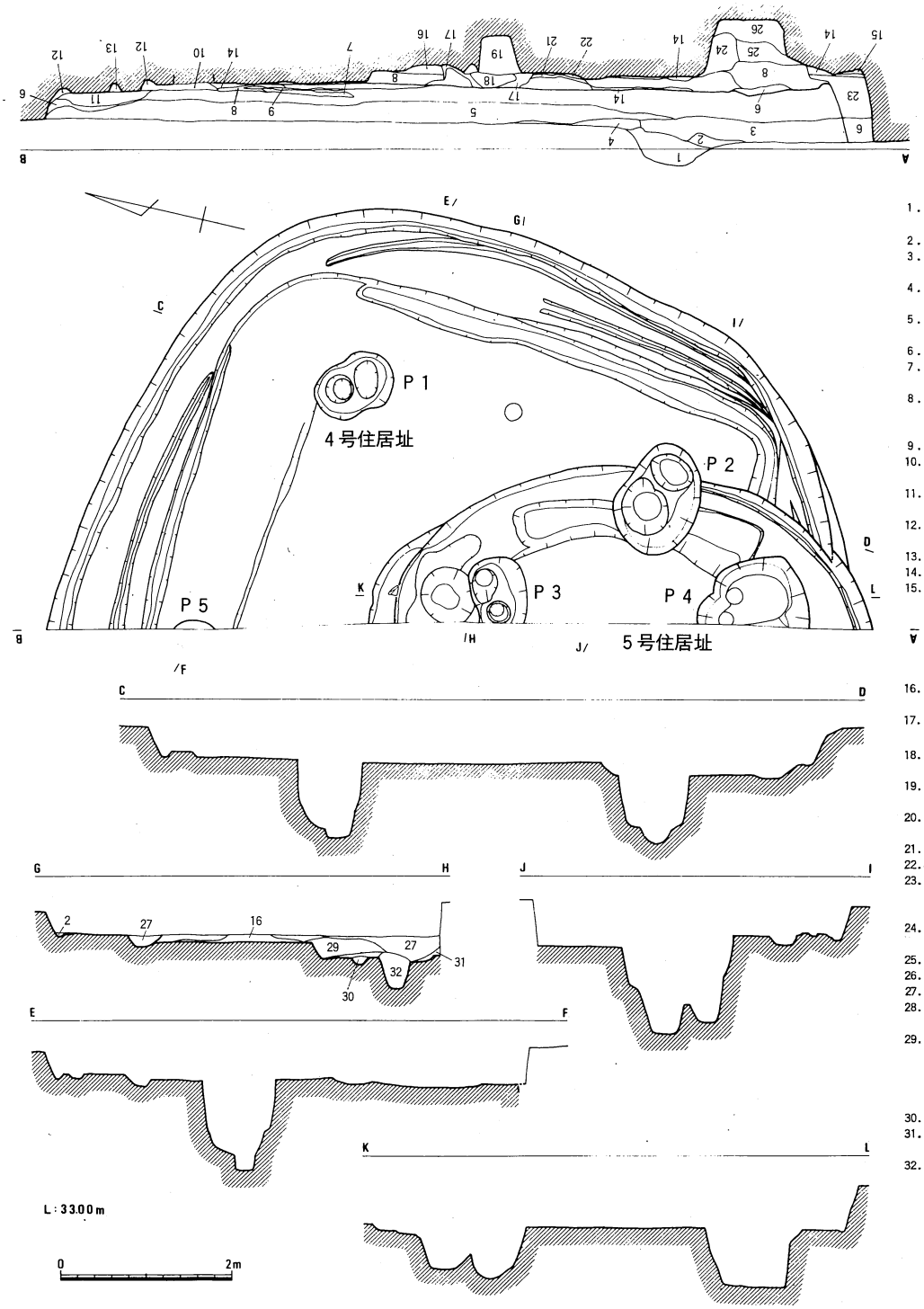
第30図　D19区３号住居址断面図(3)（１／80）

Ｐ２、Ｐ３、Ｐ５、Ｐ７、Ｐ10、Ｐ11、Ｐ12が推定される。それぞれの柱穴には掘り直した痕跡があり、さらに建て替えが行われた可能性もある。柱間はＰ１～Ｐ２が2.1ｍ、Ｐ２～Ｐ３が2.2ｍ、Ｐ３～Ｐ５が2.2ｍ、Ｐ５～Ｐ７が2.8ｍ、Ｐ７～Ｐ10が2.4ｍ、Ｐ10～Ｐ11が2.04ｍ、Ｐ11～Ｐ12が2.44ｍ、Ｐ１～Ｐ12が2.9ｍである。Ｐ４とＰ６の柱穴も最終段階のものに伴っていると推定されるが組み合せは明瞭でない。柱穴の規模は大きく、Ｐ11は長径1.6ｍを測るものもある。深さは60～80㎝である。壁体溝の南側半分に杭穴と推定されるものが多数検出された。

中央部の土壙はＰ17があてられる。長径94㎝、短径62㎝の不整楕円形を呈し、深さは44㎝である。埋土はレンズ状になっている。最終段階のものの床面では南端部に長方形の土壙が検出された。東西112㎝、南北62㎝、深さ56㎝のものである。

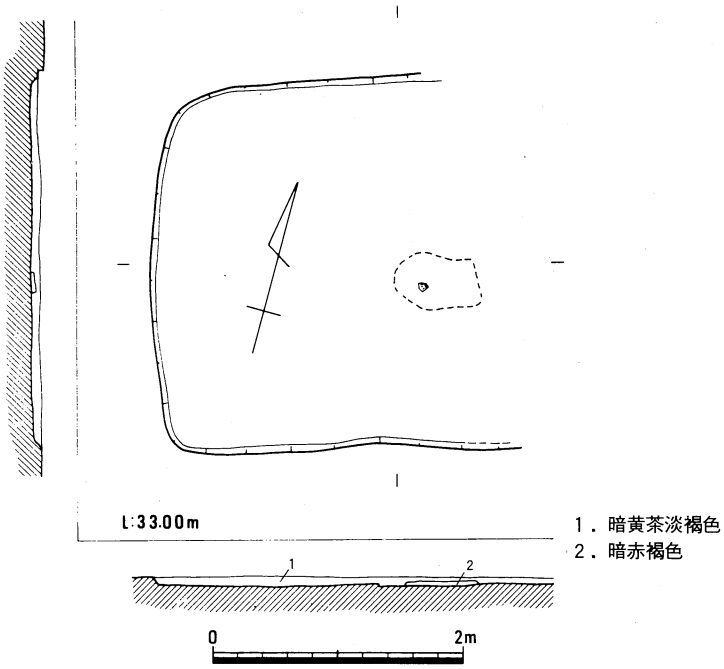
床面および埋土中からは87～94、97～106の弥生土器、95・96の土玉、第72図６～22、24～34のガラス小玉、23の管玉を出土した。

時期は出土遺物から百・後・Ⅱ（弥生時代後期中葉）に比定される。



1．淡灰白色
暗茶褐色
2．暗茶色
3．暗茶褐色
（若干炭を含む）
4．黒茶色
暗茶褐色
5．暗茶色
暗黄茶色（少量）
6．黒茶色
7．黒茶色
暗赤褐色（焼土）
8．黒茶色
暗黄茶色
（炭を含む）
9．粗砂層
10．黒褐色
暗黄色
11．黒茶色
暗黄茶色
12．黒茶褐色
（若干の焼土を含む）
13．10と同じ
14．11と同じ
15．暗黄茶色
16．黒茶色
暗黄赤褐色
17．黒茶色
暗黄茶褐色
18．黒茶色
暗黄茶淡褐色
19．暗黄色
（若干炭を含む）
20．黒茶色
（若干の炭・焼土を含む）
21．炭化物
22．暗黄茶色
23．黒茶色
暗黄茶色
（少量の炭・焼土を含む）
24．暗茶色
（少量の黒茶色・炭を含む）
25．暗茶淡褐色（粘質）
26．暗茶淡褐色（砂質）
27．黒茶淡褐色
28．暗茶淡褐色
暗黄茶色（粘質）
29．白黄色（粘）
暗黄淡茶色（粘）
暗茶色
黒茶色
（炭・焼土を少量含む）
30．暗黄茶褐色
31．黒茶色
暗黄茶淡褐色
32．暗黄淡茶色（粘質）

第31図　D19区4・5号住居址平・断面図（1／80）



第32図　D19区6号住居址平・断面図（1／60）

4号住居址（第31図、図版16－1、2・17－1）

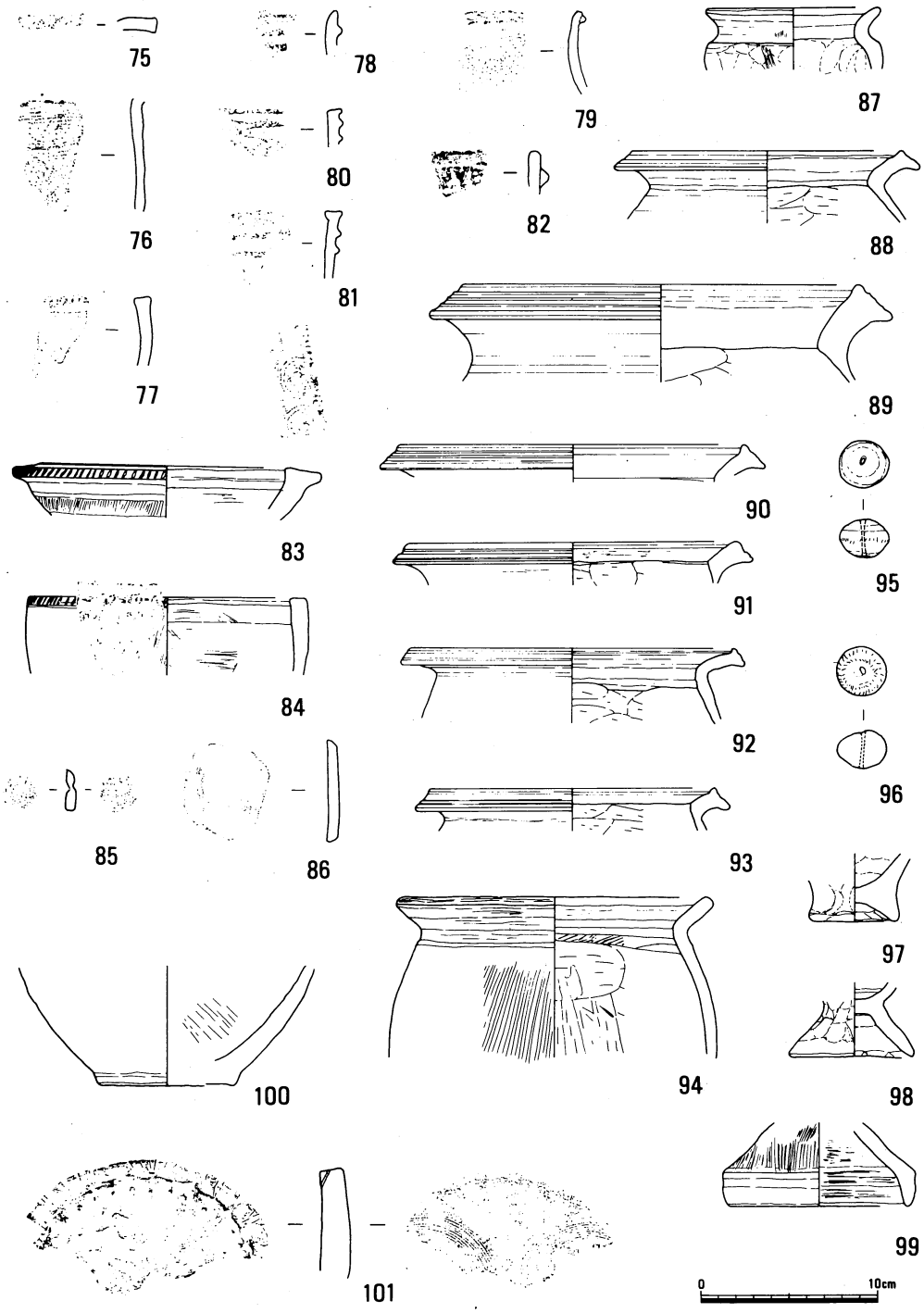
D19区の東端部で南へのびるところに位置している。西側約半分は調査区域外へのびている。5号住居址と重複している。平面形は隅丸方形を呈し、壁体溝が3本確認されることから、2回の建て替えが行なわれたことが判る。建て替えごとに拡大したものと考えられる。

当初のものは南北6.7mで、東西は未調査部分があって明らかでない。2回目のものは外側へ40cm広がっている。最終段階のものは少し丸みをもっている。南北約8.6mで、やや大型の竪穴住居址である。

柱穴は2か所検出されているだけであるが、4本柱と推定される。2か所で検出された柱穴には掘り直しがあり、明らかに2本を確認することができる。したがって、建て替えに際してもほとんど同じ位置へ柱を建てたことがわかる。P1～P2の距離は約3.8mである。柱穴の深さは70～100cmにもなる。P1で柱痕跡と推定されるところがあり、これによると柱の直径は約24cmである。

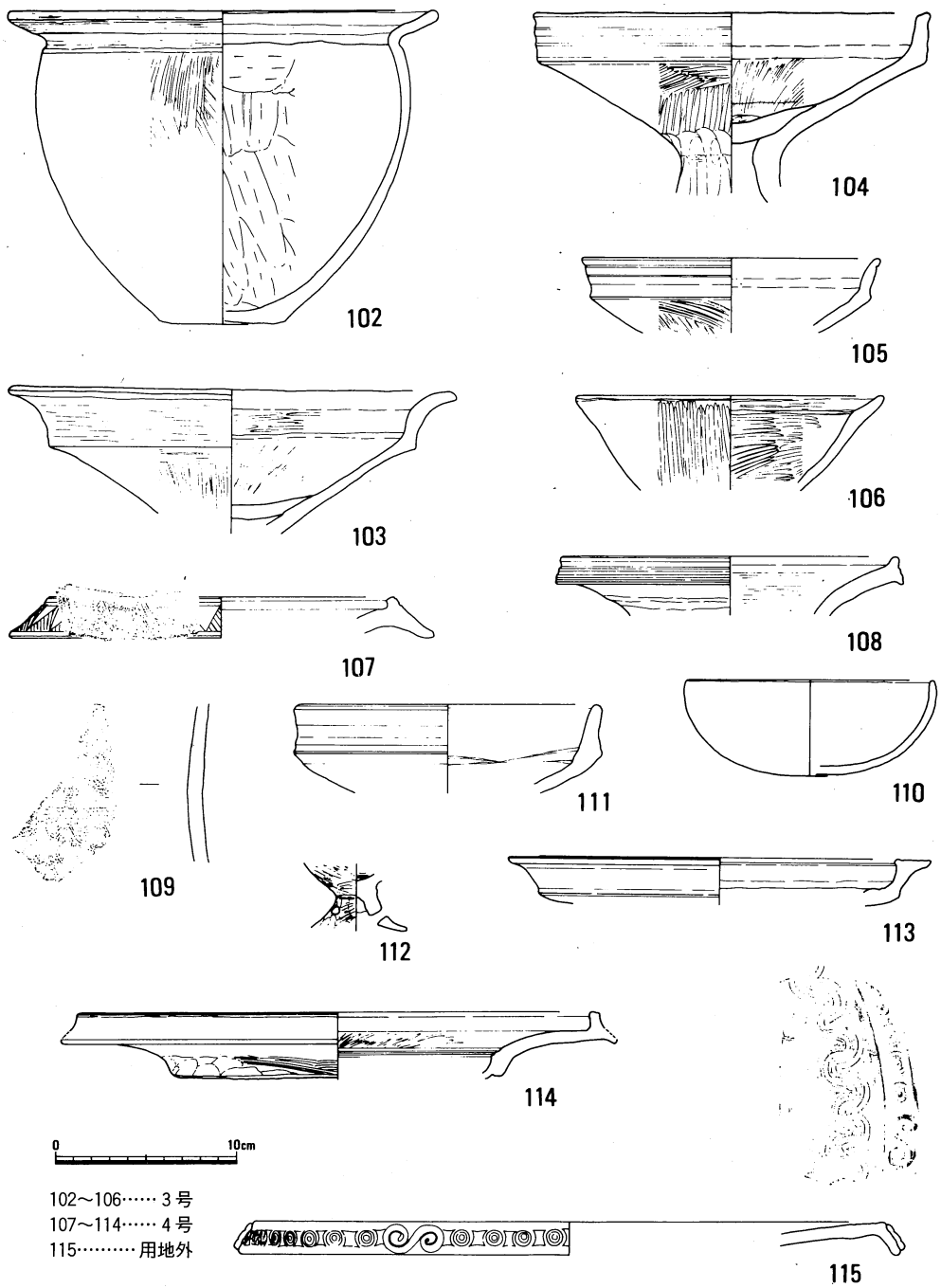
埋土中の遺物は5号住居址と重複しているため混っているが、110・112が伴うものと判断される。

時期は出土遺物から百・古・I（古墳時代前葉）に属する。

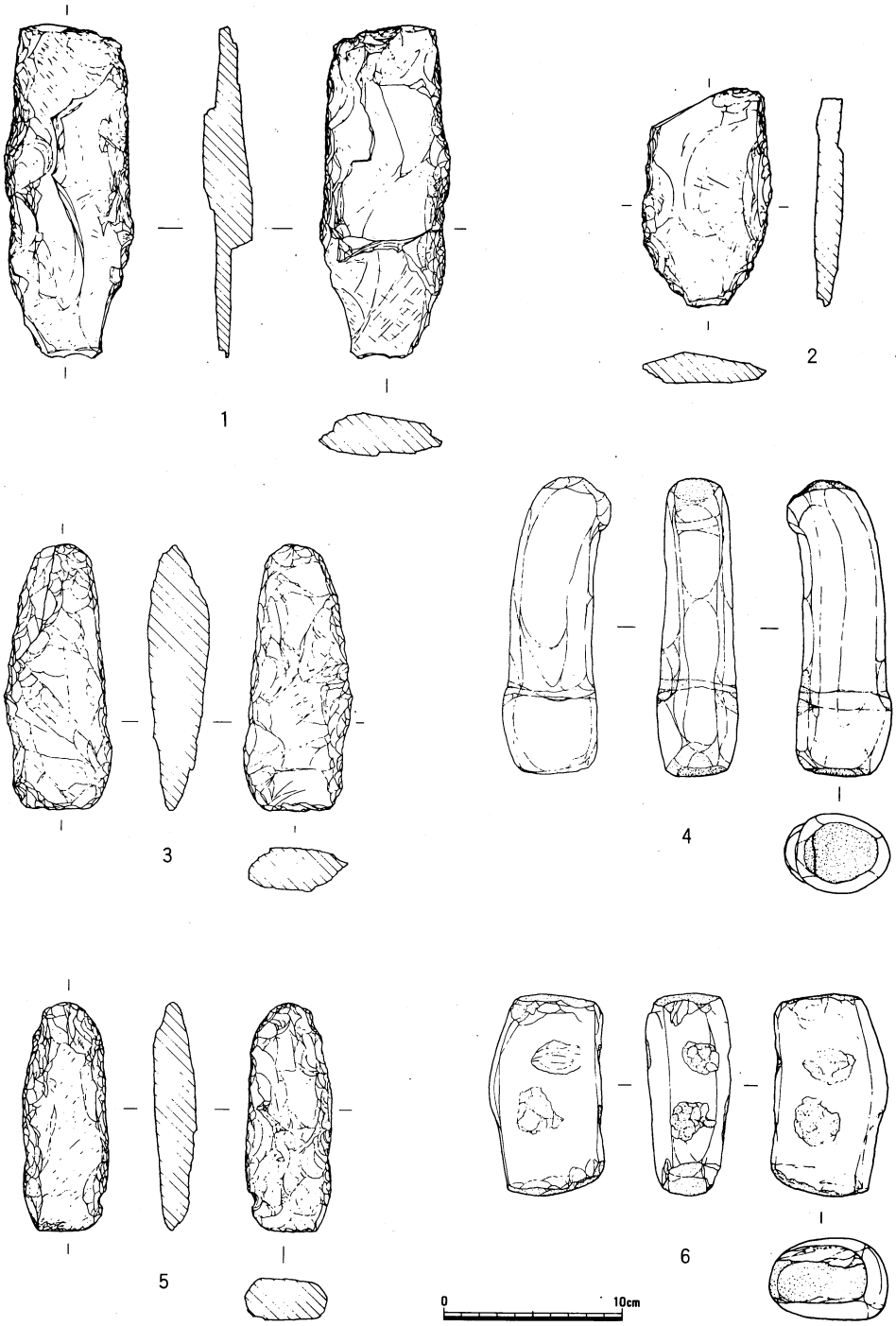


75～86……２号　101……１号　87～100……３号

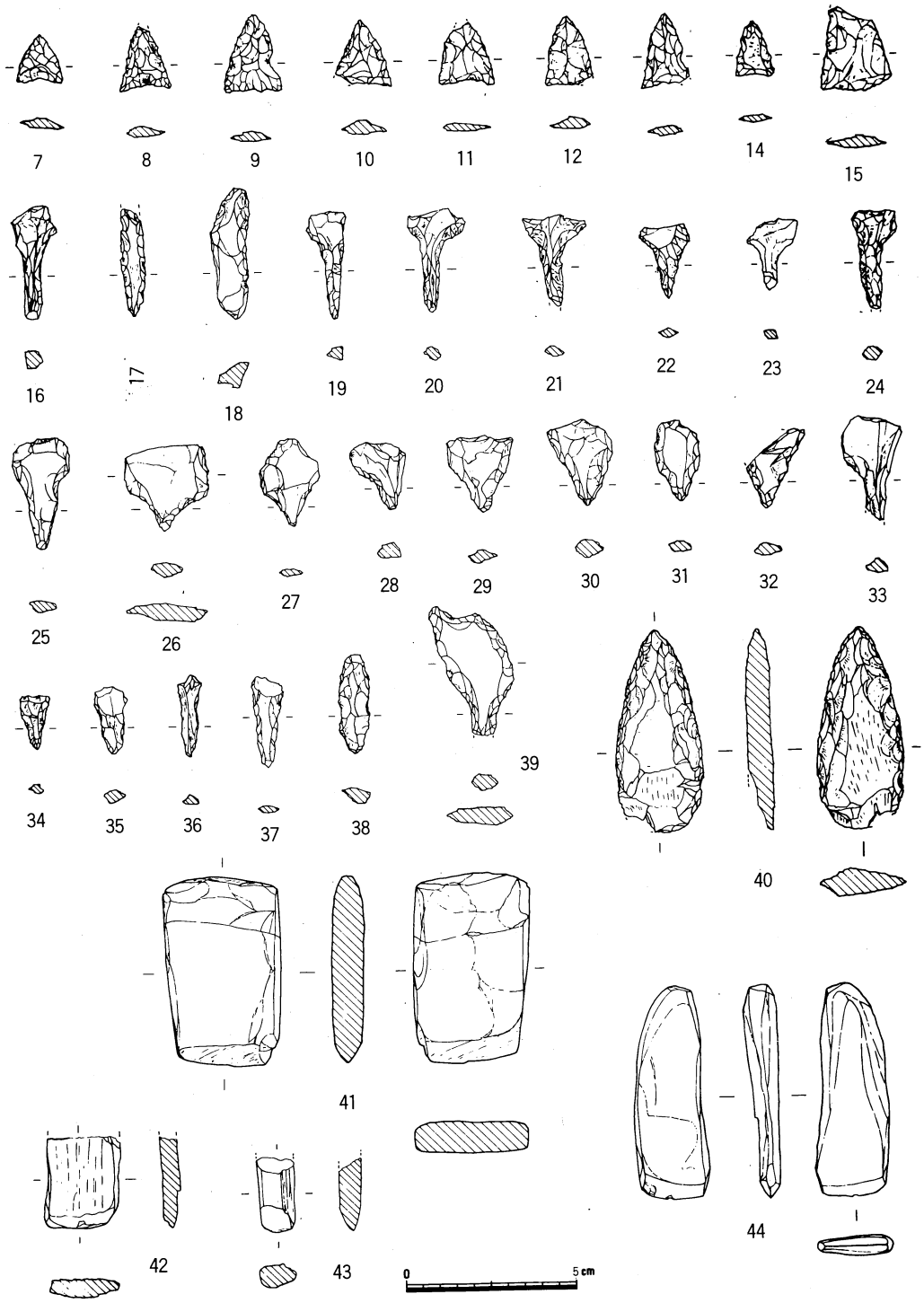
第33図　D19区１・２・３号住居址出土遺物



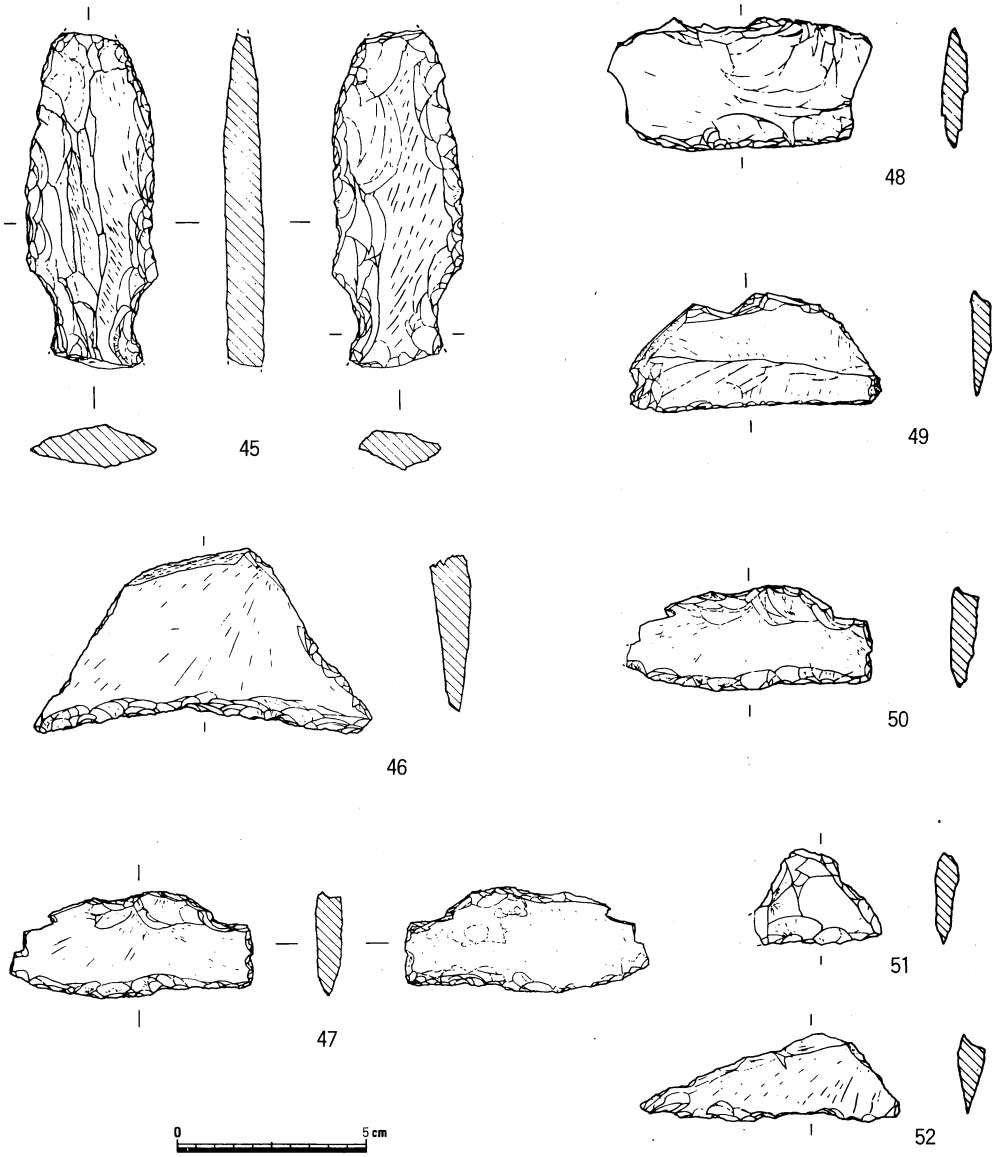
第34図　D19区 3 ・ 4 号住居址他出土遺物



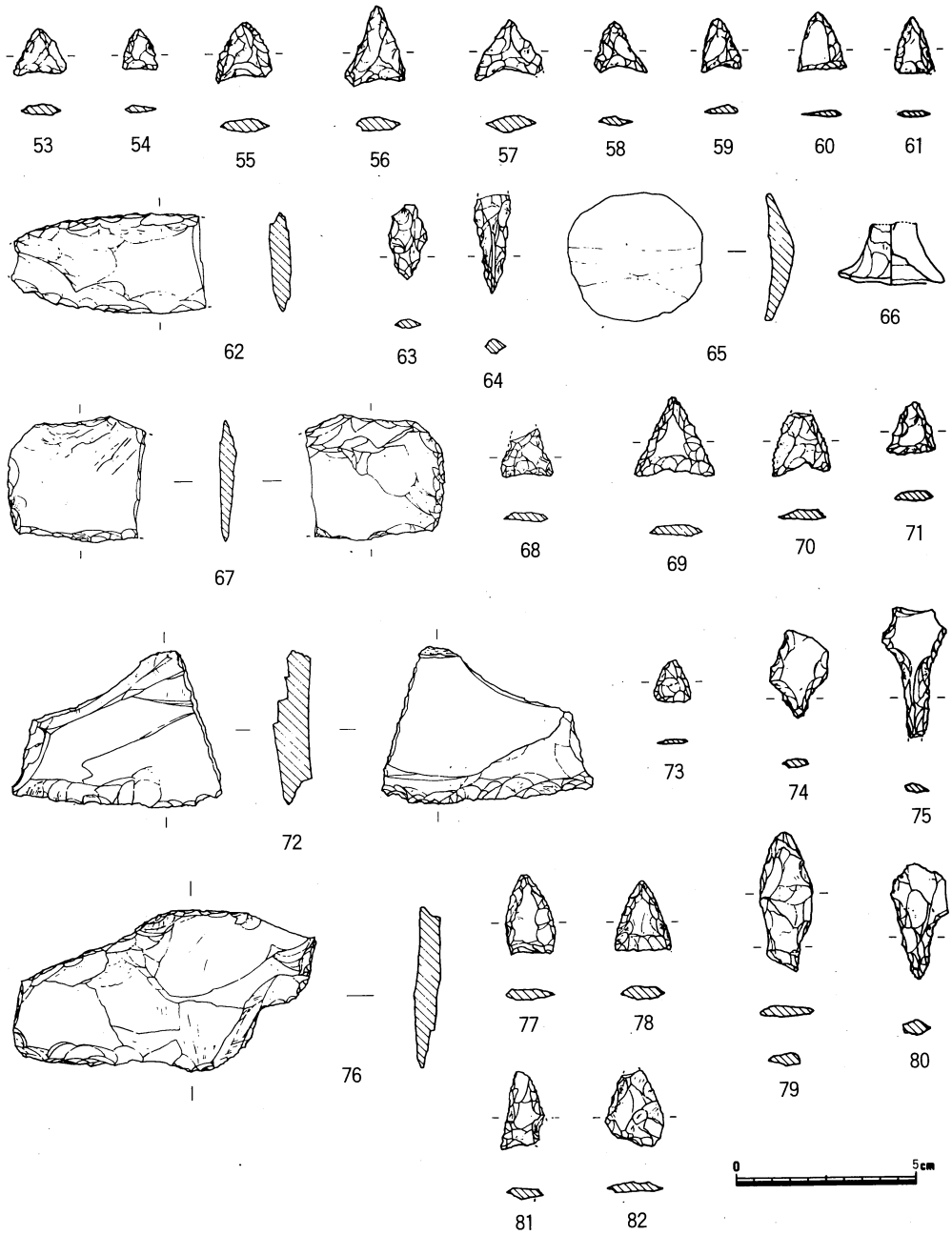
第35図　D19区２号住居址出土遺物



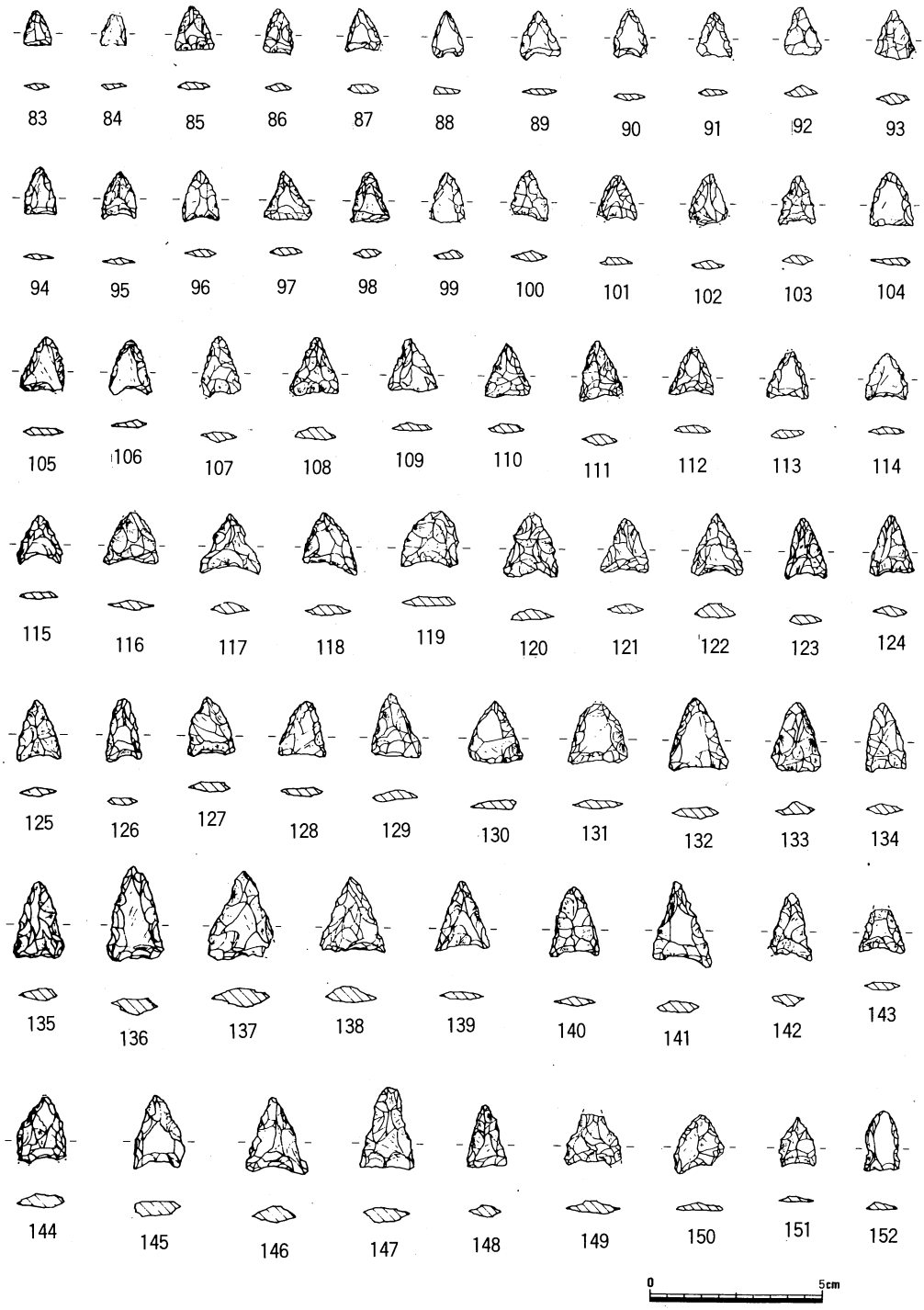
第36図　D19区１・２号住居址出土遺物



第37図　D19区２号住居址出土遺物



第38図　D19区３～９号住居址出土遺物



第39図　D19区住居址出土遺物

5号住居址（第31図、図版17－1）

D19区の東端部で、南へのびるところに位置している。4号住居址と重複しており、上部はほとんど削られている。大部分は西側の未調査地域となり、約3分の1を調査した。平面形は円形を呈し、柱穴に重複するものがあり、建て替えが行われたことがわかる。

当初のものは壁体溝が明瞭でないためわからないが、最終段階のものは直径約7mと推定される。柱穴は2か所検出されているが、それぞれ2本以上の柱痕跡がみられる。P3とP4の距離は約3mである。2本の柱穴の配置からすると5本柱になるものと考えられる。

埋土中の遺物は107・108・114が伴うものと判断される。時期は出土遺物から百・後・Ⅱ～Ⅲ（弥生時代後期中葉～後葉）に比定される。

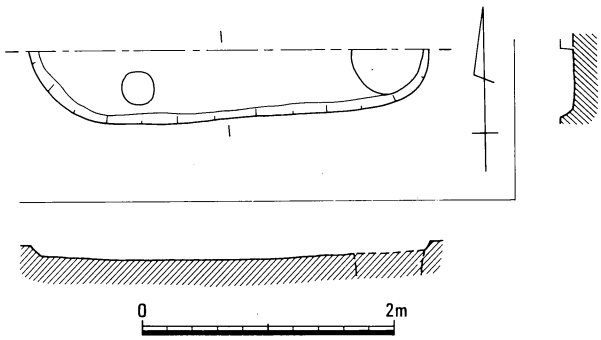
6号住居址（第32図、図版23－1、2）

D19区の東端部に位置し、東側の一部は調査区域外へのびている。平面形は方形を呈している。東西方向に長くなるものと推定される。西側の壁はほぼ南北方向であるが、わずかに西へふれている。住居址の大きさは南北3.92m、東西4m以上である。検出面から床面までの深さは浅く、10cmくらいである。炉跡は中央部の少し東寄りと推定されるところで検出された。柱穴は検出することができなかった。比較的規模の小さな竪穴住居址である。埋土中からは第47図35のガラス小玉が出土している。

時期は出土遺物から百・古・Ⅰ（古墳時代前葉）に比定される。

7号住居址（第40図、図版25－1）

D19区の東西方向にのびる調査区域のほぼ中央部に位置している。わずかに南側の一部が調査されただけで、大部分は調査区域外である。平面形は隅丸方形を呈している。南側の壁はほぼ東西方向を示している。検出面から床面までの深さはわずかに10cmくらいと浅い。大きさは東西4.2mで、南北はわからない。床面に2本の柱穴がみられるが、この住居址に伴うと判断される柱穴は調査区域にはない。埋土中からは良好な出土遺物はないが、形態等から古墳時代前期に属するものと推定される。

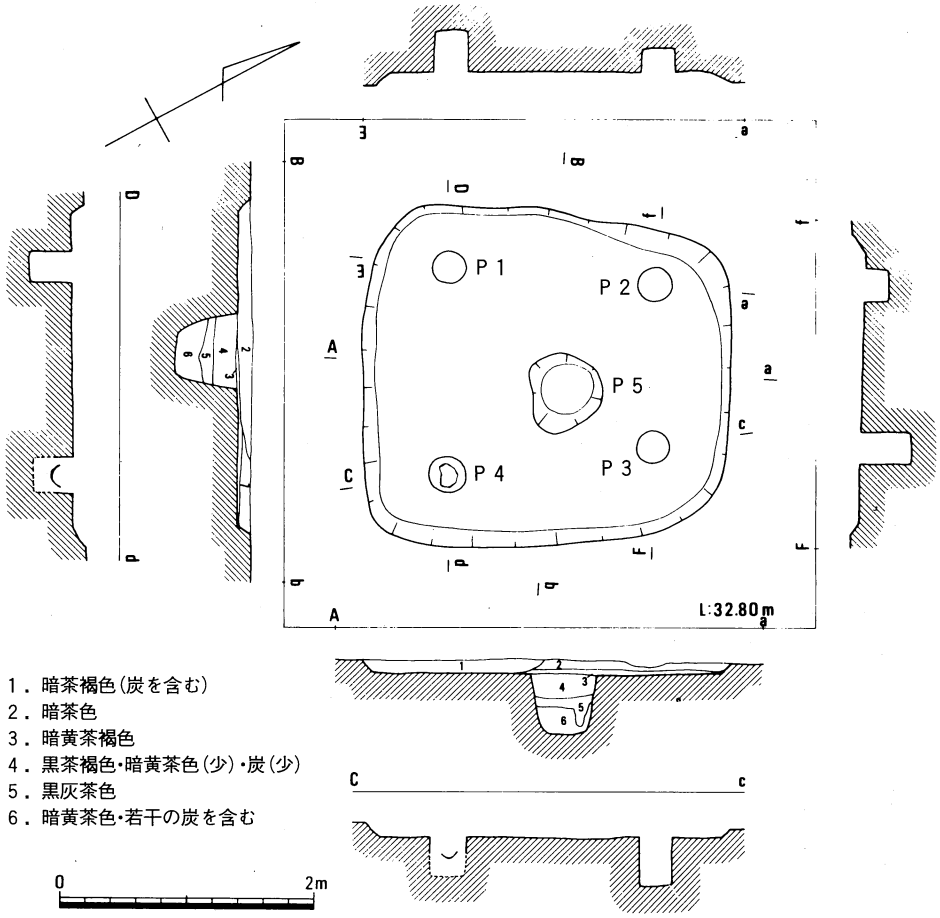


第40図　D19区7号住居址平・断面図（1／60）

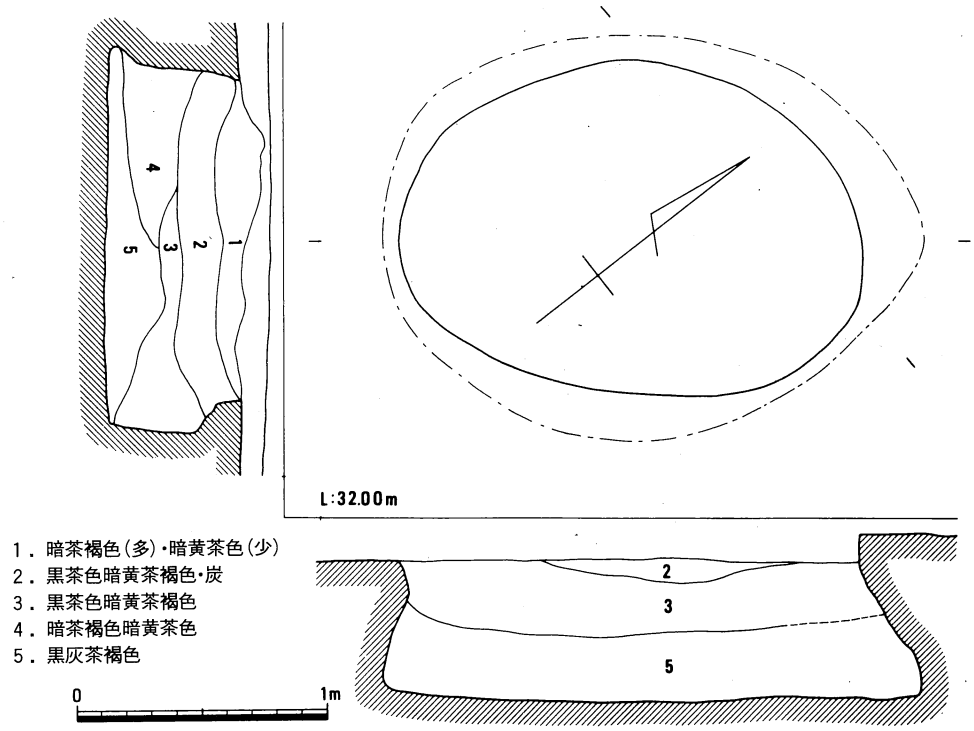
８号住居址（第41図、図版19－２・20－１）

D19区の西端部近くに位置し、１号住居址および２号住居址と重複していて、明らかに２基の住居址を切って造られている。調査区域内に全体が入っていて、全容を知ることができる。平面形は隅丸方形であり、北側の壁が少し短かく、台形を呈している。南壁の方向はN62°Wを示している。大きさは南北2.95m、東西は南側で2.7m、北側で2.0mを測る。

柱は４本柱で、台形を呈するように配置されている。柱間はＰ１～Ｐ２が1.65m、Ｐ２～Ｐ３が1.25m、Ｐ３～Ｐ４が1.65m、Ｐ１～Ｐ４が1.65mである。柱穴の大きさは直径25～30cm、深さ20～40cmである。中央部には土壙があり、不整円形を呈している。大きさは長径65cm、短径55cm、深さ47cmである。埋土中から良好な遺物は出土していないが、形態等から古墳時代前期に属するものと推定される。



第41図　D19区８号住居址平・断面図（１／60）

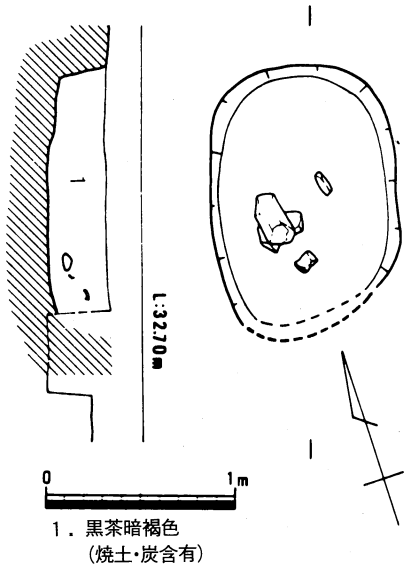


第42図　D19区袋状土壙平・断面図（1／30）

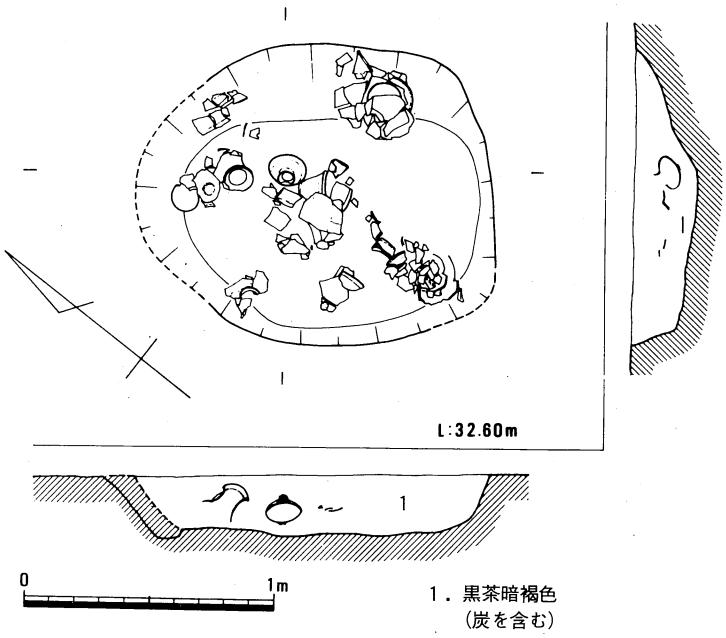
袋状土壙（第42図、図版18－1、2）

D19区の東端部に位置している。平面形は楕円形を呈し、上面よりも底部が大きくなる土壙で、いわゆる袋状土壙と呼ばれるものである。長軸方向はN38°Eを示している。検出面での大きさは長径1.84m、短径1.30mである。床面での大きさは長径2.08m、短径1.60mである。深さは53cmである。床面はほぼ平坦であり、柱穴などは認められない。

埋土中に良好な遺物がないため、時期を明確にすることはできないが、周辺の遺構との関係から弥生時代中期～後期に属するものと推定される。



第43図　D19区土壙墓平・断面図（1／40）



第44図　D19区土壙－２平・断面図（１／30）

土壙墓（第43図、図版25－２）

D19区の中央部付近に位置し、２号住居址の東側にある。南側の一部は配水溝で削っているが、ほぼ全容を知ることができる。平面形は楕円形を呈しており、長軸の方向なN16°Eを示し、ほぼ南北方向である。大きさは長径約1.5m、短径0.98mである。深さは32cmあり、埋土中には数個の石が入っている。床面の中央部が少し深くなっているが、ほぼ平坦である。

埋土中に良好な遺物がなく、時期は明らかでない。

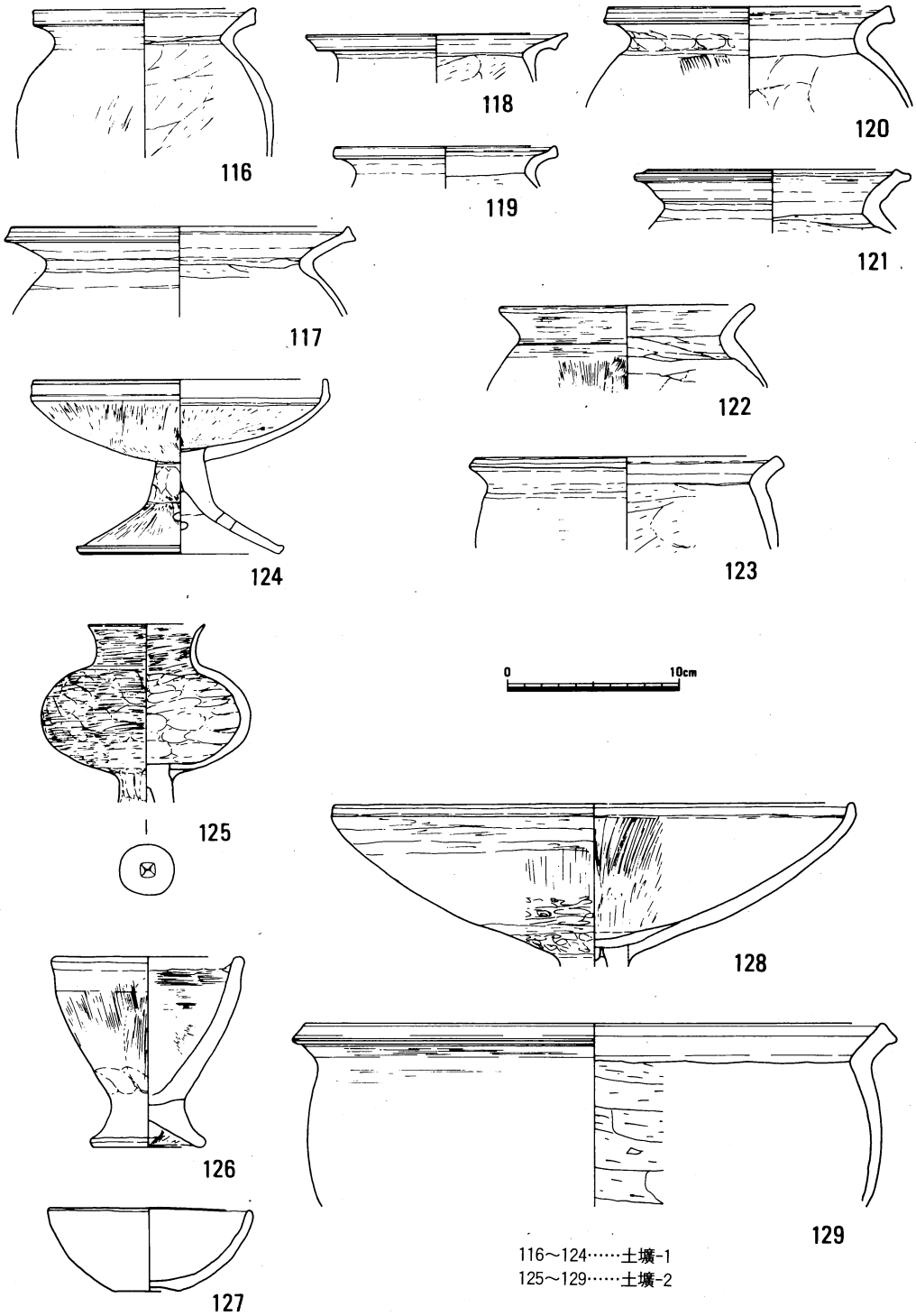
土壙－１（第45図、図版20－２）

D19区の西端部に位置し、北側は調査区域外へのびている。平面形は楕円形になるものと推定される。大きさはわからないが、北壁部分では２mである。埋土中には多量の土器片を伴っている。出土遺物には、甕**116～123**、高杯**124**がある。甕の口縁部はいずれもくの字状に外反し、端部は少し肥厚するものと丸くなるものがある。内面は頸部直下までヘラケヅリが施されている。高杯は短脚である。

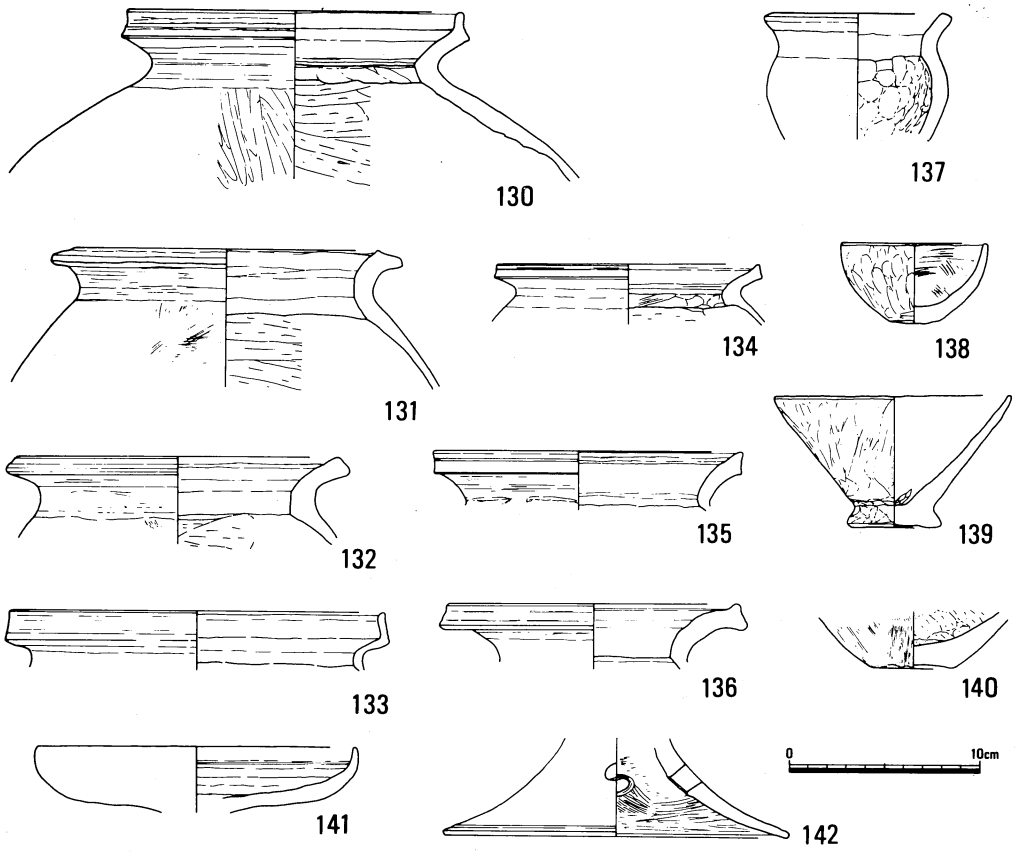
時期は出土遺物から百・後・Ⅲ（弥生時代後期後葉）に属する。

土壙－２（第44～46図、図版20－２）

D19区の西端部に位置し、１号住居址を切ってつくられている。土壙－１に近接している。平面形は不整円形を呈している。大きさは長径1.42m、短径1.20m、深さ24cmである。長軸方



第45図　D19区土壙－１・２出土遺物(1)



第46図　D19区土壙－1・2出土遺物(2)

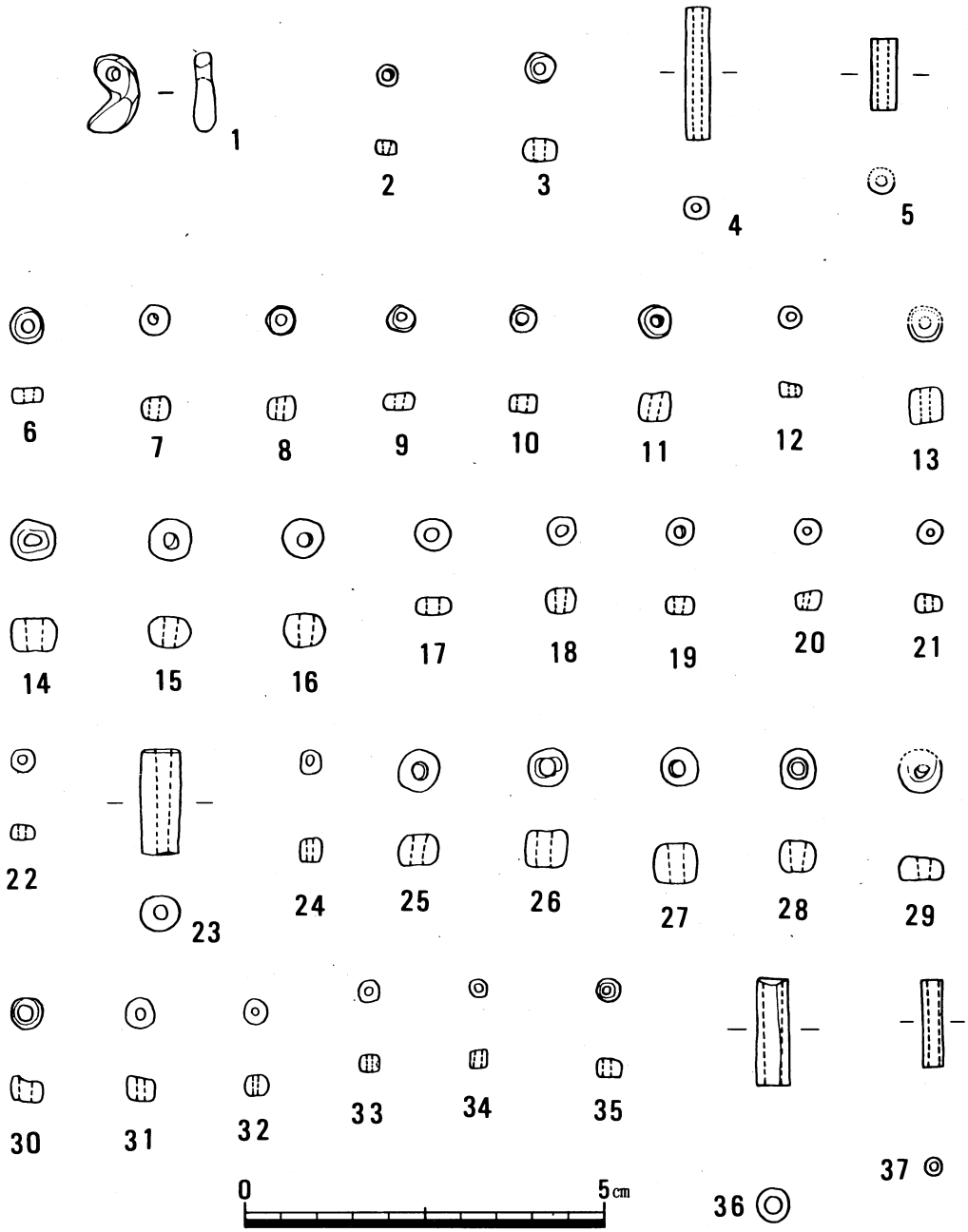
向は南北より少し東へふっている。

埋土中には多くの土器片がある。大型の破片もあり、復元可能なものを含んでいた。土器には台付直口壺125、甕130～137・140、鉢126・17・129・138・139、高杯128・141・142がある。

時期は出土遺物から百・後・Ⅲ～Ⅳ（弥生時代後期後葉～末）に属する。

その他の出土遺物

遺構に伴わない遺物もある。第34図115は飾られた高杯の口縁部で、弥生時代後期に属するものである。第47図1の勾玉は完形品である。時期は明確でない。



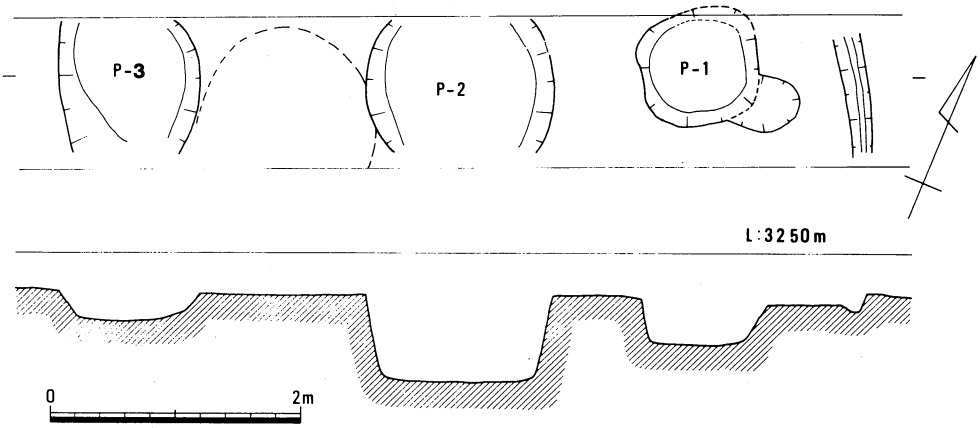
1 ……包含層　6～34……2号住　36……D13区
2～5……1号住　35……4号住　37……D22区4号住

第47図　D19区住居址・包含層出土遺物

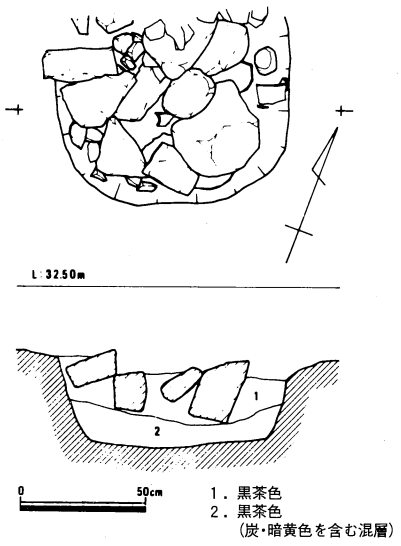
第３節　D21区の調査

竪穴住居址（第48図、図版39－１、40－２）

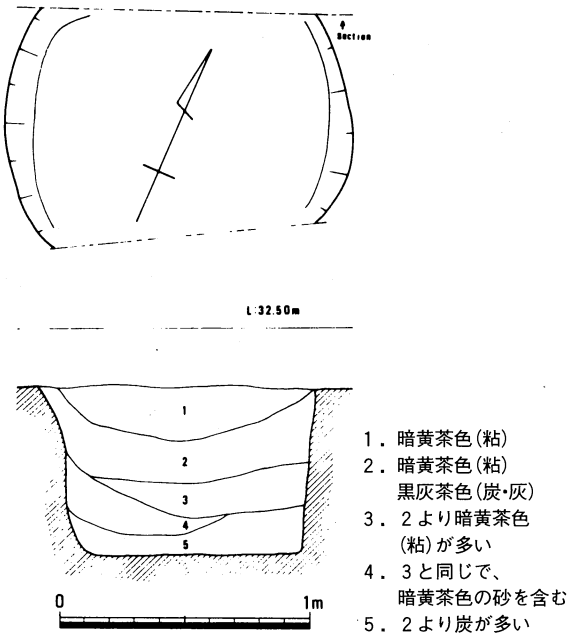
D21区は県道の南側に沿っている調査区で、竪穴住居址１軒と重複した土壙が検出された。幅が狭いため、全容がわからないが、竪穴住居址は円形を呈していると判断される。大きさは



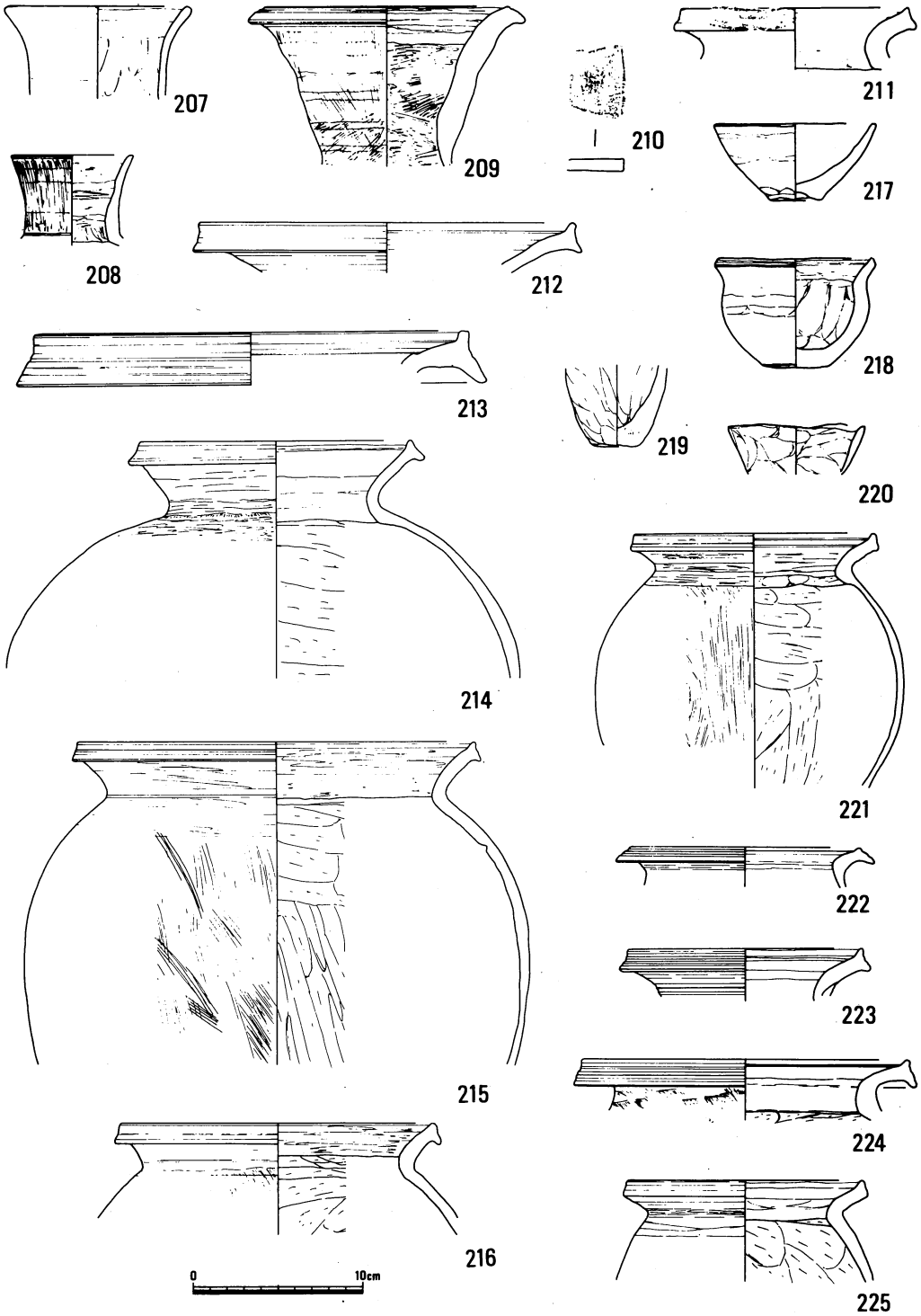
第48図　D21区１号住居址平・断面図（１／60）



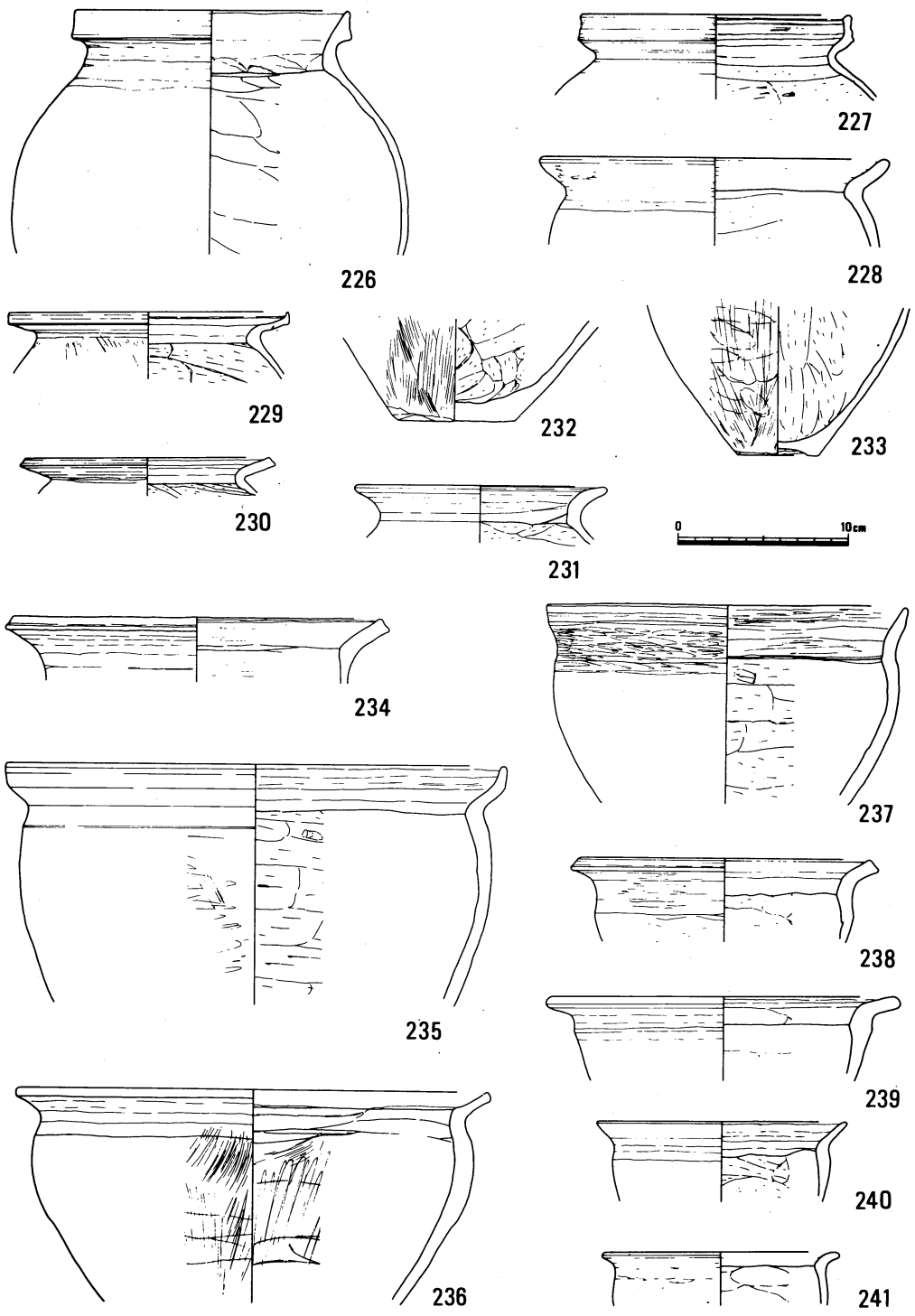
第49図　D21区土壙－１平・断面図（１／30）



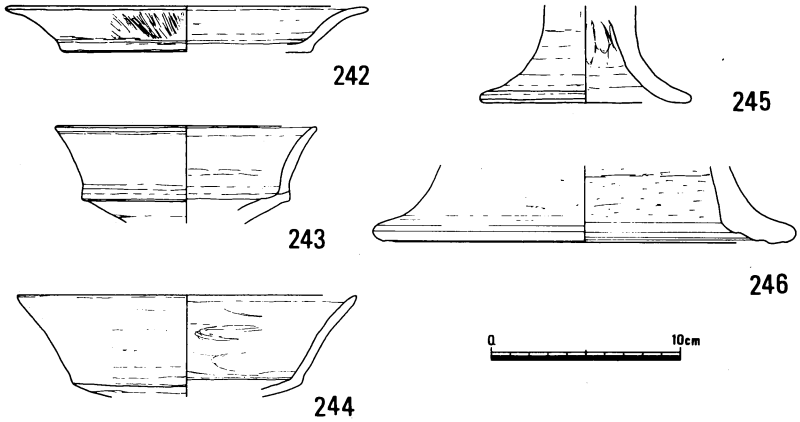
第50図　D21区１号住居址内土壙－２平・断面図（１／30）



第51図　D21区住居址内土壙出土遺物(1)



第52図　D21区住居址内土壙出土遺物(2)



第53図　D21区住居址内土壙出土遺物(3)

直径約6.4mである。東側では幅20cmの壁体溝が確認される。検出面と床面とが近いため、前後関係を把握するのは難しいが、床面で3か所の土壙が確認された。土壙－1（P1）は石が詰ったもので、後の時代のものと推定される。住居址の中央部に位置する土壙－2（P2）は住居に伴うものか明確にしがたい。平面形は円形を呈している。土壙の大きさは直径1.5m、深さ0.68mである。底部は平坦になっており、直径1.2mである。西端部の土壙－3（P－3）は楕円形の浅い土壙である。これについても住居址に伴うものが明確にしがたい。大きさは東西1.06m、深さ0.22mである。

床面からの遺物が明確でないので、時期を決め難いが、土壙－2・3から出土した土器は多く、これが住居址に伴うとすれば時期を決めることができる。土壙中から出土した遺物には弥生土器があり、器種は壺・甕・高杯・鉢がある。出土した土器の時期は百・後・Ⅲ～Ⅳ（弥生時代後期後葉～末）に属する。

土壙－1（第49図、図版39－2、40－2）

竪穴住居址内の東寄りで検出された土壙である。平面形は隅丸方形を呈している。大きさは92×92cm、深さ36mである。埋土中には角礫、円礫、土器片が入っているが、土壙の時期を明確にすることはできない。

第４節　D22・D23区の調査

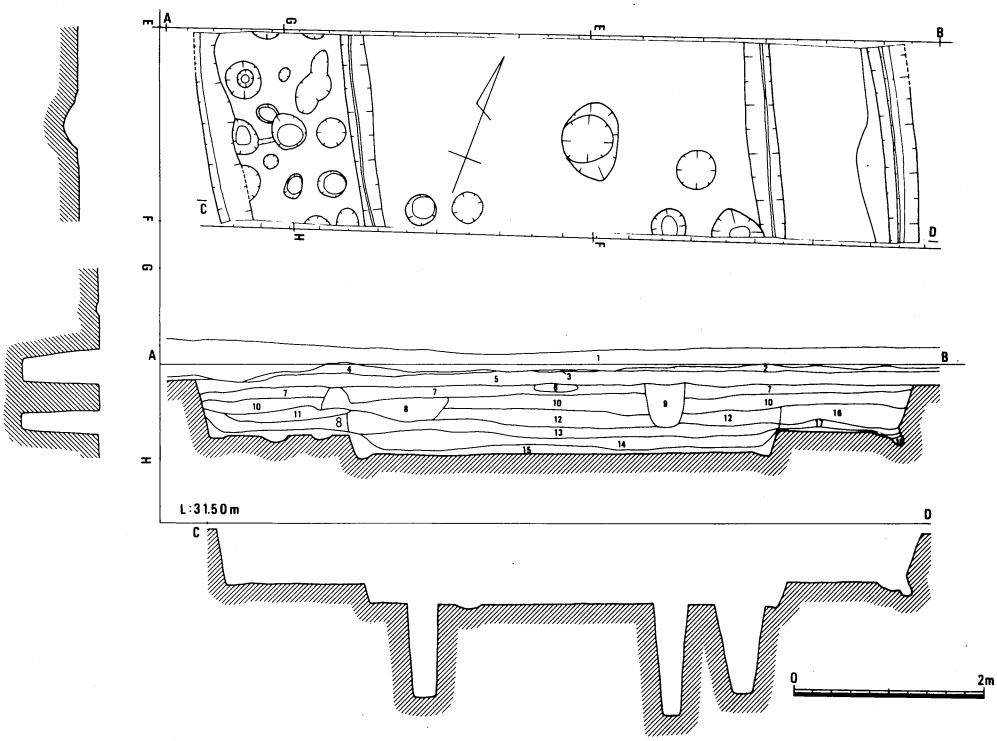
１．D22・D23区の概要

調査対象地域の南東部に位置し、県道から南へ100ｍのところである。県道に平行して、東西約200ｍがD22区、D22区の東端部から南へのびる約40ｍがD23区である。細長い調査区のため全容はわからないが、D22の西寄りの70ｍとD23区に竪穴住居址や土壙が密集している。D22区の東半分にも竪穴住居址や土壙はみられるが密集していない。

２．D22・D23区の遺構・遺物

１号住居址（第54図、図版42－2、43－１）

D22区の西端部に位置している。調査区の幅が２ｍしかないため、住居址の全容はわからな



１，黒茶色・ブロックで白淡黄茶色を含む（２次的な埋土）
２．～４．白淡黄茶色砂層
５．黒茶色・白淡黄色のブロック（砂）
６．暗赤褐色（焼土を含む）
７．暗灰黄茶褐色
８．暗灰黄色・暗茶色
９．暗茶褐色・暗灰色・焼土（小量）
10．暗灰黄褐色・暗茶褐色
11．暗黄灰色茶褐色
12．暗灰白黄色茶褐色
13．灰白色暗茶褐色
14．８と同じ
15．暗灰色茶褐色（この層は粘質が強い）
16．暗黄灰色茶褐色
17．暗灰淡黄色茶褐色
18、黒灰茶色（粘質）

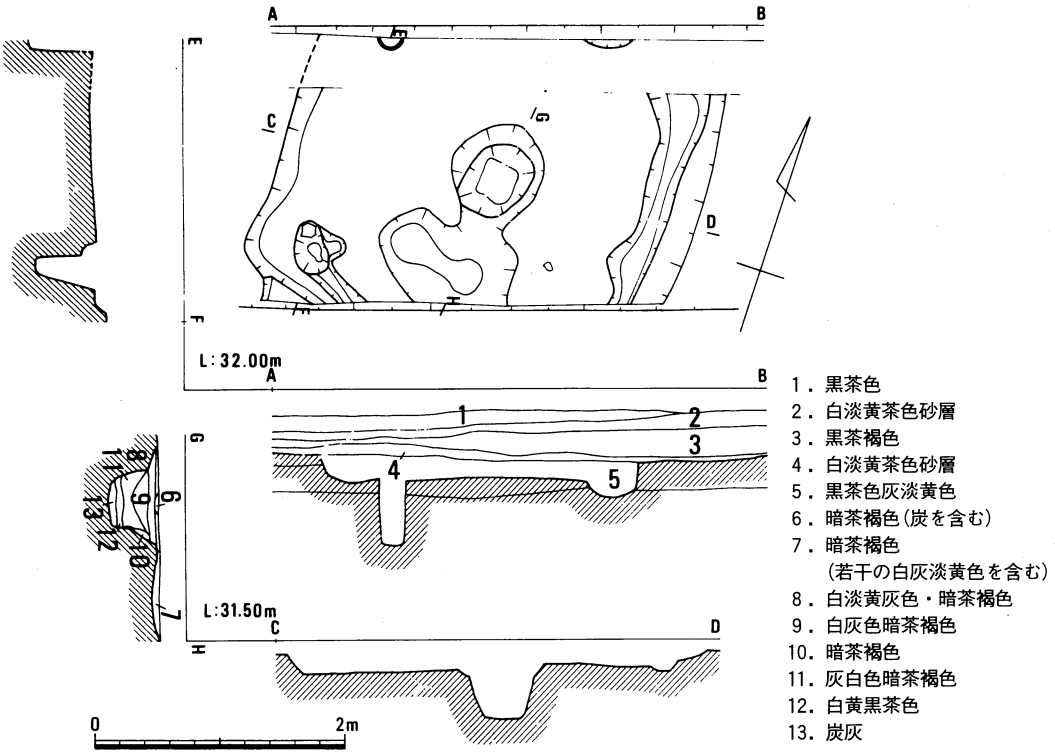
第54図　D22区１号住居址平・断面図（１／80）

い。しかし、検出面から床面まで70cmあり、中央部に浅い土壙がみとめられることから竪穴住居址の中央部付近と推定される。壁体溝がほぼ直線状を呈することから方形の竪穴住居址で、中央部の床面は周辺の床面より20cm低くなっていることからベッド状遺構をもつものである。ベッド状遺構との間にも細い溝がある。柱穴は調査範囲の南寄りに２本ずつみられることから建て替えが行われたことがわかる。大きさは東西方向で7.5ｍである。

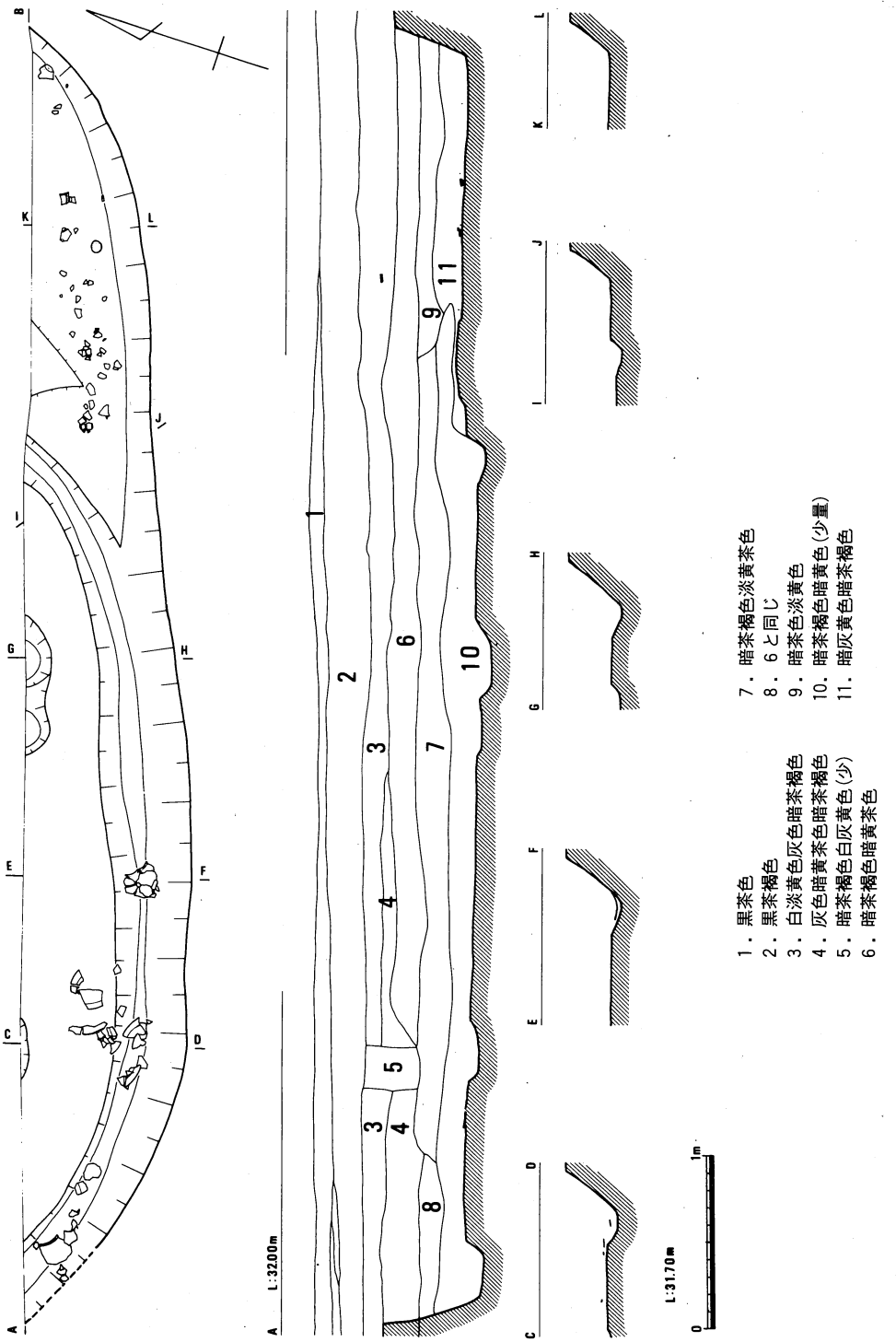
埋土中から良好な遺物が出土していないことから、時期を明確にすることはできないが、平面形などから古墳時代前期に属するものと推定される。

２号住居址（第55図、図版43－２）

１号住居址から約７ｍ東へ寄ったところに位置している。調査の幅が狭いため、南側と北側の一部は調査されていない。平面形は方形を呈し、壁体構がある。中央部には70×90cm、深さ40cmの楕円形を呈する土壙がある。柱穴は調査区域の北端でわずかにみられるものを含めて、３本確認されていることから４本柱と判断される。住居址東壁はほぼ南北方向を示している。大きさは東西3.35ｍと小型である。埋土中からは第63図247の小型鉢が出土した。時期は出土



第55図　D22区２号住居址平・断面図（１／60）



第56図　D22区３号住居址平・断面図（１／40）

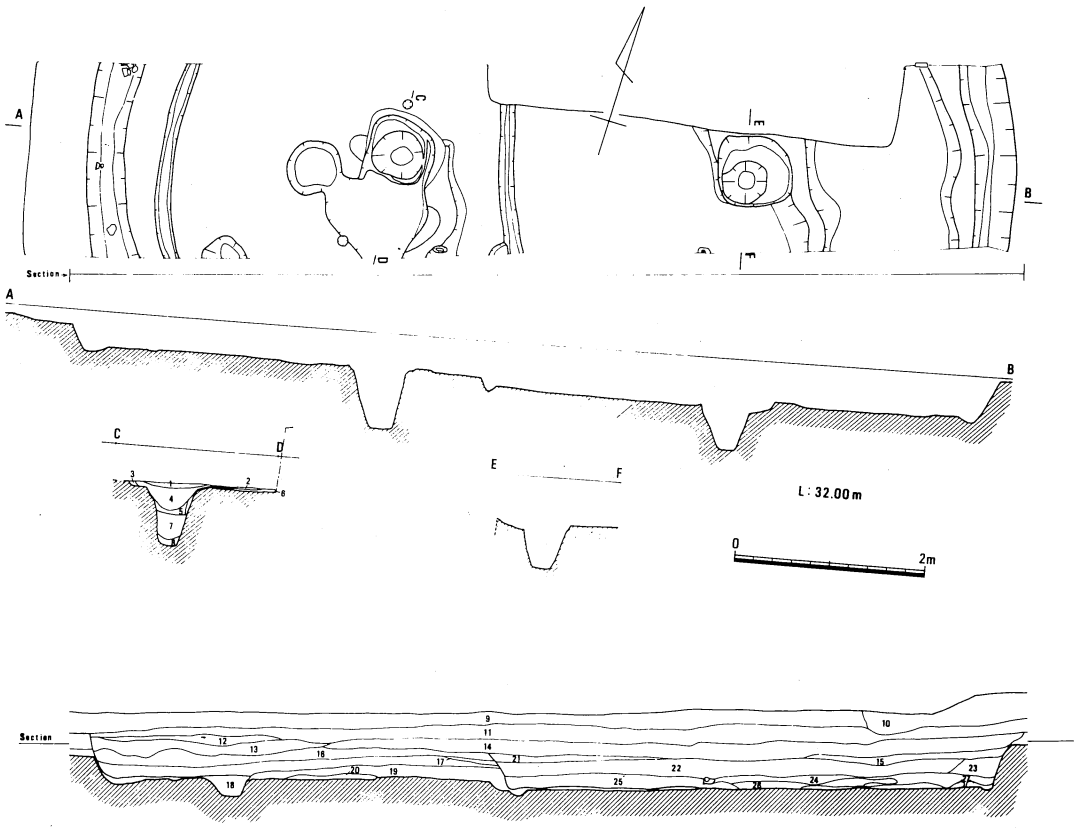
遺物から百・古・Ⅰ（古墳時代前葉）に比定される。

3号住居址（第56図、図版44－12、45－1）

D22区の西端から34m付近に位置する。南側の一部を調査したにすぎないが、壁体溝が1本あり、柱穴の一部と推定される穴が2か所に一部かかっている。床面付近からは248～255の土器が出土し、時期は百・後・Ⅲ（弥生時代後期後葉）に比定される。

4号住居址（第57図、図版47－1、2・48－1、2）

D22区の西端から64mのところに位置している。平面形は円形を呈し、壁体溝が2本ある。



1．黒茶暗褐色(黒色炭化物を含む)
2．炭化物を多量に含む(黒茶暗褐色)
3．暗茶色
4．黒茶暗褐色暗黄茶色(若干含む)
5．2と同じ
6．1と同じ
7．暗黄淡茶色(灰炭を含む)
8．白黄色(灰・炭を含む)
9．黒灰色(少量)黒茶色
10．黄淡茶色
11．暗黄茶色黒褐色
12．暗黄茶色黒褐色
13．黒茶色(焼土・炭を含む)
14．黒茶色(焼土・炭を含む)暗黄色(少量)
15．黒褐色
16．暗茶褐色
17．黒茶色黄淡茶色(少量)
18．黒褐色
19．黒茶褐色
20．暗赤褐色(焼土)
21．黒茶褐色
22．黒暗茶褐色
23．暗黄色暗茶褐色
24．黒茶褐色(炭を含む)
25．黒茶色暗黄茶褐色
26．黒褐色暗黄茶色(少量)
27．黒茶色黄淡茶色
28．黒茶褐色(若干の炭を含む)

第57図　D22区4号住居址平・断面図（1／80）

復元すると直径9.84ｍになり、大型の竪穴住居址である。中心の東と西に直径80㎝の不整円形の土壙があり、いずれも付近に炭化物があり、炉に伴う土壙である。深さは東側のものが50㎝、西側のものが70㎝である。両者の距離は約３ｍである。柱穴については一部を検出しているにすぎない。中央部にある細い溝は間仕切りと呼ばれるものの可能性が考えられる。

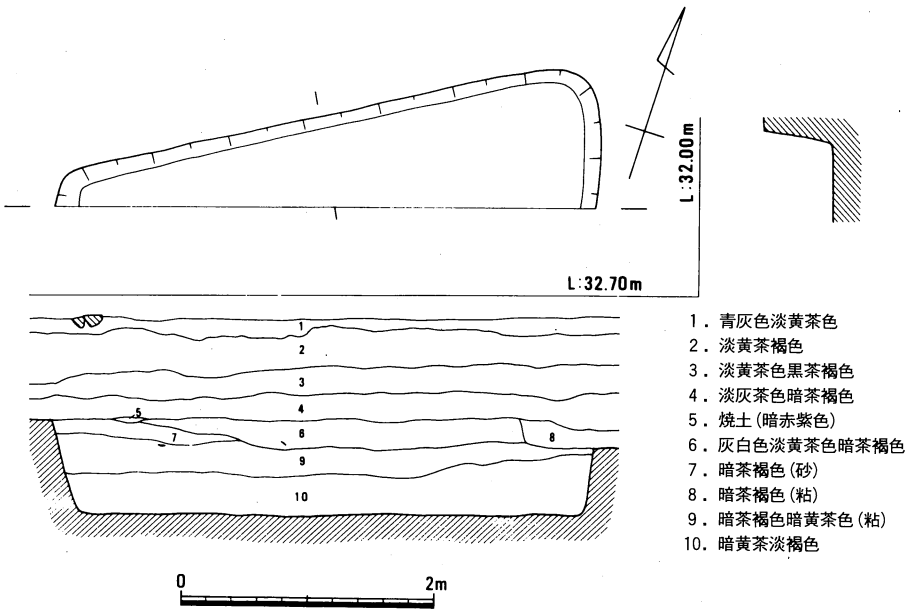
埋土中の出土遺物は**256～259**である。時期は百・後・Ⅱ（弥生時代後期中葉）に属する。

５号住居址（第58図、図版50－２）

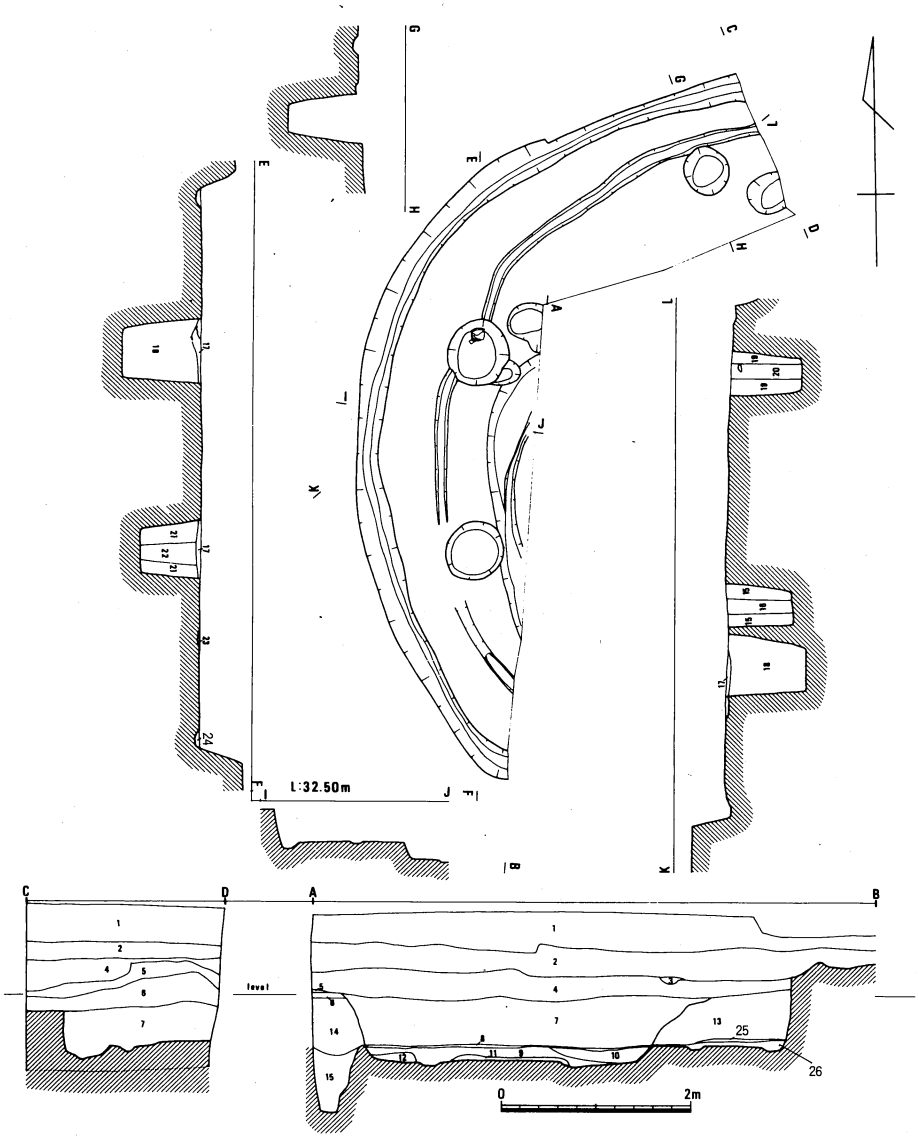
D22区の東端部に近いところに位置している。方形の竪穴住居址の北側の一部が調査されただけで、南側の大部分は未調査区域である。大きさは東西方向で4.4ｍである。検出面から床面までの深さは50㎝と保存状態は良好である。良好な出土遺物はないが、平面形と付近の住居址との関係から古墳時代初めに属するものと推定される。

６号住居址（第59図、図版52－１、２・53－１）

D22区の東端部から南へ続くD23区にまたがっている。西側の一部が調査されただけで、東側の大部分は未調査であるため、全容を知ることはできない。平面形は円形で、復元すると直径約8.6ｍと大型の住居址である。壁体溝は２本検出されており。建て替えが行われたことがわかる。これに対応するように柱穴も２本ずつ接近している状況がみられる。柱穴は６～７本柱であったと推定される。埋土中からは**260～272**の土器が出土していることから百・後・Ⅰ（弥生時代後期前葉）に比定される。

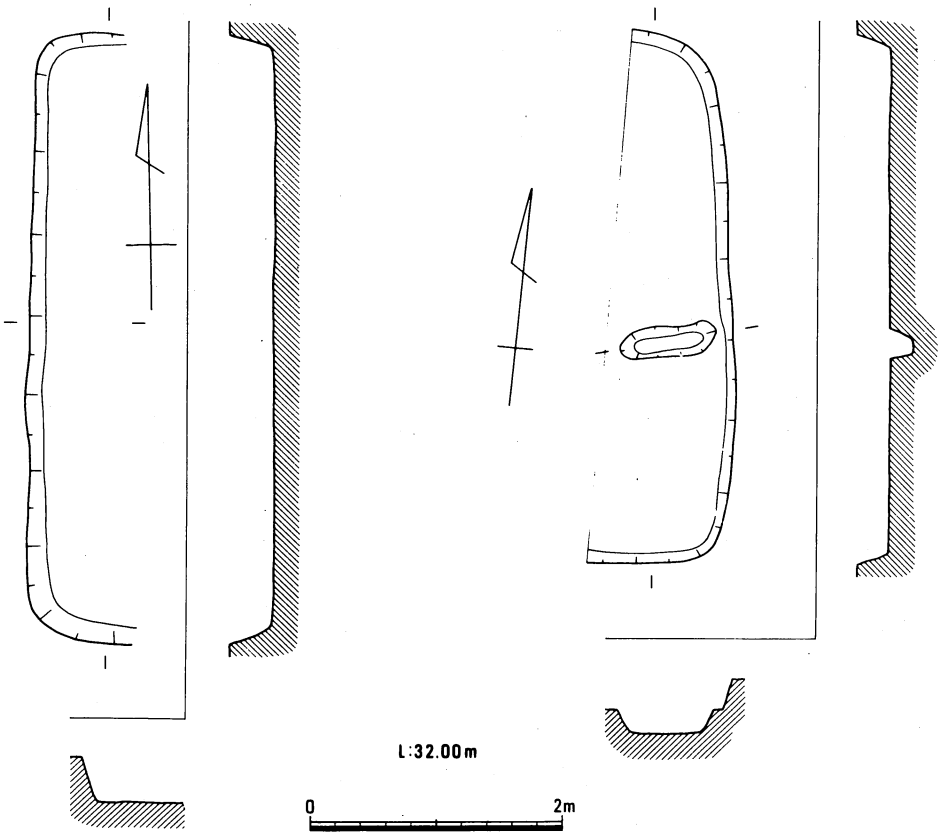


第58図　D22区５号住居址平・断面図（１／60）



1．黒褐色暗茶色
2．黒茶暗褐色
3．黒茶色
4．暗茶黒褐色
5．黒茶色暗灰色黄淡茶色の互層
6．黒茶褐色淡青暗灰色（少量）
7．灰白色暗茶褐色（少）
　後世の掘り込み（砂）
8．黄淡茶褐色
9．茶褐色暗灰白色（少）
10．暗黄茶色
11．10と同じ
12．10と同じ
13．暗茶褐色（砂混じり）
14．黒茶色
15．黄色暗茶褐色
16．若干黒茶色を含む
17．黒茶褐色
18．黄茶褐色暗茶色
19．暗黄茶褐色
20．暗灰色（粘）
21．暗黄色暗茶褐色
22．黒灰茶色
23．22と同じ
24．黒茶色暗黄白色
25．焼土暗赤褐色黒褐色
26．茶褐色

第59図　D22・23区6号住居址平・断面図（1／80）



第60図　D23区７号（右）・８号（左）住居址平・断面図（１／60）

７号住居址（第60図、図版53－２）

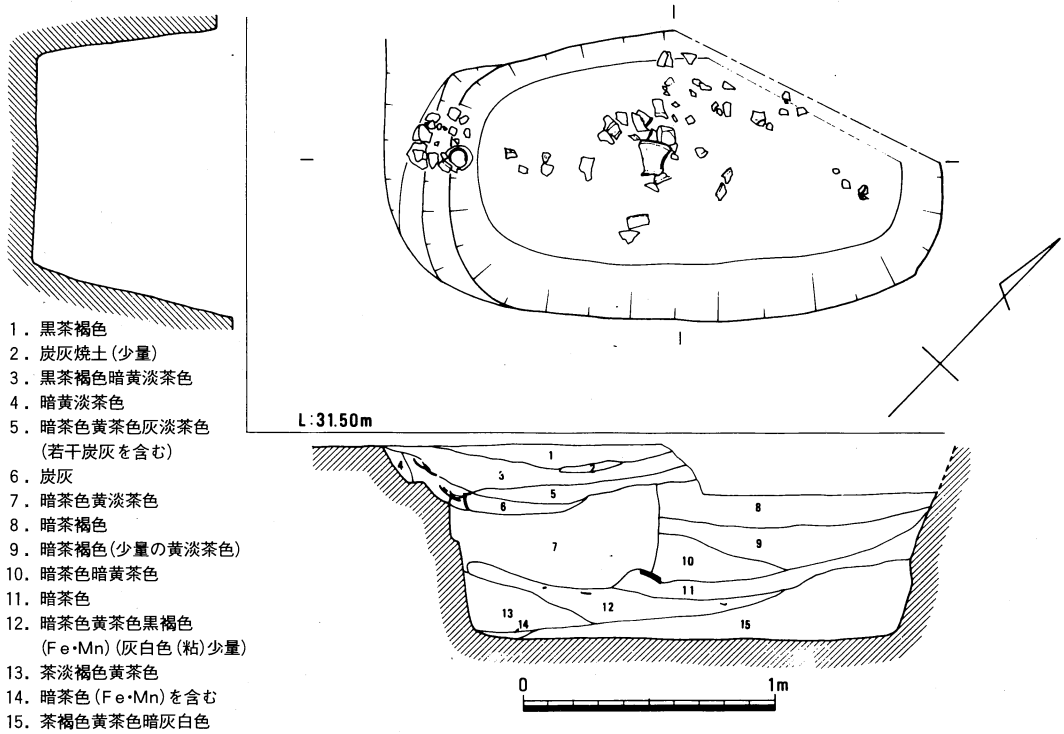
D23区の中央付近に位置している。平面形は方形を呈し、東側の一部が調査されただけで、大部分は西側の未調査区域である。東壁はほぼ南北方向を示している。大きさは南北4.4ｍである。埋土中から良好な遺物は出土していないが、平面形と付近の住居址との関係から古墳時代初めに属するものと推定される。

８号住居址（第60図、図版53－２）

７号住居址の南に位置している。平面形は方形を呈し、西側の一部を調査しただけである。西壁はほぼ南北方向である。大きさは南北4.8ｍである。埋土中から**273・274**が出土しているが、**274**は調査時の混入と考えられ、**273**は弥生時代後期のものであるが、平面形などから古墳時代初めのものと推定される。

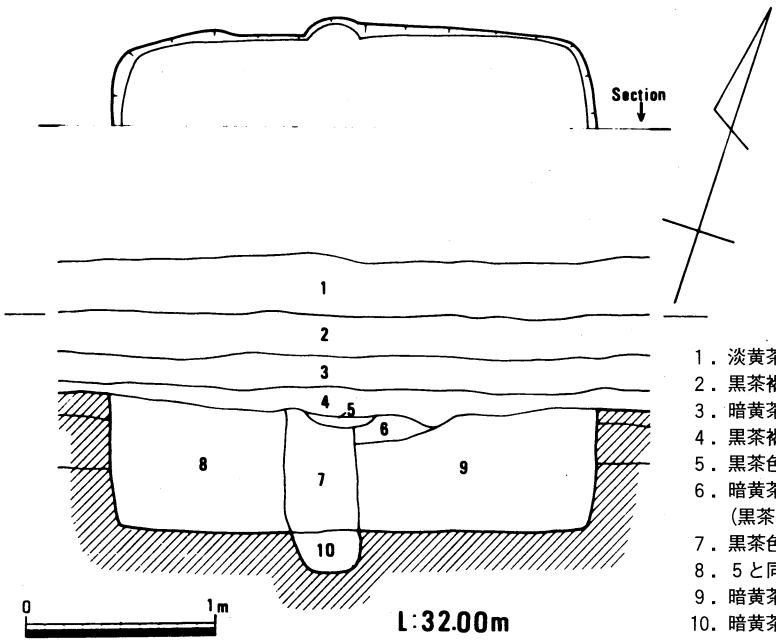
土壙－１（第61図、図版45－２・46－１）

３号住居址の東側に位置する。平面形は長楕円形を呈している。北西側の一部は調査区域外



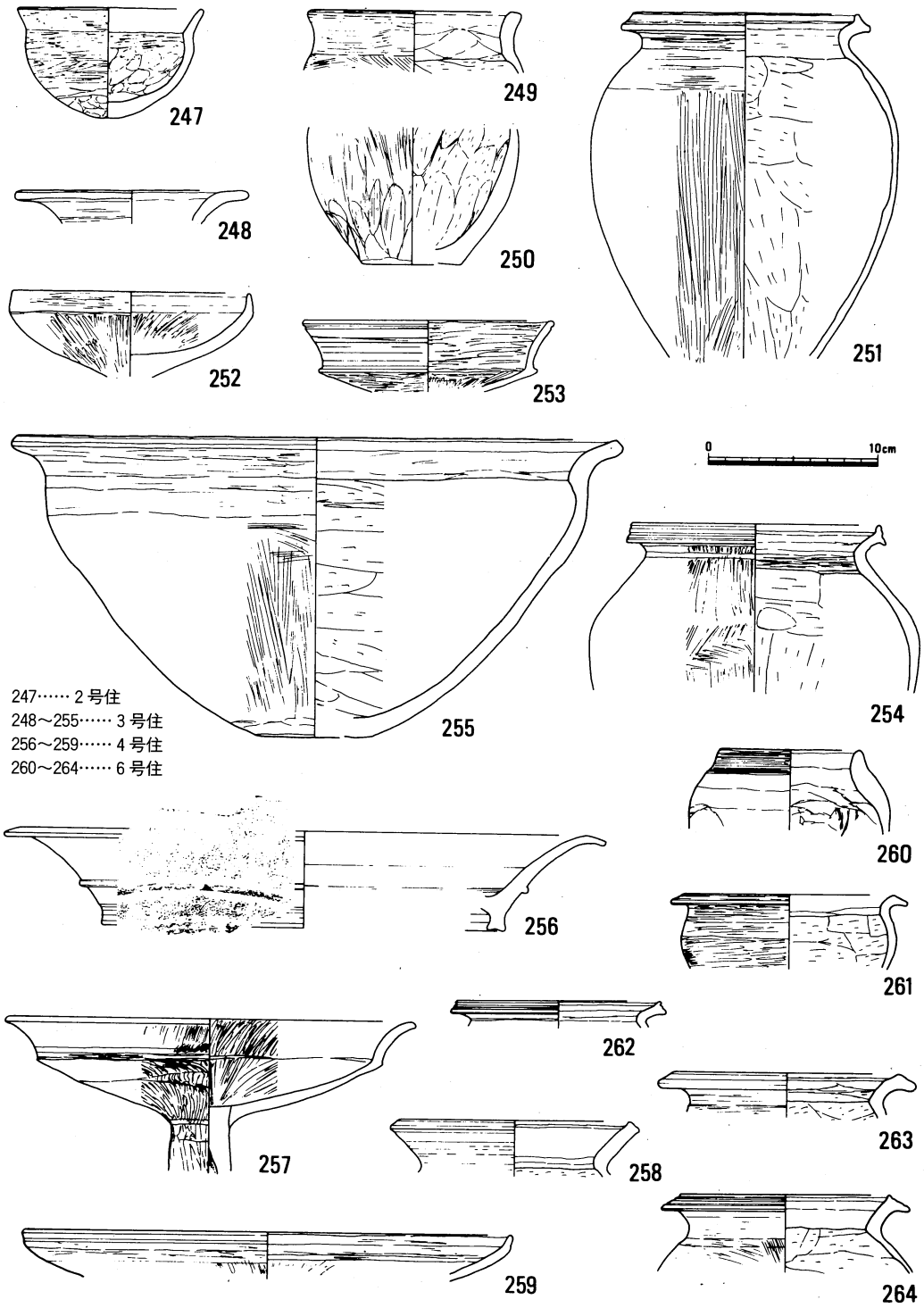
1．黒茶褐色
2．炭灰焼土(少量)
3．黒茶褐色暗黄淡茶色
4．暗黄淡茶色
5．暗茶色黄茶色灰淡茶色
(若干炭灰を含む)
6．炭灰
7．暗茶色黄淡茶色
8．暗茶褐色
9．暗茶褐色(少量の黄淡茶色)
10．暗茶色暗黄茶色
11．暗茶色
12．暗茶色黄茶色黒褐色
(Fe・Mn)(灰白色(粘)少量)
13．茶淡褐色黄茶色
14．暗茶色(Fe・Mn)を含む
15．茶褐色黄茶色暗灰白色

第61図　D22区土壙－1平・断面図（1／30）

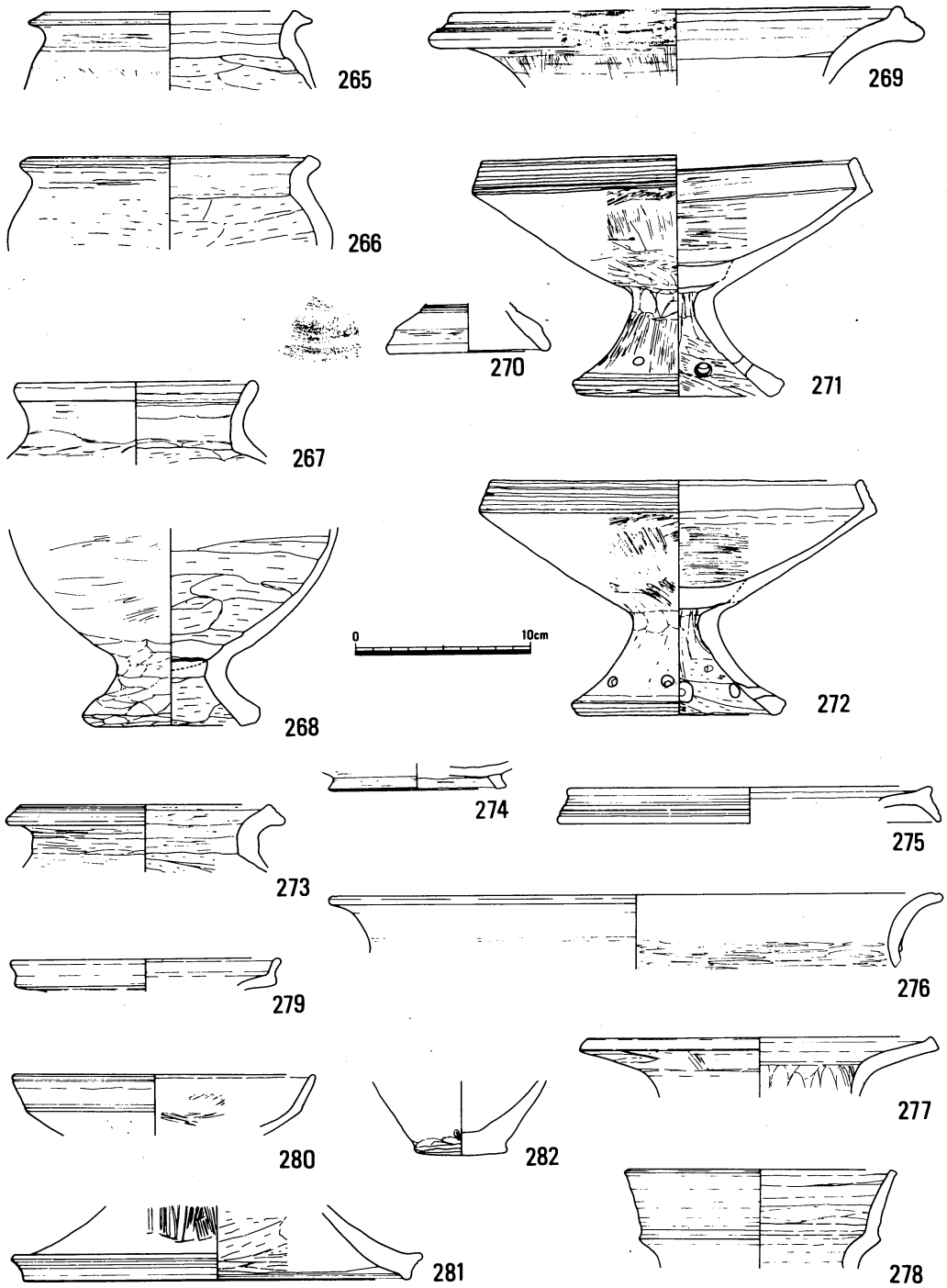


1．淡黄茶褐色
2．黒茶褐色
3．暗黄茶褐色
4．黒茶褐色
5．黒茶色暗黄色を含む
6．暗黄茶色黒茶色
(黒茶褐色土を含む)
7．黒茶色
8．5と同じで炭化物を若干含む
9．暗黄茶色黒茶色(22層)
10．暗黄茶色

第62図　D22区土壙－2平・断面図（1／40）



第63図　D22区2・3・4・6号住居址出土遺物



265～272……6号住　273・274……8号住　275～281……溝

第64図　D22・23区6・8号住居址・溝－2出土遺物

になっている。埋土中の土器群は2か所あり、上層と下層に分かれている。土層断面からも上下に分けることが可能である。下層の土壙の大きさは長径約2m、短径約1.15m、深さ0.82mである。上層の土壙は長径約1.5m、深さ約0.3mである。出土遺物は292～309である。時期は出土遺物から百・後・Ⅱ（弥生時代後期中葉）に比定される。

土壙－2（第62図）

D22区の中央部付近に位置し、平面形は方形を呈している。北側の一部を調査しただけで、南側の大部分は未調査区域である。北壁は東西方向より少し北へふれている。大きさは東西2.56m、深さ0.7mである。良好な出土遺物がなく、時期は明らかでない。

溝－1

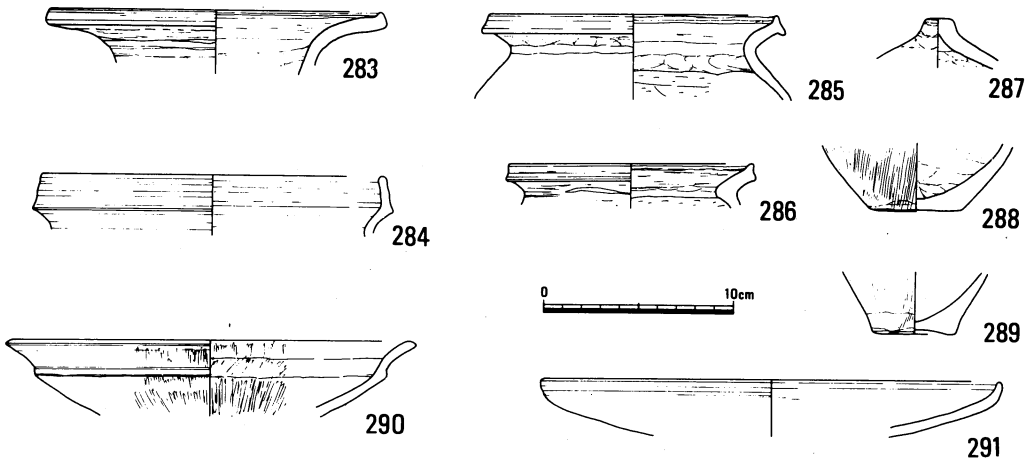
2号住居址の西側に位置する。幅60cmの浅い溝で、良好な遺物はなく、時期は明らかでない。

溝－2

D23区の北寄りに位置し、南北に長い溝状の遺構である。幅80cmで、北側ではとぎれる。南側は西へ曲がり、未調査区域へのびている。埋土中に良好な遺物はなく、明期は明らかでない。

溝－3（第65図）

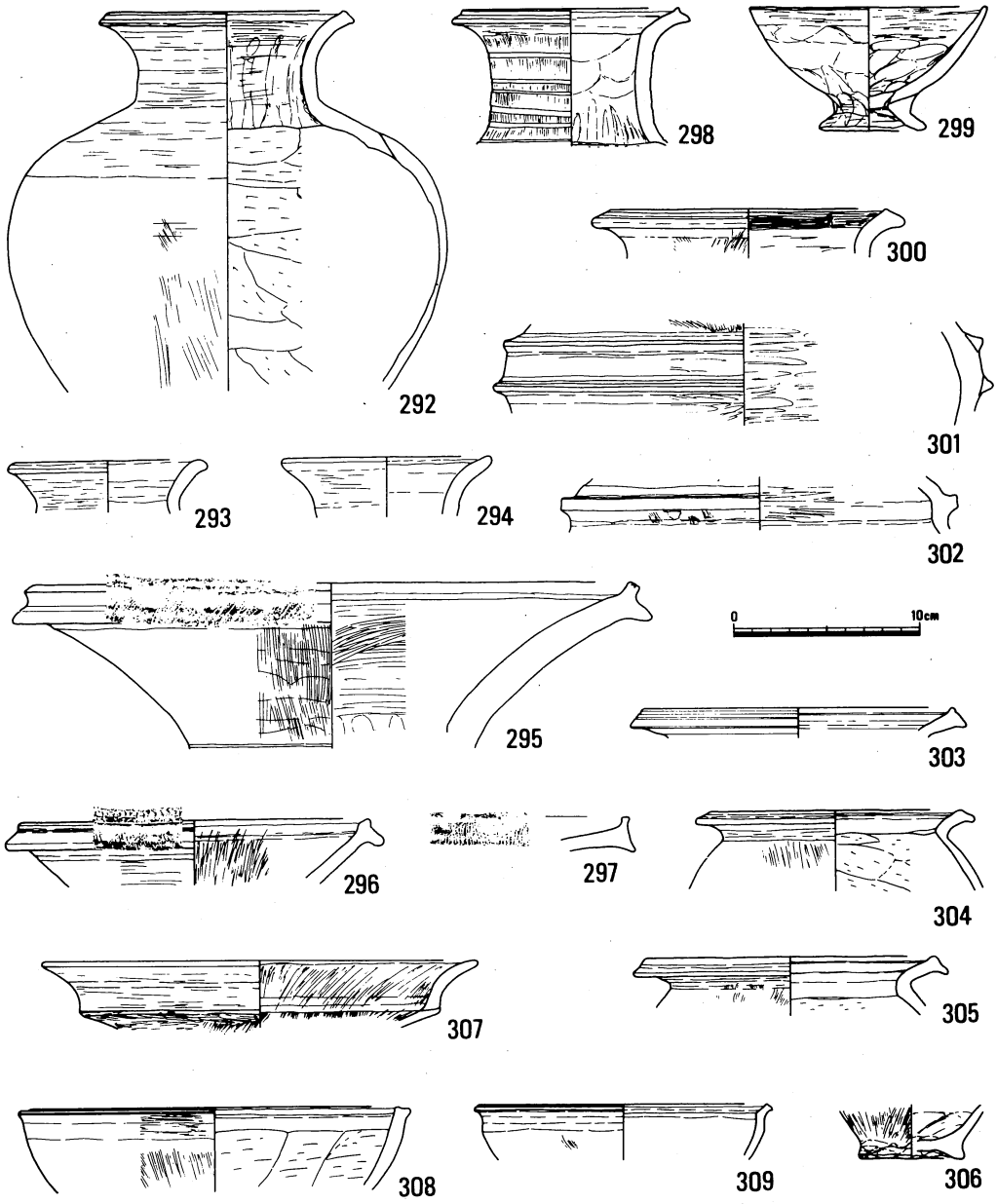
4号住居址の西側に位置する。幅40cmの浅い溝で、南北に走る。埋土中からは283～291の土器が出土している。283は壺の口縁部である。284～286は甕の口縁部で、284は口縁部が外反したあと内傾しながら立ちあがる。285～286はくの字状に外反し、端部は肥厚する。287・290・291は高杯である。288・289は甕の底部である。



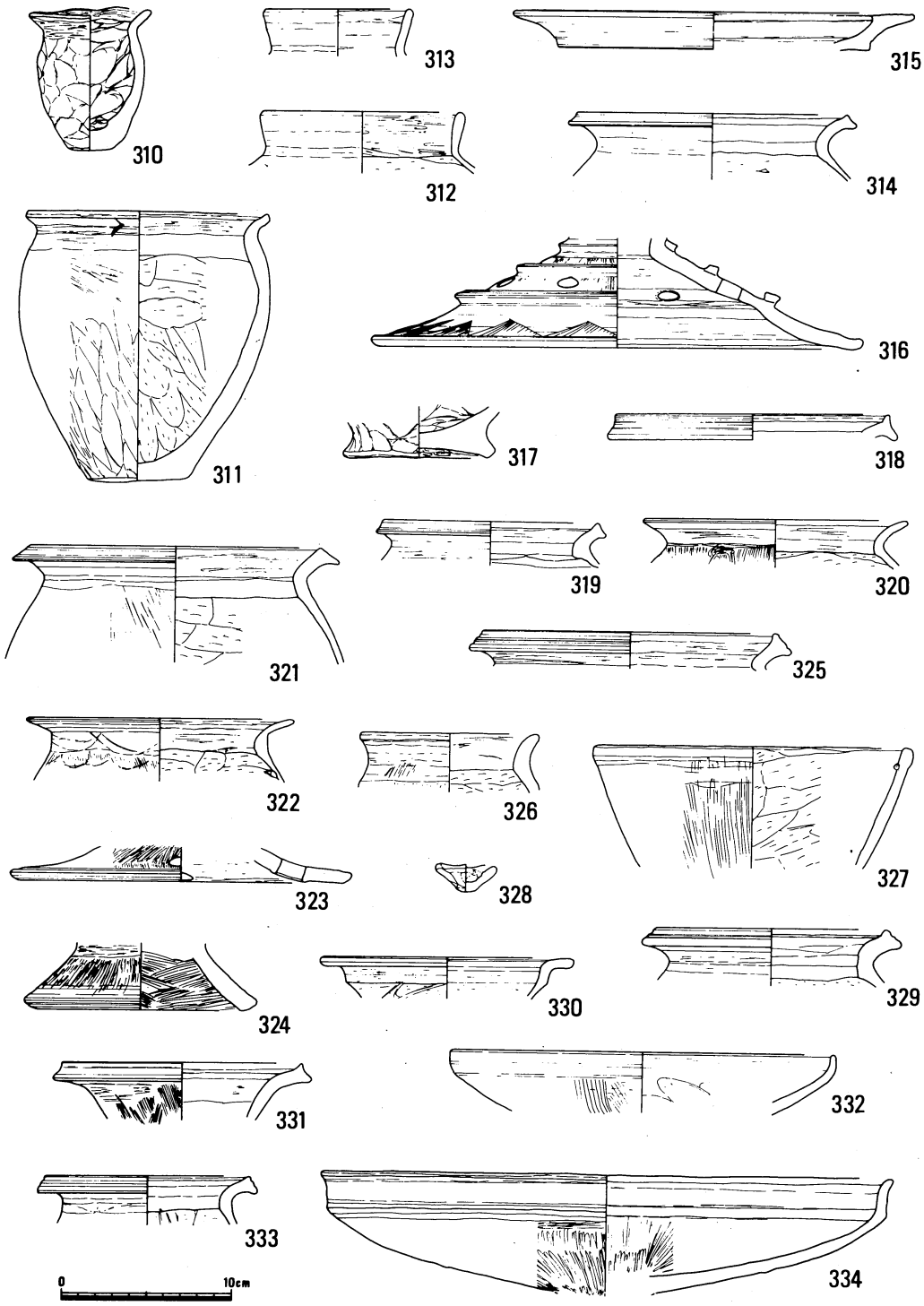
第65図　D22区溝－3出土遺物

その他の出土遺物（第67～69図、図版59－１、２）

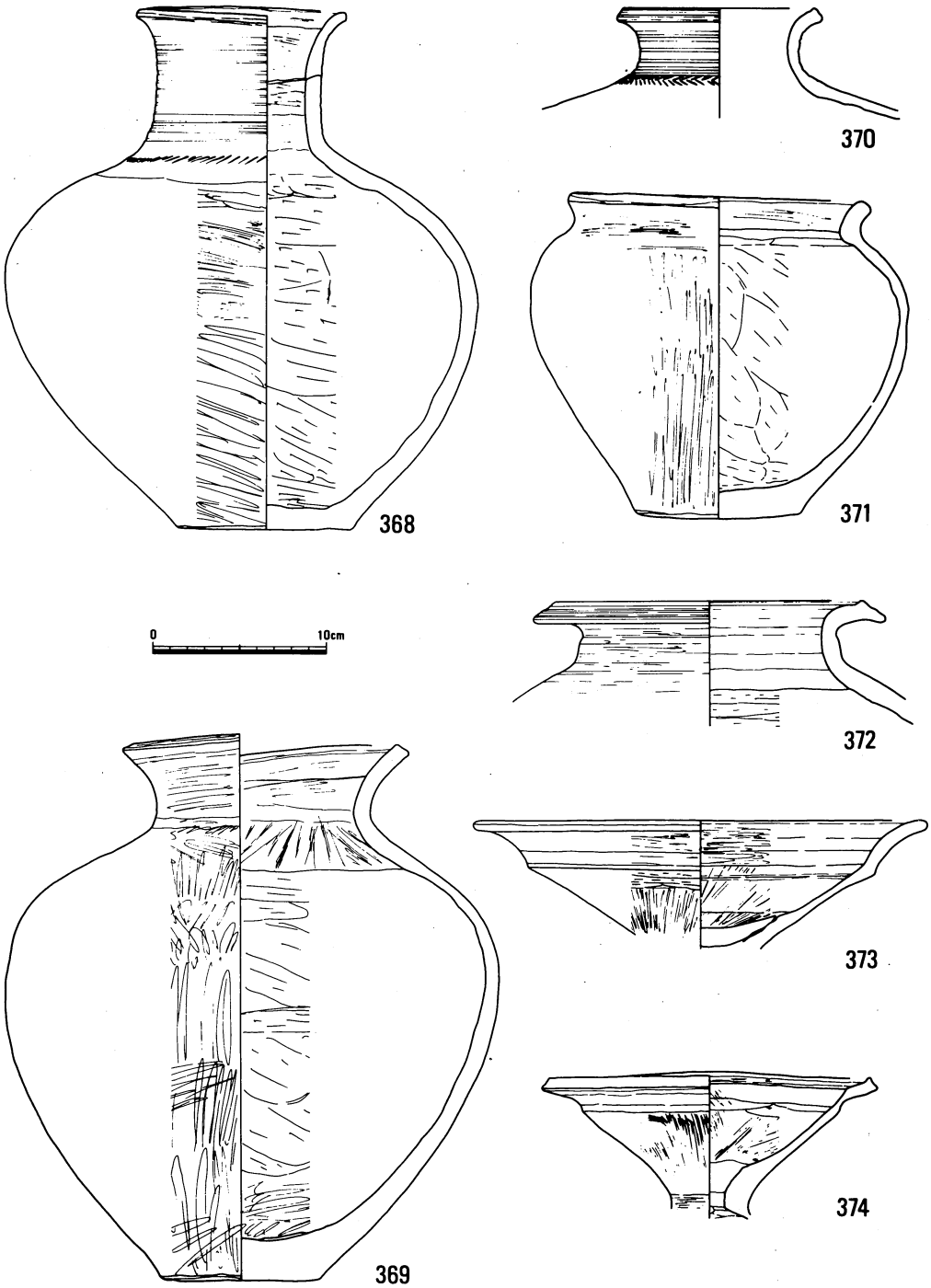
柱穴や小穴中からも遺物が出土している。ほかに遺構検出中に出土した遺物もある。P59はD22区の東西方向調査区域の中央部付近に位置し、調査北壁の断面に一部かかっている。柱穴状の遺構で、弥生土器がまとまって出土した。368～370・372は壺で、381は甕、335・336・373・374は高杯である。時期は百・後・Ⅱ（弥生時代後期中葉）に比定される。



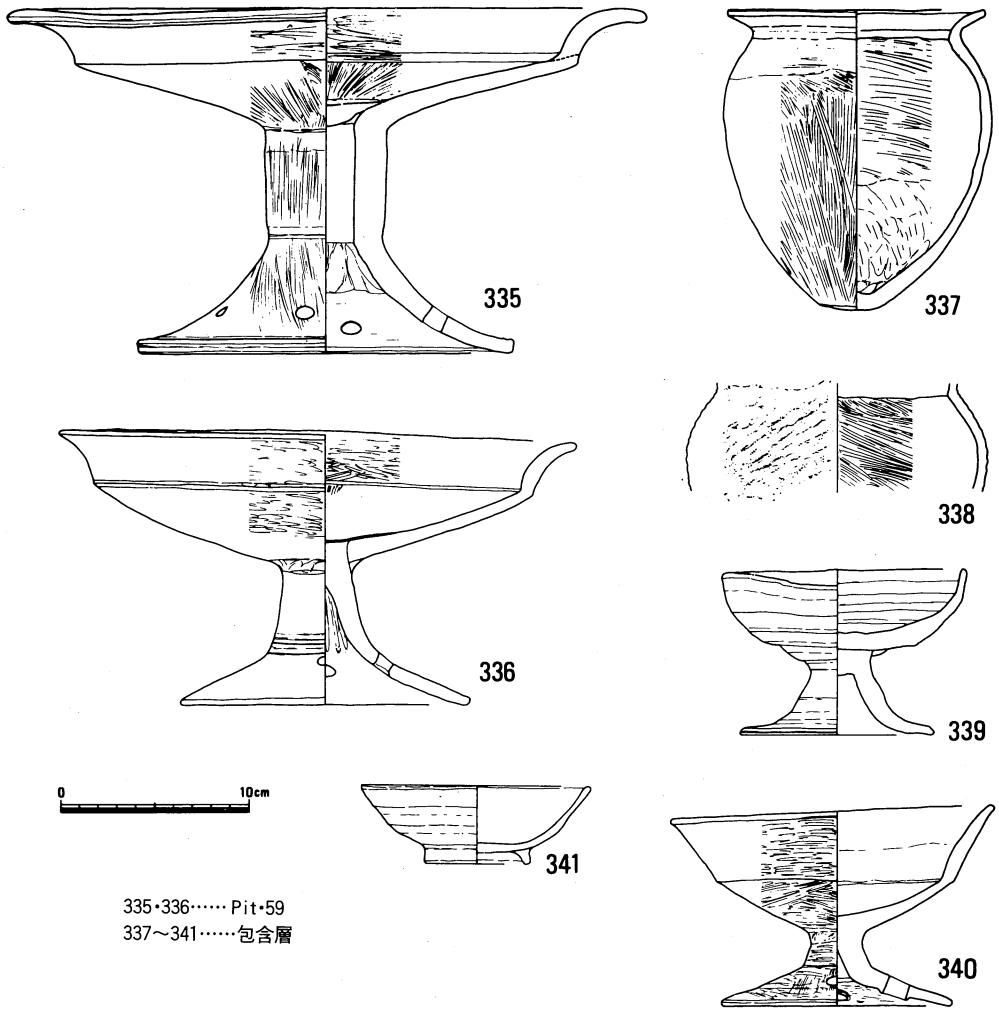
第66図　D22区土壙－１出土遺物



第67図　D22区柱穴出土遺物



第68図　D22区P－59出土遺物



第69図　D22区柱穴・包含層出土遺物

第67図は柱穴からの出土遺物で弥生時代後期の土器である。337～341は包含層中からの出土遺物である。337・338は弥生時代末～古墳時代初頭の甕、340は古墳時代初頭の高杯、339は7世紀頃の須恵器の高杯、341は中世の高台付椀である。

第５節　D13・D28区の調査

１．D13・D28区の概要（付図）

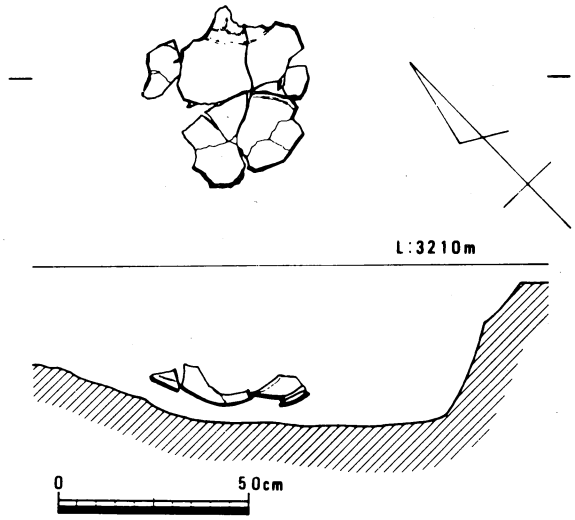
原遺跡の調査対象区域のなかでは北西端部に位置している。D13区は県道より北側約100ｍのところで、東西方向へ約80ｍの範囲である。D28区はD13区の東端部から北へ約130ｍの範囲である。遺構の密集する地域からははずれていて、溝と水田址を中心とする。D13区では少数の土壙、柱穴を伴っている。D28区の地形は北へ傾斜していて、南側の微高地から低位部への斜面に土器溜りがみられる。低位部は水田域となり、畦畔も検出された。

２．D13・D28区の遺構・遺物

溝－１（第70～72図、図版27－２・28－１、２・29－１、２）

D13区の東端部近くに位置する。北東から南西方向に走っている。大きさは幅1.3ｍ、深さ0.55ｍである。断面は皿状を呈し、緩やかに傾斜している。埋土中からは**147～161**の土器を出土している。第70図のように底部付近で壺の大型破片が出土した。器種には、壺、甕がある。**149**は壺の肩部片で、段があり、段より上に縦位の２本線が２組みられる。**150**には段はみられないが、横位の下方に格子文がある。以上の２点は弥生時代前期でも古段階にみられるものである。**154**・**156**の甕は、この壺に伴う可能性がある。

147は口縁部分を欠いているが、頸部から肩部へかけてヘラガキ沈線のまとまりが３段に施されている。**157**の甕のように、Ｌ字状に曲げられた口縁部下に多数のヘラガキ沈線を施すものがある。また、**153**の甕のように、断面三角形の突帯を貼り付けて口縁部としたものがある。これらの甕が**147**の壺に伴うと判断される。以上のことから、溝の埋没した時期は百・前・Ⅲ（弥生時代前葉後葉）に比定することができる。



第70図　D13区溝－１遺物出土状況（１／20）

溝－２（第71図）

溝－１の西側に位置している。北東から南西へ小さく蛇行しながら走る溝である。大きさは幅50～

60cm、深さ30cmの溝である。溝－1を切ってつくられているので、弥生時代前期より新しいことはわかるが、良好な遺物がなく、時期は不明である。

溝－3（第71図、図版30－1、2・31－1）

D13区の東半部は緩やかに蛇行しながら走る溝で、調査区域内で30mに及ぶ。大きさは、幅50～60cm、深さ55cmである。断面はU字形を呈している。溝－1と溝－2を切ってつくられていて、弥生時代前期より新しいことはわかるが良好な遺物がなく、時期は不明である。

溝－4

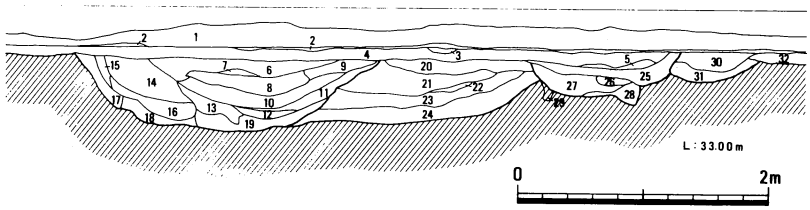
D13区の中央部に位置し、北西から南東へ走る溝である。大きさは、50～140cmである。溝－3によって切られている。埋土中に良好な遺物がなく、時期は不明である。

溝－5（第73図）

D13区の西端部に近いところに位置している。北東から南西方向へ走る溝で、大きさは幅20cmの小さなものである。付近には遺構がない。埋土中からは**162～169**の土器が出土している。**165**は口縁部上端から少し下がったところにキザミメのある突帯を貼り付けてあり、縄文晩期に属する。**162・169**は壺、**163・164・166～167**は甕・**168**は鉢である。以上の土器は百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に属し、溝－1と同じ時期である。したがって、溝－5の埋没した時期はこの時期に比定される。

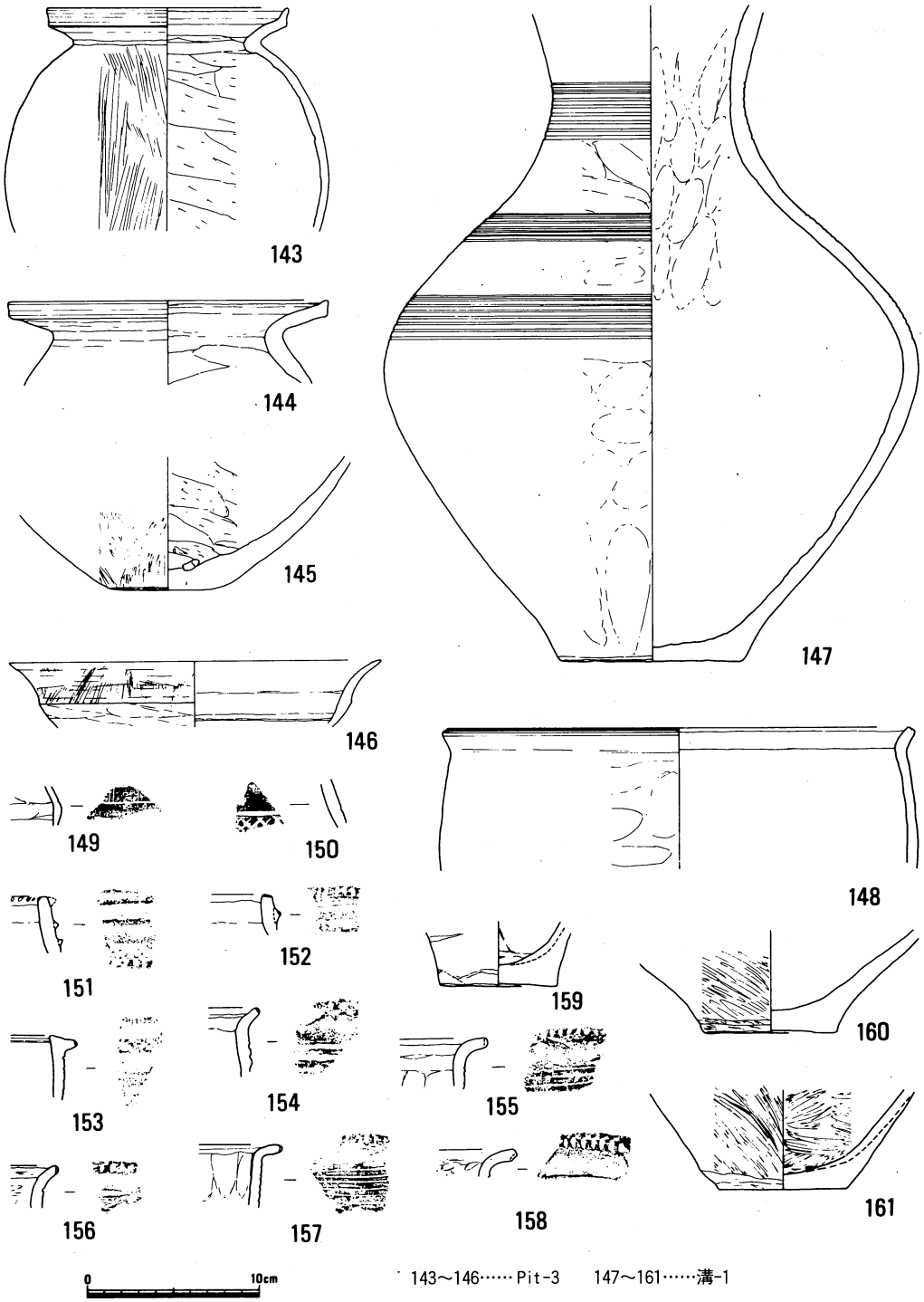
水田址（第74図、図版32－2・33－1、2）

D28区の南端から北へ18m付近から水田址が検出される。水田址から南側は少し高くなり、微高地に至る。下層では大きく2時期の水田址がある。最下層のものでは小さな畦畔を検出し



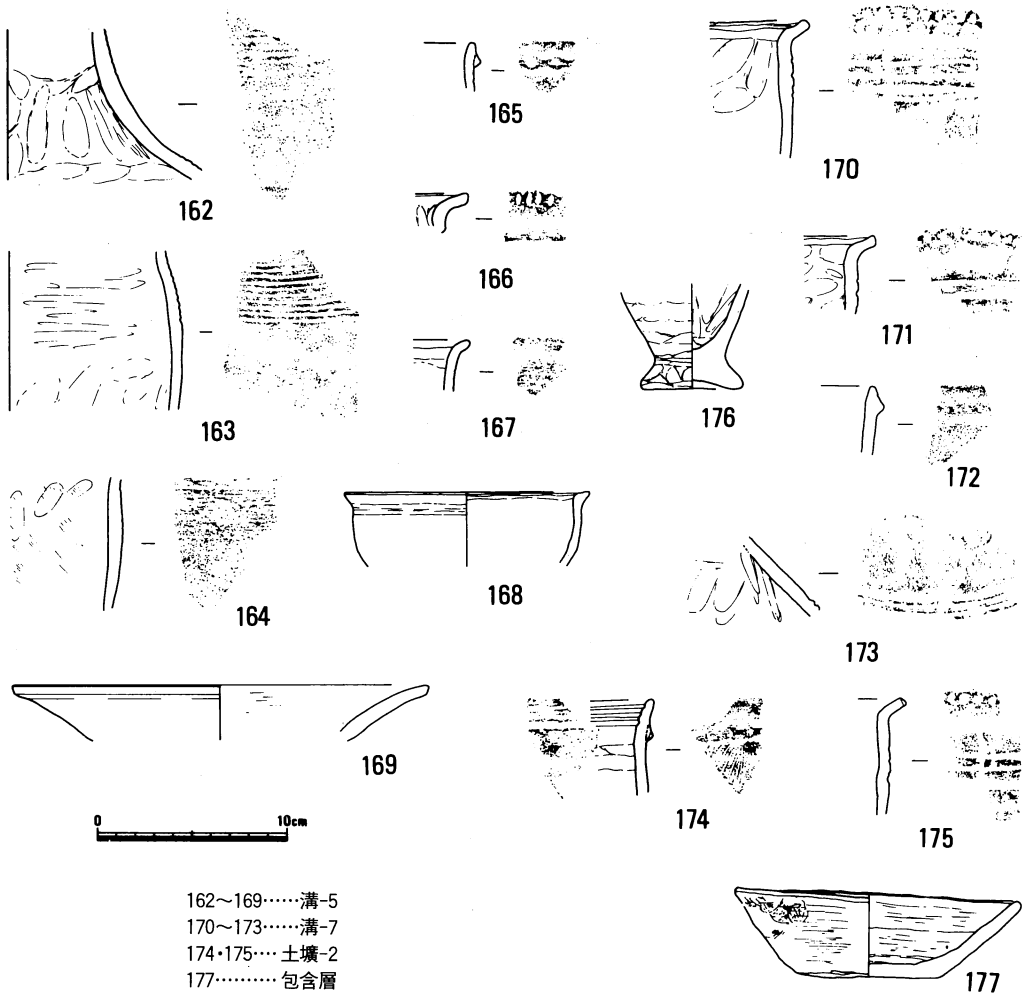
1．灰淡青白色（耕作土）
2．暗黄褐色
3．灰淡黄茶色
4．黒褐色暗灰白色（少）
5．淡黄灰茶色
6．暗灰白色黄茶褐色黒褐色
7．6と同色＋赤褐色（焼土）
8．暗灰茶褐色焼土塊含む
9．8と同色で焼土塊を含まず
10．9と同色で炭化物を含む
11．灰茶淡褐色
12．淡黄茶色灰淡茶色
13．淡黄色茶褐色
14．淡黄灰色暗茶色
15．淡黄灰茶色
16．黄淡褐色暗茶色
17．8と同色で焼土塊を含まず
18．淡黄茶色暗茶褐色
19．黄淡茶色暗茶褐色
20．淡黄灰茶色
21．灰黄淡褐色暗茶色
22．淡黄白色暗茶色
23．16と同じ
24．18と同じ
25．淡黄褐色灰淡茶色
26．灰茶淡褐色
27．灰淡黄茶色
28．黄淡褐色暗茶色
29．暗灰色黄褐色暗茶色
30．淡黄褐色茶淡褐色
31．黄褐色（暗）灰茶色
32．黒褐色暗灰白色（少）

第71図　D13区溝－1～3断面図（中央部南壁）（1／60）



143～146……Pit-3　147～161……溝-1

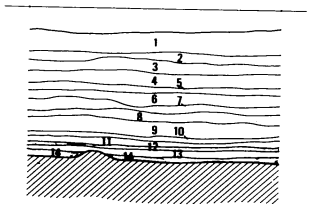
第72図　D13区P－3・溝－1出土遺物

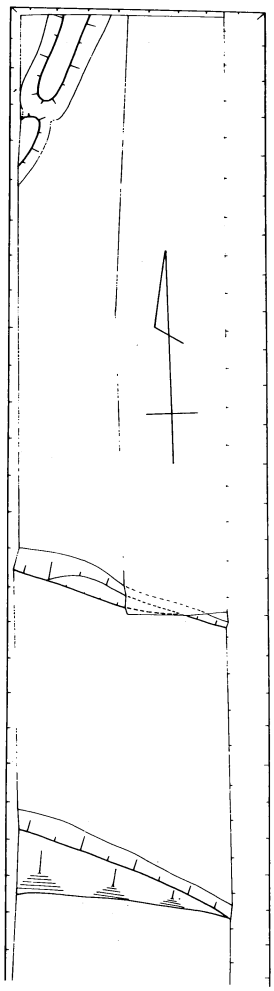


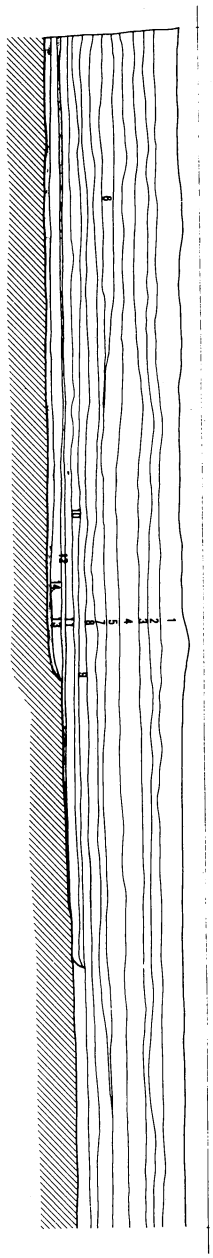
第73図　D13区溝・土壙・包含層出土遺物

た。下幅40cm、高さ約5cmである。検出された畦畔の一部は切れていて、水口と推定される。この水田の直上にはさらに南へ拡大した水田址がみられる。上層へ何層にも水田址を確認することができる。上部の水田址は中・近世の水田址であるが、下層の水田址の時期を考察するための資料として、第75図と第76図の土器がある。

最下層の水田層中から出土した土器が178～186である。百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定される土器である。187～189は水田址へ向かって下がる斜面部に堆積していた土器である。時期は百・後・Ⅲ（弥生時代後期後葉）に比定される。このことは、水田址の時期が弥生時代前期後葉より新しいことがわかる。弥生時代前期の土器は微高地上に多数あり、当然後の時期の遺構にも含まれる可能性がある。水田層の上面から良好な資料が得られていないため、水田

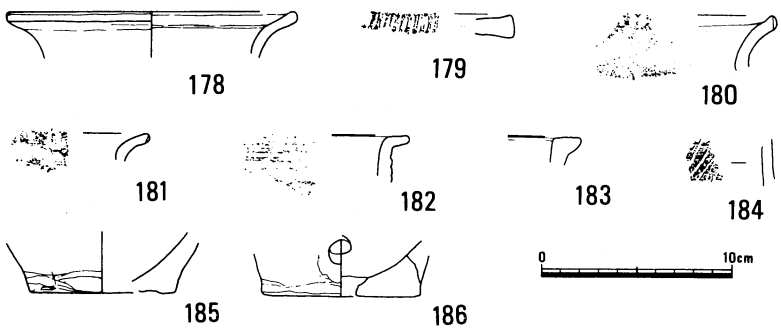




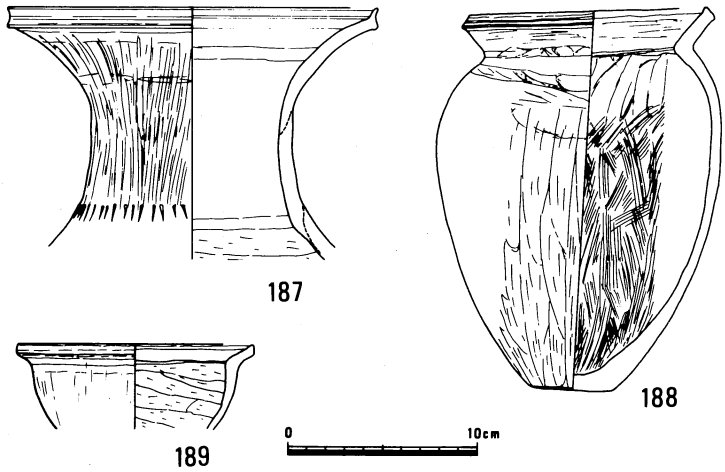


1．暗灰色(耕作土)
2．白黄暗茶色(山土)
　暗灰青色
3．暗灰青色(砂まじり)
4．暗灰淡青色(粘質)
　(若干の砂を含む)
5．暗灰淡青色 } 混じり
　灰白色
6．灰白淡青色
7．灰白淡青色 } 混じり
　黄淡茶色
8．白灰淡青色
　黄淡茶色
　暗灰青色(下部に含む)
9．黄茶色 } 混じり
　暗灰青色
10．暗(黒)茶灰青色
11．灰白色(粘)
　暗茶褐色
　(若干の砂を含む)
12．暗灰白色粘土
　暗茶褐色(Fe・Mn) } 水田層
13．暗茶褐色 } 混じり
　暗黄色
14．黒茶褐色(水田層)

第74図　D28区水田址平・断面図（1／60）



第75図　D28区水田層出土遺物



第76図　D28区土器溜り出土遺物

址の時期決定は難しいが、斜面堆積の土器が参考になると考えられる。断定することはできないが、弥生時代後期後葉に埋没した水田の可能性が高い。D13区で、弥生時代前期後葉の溝が検出されていることから、水田の開始がこの時期まで遡ると考えられる。

その他の遺物（第72・73図）

溝以外にも少数の穴があり、少量の土器を出土している。143～146は同じ穴から出土したもので、百・後・Ⅲ～Ⅳ（弥生時代後期後葉～末）に比定される。174・175も同じ穴から出土したものであるが、174は縄文時代晩期に比定され、175は弥生時代前期に比定される。177は上層から出土したものである。

第６節　D25区の調査

１．D25区の概要

県道の北側約50ｍ付近で、東西方向に約100ｍの調査区域である。遺構・遺物は少なく、溝３本と若干の柱穴が検出されただけである。溝はいずれも北西から南東へ走る。斜面からは縄文晩期の大型破片も出土している。時期は明確でないが全体として水田地域と判断される。

２．D26区の遺構・遺物

溝－１（第78図）

D25区の中央部への西寄りに位置し、北西から南東へ走る溝である。幅60㎝の小さな溝で、埋土中からは良好な遺物を出土していないので、時期は不明である。

溝－２（第78・79図）

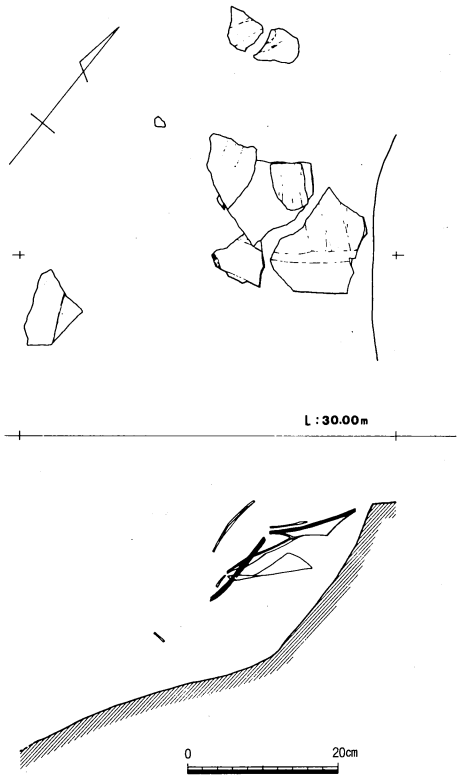
D25区の中央部の西寄りで、、溝－１の東側に位置し、北西から南東へ走る溝である。幅120㎝の小さな溝で、埋土中からは190～202の土器を出土している。弥生時代後期の土器片を含んでいるが、197・200は百・古・Ⅰ（古墳時代前葉）に比定されることからこの時期に埋没したものと判断される。

溝－３（第78・79図）

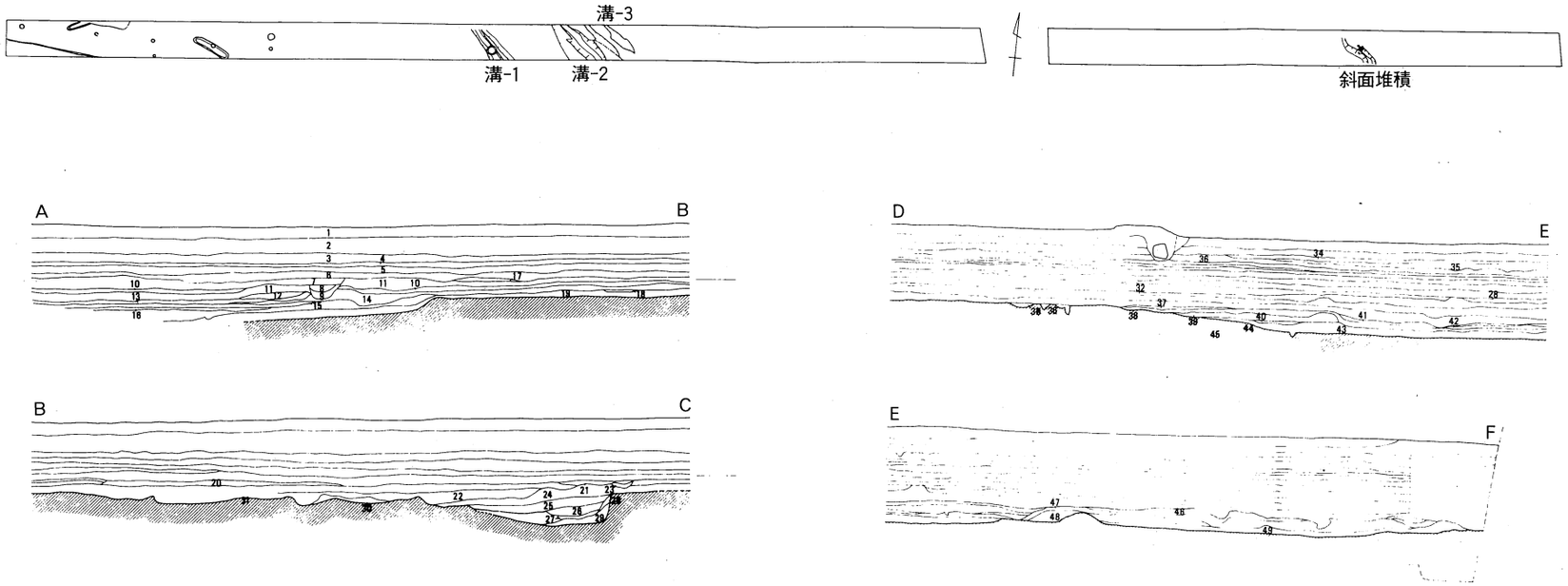
D25区の中央部の西寄りで、溝－１の東側に位置し、北西から南東へ走る溝で、溝－２と重複している。埋土中からは203～205の土器を出土している。これらの土器は百・古・Ⅰ（古墳時代前葉）に比定されるもので、この時期に埋没したものと判断される。

その他の遺物（第77・79図、図版38）

D25区の東部付近の斜面から縄文時代晩期の甕が出土した。口縁部にはキザミメを施し、船形の貼り付け文がある。

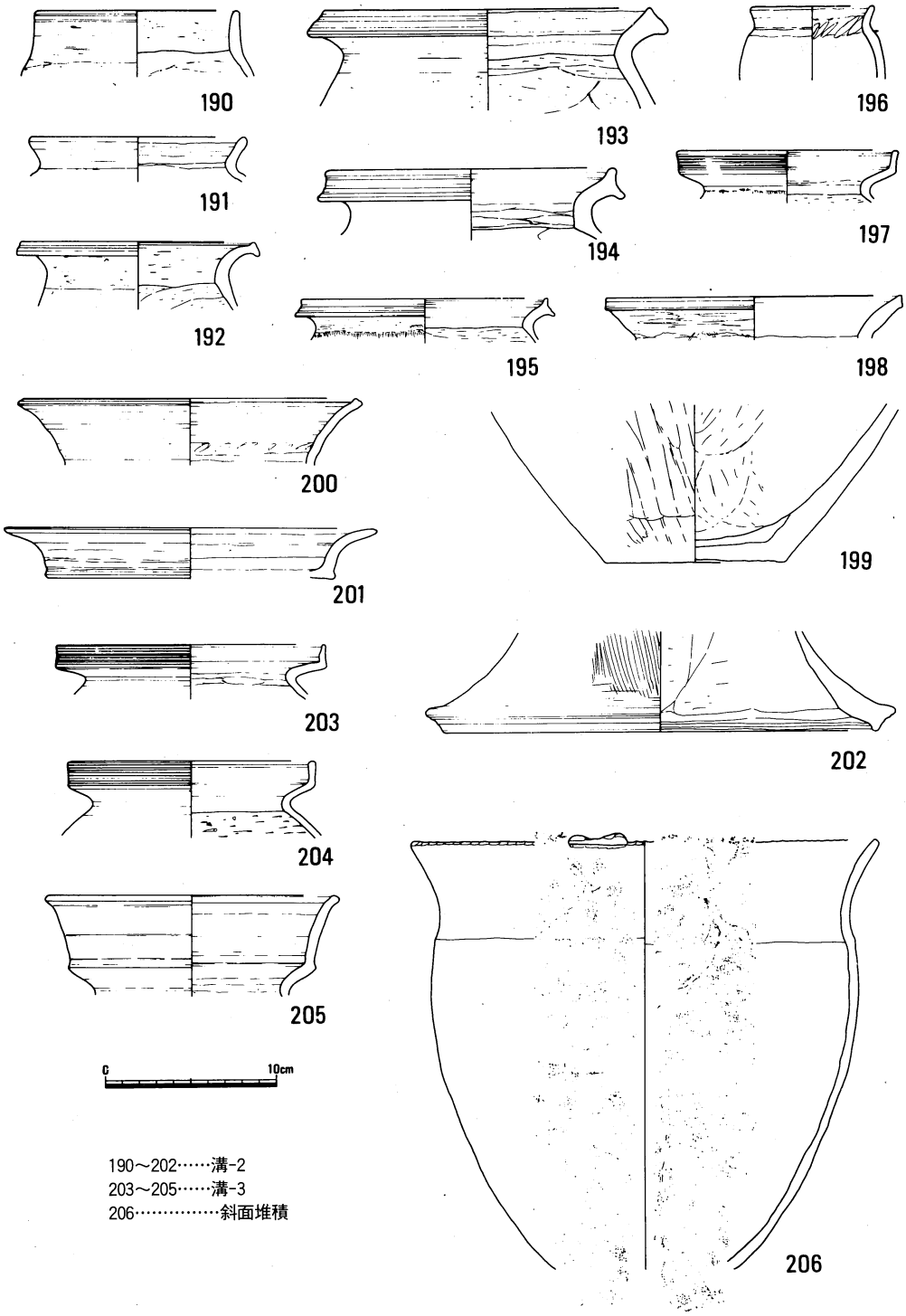


第77図　D25区縄文土器出土状況
平・断面図（１／20）



1．耕作土(黒灰茶色)
2．黒青灰色
3．暗緑灰白色
4．黒灰青色
5．黒灰色
6．黒青灰色
7．暗灰青色
8．黒灰茶(褐)色
9．黒青灰白色
10．黒灰色暗茶色
11．暗青灰白色黄茶褐色
12．暗灰色暗茶褐色
13．黒灰茶褐色(粘)
14．黒茶褐色黒灰色(若干)
15．暗灰茶褐色(粘)
16．黒茶褐色
17．黒灰色淡黄茶褐色
18．淡黄茶褐色
19．黒茶褐色
20．暗灰茶褐色
21．暗茶灰褐色
22．暗茶褐色
23．黒茶色
24．暗褐色
25．白灰淡黄茶色
26．灰黄白色
27．黒灰色(粘)淡黄灰色(粘)
28．灰淡黄白茶色
29．暗灰茶色(粘砂)
30．黒茶色黄茶褐色(少)
31．暗黄茶褐色
28．黒灰茶褐色
34．(淡)青灰色(砂)
35．淡青灰茶色(砂)
36．白灰茶色(砂)……(上層側)
36′．灰白色淡黄茶褐色……(下層側)
37．暗黄茶褐色(粘砂(多))
38．黒茶淡褐色(粘砂)
39．淡黄茶褐色(粘(少)砂(多))
40．黄暗茶色
41．黄茶色
42．黄暗茶色(粘砂)
43．黒茶褐色(砂)
44．黄茶褐色暗茶色
45．暗茶褐色(砂)
46．暗茶黒褐色(Fe・Mn)
47．灰暗茶色黄赤茶褐色
48．灰淡青色茶淡褐色
49．暗茶色淡黄緑色黒茶色

第78図　D25区遺構配置図（１／400）および東西土層断面図（１／80）



190～202……溝-2
203～205……溝-3
206……斜面堆積

第79図　D25区溝・斜面出土遺物

第７節　D20区の調査

１．D20区の概要

県道の北側約100ｍのところで県道と並行している。東西方向330ｍに及ぶ。東端部では北へ屈曲して60ｍのび、西端部でも南へ15ｍのびる。調査対象区域外では東北部に位置している。D20区の東西方向の調査区域からD26区、D27区が北へのびている。

調査区域の西寄りには、弥生時代中期前半から弥生時代後期の竪穴住居址、土壙、溝がある。土器片には弥生時代前期のものが含まれていることから古くから集落が形成された地域であることがわかる。１号住居址には小破片であるが弥生時代中期初頭の遺物を多く含み貴重な資料である。３号住居址はやや大型の竪穴住居址であるが、埋土中に多量の土器が検出された。弥生時代後期中葉の土器群で、御津町地域の標準資料となりうる資料である。

東寄りの地域は中世の建物、井戸、土壙、溝などがあり、新しい時代に集落となった地域である。北へのびる調査区は若干の溝と低位部である。

２．D20区の遺構・遺物

１号住居址（第80・81図、図版57－１～４）

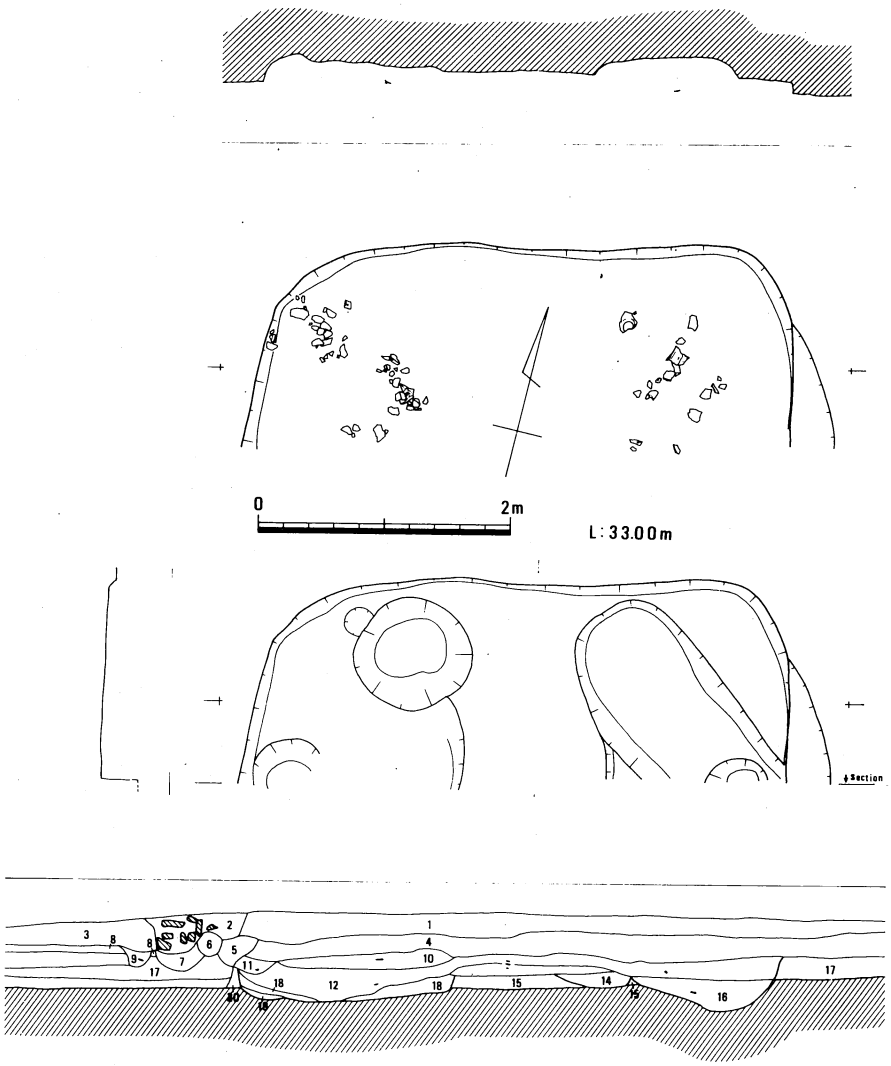
D20区東西調査区域の西方に位置する。住居址の北側部分を調査しただけで、南側の大部分は未調査区域となり、全容はわからない。平面形は隅丸方形を呈し、北壁はほぼ東西方向である。床面には浅い土壙状の凹みがみられるが、住居址に伴うと思われる柱穴は検出されていない。大きさは東西方向4.35ｍを測り、やや小型の竪穴住居址である。

床面付近からは土器片が出土した。器種は甕、蓋がある。壺についてはよくわからない。甕の口縁部には２種類あり、くの字状に折り曲げるものと逆Ｌ字形に折り曲げる（**345・346・351**）か断面三角形の突帯を貼り付けたもの（**343・344**）である。くの字形に折り曲げた口縁部の甕は胴部が少しふくらみ、上半部にクシガキ文が施されている（**347～350・356**）。他のものは多条のヘラガキ沈線文を施したものである。底部は平底で、中央部がわずかにあげ底になる。蓋（**355**）は小破片にすぎないが、甕の蓋である。他に、土製紡錘車（**357**）が１点出土している。大きさは径４㎝、厚さ0.6㎝で、中央に両面からあけた穴がある。

住居址の時期を決めるには床面から出土した土器片があるが、甕の口縁部が２種類みられた。口縁部直下の外面にヘラガキ沈線文を施したものは、百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定され、口縁部直下の外面にクシガキ文を施したものは、百・中・Ⅰ（弥生時代中期前葉）に比定される。他の土器片の検討も含めるとこの住居址の時期は百・中・Ⅰ（弥生時代中期前葉）に比定される。

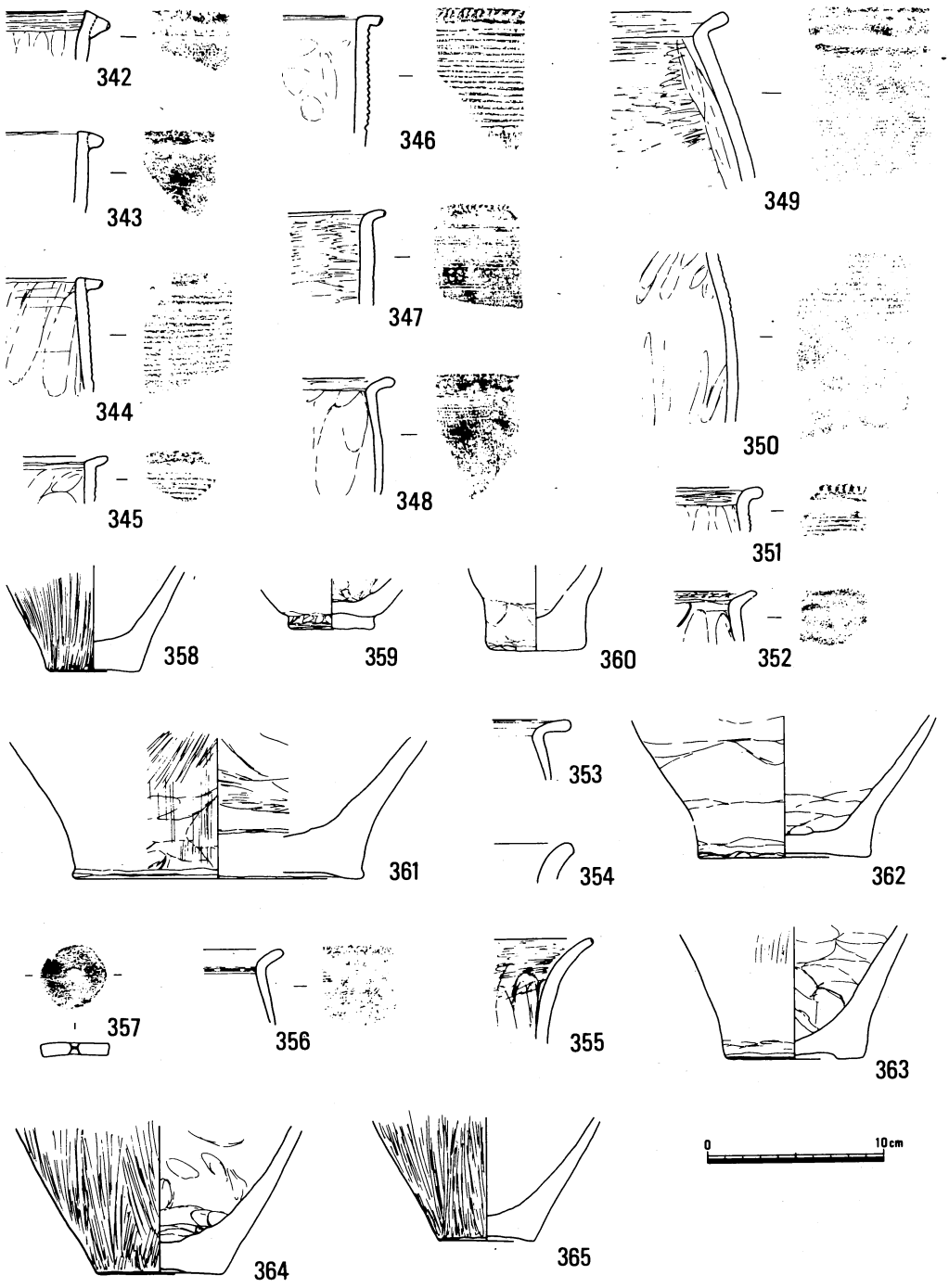
２号住居址（第82図、図版58－１、２・59－１）

D20区の東西方向調査区域の西部に位置し、１号住居址から50ｍ東にある。北へのびるD26区に接している。住居址部分は全掘されたので、全容を知ることができる。平面形は円形を呈



１．暗黄茶色
　暗灰色
　黒褐色
２．暗灰白色
　茶褐色
３．暗茶褐色
　暗灰色
４．暗黄茶褐色
　暗灰色
５．黒灰色
　黒褐色
６．黒灰色
　黒茶褐色
７．黒灰色
８．暗灰茶褐色
９．暗青灰色
　暗黄茶色
10．暗灰色
　黒茶褐色
　暗黄茶色
11．暗灰色
　黒褐色
12．暗灰色
　暗黄茶色
　黒茶褐色
13．黄暗茶色
　暗灰色
　暗褐色
14．黒灰色
　黒茶褐色
15．黄暗茶褐色
16．暗黄茶褐色
　灰淡青色
17．暗黄茶色
　灰淡青色
　暗茶褐色
18．暗黄茶褐色
　暗灰色
19．黄暗茶褐色
20．黒青灰色

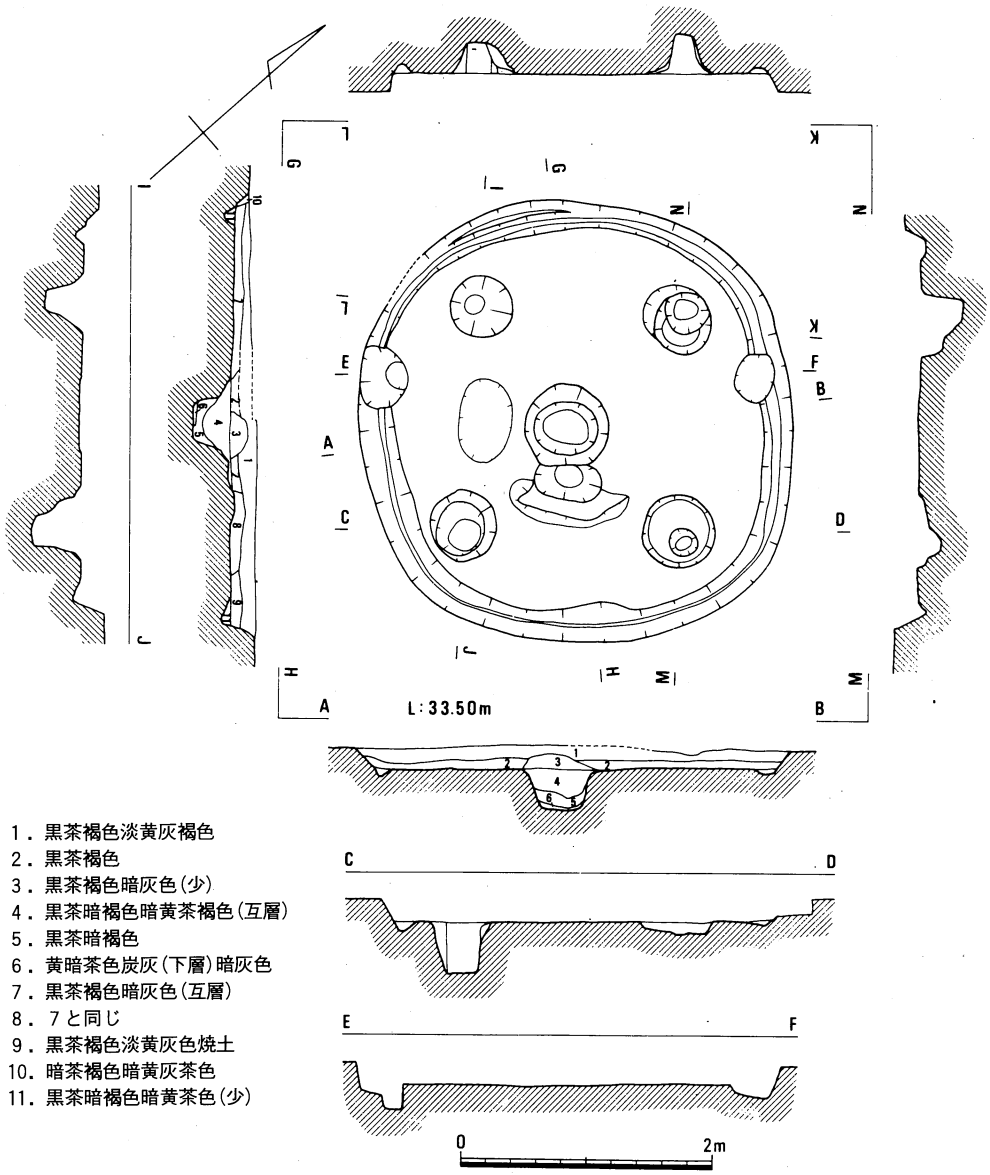
第80図　D20区１号住居址平・断面図（１／60）



第81図　D20区１号住居址出土遺物

し、主要な柱穴は４本で、中央部に円形の土壙がある。大きさは径3.45～3.55ｍである。壁体溝が全体にめぐっている。柱穴はほぼ方形に配置されていて、Ｐ１とＰ４を結ぶ線はN46°Wである。柱間はＰ１～Ｐ２が1.65ｍ、Ｐ２～Ｐ３が1.85ｍ、Ｐ３～Ｐ４が1.75ｍ、Ｐ１～Ｐ４が1.85ｍである。中央の土壙は径65㎝、深さ30㎝である。

時期は埋土中の出土遺物に良好なものがないため明確にすることはできないが、弥生時代後

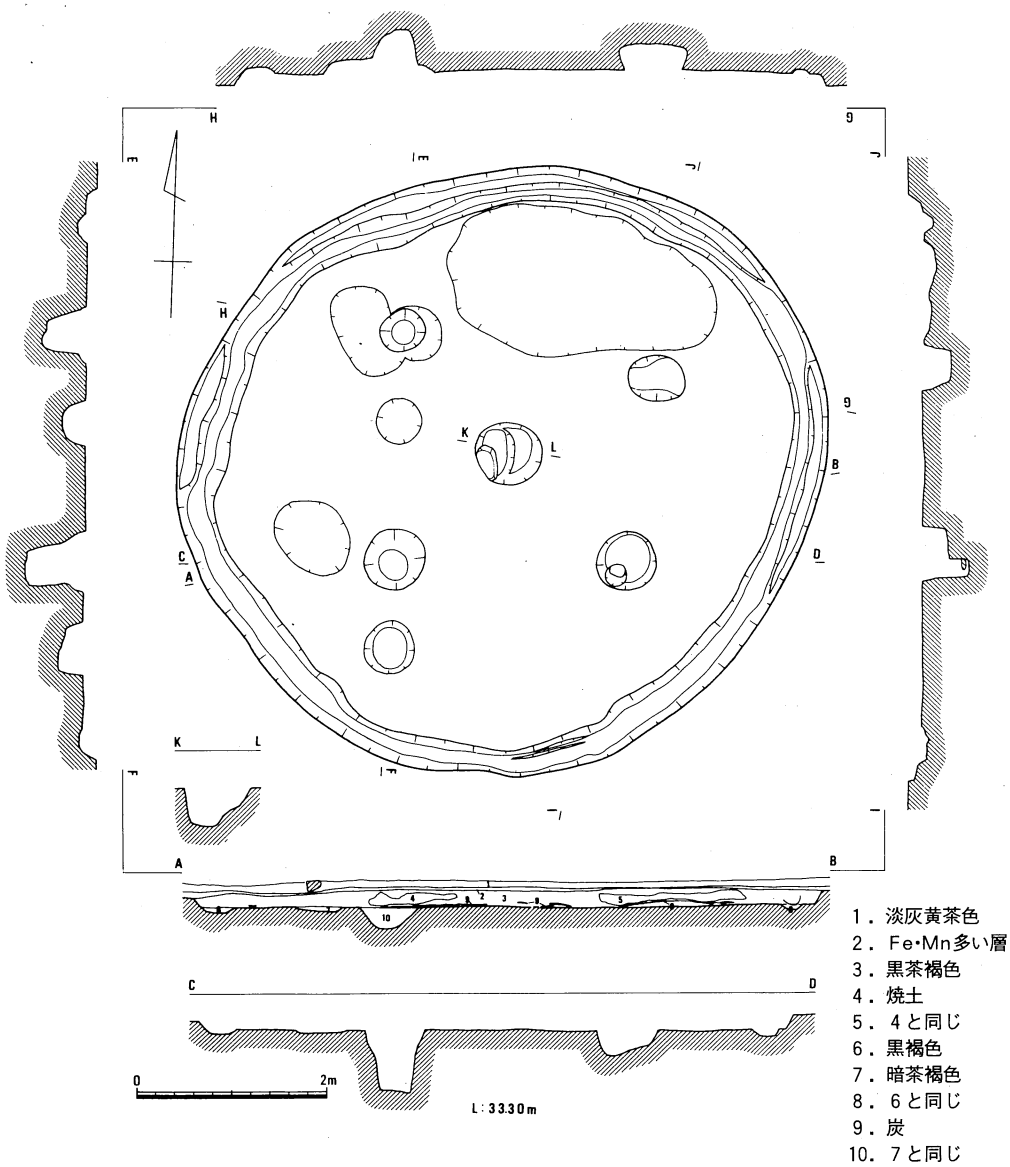


第82図　D20区２号住居址平・断面図（１／60）

期に属するものと推定される。

3号住居址（第83～99図、図版61・62）

D20区の東西方向調査区域の西部に位置し、2号住居址からは15m西にある。北へのびるD26区より少し西に寄った地点である。調査区域が北へ拡幅されたことから住居址の全容を知ることができる。平面形は少しいびつであるが、円形を呈している。壁体溝は2本確認されていることから1回の建て替えが行われたことがわかる。最終床面からは多量の土器が出土したこ

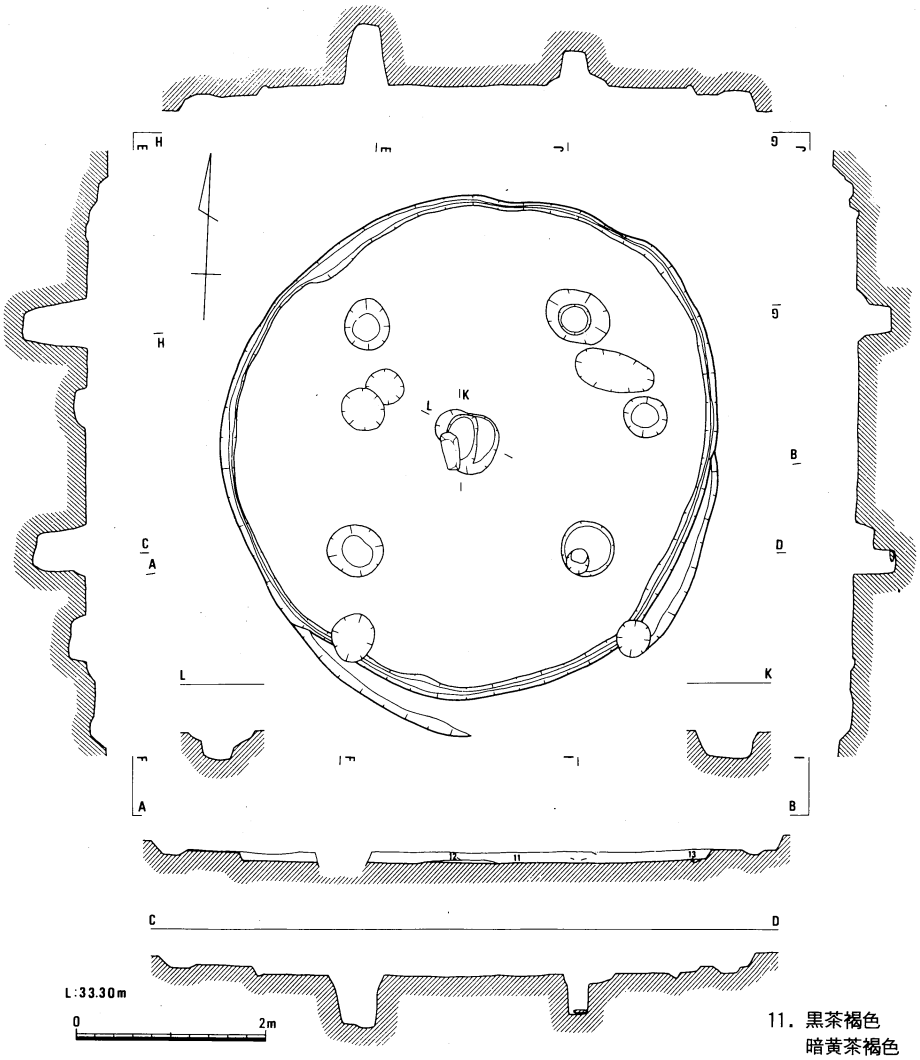


第83図　D20区3号住居址平・断面図（1／80）

とから特に注目される住居址である。

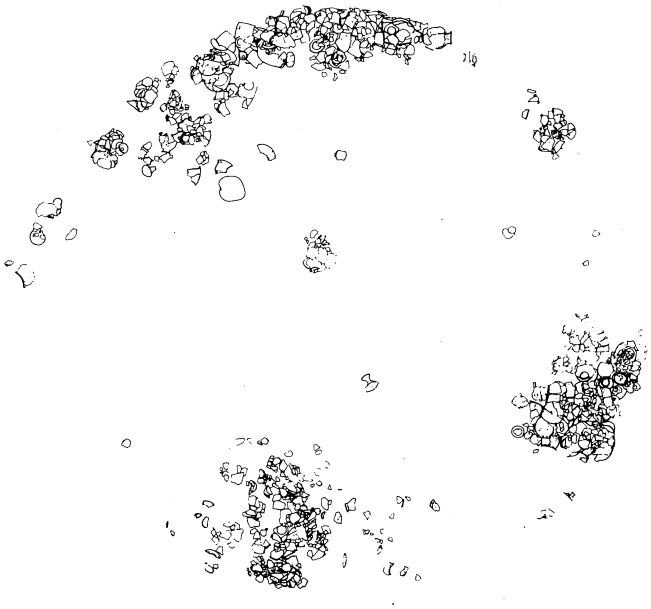
住居址の大きさは東西７ｍ、南北6.4ｍである。当初の住居址の大きさは東西5.4ｍ、南北5.2ｍである。いずれも主要な柱穴は４本で、中央に土壙がある。最終面で柱間を測るとＰ１～Ｐ２が2.72ｍ、Ｐ２～Ｐ３が2.1ｍ、Ｐ３～Ｐ４が2.4ｍ，Ｐ１～Ｐ４が2.5ｍである。Ｐ１とＰ４を結ぶ線はほぼ南北である。中央の土壙は円形で、径60㎝、深さ40㎝である。

最終床面では多量の土器が出土した。これらは北部、北西部、南西部、南部に分かれて集中している。ほとんどの土器は床面付近にあり、完形のものが潰れた状況で検出されている。こ



11．黒茶褐色
　　暗黄茶褐色
12．黄色黄暗茶褐色
13．６と同じ

第84図　D20区３号住居址（上）平・断面図（１／80）



第85図　D20区３号住居址内遺物出土状況（１／80）

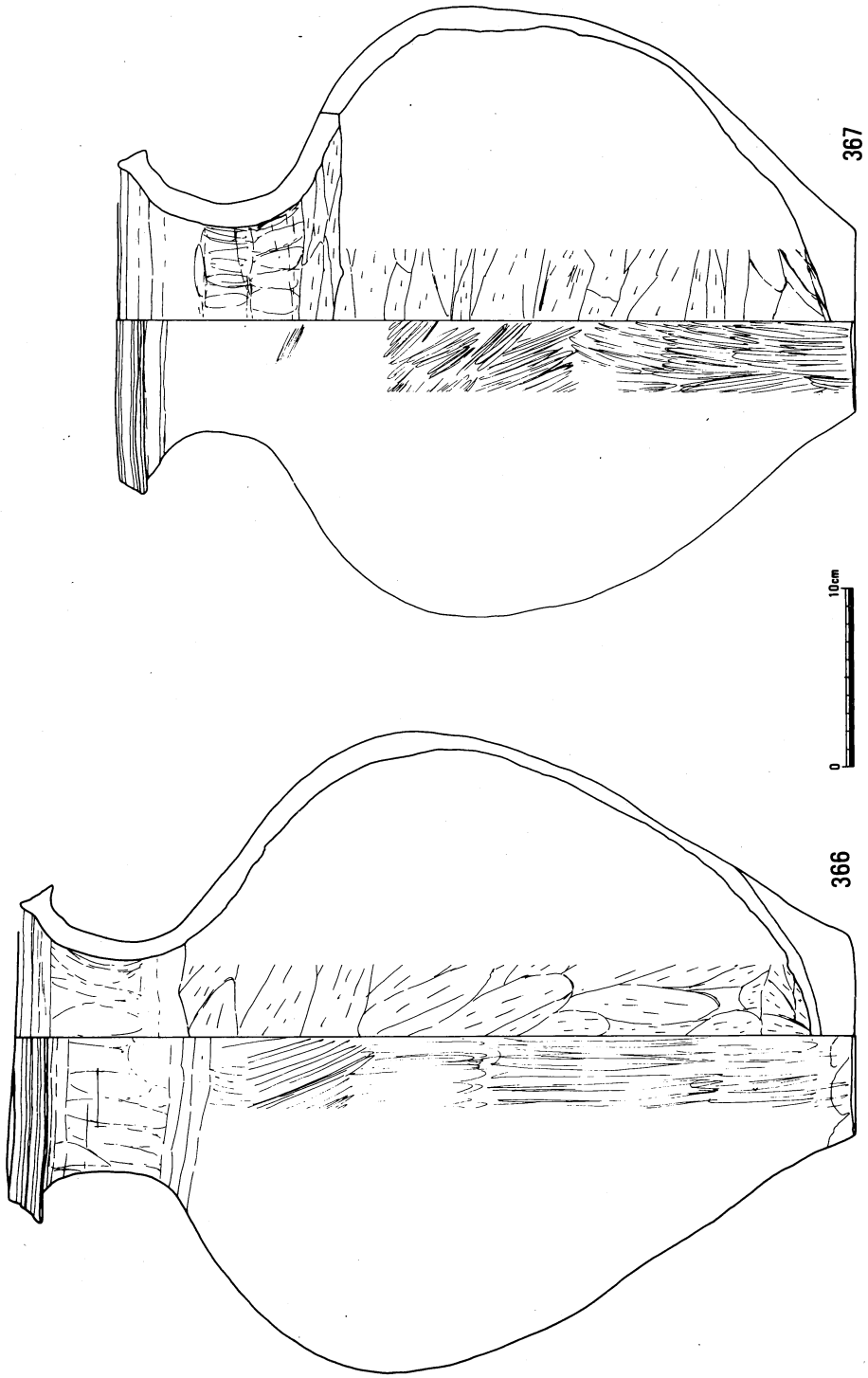
のことから床面が埋没しない状態で投棄されたと考えることも不可能ではないが、検出された状況は多量の土器が住居内に置かれた状況のままで、何らかの都合で放棄されたと考えることができる。各土器群を観察すると特に一定の器種が集中するという傾向はみられない。

床面から石器が１点検出されている（第113図１、図版61－８）が、この時期に伴うものかの判断は難しい。

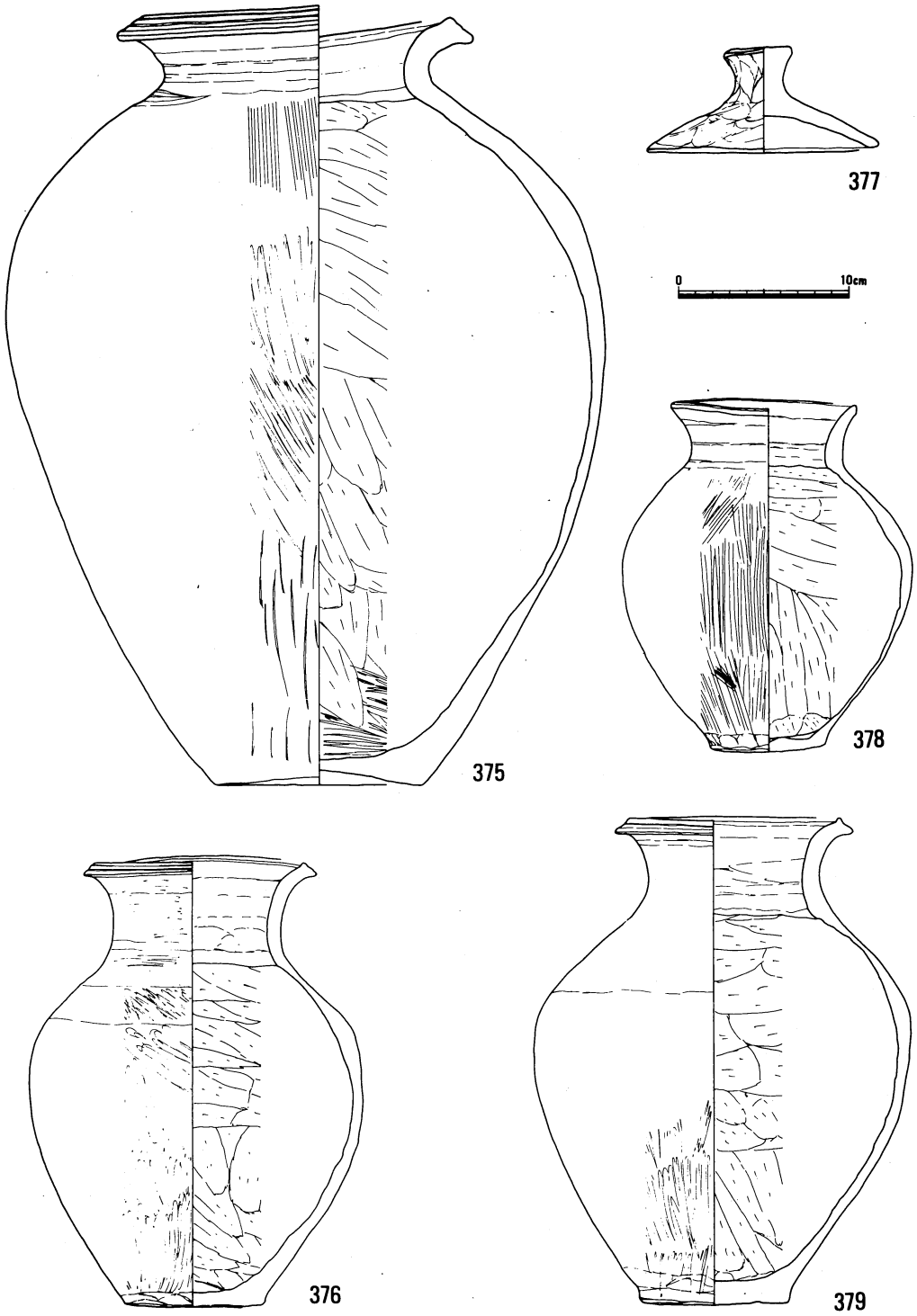
多量に出土した土器についてみてみよう。第86図～第98図までの78個体を図化することができた。いずれもほぼ完形に復元されたものである。

壺には、366・367・376・379のように口縁部が朝顔形に大きく開き、端部は肥厚して擬凹線文を施すものと、378・382・384のように口縁部が小さく広がり、端部は丸くなるものがある。いずれも内面は頸部直下までヘラケヅリが施されている。胴の肩部は張り、底部は緩やかにすぼまって、平底を呈する。

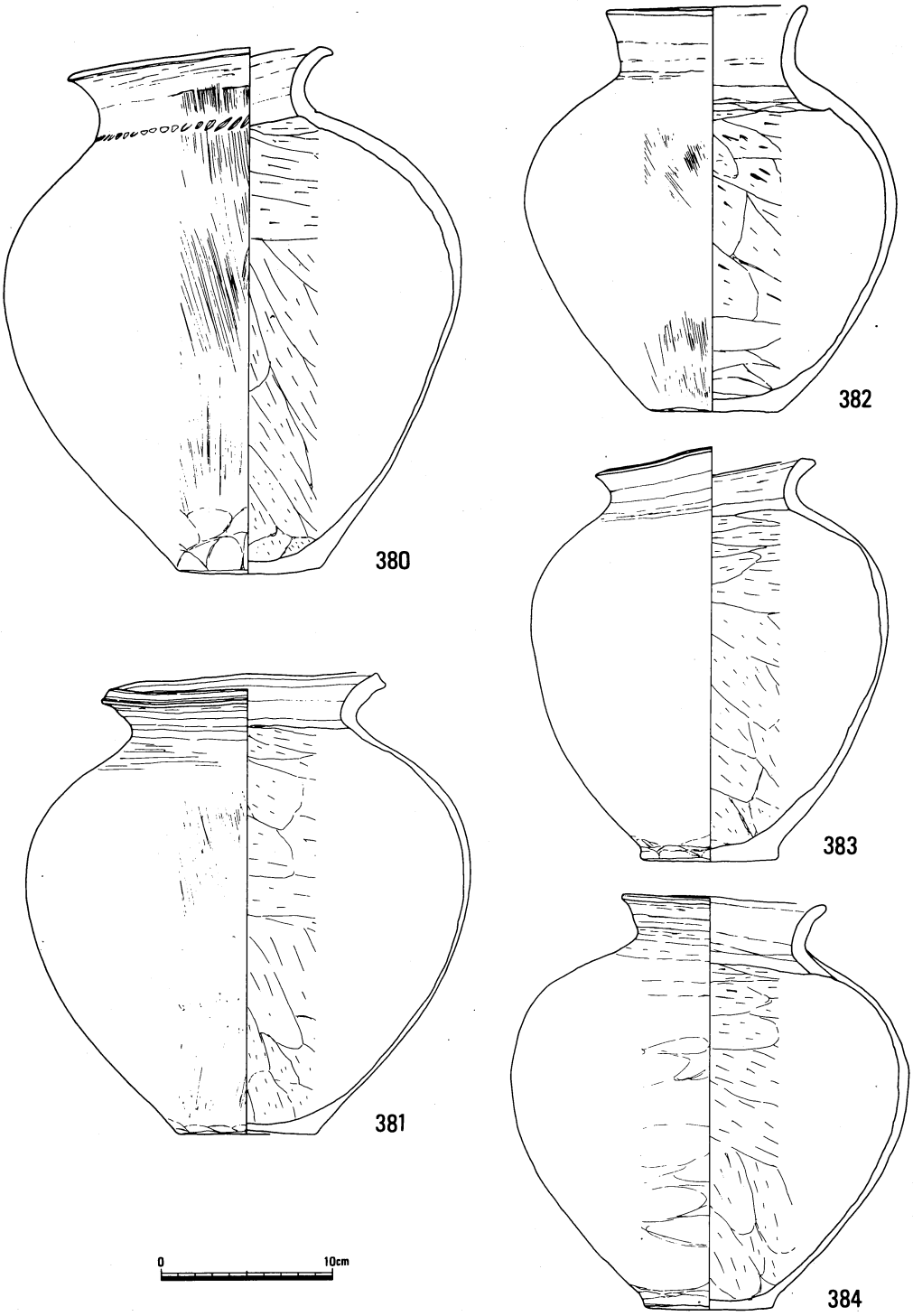
甕には頸部が小さくなって壺に類似するものも少しみられるが、375・385～405・410のように口縁部が短かく外反し、端部は肥厚する。一部には口縁部外面に擬凹線を施すものもある。内面はいずれも頸部直下までヘラケヅリが施されている。底部は平底を呈するのがほとんどであるが、一部に少しあげ底になるものがある。408・413～420は小型の甕で、口縁端部が肥厚



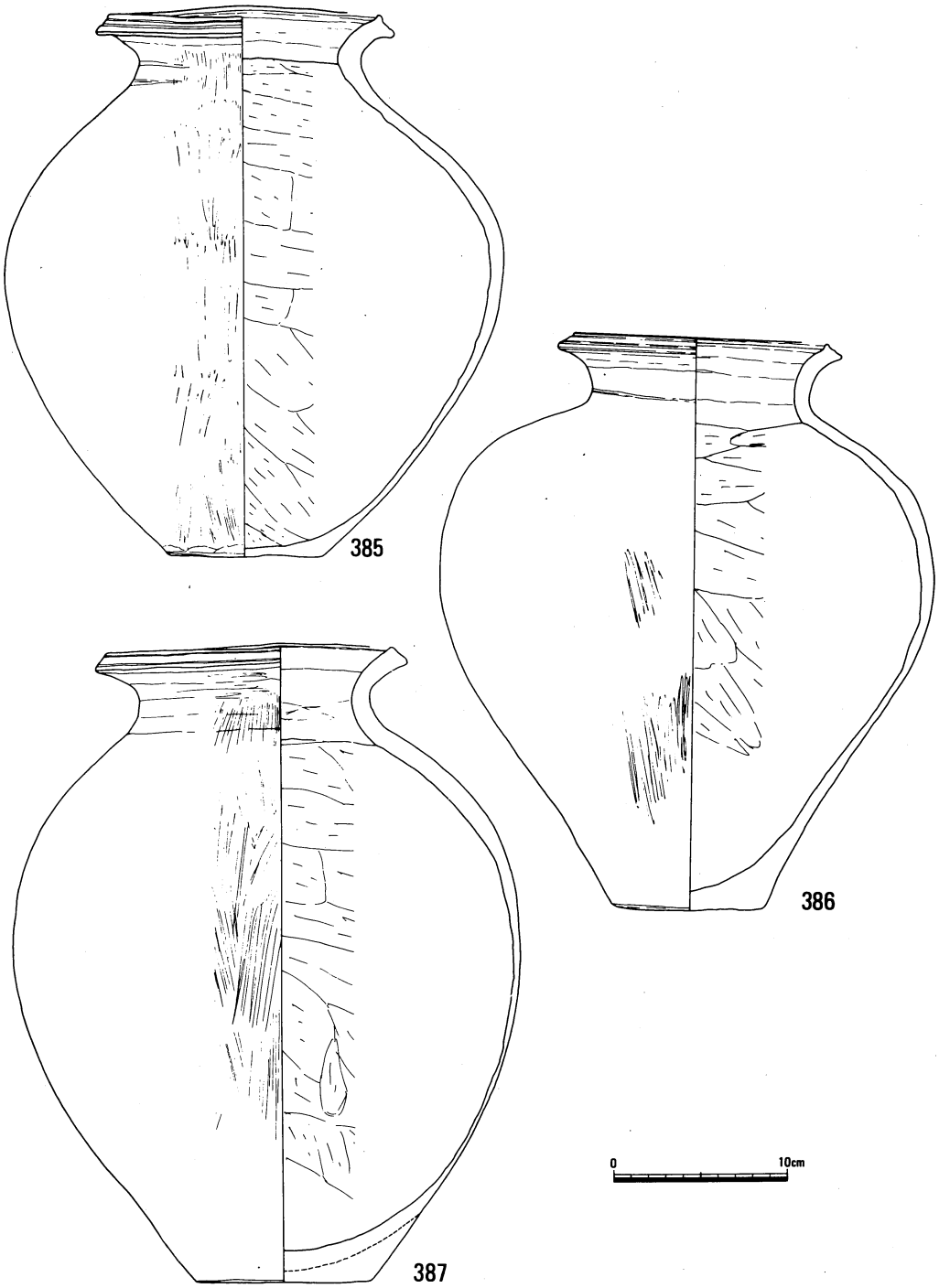
第86図　D20区３号住居址出土遺物(1)



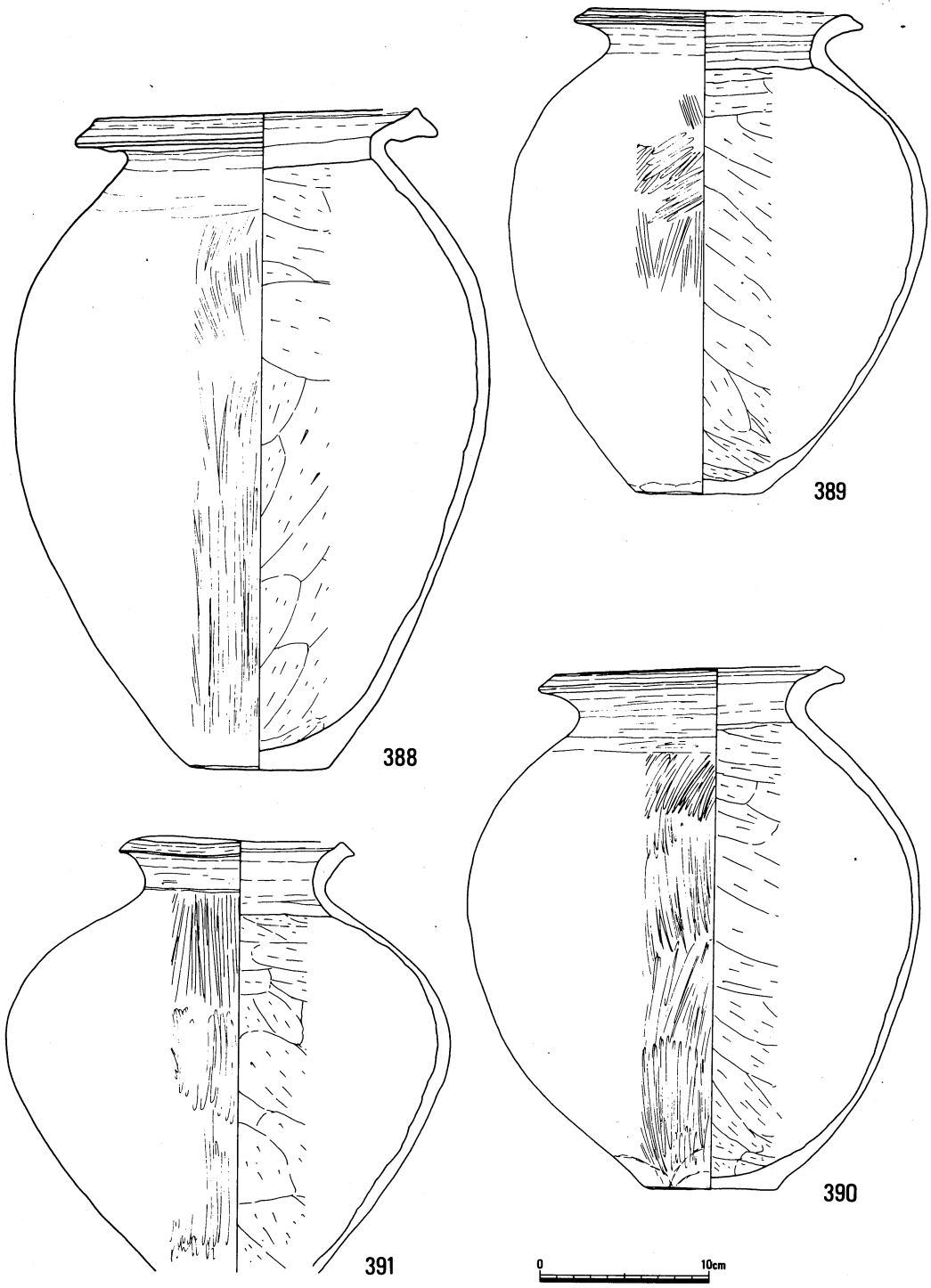
第87図　D20区３号住居址出土遺物(2)



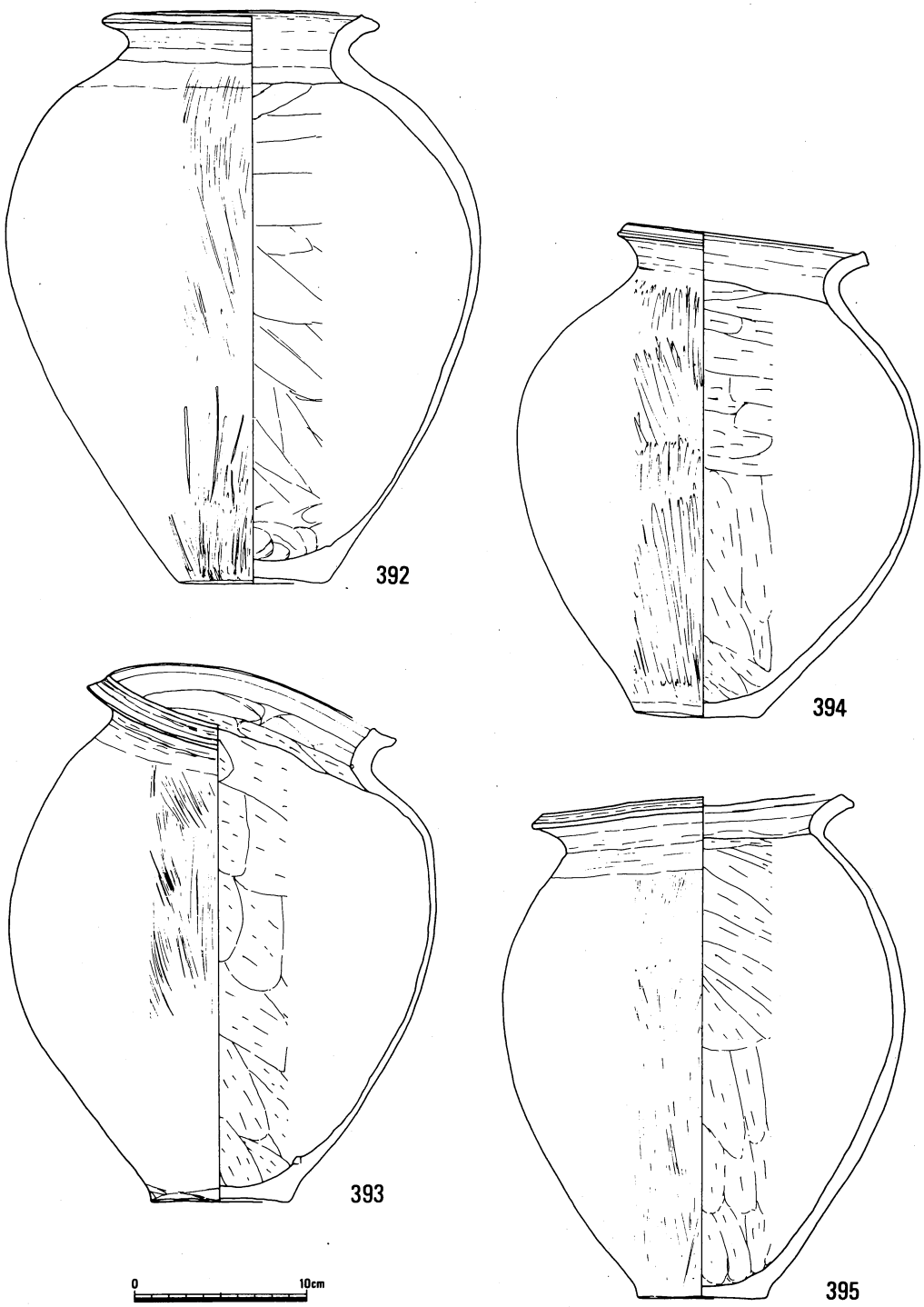
第88図　D20区3号住居址出土遺物(3)



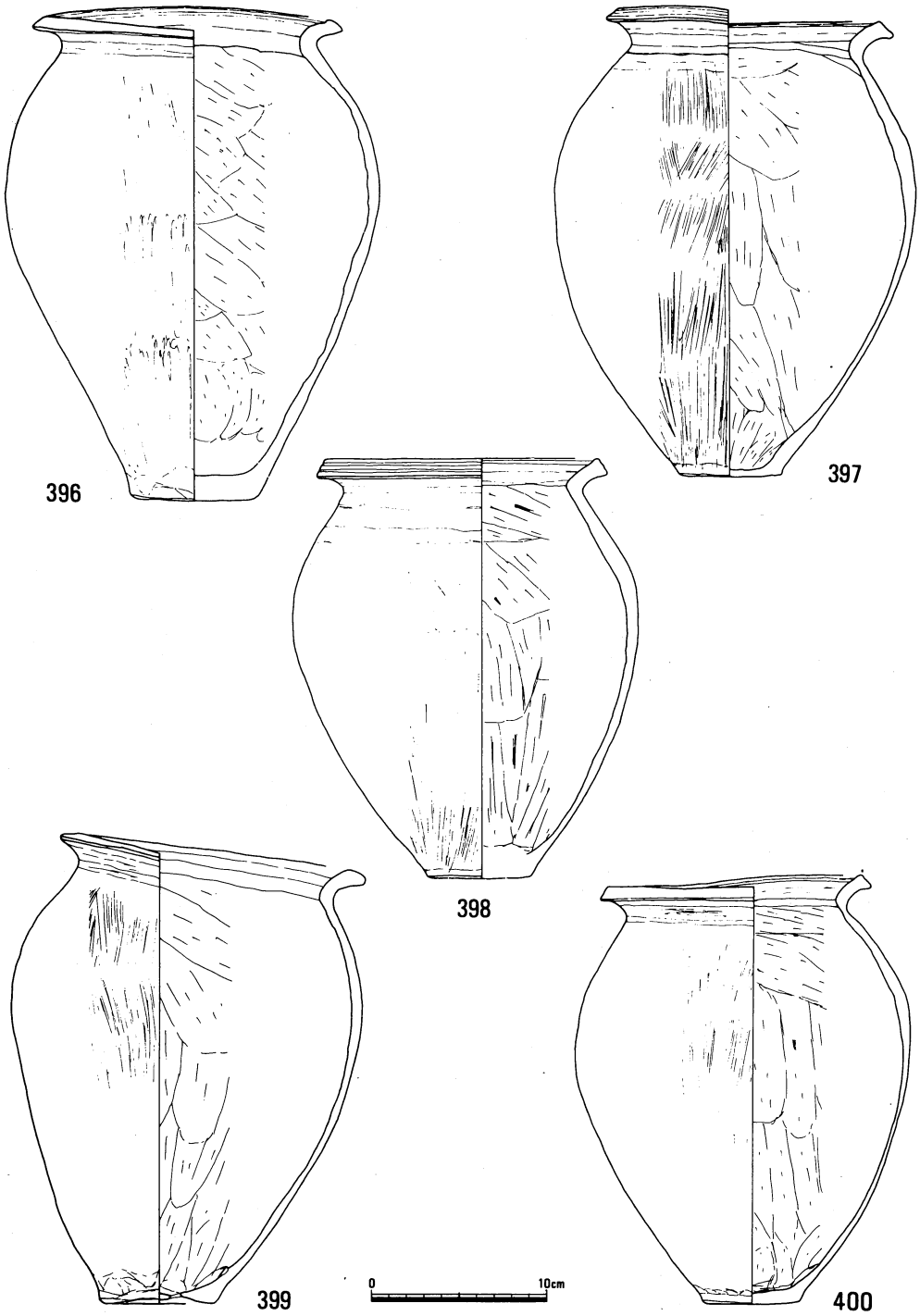
第89図　D20区 3 号住居址出土遺物(4)



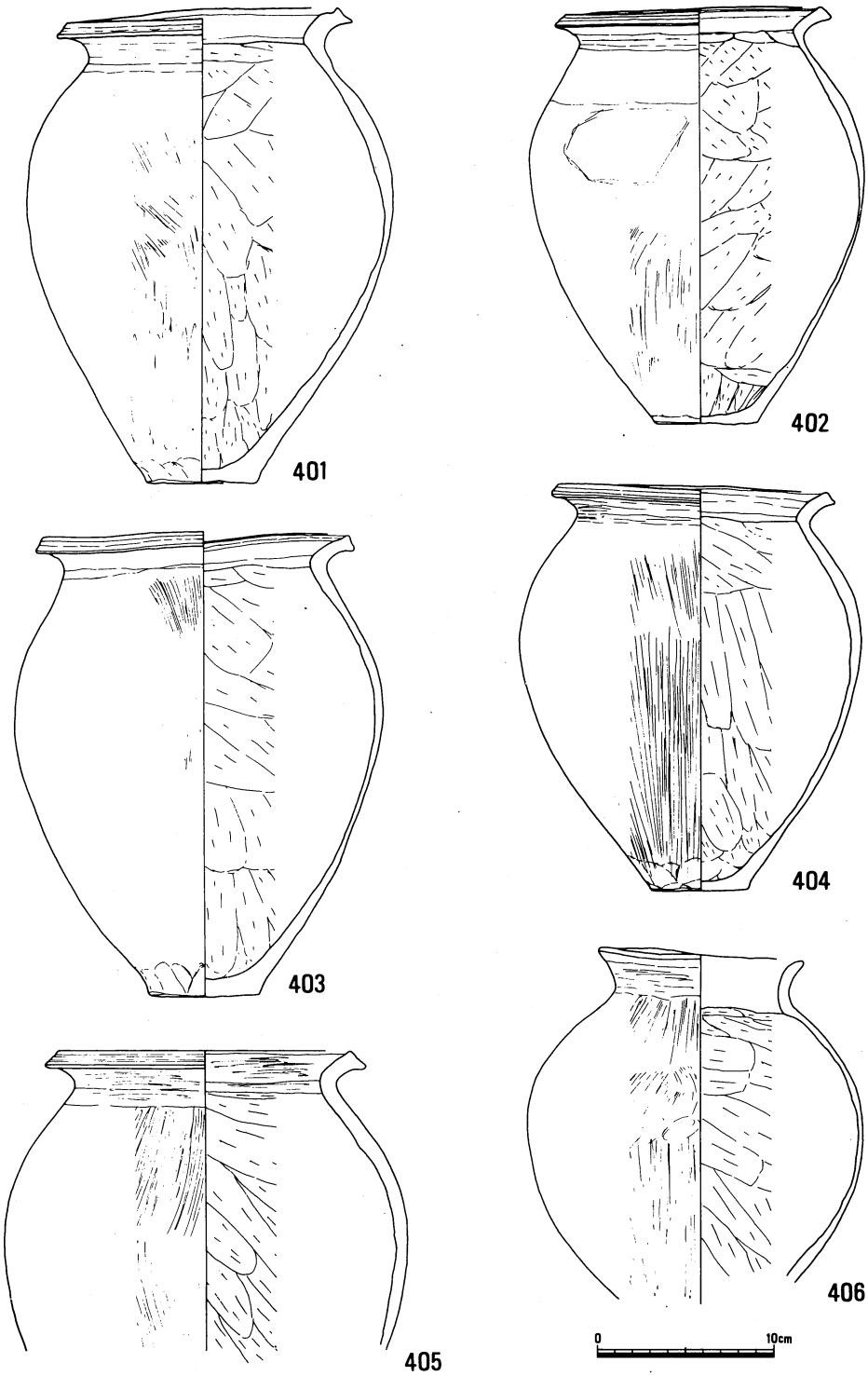
第90図　Ｄ20区３号住居址出土遺物(5)



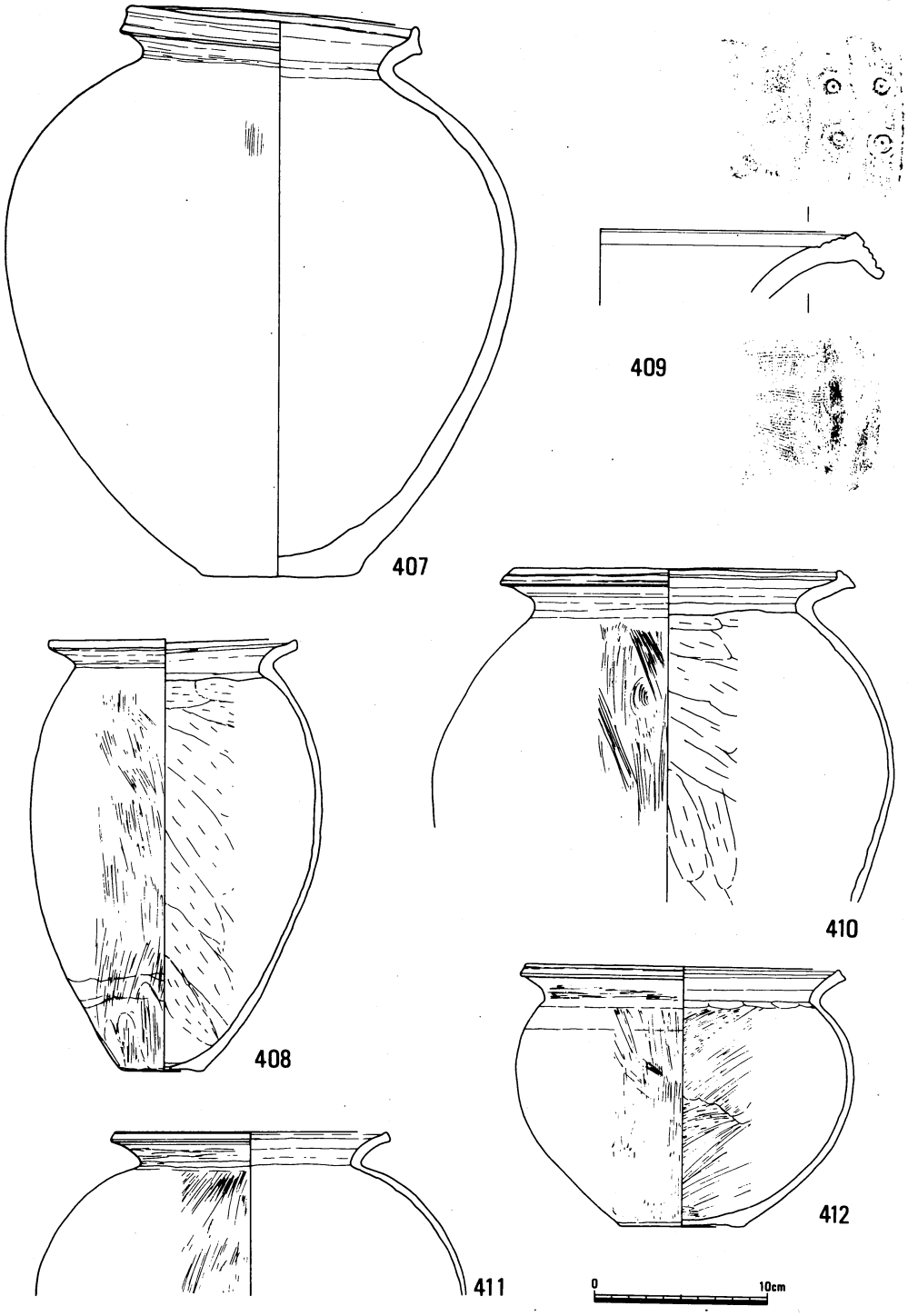
第91図　D20区３号住居址出土遺物(6)



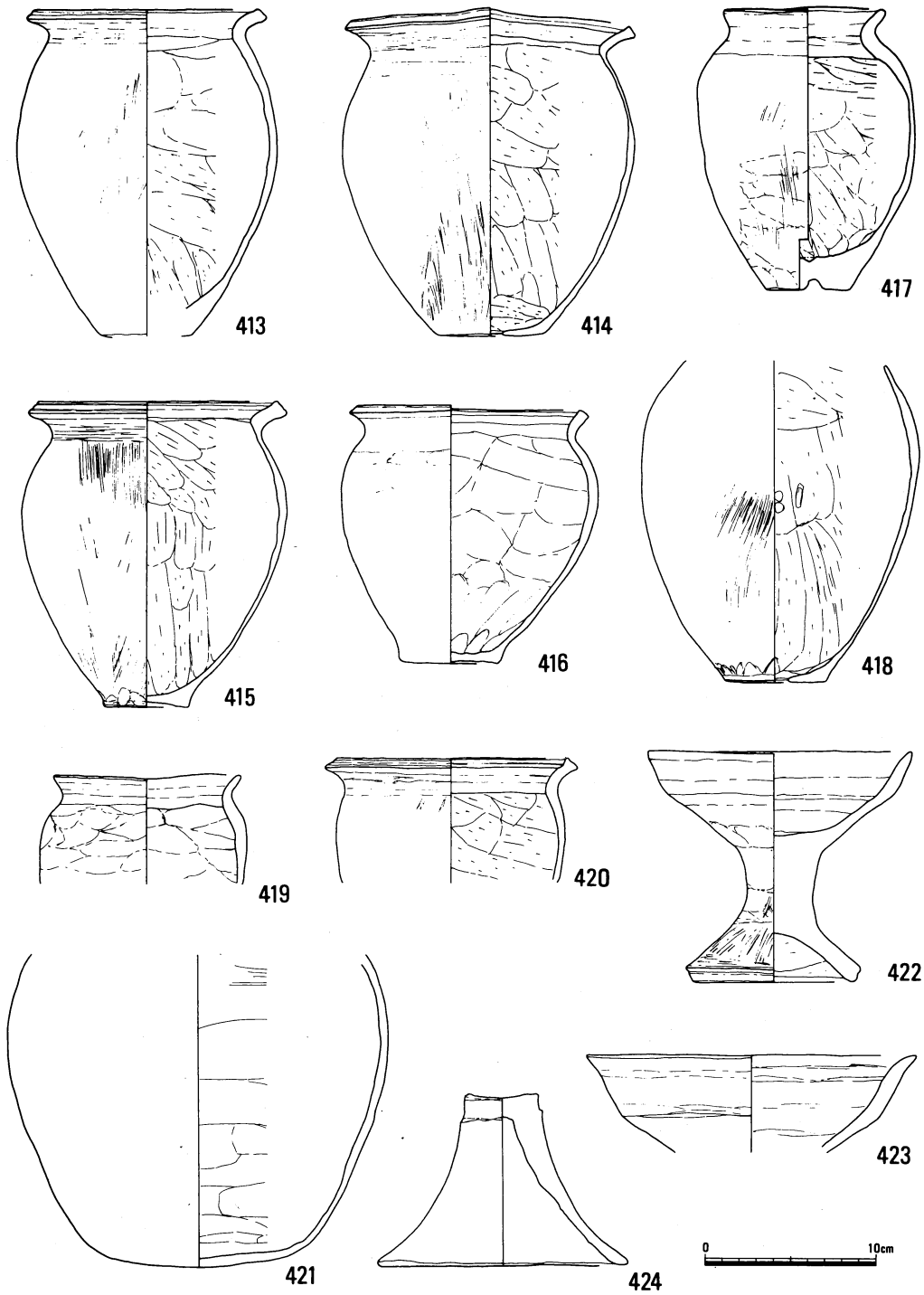
第92図　D20区３号住居址出土遺物(7)



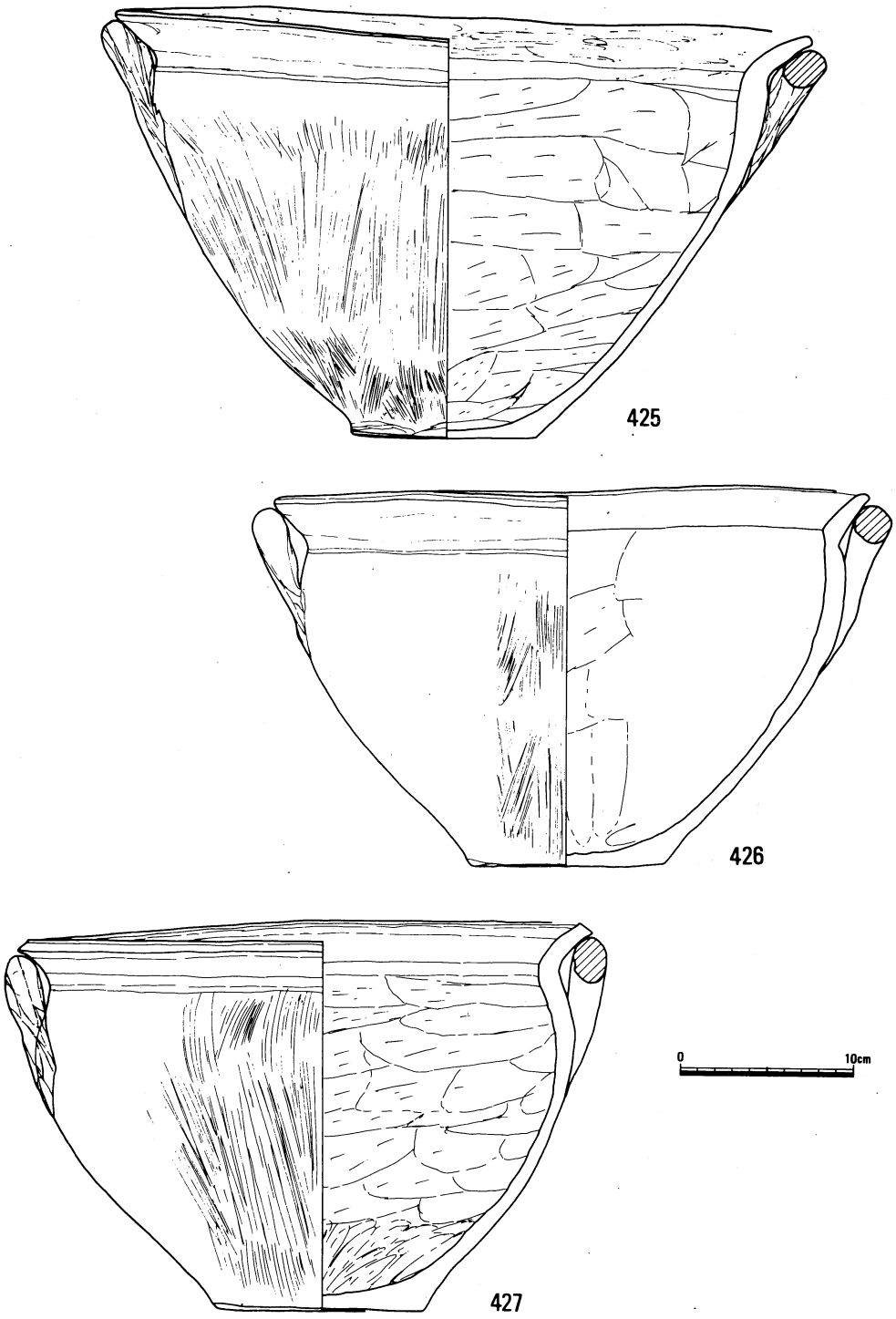
第93図　D20区 3 号住居址出土遺物(8)



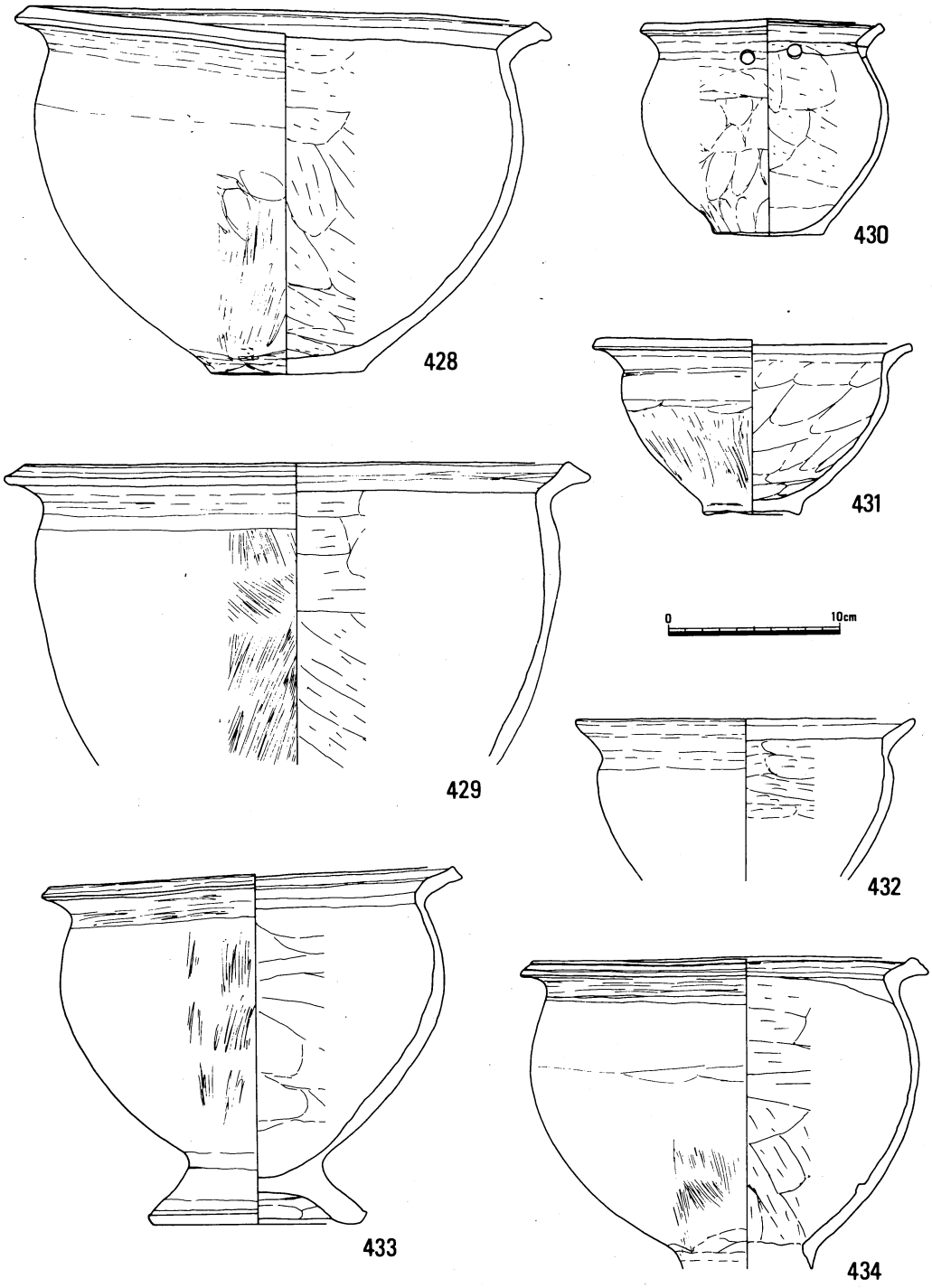
第94図　D20区３号住居址出土遺物(9)



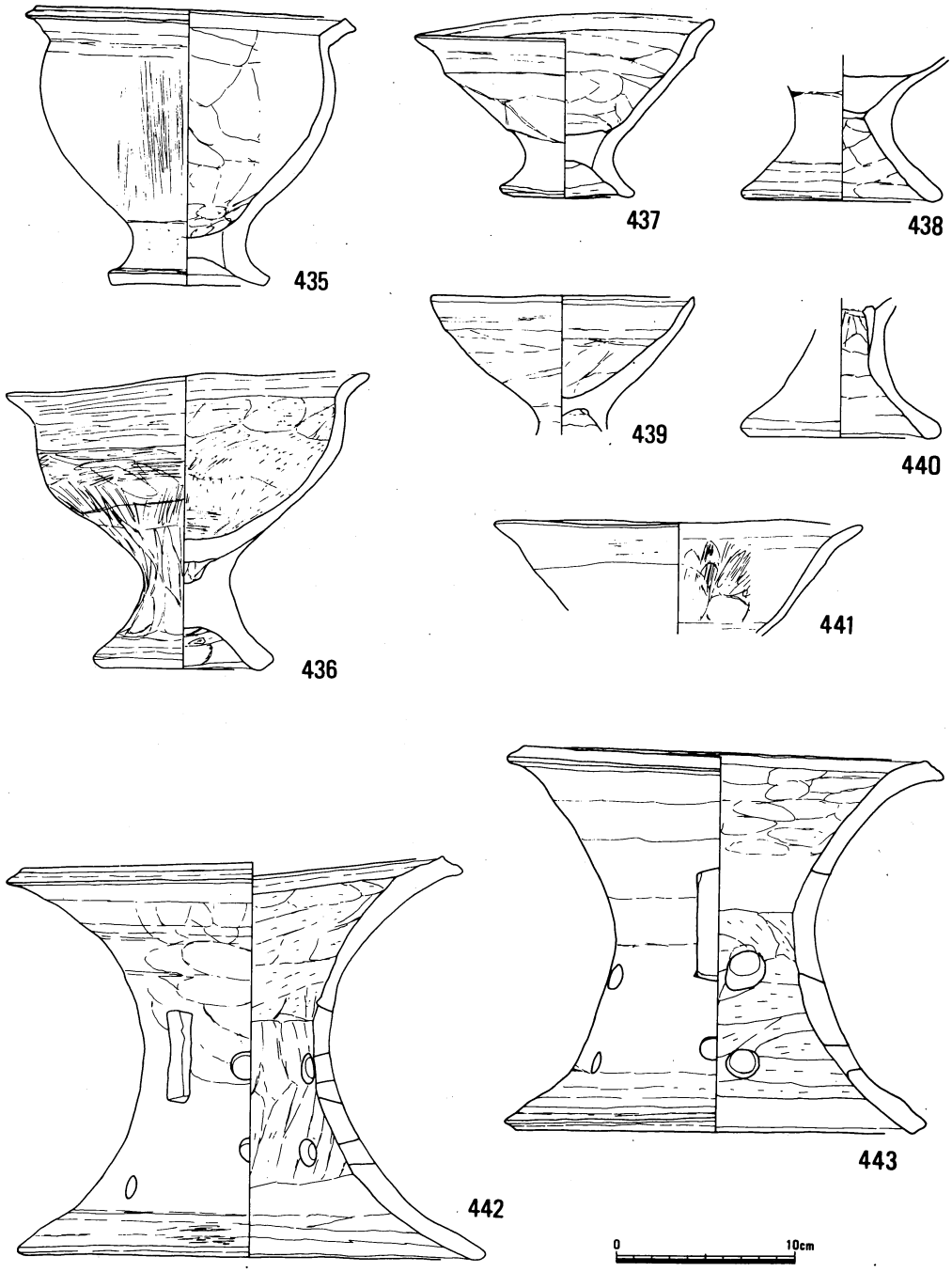
第95図　D20区３号住居址出土遺物(10)



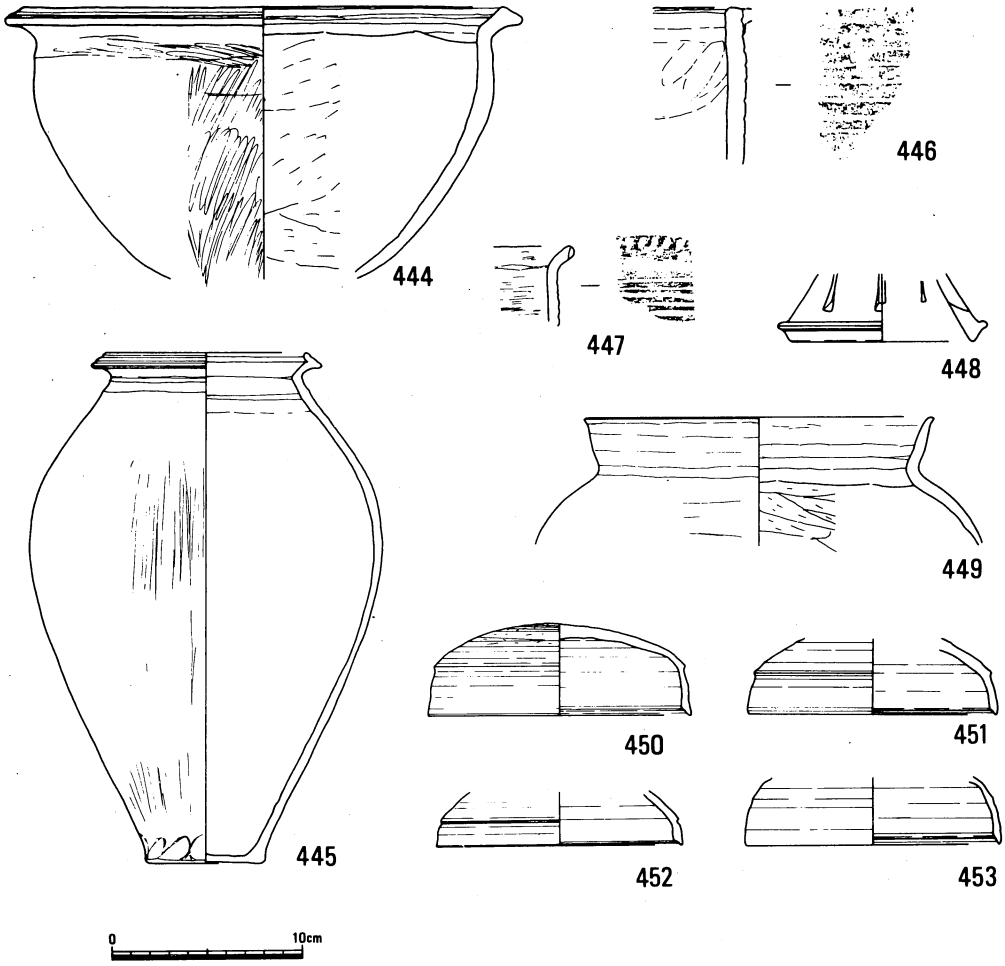
第96図　Ｄ20区３号住居址出土遺物(11)



第97図　D20区３号住居址出土遺物(12)



第98図　D20区３号住居址出土遺物(13)



第99図　D20区３号住居址付近柱穴他出土遺物

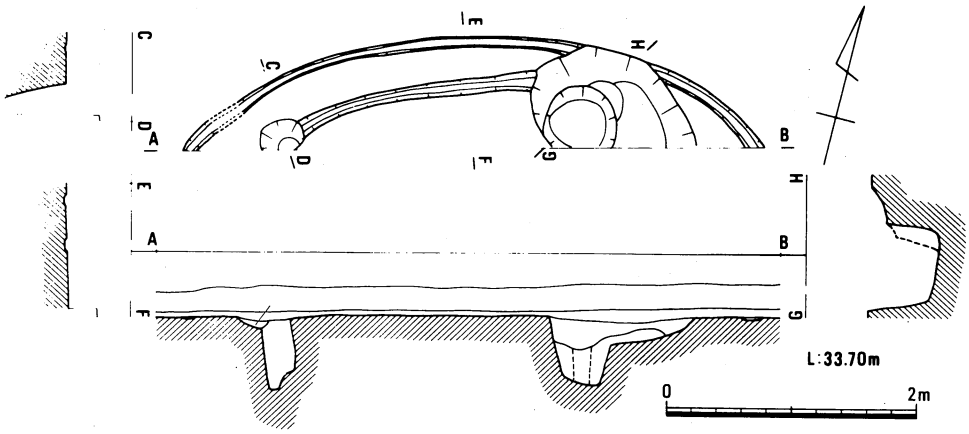
するものと肥厚しないものがある。

高杯には422～424があるが、良好な資料はない。鉢には412・425～441がある。425～427は大型の鉢で１対のU字形をした突帯を貼り付けている。428・429も大型のものである。433～441は台付の鉢であり、大小みられる。442・443は器台である。377は蓋である。407・409・411・421は混入したものと思われる。

時期は以上の土器群から百・後・Ⅱ古相（弥生時代後期中葉）に比定される。

４号住居址（第100図、図版63－１）

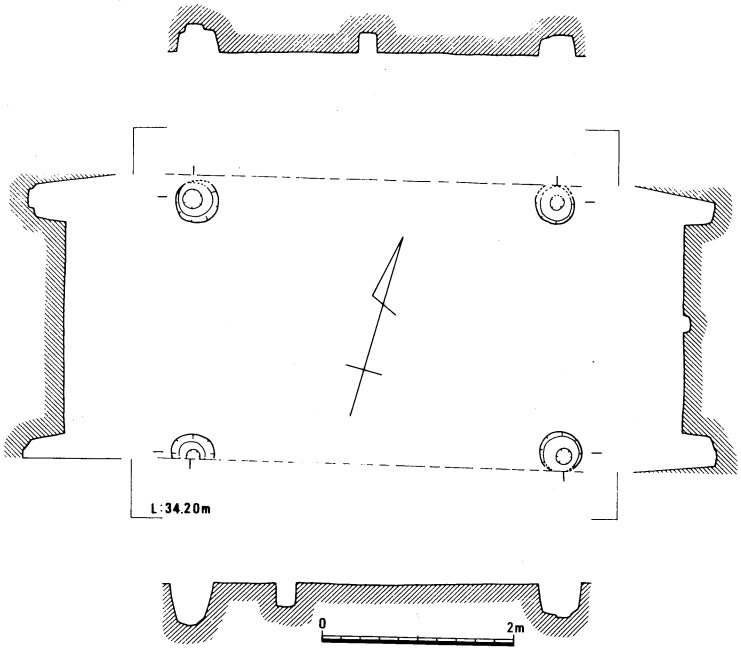
D20区の東西方向調査区域の西部に位置し、２号住居址からは30ｍ東にある。北側の一部を調査したにすぎず、大部分は未調査区域である。壁体溝が２本検出されていて、１回の建て替



第100図　D20区４号住居址平・断面図（１／60）

が行われたことがわかる。平面形は円形を呈している。大きさは径約７ｍと推定される。埋土中からは良好な遺物を出土していないため、明確ではないが、時期は弥生時代後期に属するものと推定される。

建物－１（第101図、図版69－１、２）



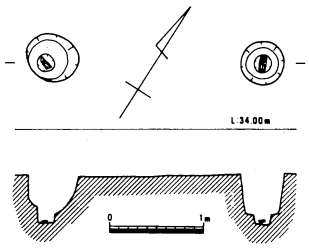
第101図　D20区建物－１平・断面図（１／80）

D20区の東西方向調査区域の東部に位置し、東端部からは35ｍである。調査区域の中に４本の柱穴が方形に並ぶことから１間×１間の建物と推定されるが、北と南へのびる可能性は否定できない。Ｐ１とＰ２を結ぶ線はN76°Ｅを示している。

柱間はＰ１～Ｐ２が3.88ｍ、Ｐ２～Ｐ３が2.7ｍ、Ｐ３～

Ｐ４が3.88ｍ、Ｐ１～Ｐ４が2.7ｍである。柱穴は直径約50㎝、深さ25～40㎝である。各柱穴とも柱痕跡は明瞭に認められる。以上のことから、東西3.88ｍ、南北2.7ｍの建物と判断される。

時期は柱穴から遺物が検出されていないため明確にはできないが、周辺の遺構との関連から中世のものと推定される。



第102図　D20区建物－２平・断面図（１／80）

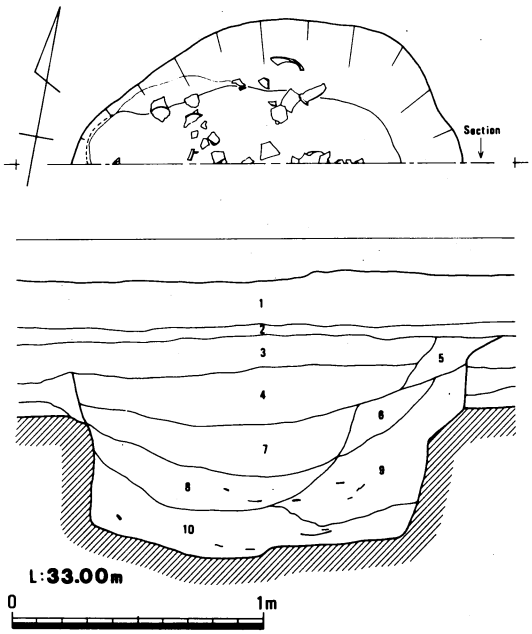
建物－２（第102図、図版69－３、４）

Ｄ20区の東西方向調査区域の東部に位置する。建物－１から東12ｍである。検出された柱穴は２本であるが、いずれも礎盤があり、南へのびる建物と推定される。Ｐ１とＰ２を結ぶ線はN58°Ｅを示している。柱間はＰ１～Ｐ２が2.3ｍである。柱穴は直径42～60㎝、深さ約50㎝である。底部には長方形の板材を置き、礎盤としている。柱穴の状況から南北に長い建物の北端部の柱を検出したものと推定される。

時期は柱穴から遺物を検出していないが、周辺の遺構から中世のものと推定される。

井戸－１（第103・108図、図版63－２・64－１、２）

Ｄ20区の東西方向調査区域の西部に位置し、１号住居址の２ｍ西である。北側の約３分の１



1．青灰色
2．黒茶褐色暗灰色
3．黒褐色暗黄茶褐色灰色
4．３と同じであるが土器を含む
5．灰白暗黄色暗黄茶色
6．暗黄茶色灰色黒褐色(焼土を少量含む)
7．黒茶暗褐色
8．黄暗茶褐色灰白色(少)
9．暗黄茶色灰色黒褐色㊙炭
10．暗黄茶褐色暗灰白色

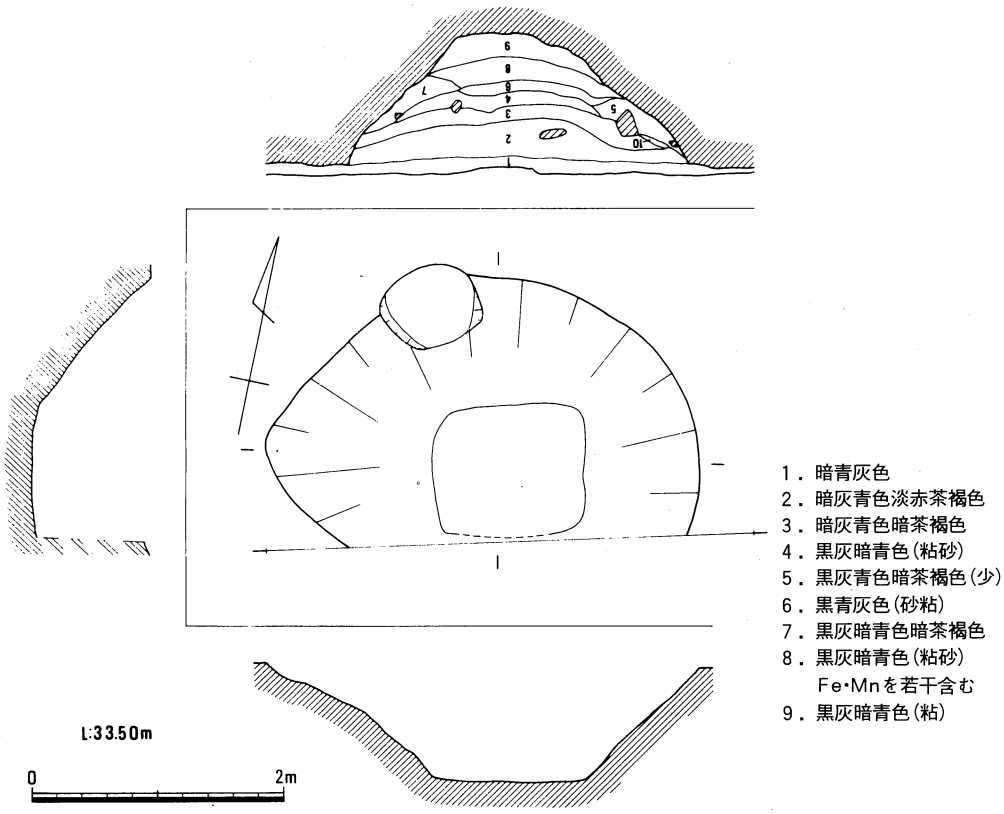
第103図　D20区井戸－１平・断面図（１／30）

を調査しただけで、南は未調査区域に入り全容はわからない。平面形はやや不整形であるが円形を呈している。大きさは約1.6ｍと推定される。壁は少し傾斜していて、底部は凹凸があるもののほぼ平坦である。深さは約70㎝である。埋土の状況は徐々に埋没したものと推定される。

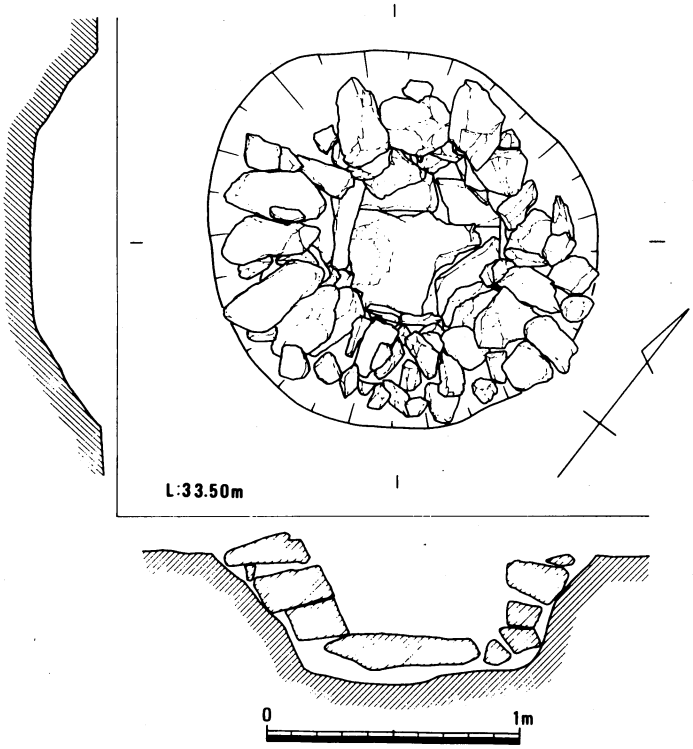
埋土中からは**454～461**の土器を出土した。**454**は朝顔形に開く壺の口縁部、**455**は短かい口縁部の壺、**456～458**は口縁部を逆Ｌ字状に折り曲げた甕の口縁部、**458**は鉢、**460**は壺の底部、**461**は蓋である。以上の土器は百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定される。

井戸－２（第104・108図・図版65－１～４、６）

Ｄ20区の東西方向調査区域の中央部付近に位置する。４号住居址の13ｍ東である。南側の一部が調査区域外になるが、ほぼ全容がわかる。北側では土壙墓１基と重複している。平面形は楕円形を呈している。大きさは東西3.45ｍ、南北2.1ｍ以上、深さ1.1ｍである。埋土は薄い層が多数あり、徐々に埋没したことがわかる。井戸はすでに崩壊していたが石積井戸であり、多



第104図　D20区井戸－２平・断面図（１／60）



第105図　D20区井戸－3平・断面図（1／30）

数の石材が集積していた。

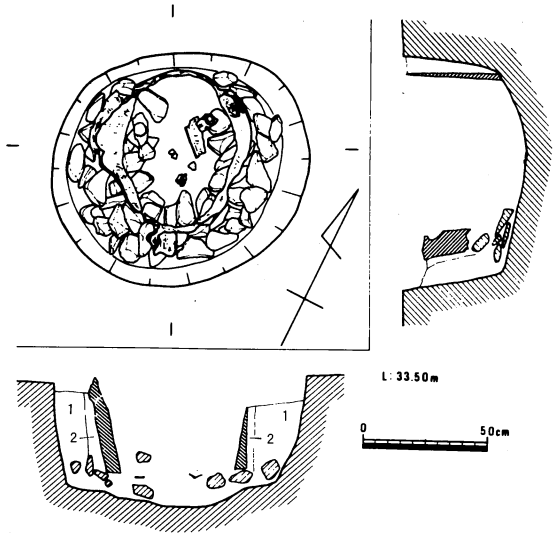
埋土中の出土遺物には、462～464の早島式の高台付椀、465・466の土師器小皿、467は白磁椀、468の土鍋がある。以上の遺物から時期は室町時代に比定される。

井戸－3（第105図、図版65－1～2・5、6）

D20区の東西方向調査区域の中央部付近に位置する。井戸－2の東側である。全体が調査された。石積の井戸である。掘り方はほぼ円形を呈し、東西1.7m、南北1.5m、深さ0.52mである。石積は底に大きな平石を置き、周囲に石を上開きに積み上げている。現存する石組みでは上部で径75cm、底部で60cmを測る。埋土中から遺物を検出していないが、井戸－2との関連などから中世に比定される。

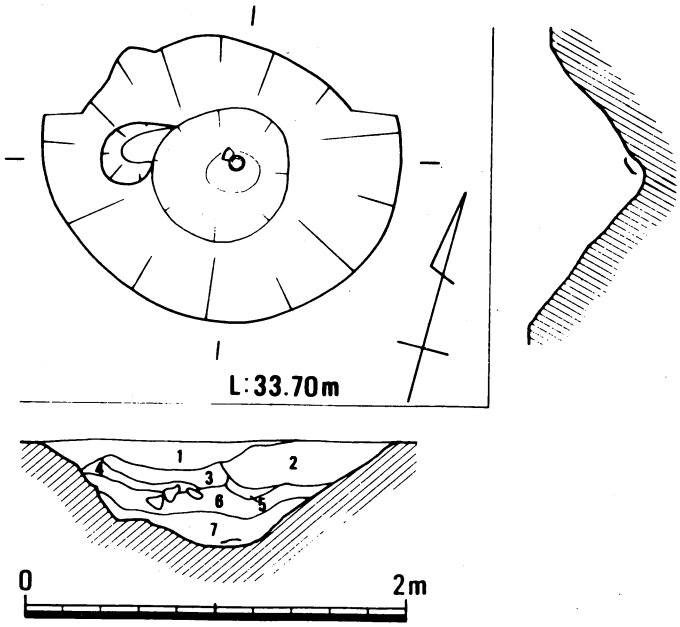
井戸－4（第106・108図、図版66－1～4）

D20区の東西方向調査区域の中央部付近に位置する。内部に木製のくり抜き井戸枠を入れた井戸である。掘り方の平面形はほぼ円形を呈している。底部の周辺部に川原石を敷き、石の上にのる状況で井戸枠が置かれている。埋土中からは鍋、高台付椀、紡錘形土錘が出土している。時期は出土遺物から室町時代に比定される。



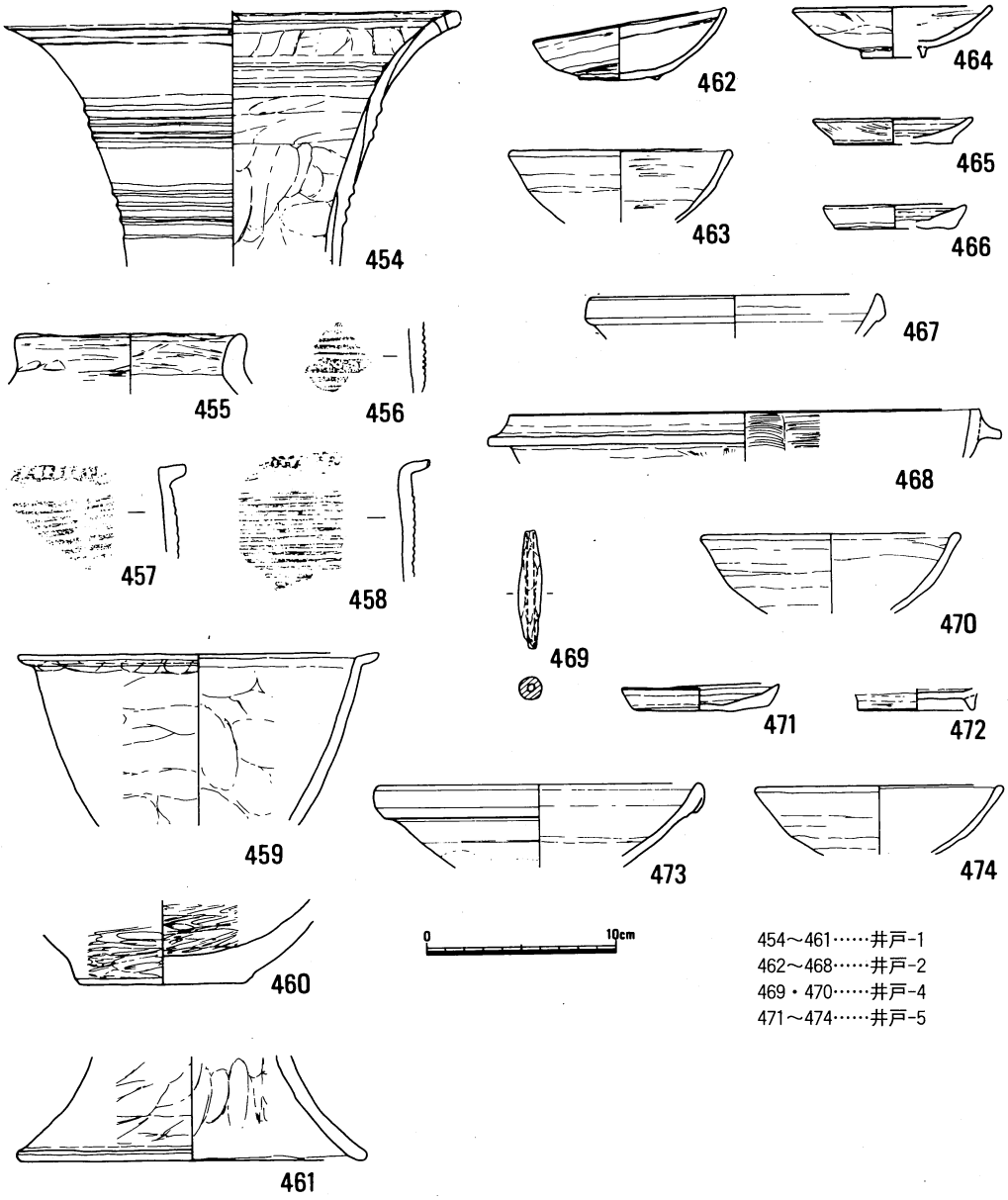
１．黄白色暗黄茶褐色
　　黒灰茶色
２．黒灰青色(粘質土)

第106図　D20区井戸－４平・断面図（１／30）



１．暗灰青色灰赤茶色
２．暗灰色暗黄茶褐色
３．黒灰青色
４．暗灰白色
５．黒灰青色淡黄白灰色(粘)
６．暗灰色暗黄茶褐色(粘)
７．黒灰青色茶褐色を含む(粘)

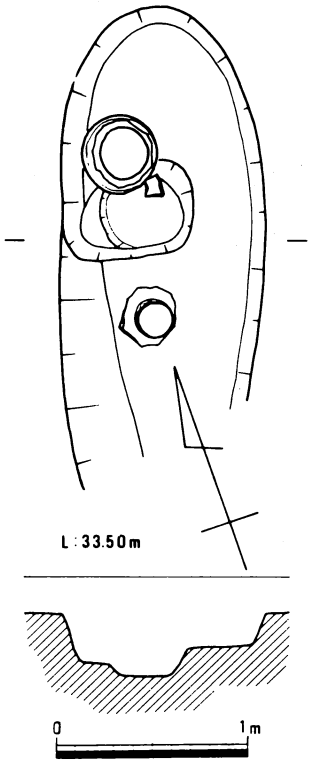
第107図　D20区井戸－５平・断面図（１／40）



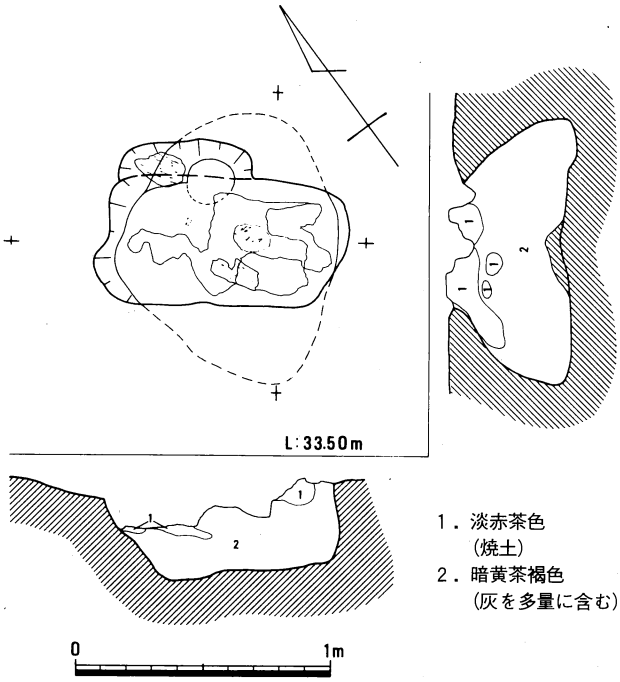
第108図　D20区井戸－1・2・4・5出土遺物

井戸－5（第107・108図、図版67－1～3）

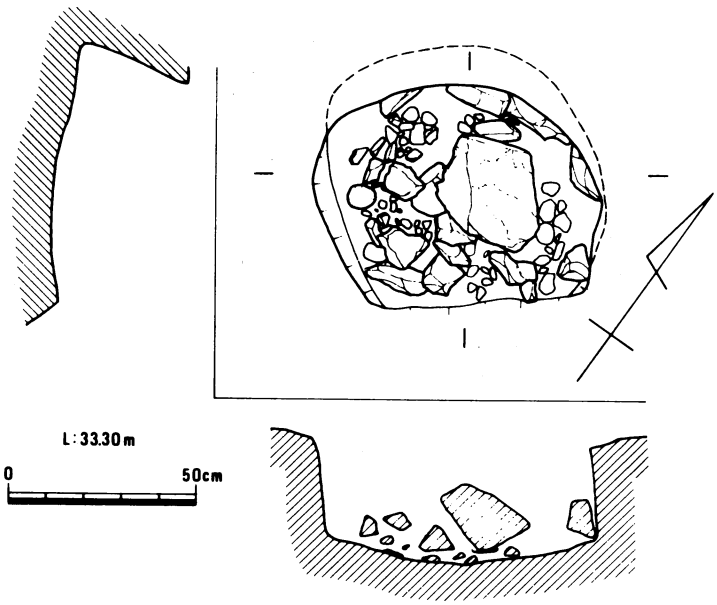
D20区の東西方向調査区域の東部に位置する。井戸－4から東43mである。平面形はほぼ円形を呈し、底部は擂鉢状である。大きさは長径1.9m、短径1.7m、深さ0.55mである。素掘りの井戸で石積は無い。埋土中からは、471の土師器小皿、472・474の高台付椀、473の白磁椀がある。時期は出土遺物から室町時代に比定される。



第109図　Ｄ20区土壙－１平・断面図（１／40）



第110図　Ｄ20区袋状土壙平・断面図（１／30）

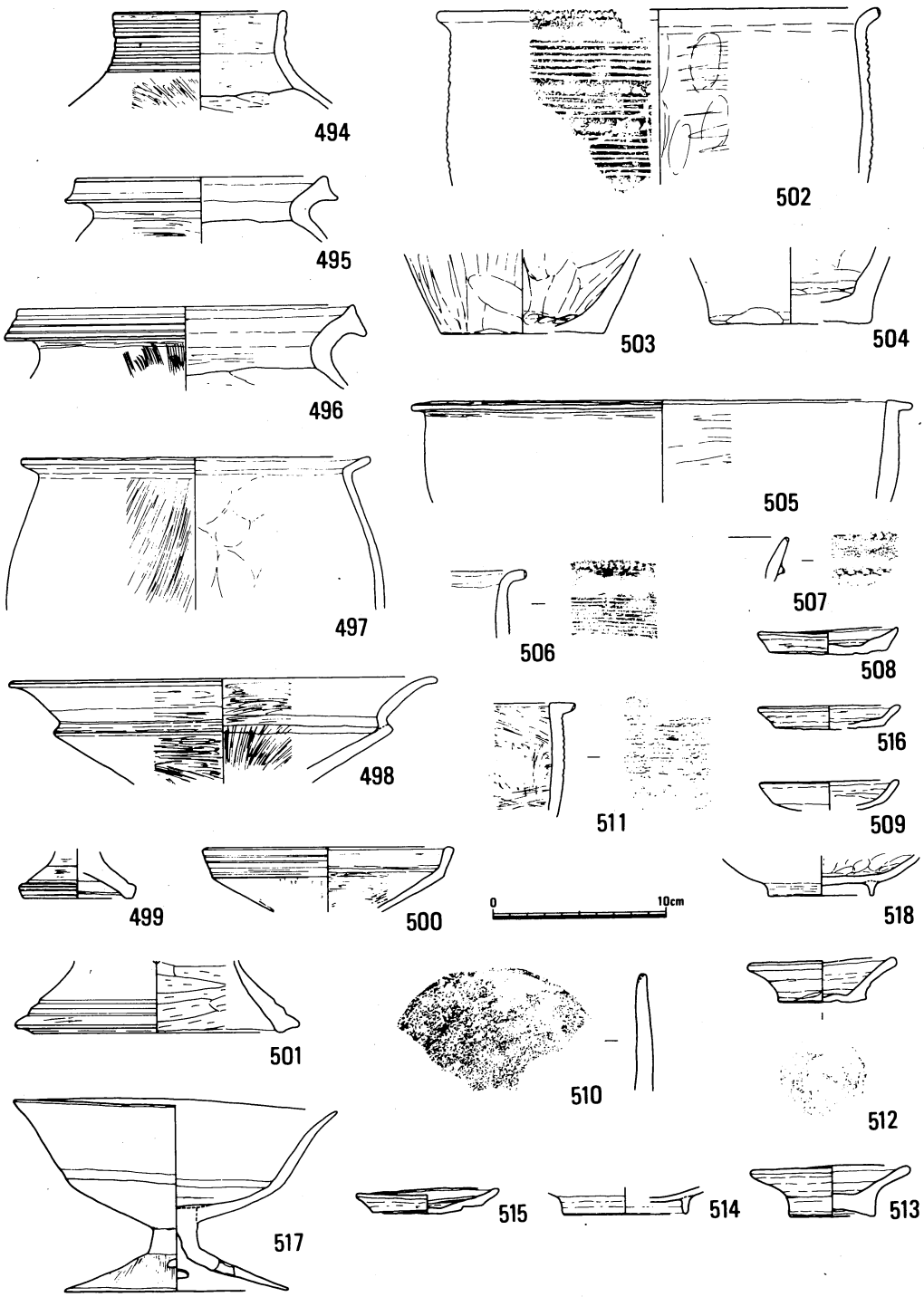


第111図　Ｄ25区土壙墓－１平・断面図（１／20）

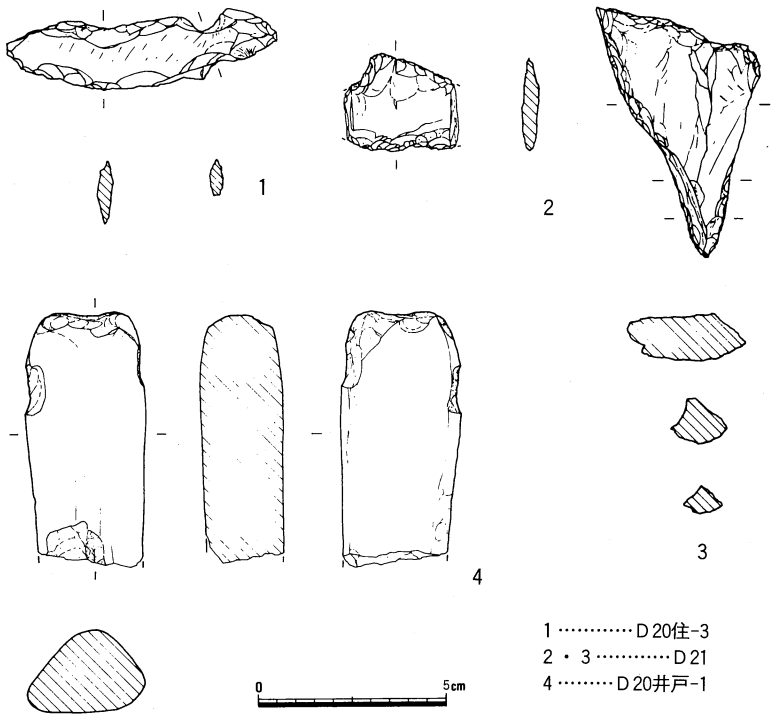
土壙－１（第109図，図版70－３、４）

Ｄ20区の西部にあり、２号住居址の南東に位置する。平面形は長楕円形を呈しているが、南側の一部は調査区域外へのびているため全容はわからない。大きさは長径260㎝以上、短径110㎝、深さ36㎝を測る。

埋土中から少量の土器片が出土している。



第112図　D20区土壙他出土遺物



第113図　D20・21区出土遺物

出土遺物から弥生時代後期に比定される。

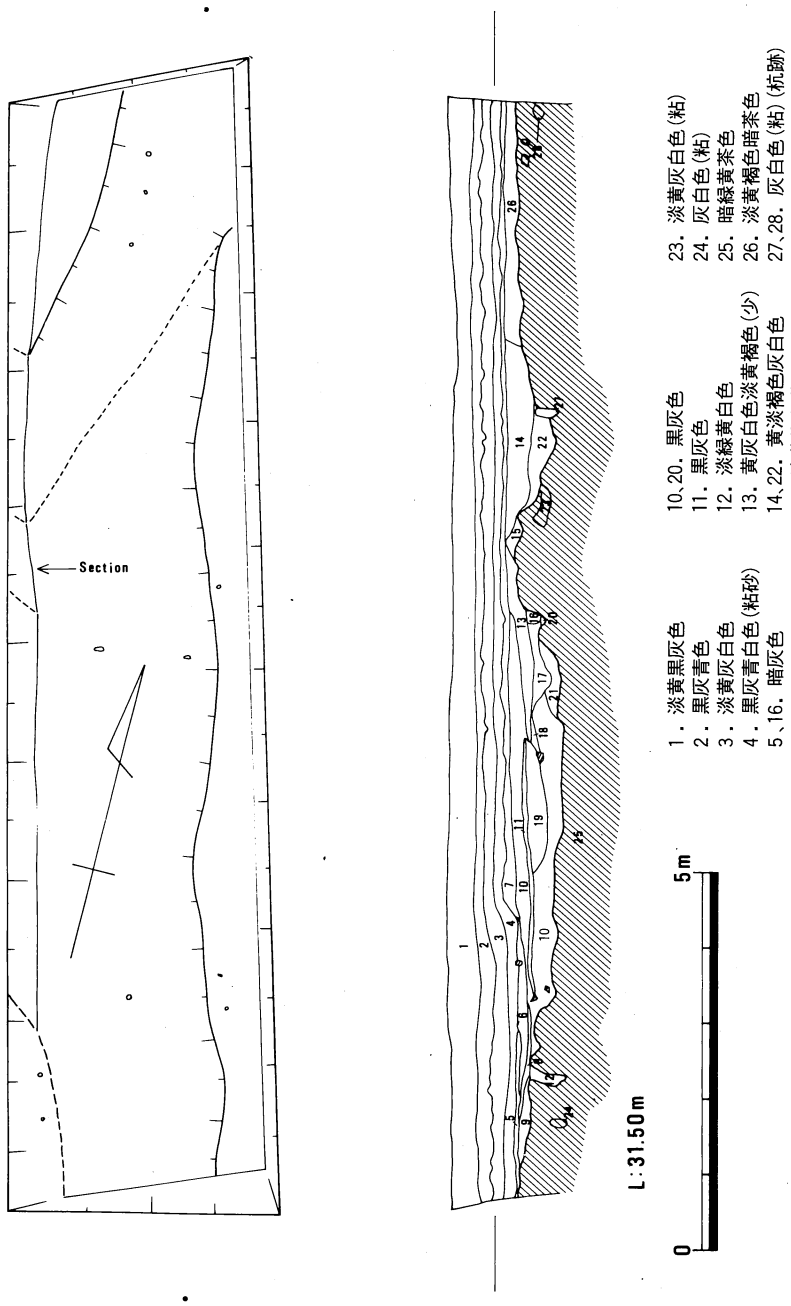
袋状土壙（第110図、図版70－１、２）

D20区の東部にあり、建物－２の東部に位置している。いわゆるフラスコ形の土壙で、上面は長方形のプランを呈しているが、底部はいびつな三角形である。上部が削られているため、全容はわからないが、底部は長径106cm、短径88cm、深さ82cmを測る。埋土の上層には焼土塊を多量に含み、下部の埋土には灰を多く含んでいる。

埋土中から良好な遺物を検出していないことから明確な時期はわからないが、弥生時代に属するものと推定される。

土壙墓－１（第111図、図版70－５、６）

D20区の西部にあり、井戸－２の北肩部と重複している。平面形は少しいびつな円形を呈している。北側では底部が掘り方より広くなり、フラスコ状になっている。底部は中央部が少し深くなっているが、ほぼ平坦である。埋土中には大小の角礫が多数入っている。大きな石は長径38cm、短径25cmのもので、他は径５～10cm大のものである。土壙の大きさは現存部で127×60cm、深さ35cmである。

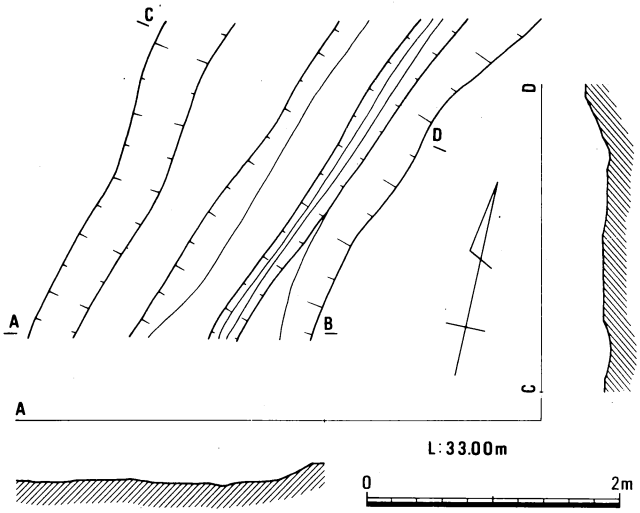


第114図　D20区西側南北平・断面図（1／100）

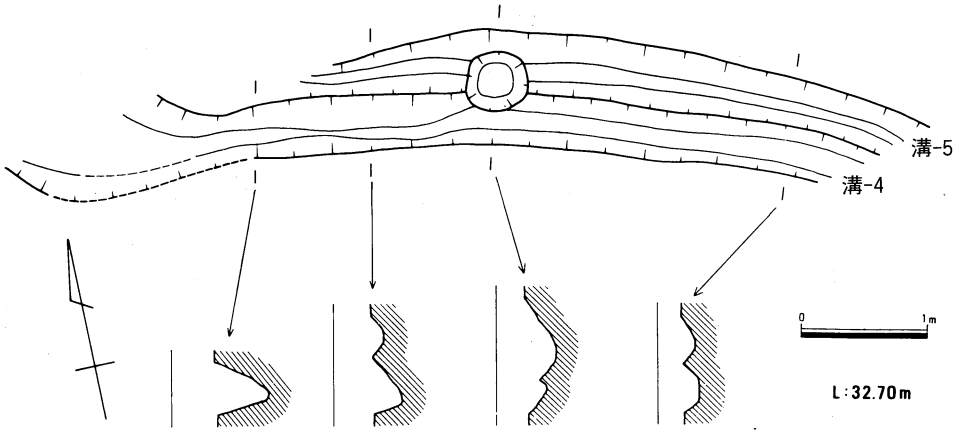
埋土中から良好な遺物が出土していないため、詳細な時期はわからないが、中世のものと推定される。

溝－１（第115図）

D20区の西寄りに位置し、ほぼ南北に流れる浅い溝である。緩やかに傾斜した幅の中央部に少し深くなったところがある。幅110cm、深さ20cmくらいである。埋土中からは弥生時代前期



第115図　D20区溝－１平・断面図（１／60）



第116図　D20区溝－４・５平・断面図（１／60）

から同中期後半の土器片が出土している。

溝－2（付図）

D20区の西寄りにあり、井戸－1の西に位置している。北西から南東方向へ流れ、幅50cmを測る。埋土中からは弥生時代中期前葉の土器片が出土している。

溝－3（付図）

D20区の西寄りにあり、井戸－1と一部重複している。北西から南東方向へ流れ、幅40cmを測る。時期はわからない。

溝－4（第116図）

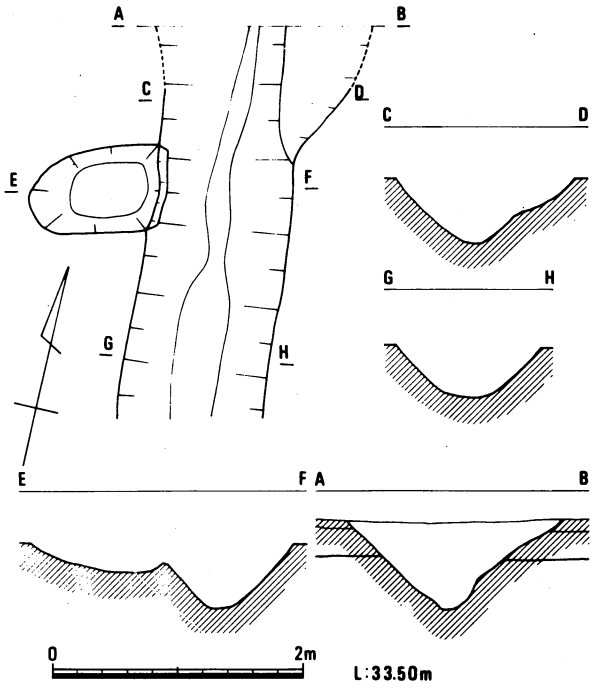
D20区の西寄りにあり、1号住居址の東側に位置している。北西から南西方向へ流れ、幅50cmを測る。埋土中からは弥生時代前期から同中期の土器片が出土している。

溝－5（第116図）

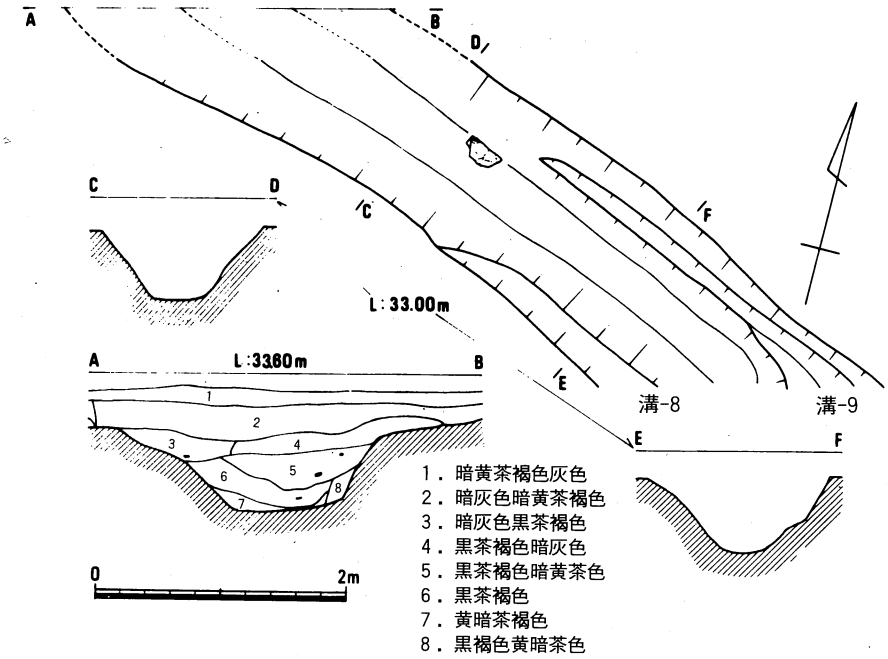
D20区の西寄りにあり、溝－4に接している。東西方向に流れ、幅50cmを測る。時期はわからない。

溝－6（第117図、図版68－4）

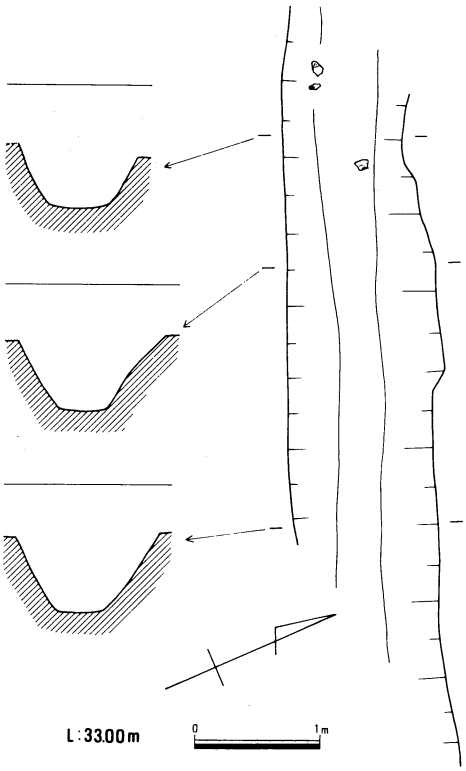
D20区の西寄りにあり、3号住居址の西側に位置している。南北方向に流れ、幅120cm、深



第117図　D20区溝－6平・断面図（1／60）



第118図　D20区溝－８・９平・断面図（１／60）



第119図　D20区溝－10平・断面図（１／60）

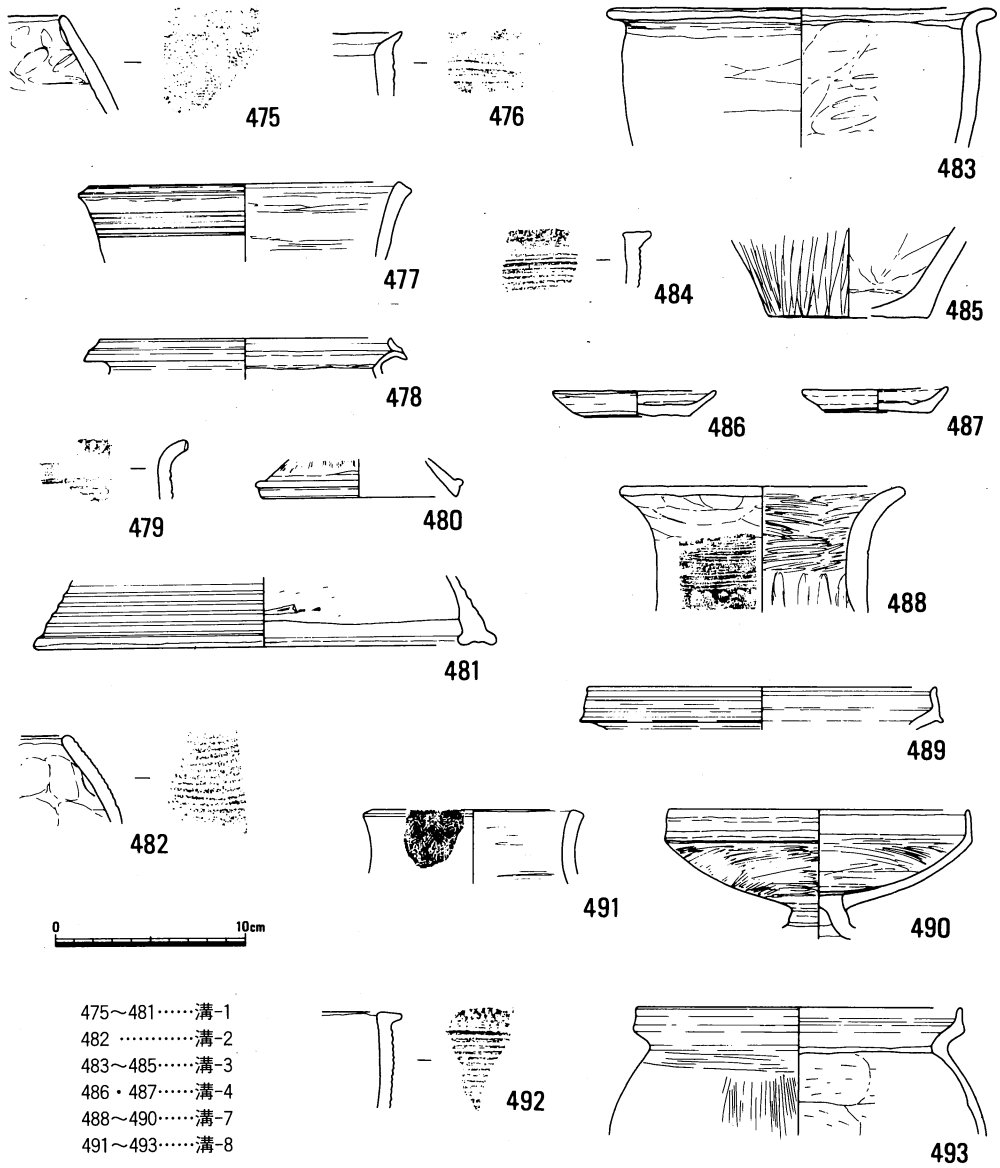
さ55cmを測る。時期はわからない。

溝－７（付図）

D20区の中央部付近にあり、４号住居址と一部重複している。北西から南東方向へ流れ、幅20cmくらいの小さな溝である。埋土中から第120図488～490が出土している。弥生時代前期の土器も含まれているが、百・後・Ⅲ（弥生時代後期後葉）に比定される。

溝－８（第118図、図版68－３）

D20区の西寄りにあり、溝－４の東側に位置している。北西から南東方向へ流れ、幅130cm、深さ60cmを測る。埋土中からは第120図491～493が出土している。弥生時代前期の土器も含まれているが、百・後・



第120図　D20区溝出土遺物

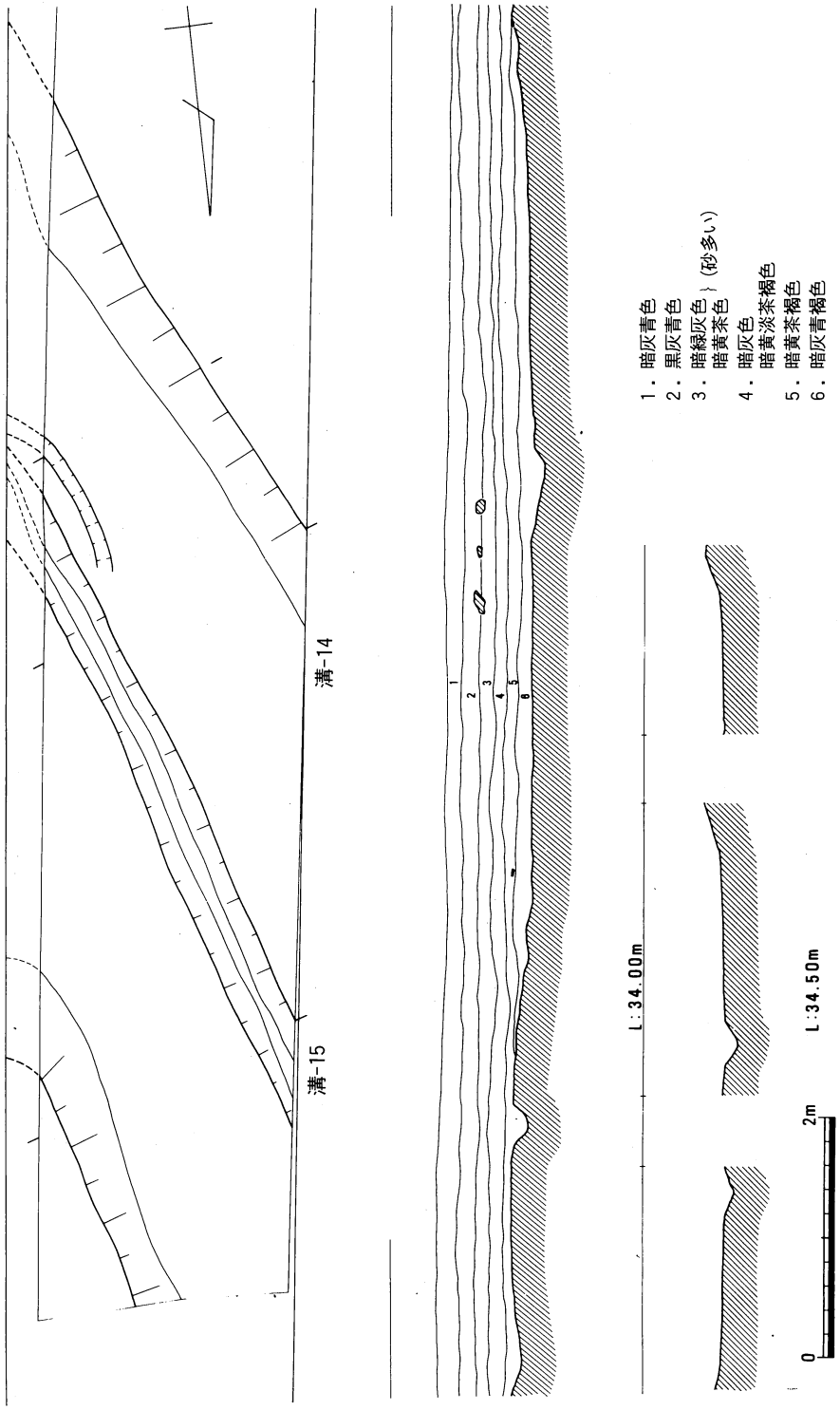
Ⅳ（弥生時代後期末）に比定される。

溝－9（第118図）

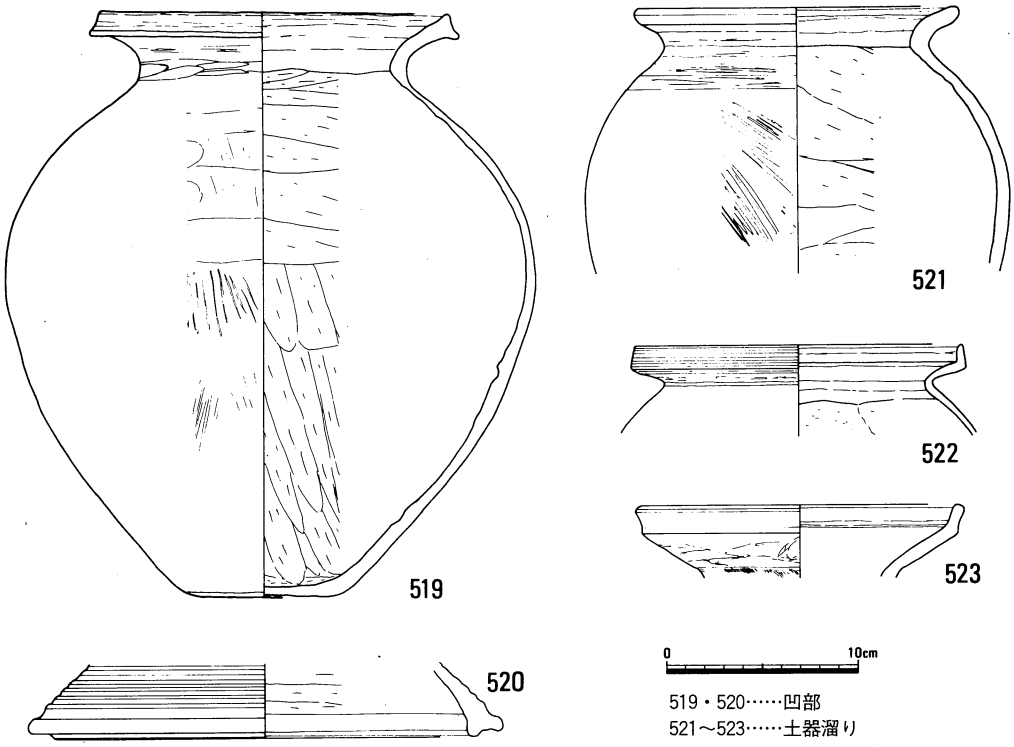
溝－8と重複し、一部南東部が残存しているにすぎない。

溝－10（第119図）

D20区の西寄りにあり、溝－4と重複している。幅120㎝、深さ60㎝を測る。時期は明らか



第121図　Ｄ20区東端南北北側平・断面図（１／60）



第122図　D20区東端南北凹部・土器溜り出土遺物

でない。

溝－11（付図）

D20区の東寄りにあり、井戸－5の西側に位置する。北西から南東へ流れる溝で、幅120㎝である。時期はわからない。

溝－12（付図）

D20区の中央部付近にあり、井戸－4の少し西側に位置する。ほぼ東西方向に走り、南側は消失している。時期は明らかでない。

溝－13（第121図）

D20区の南北方向調査区域の北端部に位置し、北西から南東へ流れる浅いたわみ状を呈する幅約4ｍの溝である。時期は明らかでない。

溝－14（第121図）

溝－13の中央部が深くなった部分で、幅45㎝、深さ約15㎝である。

第８節　D26区の調査

１．D26区の概要

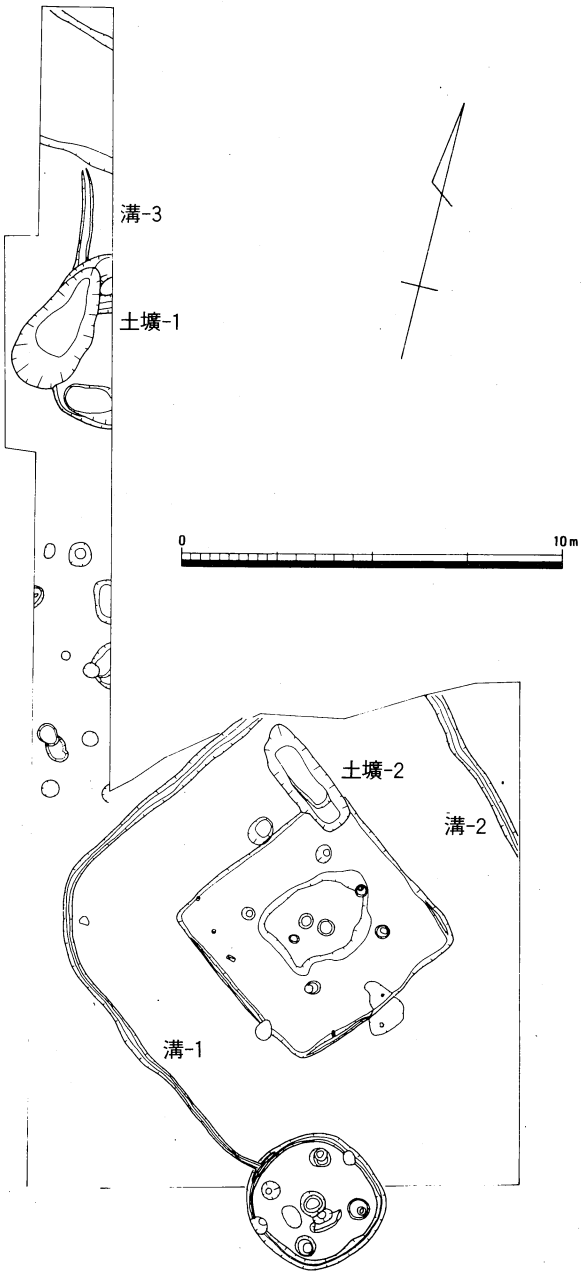
当調査区は天神山から南へのびた山裾に近く、調査対象区域の北東部にあたる。D20区の東西方向調査区の中央より少し西に寄ったところから北へのびる80ｍの範囲である。地形は南から北へ向かって緩やかに傾斜し、遺構は南寄に集中している。主な遺構は竪穴住居址１軒、溝３本、土壙２基、ほかに小ピットが少し検出された。

２．D26区の遺構・遺物

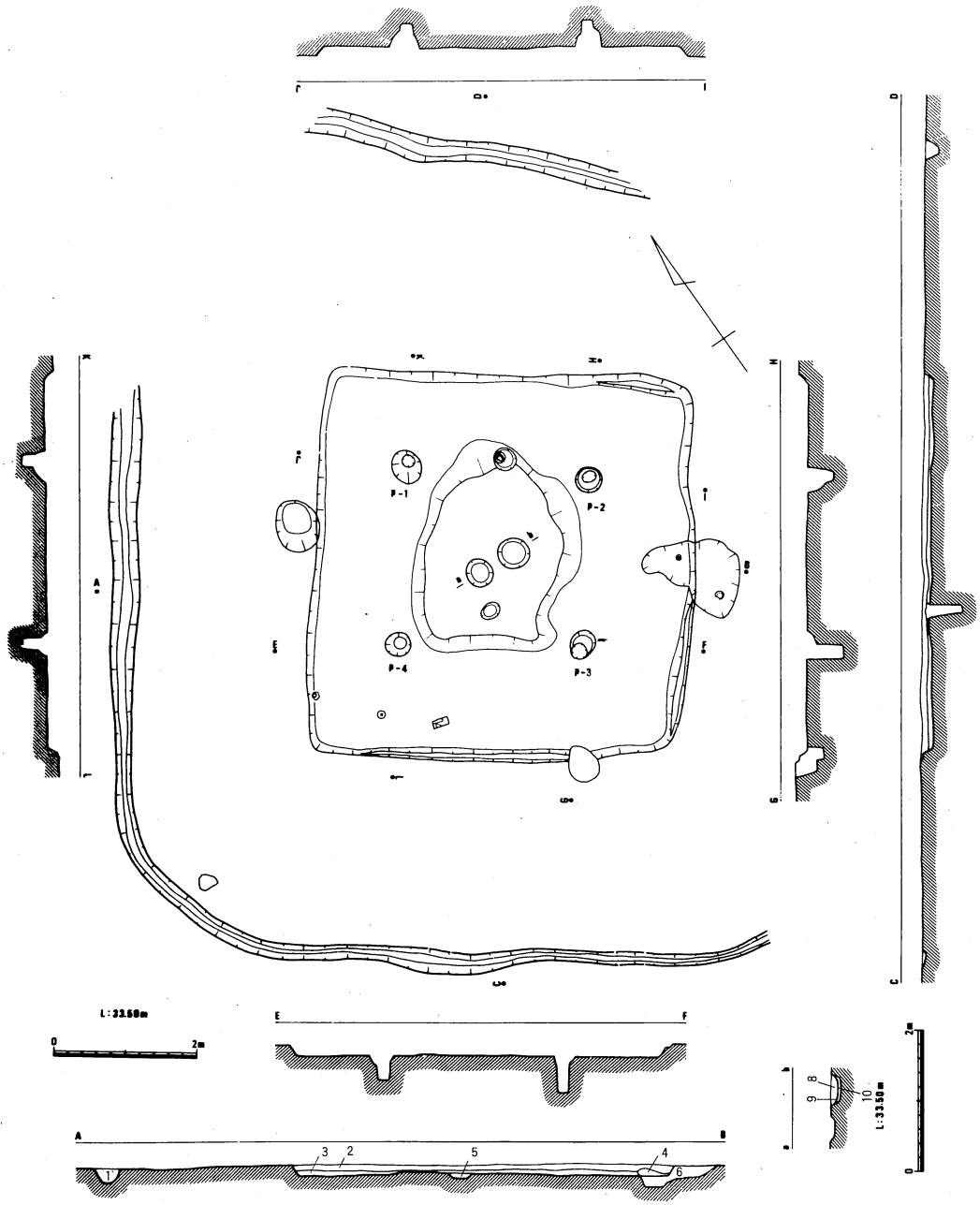
竪穴住居址（第124図、図版74－１、２・76－１）

D26区の南端部に位置する。一部拡幅を行い、住居址については全容を確認することができた。この住居址を囲むように溝が掘られているのが確認された。北側の角の一部が未調査区域になっていることから連続的に調査することはできなかったが、北東側の溝も住居址からの距離が同じで、住居址の一辺にほぼ平行していることから、コの字状になると推定される。南東部については明確でなく、方形に囲んでいたものかどうかは確認されていない。

住居址の平面形は方形を呈している。北寄りの一辺はN53°Wを示し



第123図　D26区・同拡張区全体図（１／200）



1．暗茶褐色
　暗黄茶色(少量)　互層
2．暗茶色
　灰黄色(少量)
3．黒暗茶褐色
　暗英茶色　互層
4．暗茶褐色
　暗灰色(少量)　互層
5．黒茶褐色
6．黒茶暗褐色
7．黒灰色
　暗茶褐色
　(炭を若干含む)
8．黒灰暗茶褐色
9．灰層
10．黒茶褐色
　(若干の炭を含む)

第124図　D26区拡張区住居址平・断面図（1／100）

ている。大きさは5.5×5.4ｍで、ほぼ正方形である。柱穴は４本あり、柱間はＰ１～Ｐ２が2.6ｍ、Ｐ２～Ｐ３が2.4ｍ、Ｐ３～Ｐ４が2.5ｍ、Ｐ１～Ｐ４が2.6ｍである。柱穴の大きさは30～50㎝、深さ40～50㎝である。壁体溝は確認されていない。なお、北壁には土壙－２が重複している。

周辺を囲む溝は幅15～40㎝、深さ20㎝あり、北側と南側の距離は11.3ｍを測る。住居址の壁からの距離は北側が３ｍ、西側が2.4ｍ、南側が2.7ｍである。類似した形状を示す例は、岡山県北房町谷尻（たんじり）遺跡２区181号住居址の例がある(注)。谷尻遺跡の例は住居址が大きく、周囲の溝の幅も大きく、住居址を画する意図をもっていたと考えわれているが、この住居址の場合は溝の幅も小さく、住居を画すると考えるよりも、排水を意図した溝と考えられる。

住居址の埋土中からは良好な遺物を出していないため、時期を明確にすることはできない。しかし、周辺部から出土遺物（第129図539～544）を参考にすると古墳時代中頃に比定することが可能であると思われる。

(注)　高畑知功他「谷尻遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書』11　岡山県教育委員会　1976年

土壙－１（第125図、図版73－１、２）

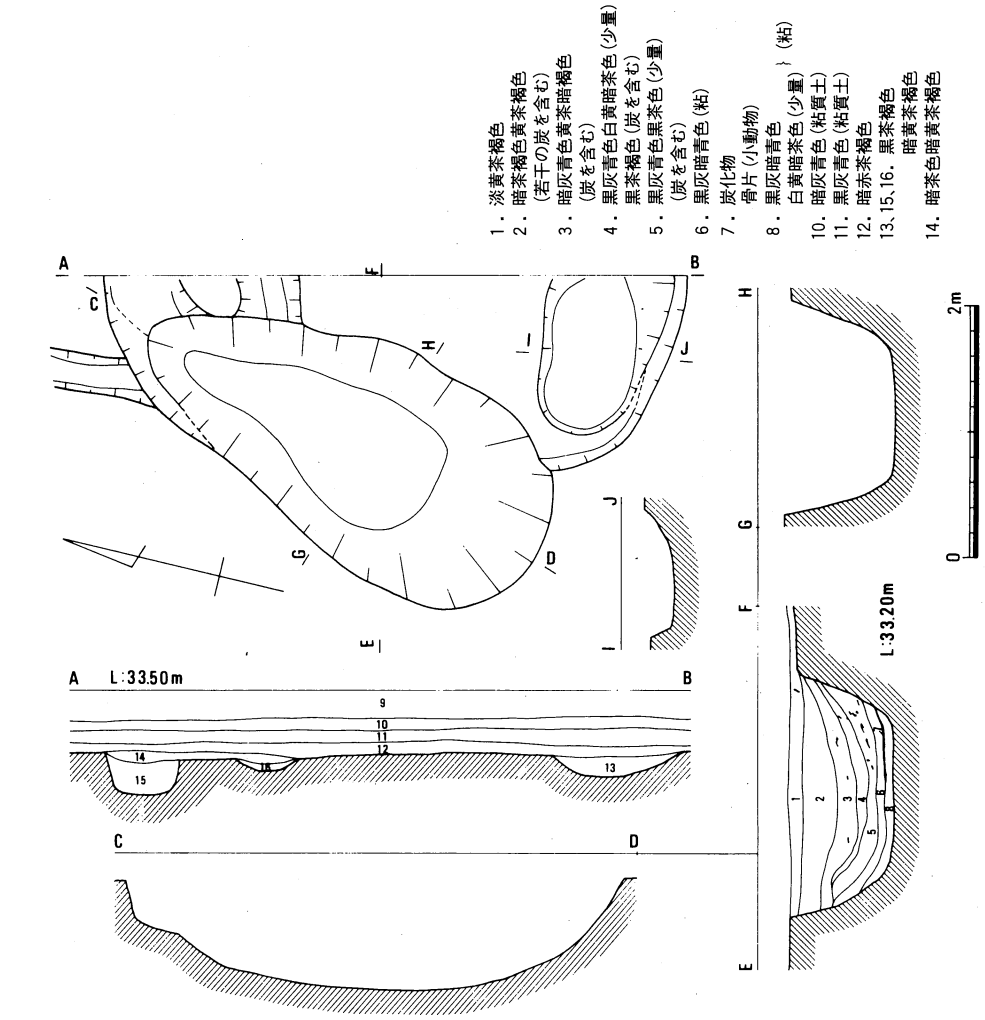
住居址の北13ｍに位置し、溝－３と一部重複している。平面形は一方が狭くなった長楕円形を呈している。主軸の方向はN19°Eを示している。大きさは長径350㎝、短径170㎝、深さ90㎝である。壁の傾斜は急となり、底部は緩やかにたわんでいる。埋土は薄い層が重なり、徐々に埋没したものと考えられる。

埋土中からは524～535の弥生土器が出土している。524は壺の頸部で、朝顔形に大きく開く。口縁部を欠失している。頸部には数本の貼り付け突帯を配し、内面にも２本の突帯をつけている。525の壺の胴部で、胴の中央部にキザミメを施した４本の突帯を配している。526・527は小型の鉢である。器壁は厚く、底部は平底である。528～533は甕の口縁部である。528～530の口縁部は逆Ｌ字状を呈し、口縁部直下の外面へ多数のヘラガキ沈線を施している。531・533は口縁部をくの字状に折り曲げ、口縁部直下の外面にヘラガキ沈線を施している。532は口縁端部外面に斜めにキザミメを施した突帯を配している。534・535は壺の底部と考えられる。

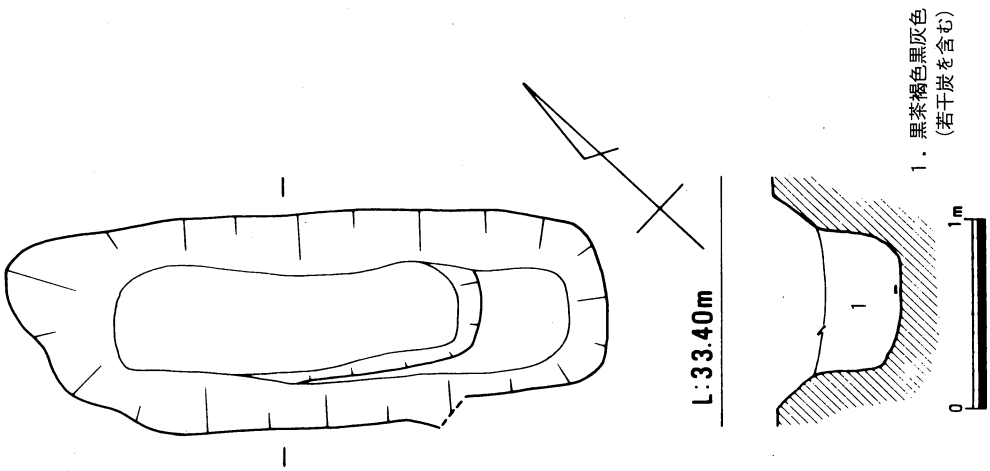
時期は532が縄文時代晩期に属する土器であるほかはいずれも百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定されることから、土壙の時期をこの時期に比定することができる。

土壙－２（第126図、図版75－１、２）

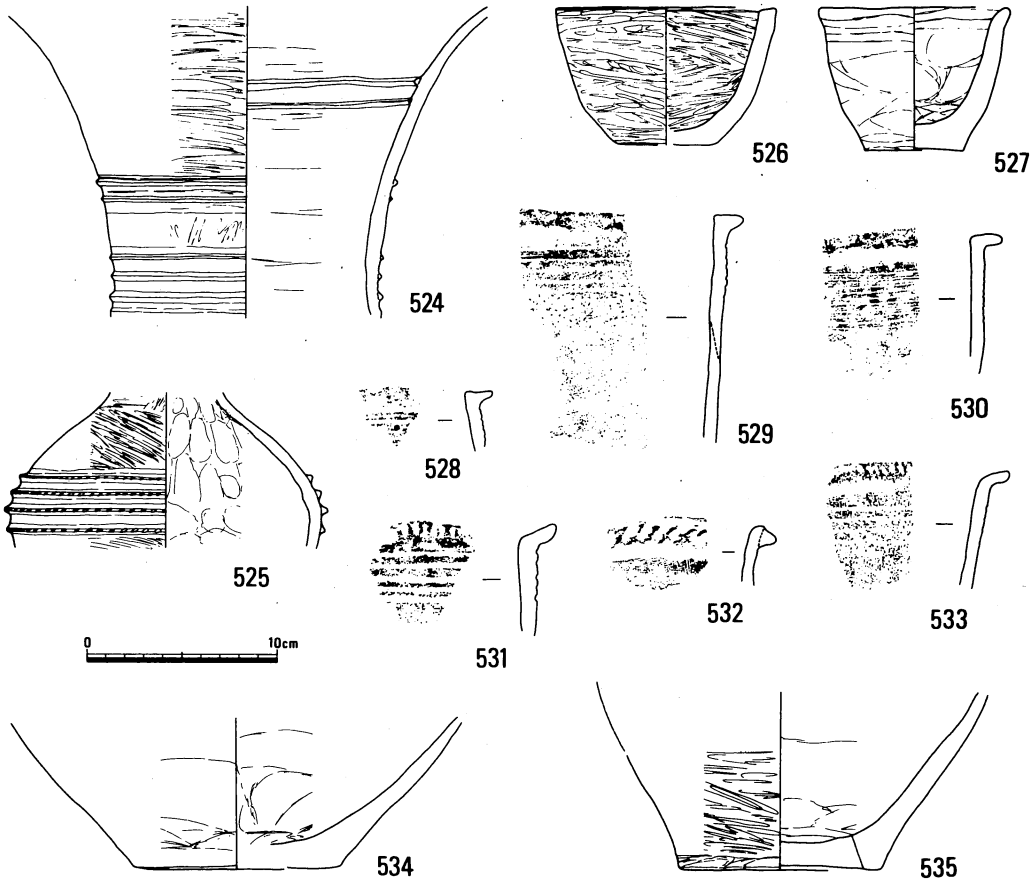
竪穴住居址の北隅と一部重複している。平面形は長方形に近い形状を呈しているが、北西側の肩部で細くなっている。基本的には隅が少し丸くなった長方形の土壙である。長軸の方向はN45°Wを示している。大きさは長径320㎝、短径120㎝、深さ70㎝である。床面は南寄りの一



第125図　D26区土壙－1平・断面図（1／60）



第126図　D26区拡張区土壙－2
平・断面図（1／40）



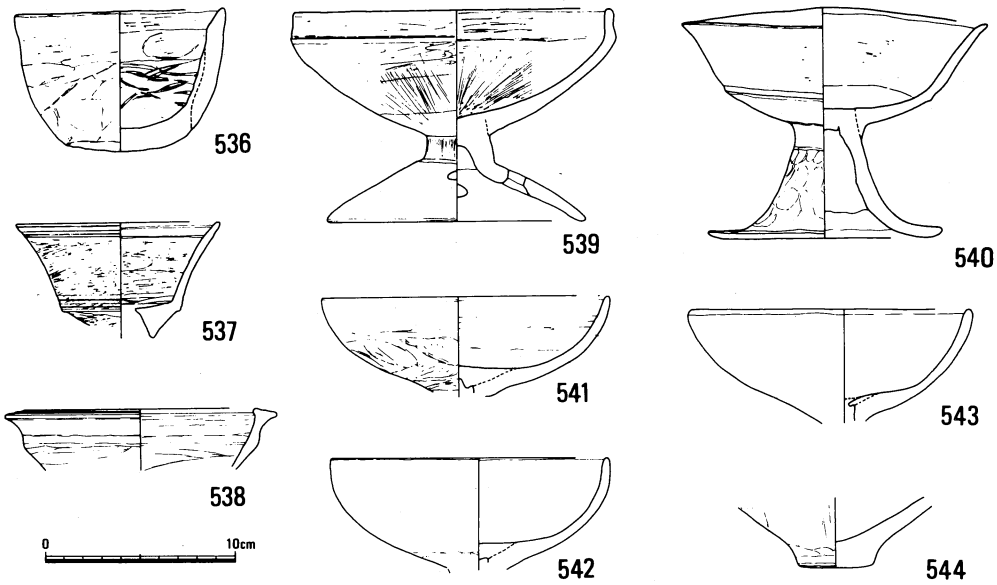
第127図　D26区土壙出土遺物

部が一段高くなっているが底はほぼ平坦である。肩部は少し崩れているが、掘り込みの傾斜はきつい。

埋土中に良好な遺物は検出されていないが、土壙－1と同じく、百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定されるものと考えられる。

その他の出土遺物（第128図）

遺構検出中に出土した遺物が第128図の土器である。538は弥生時代後期の鉢である。537・539・544は百・古・Ⅰ（古墳時代前葉）に比定される高杯と壺の底部である。536・541～543は百・古・Ⅱ（古墳時代中葉）に比定される高杯である。これらは竪穴住居址に伴う可能性が高い。



第128図　D26区拡張区内土壙・包含層出土遺物

表2　原遺跡水田層花粉分析表

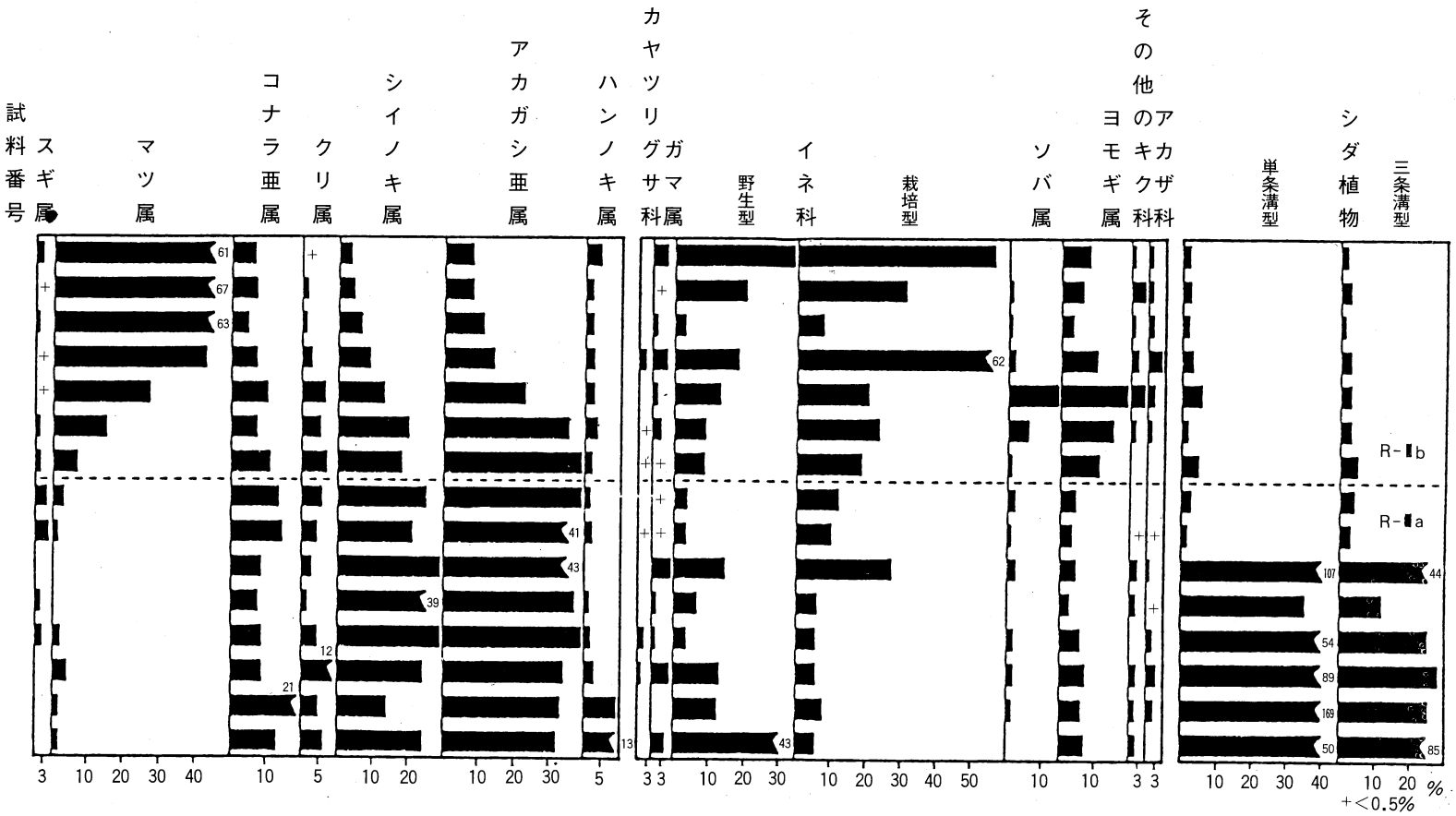


表３　原遺跡出土土器観察表

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
		口径	器高	底径					
1	杯身	11.8	4.4	5.8	内外面ナデ，外面底部ヘラ削り	白灰色	細砂（0.5㎜以下）を混入している	良好	D-12 SH01床面
2	杯蓋	12.4	4.1		〃　，外面上部ヘラ削り	黒灰色，淡青灰色（外） 白灰色（内）	若干砂粒を含む	〃	SH03
3	〃	12.6	5.4		〃　，外面上部ヘラ削りのちナデ仕上げ	黒青灰色	かなりの細砂を混入（0.5㎜以下）	〃	〃（柱穴内？）
4	甕形土器	13.2			口縁部ナデ，体部内面ヘラ削り，外面荒いハケナデ	黒茶暗褐色	かなり細砂を含む	〃	SH02
5	〃	14.1			〃　　〃	白黄灰茶色（口） 黒暗褐色（首～肩）	細微砂を含む	〃	〃
6	鉢形土器	18.0			口縁部外面５本の凹線，体部内面ヘラ削り，外面荒いハケメ，内面丹塗り	内外面丹塗り	かなりの砂粒（0.5～２㎜）を混入	〃	〃
7	〃	15.6	11.0	3.7	口縁部ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ナデ仕上げ後ヘラ削り	淡黄茶褐色	かなりの粗砂混入	〃	〃
8	高杯形土器	13.9			口縁部外面ナデ，他の内外面はヘラミガキ，丹塗り	内外面丹塗り	水こし粘土に砂粒を混入（若干の砂粒１～２㎜程度）	〃	H-２号住 埋土上層（北壁土層内）
9	〃				脚部内面ヘラ削り，杯部内面ヘラミガキ，外面ヘラミガキのちナデ仕上げ	茶褐色	水こし粘土に微砂を含むもの	〃	〃
10	〃	18.3	11.4	13.8	外面全体ヘラミガキ，杯内面若干丹塗りあり	淡黄茶色	かなりの砂粒を（含む）混入する0.5～２㎜	〃	丹塗り H-２住
11	〃	12.3	12.6	12.2	杯内面ヘラ先（？），外面上半ナデ，下半ヘラミガキ，脚部内外はナデ（？）	赤暗茶色（化粧土）	水こし粘土に細砂の混入（かなり）	普通	内、丹塗りか若干残る H-２住
12	杯蓋	14.2	3.8		内，外面下半ナデ，上半ヘラ削り，口縁端部外面キザミ目	青灰色	若干細砂を含む粘土を用いている	良好	SH05
13	杯身	12.7	3.25		内外面ナデ，外面底部ヘラ削り	暗青灰色（内） 淡青灰色（内）	かなり砂粒を混入している（１㎜前後）	〃	SH05 床面
14	甕形土器	16.1	19.0	6.3	口縁部内外ナデ，頸部外面指押え，体部内面ヘラ削り，底部ヘラおこし	暗茶色～赤褐色	小石（５㎜）などの細粗砂を含む	〃	SH05
15	〃	18.65			口縁部内面クシナデ，外面端部横ナデ，体部内面指ナデ、外面クシナデ	淡黄茶色（内） 白淡黄色～暗茶色（外）	多量の粗砂を混入	〃	〃
16	〃	16.0			口縁部内面ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヘラ整形のちナデ仕上げ	灰白黄色	細砂粒かなり含む	〃	〃
17	鉢形土器	24.1			口縁部内面クシナデ，体部内面ヘラ削り，外面クシナデ仕上げ	内：白黄淡茶色 外：　〃　～黒色（一部）	多量の細砂を含む	普通	〃
18	こしき	28.3	28.5	16.3	口縁部内面クシナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削りのちクシナデ	内：黄淡茶色 外：大部分は白淡黄茶色	多量の粗細砂を混入	良好	〃
19	杯蓋		5.3	10.9	内面ナデ，外面下半ナデ，上半ヘラ削り	青灰白色	かなり砂粒を含む（１～3.5㎜位い）	〃	SH07

20	高杯形土器	20.0			内外共にナデ仕上げ	内：暗茶色 外：白黄淡茶色～暗茶色	多量の細砂を含む	普通	
21	壺形土器	4.2	8.1	4.2	内外面上半ナデ，体部内面指押え，外面ヘラミガキ（注口付き）	白淡黄色（胎土） 茶褐色の化粧土あり	水こしにごく若干細微砂混入	〃	SH10
22	分銅形土製品					淡赤茶色 黄淡茶色	かなり粗砂混入	良好	〃
23	壺形土器	15.25			口縁内外ナデ，体部内面上半ヘラナデ，下半クシ目，外面下半ヘラミガキ	内：淡黄茶色 外：淡黄茶色～黒茶色	細微砂はかなり含む	〃	〃
24	〃	16.8			〃，体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	暗茶色～黒茶色	若干の細砂及び2～3㎜以下の小石を含む	〃	〃
25	甕形土器	17.6			〃，体部内面ヘラ削り，外面クシ状工具	茶淡褐色	多量の粗砂（1㎜最大6.5㎜）を含む	〃	〃
26	甕形土器	12.6			口縁内外ナデ，体部内面指ナデ，外面ハケナデ	白黄茶褐色	かなりの細砂を含む	〃	〃
27				3.6	体部外面ヘラミガキ	白黄淡茶色	多量の細砂を含む	普通	〃
28	台付鉢形土器			8.6	鉢部内面ナデ，脚部内面ヘラ削り，外面上半ヘラミガキ，ヘラ先刺突あり	内：暗茶褐色の化粧土 外：¼が黒色他は内面と同じ	多量の細砂を含む	〃	〃
29	底部			7.0	内面ヘラ削り，外面ヘラ押え	内：大部分は黒色 外：暗赤茶色～黒茶色～黒色	かなり細砂を含む	良好	〃
30	取手				波状文あり，ヘラ削り（取手部分）				
31	高杯形土器	18.7			口縁内外ナデ，内面ナデ，外面ヘラ削り	淡黄茶色	細粗砂を含む	良好	SH10
32	〃	22.9			〃，内外面ヘラミガキ	茶褐色	かなり細砂を含む	〃	〃
33	〃	22.7			〃，内面ナデ，外面ヘラ削り	淡茶色～暗茶色	〃	〃	〃
34	〃	12.9			〃，外面5本の凹線，内面下半クシ目，外面下半ハケ目	白黄茶色	細砂をかなり含む	〃	〃
35	〃	12.7			〃，〃，内面下半ハケ，外面下半ヘラミガキ	赤茶色	かなり細砂を含む	〃	〃
36	器台形土器			18.2	内面ヘラ削りのちヘラ押え	内：黒茶色 外：黒灰色	細砂を含む	〃	〃
37	壺形土器	15.8			内面ナデ，外面クシのち横ナデ	白淡黄淡茶色	多量の細砂を含む	〃	SE01
38	〃	24.0			内面指ナデ，外面ハケナデ，口縁外周に竹菅文あり	白淡黄色	かなり細砂を含む	〃	〃
39	〃	25.5			口縁外周に5本の沈線，内外ナデ仕上げ	白灰淡茶色	多量の細砂を含む	〃	〃
40	〃	13.2			口縁内面ナデ，体部内面クシ目，外面ヘラミガキのちクシ目	内：(口)淡茶色(胴)黒灰茶色 外：化粧土（淡茶色）	水こし粘土に細砂を混入したもの	〃	〃
41	甕形土器	12.8			口縁外周に3本の沈線，内面ナデ，体部外面クシ目	淡黄茶色	細粗砂を含む	〃	〃
42	〃	14.9			口縁内外面ナデ，体部内面ヘラ削り，外面上半ハケ，下半クシ目	内：茶淡褐色　化粧土 外：黒色・白黄淡茶色・淡黄茶色	細砂を含む	〃	〃

43	〃	11.1			口縁内外面ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケナデ仕上げ	白淡茶色	細砂を含む よく粘っている	良好	SE01
44	壺形土器	12.0			〃 ， 〃 ，外面ハケナデ	内：黄淡茶色 外：化粧土（白黄明茶色）	かなりの細砂を含む	〃	〃
45	底部			6.1	外面ヘラミガキ	内：黒色 外：白淡黄色	〃	〃	〃
46	〃			5.2	〃	黒灰色・暗茶色	水こし粘土に若干の細砂を含む	〃	〃
47	高杯形土器	21.6	23.0	13.2	口縁内外ナデ，杯内外ヘラミガキ，脚内面上半シボリ，下半ヘラ削り，外面ヘラ削り	内：暗赤茶色～淡茶褐色 外：暗赤茶色～淡黄赤茶色	多量の細砂を含む	〃	〃
48	〃	25.2			口縁内ナデ，外面４本の凹線，ヘラ削り	白淡黄茶色	粗砂・細砂を含む（水こし粘土の中に）	〃	〃
49	壺形土器	13.3			内面ヘラ削り，外面４ケ所に凹線と鋸歯文	〃			SH03南側土器溜り
50	〃（？）				内外面ナデ仕上げ，４本の貼り付け突帯文	内：暗灰白色 外：黒色・白淡黄色	多量の細砂を混入している	普通	〃
51	壺形土器	23.2			口縁外面３本の凹線，内面ヘラ削りのちクシナデ，外面ヘラ刺突あり	白淡黄茶色	かなり細砂を混入した粘土	良好	SH03土器溜り
52	壺形土器	12.7	18.7	8.5	口縁，頸部内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ，底部ヘラ削り	内：淡黄白茶色 外：白黄淡茶色一部肩部に黒ハンあり	細粗砂をかなり多量に含む	〃	土器溜り
53	〃	9.0			口縁上部竹管文，端部鋸歯文，体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	外面一部黒ハン 白黄色～茶褐色	細(少)・微砂(多)を多量に含み砂っぽい	普通	〃
54	〃	31.3			内外面共にナデ仕上げ	黒色～黒灰色（口縁部）他は，白淡黄茶色	多量の細砂を混入	良好	SH03土器溜り
55	〃	26.0			口縁外面３本の凹みあり，内面ヘラ削りのちナデ，外面ナデ	白淡黄茶色	かなりの細砂を混入している粘土	〃	〃
56	蓋形土器	13.8	6.0		内面ヘラ削り，裾部ナデ，外面指ナデ，見通しの穴あり	黒茶褐色	かなり多量の細砂を混入している	〃	SH03南側土器溜り
57	鉢形土器	18.8	10.2	7.25	内面指ナデのち上部ハケ目，外面頸部にクシ目	黄淡茶色，外黒灰茶色の部分もある	多量の細砂を含む	〃	
58	器台形土器			21.9	内面ヘラ削り，ナデ，外面クシ目，数本の凹線	内：白淡黄色 外：白淡黄色，黄淡茶色，淡赤色	細砂かなり混入	〃	SH03土器溜り
59	〃			29.6	内面上半ヘラ削り，下半ナデ，外面クシ状工具，７本の凹線	白淡黄茶色	かなりの細粗砂を混入	〃	〃
60	椀形土器			7.3	指押えのちナデ，貼り付け高台		水こし粘土に微砂を含む	〃	no-9
61	椀形土器			7.2	内面ヘラミガキ，外面ナデ，貼り付け高台	内：黒色 外：白黄淡茶色	若干微砂を含む	良好	D-12 no-1 (pit)
62	小皿	8.0	1.1	5.6	内外面ナデ仕上げ，底部ヘラおこし	白黄淡茶色	水こし粘土であるが微砂が多い	普通	no-2 (pit)
63	〃	7.2	1.2	5.0	〃 〃	内：白黄淡褐色 外：白黄淡茶色	微・細砂を多量に含む砂っぽい	〃	〃

64	杯　身	11.1	4.5		内外面上半ナデ，外下半ヘラ削り	暗青灰色	若干砂粒を含んでいる	良好	包含層
65	小形壺形土器			2.8	内面ナデ，外面上半ナデ，下半ハケ状工具によるナデ	暗茶褐色，外の下半分黒色	細砂(0.5㎜以下)を混入	〃	水路側溝
66	椀形土器	14.7	6.5	6.7	指押えのちナデ仕上げ，内黒	内：黒 外：淡黄白色	水こし粘土を用いている	〃	表採
67	〃	15.1	6.5	6.4	〃　，〃	内：黒色　底：黒色 外：黒色(乳白色の半々位い)	精製粘土に若干の砂粒を含む	〃	メイン水路，西端畦畔下
68	小　皿	10.3	2.6	5.8	内外面ナデ仕上げ	明茶淡褐色	〃	〃	包含層
69	〃	10.1	2.7	4.6	〃	明淡茶色	若干砂粒を混入している	〃	D-12（排水路）
70	〃	10.05	2.4	4.1	〃　，底部ヘラおこし	淡黄茶色	かなり細砂を含む	〃	
71	〃	9.9	1.8	6.25	〃　，　〃	内：暗茶褐色　胎土：暗茶褐色 外：淡黄茶色	〃	〃	表採
72	〃	10.0	2.0	6.2	〃　，　〃	暗茶色	細砂かなり含む	〃	〃
73	〃	7.9			〃　，　〃	乳白色	水こし	〃	採集
74	〃	8.5	0.85	7.0	〃　，　〃	白淡黄茶色	水こし，水っぽい	〃	〃
75	甕形土器					〃	かなり細砂を含む	〃	D-19 SH02
76	〃					白淡黄色,灰白色(外) 白淡黄色(内上),暗茶灰色(内下)	細粗砂をかなり含む	良好	〃
77	〃					内：黒色～黒茶(褐) 外：暗茶～黒褐色	かなり細砂を含む	良好	〃
78	〃					黒褐色	細粗砂粒をかなり含む	〃	〃
79	〃					内：黒灰色 外：黄茶色	多量の砂粒(最大２㎜)を含む	〃	SH03
80	〃					内：黒色 外：黒褐色	かなり粗砂を含む	〃	SH02
81	〃					内：黒色 外：黒灰色	若干粗砂を含む	〃	〃
82	〃					暗黄淡茶色	かなり細砂混入	〃	SH03
83		14.0			内面ナデ，外面ハケナデ	淡黄茶色（化粧土）	かなりの量の細砂を含む	〃	SH02
84	甕形土器	16.0			内面ナデのちハケ，外面ハケ	白淡黄茶色	かなり細砂を含む	〃	〃
85	紡錘車					暗茶褐色	粗細砂を多量に含む	普通	〃
86	〃					内：黒茶褐色 外：黒茶色，暗褐色(下記の部分)	多量の細砂を含む	良好	〃
87	甕形土器	9.9			体部内外面指押え，頸部内外面ナデ	茶淡褐色	かなり細砂粒を含む	〃	SH03
88	〃	15.2			体部内面ヘラ削り，外面，頸部内面はナデ	内面上半化粧土(暗赤茶色) 内面下半白淡黄色	細砂粒をかなり含む	〃	〃
89	〃	22.2			〃　，上部と外面ナデ	赤茶褐色	かなり細砂を含む	〃	〃

90	甕形土器	19.4			内外面ナデ仕上げ	白黄色～明茶色	かなり細砂を含む	良好	SH03
91	〃	18.6			頸部内面ヘラ削り，上半ナデ，外面ナデ	内：白黄色 外：淡黄灰色	微砂を含む	〃	〃
92	〃	18.2			内面体部ヘラ削り，頸部ナデ，外面ナデ（沈線２本）	黒色,黒灰茶色 暗灰茶色	若干の細砂（0.4㎜以下）を含む	〃	〃
93	〃	16.0			〃 ， 〃 ， 〃 （沈線３本）	黒色,灰褐色	かなり砂粒（0.5㎜前後）を含む	〃	〃
94	〃	18.0			〃 ， 〃 ，外面体部クシ目，上半ナデ	内：暗茶褐色 外：２次焼成の媒付着	若干の細砂を含む	〃	SH03ミゾ-1
95	土玉					白淡黄色 茶淡褐色の化粧土あり	細砂かなり混入	〃	SH03
96	〃				表面にヘラ先による刺突文	化粧土わずかに残る	細砂多く混入	〃	SH03P-2
97	底部			5.2	内面指ナデ，外面指押え，底部ヘラ押え	黒色，暗茶色	かなり細砂を含む	〃	SH03
98	脚部			7.1	内外面共に指押え，内面はのちナデで仕上げ	白黄色	細砂粒若干含む	〃	〃
99	高杯形土器			10.2	内部横ナデ，外面上半クシ目	内：暗灰茶色 外：黄茶色	かなり細砂を含む	〃	〃
100	底部			7.4	内面クシ目が残る	内：黒色 外：赤茶褐色	砂粒・細砂を多量に含む	〃	〃
101	分銅形土製品					暗茶褐色	かなりの細砂混入	〃	SH01P-9
102	鉢形土器	23.8	17.6	7.0	体部内面ヘラ削り，外面ハケ目（媒付着）	内：白淡黄暗茶色一部分黒暗褐色 外：２次焼成の媒付着	かなり細砂を混入	〃	SH03 西側(中央)北隅
103	高杯形土器	24.8			内面指のちハケ，上半ミガキ（？）端部横ナデ，外面上半ナデ，下半ヘラミガキ	黄褐色～黒茶褐色	粗細砂粒を含む	〃	（２次）SH03 溝-1
104	〃	22.0			内外ヘラミガキ，脚部指押え，杯上部ナデ仕上げ	暗茶色～暗赤褐色	粗細砂粒を含む	〃	（２次）SH03 中央住・中央pit西肩
105	〃	16.5			内面はハクリ，外面上半ナデ，下半ヘラミガキのちナデ	白黄淡茶色	細砂若干微砂かなり含む	〃	SH03
106	鉢形土器	17.0			内外面共にヘラミガキ，口縁端部ナデ仕上げ	黒褐色，暗茶色	細砂をかなり含む	〃	〃
107	壺形土器	23.5			内外共にナデ,外面に鋸歯文あり	茶褐色	細砂を含むがよく粘り上げている	〃	SH04
108	〃	18.7			内面クシ状工具のナデ，外面ナデ（凹線３本）	内：茶褐色～黒色 外：白灰茶色	細砂を含む（さほど多量ではない）	〃	〃
109	〃				内面指ナデ（？）	内外面共に暗茶褐色	かなり細砂粒を含む	〃	SH04 中央pit（南側）
110	椀形土器	13.7	5.4		ハクリのため不明	黄淡茶色～赤茶色	多量の細砂粒を含む	普通	〃
111	高杯形土器	16.8			内外共に指のちハケナデ仕上げ（丹塗り）	丹塗り（暗赤色）	水こし粘土にかなりの細砂粒を混入している	良好	〃
112	〃				外面ヘラミガキ，杯内ヘラミガキ，脚内部ヘラ削り取り	内：黄黒灰色 外：黒茶暗褐色	水こし粘土に若干の細砂を混入したもの	〃	〃

113	高杯形土器	23.4			内面指ナデ，外面ハクリ	黄淡茶色	かなり細砂を含む	良好	〃
114	〃	30.8			内上半ヘラミガキ，下半指ナデ，外面上ナデ，中ヘラ削り，下指クシ目	淡赤黄茶色	〃	〃	〃
115	壺形土器	37.2			内外ヘラミガキ，端部に〝S〟字貼り付け突帯文，竹管文	白淡黄茶色	水こし粘土に若干の細砂を混入したもの	〃	用地外出土
116	甕形土器	13.0			内面ヘラ削り，外面ナデ，一部分にハケ目あり	白暗黄茶色・黒褐色	多量の細砂を混入	普通	土器溜り-1
117	〃	19.6			内面ヘラ削り，口縁部ナデ	黄茶淡赤褐色	微(多)細(多)砂混入	〃	〃
118		15.3			口縁内部外面横ナデ，内面ヘラ削り	白黄淡茶色	多量の細砂混入	普通	〃
119	甕形土器	13.1			〃 , 〃	内：白黄茶色 外：白淡茶色	〃	普通	〃
120	甕形土器	16.4			口縁内面ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ナデ，頸部指ナデ	茶褐色	〃	〃	〃
121	甕形土器	14.4			体部内面ヘラ削り，口縁内面ナデ，外面ナデ	暗黄茶褐色	若干細砂混入	良好	D-19 土器溜り-1
122	甕形土器	14.9			体部内面ヘラ削りのちナデ仕上げ，外面上ナデ，体部ハケ目	内面大部分黒色 口縁部の一部白淡黄暗茶色	若干小石（1～2㎜）を混入	〃	外面暗茶色で2次焼成の媒付着
123	甕形土器	17.5			体部内面ヘラ削り，口縁内面ナデ，外面ナデ	黄淡茶色・白淡茶色 黒灰色	多量の細砂混入	普通	土器溜り-1
124	高杯	17.2	10.3	11.6	杯・脚内外共にヘラミガキ，口縁内外ナデ	内：茶淡褐色 外：白淡黄茶色）化粧土	水こし粘土を用いている かなり細砂の混入あり	良好	〃
125	台付壺形土器	6.8			体部内外面指押エ，外面と口縁内部ヘラミガキ，脚外面ヘラミガキ	暗茶色 暗赤茶色(化粧土)丹塗り	かなりの細砂を混入した粘土	〃	(2次)土器溜り-2(SK-)
126	台付鉢形土器	11.3	11.3	6.4	内面ハケナデ，外面はクシ状工具，指押え，ナデによる仕上げ	淡茶色	多量の細粗砂を混入	〃	土器溜り-2
127	椀形土器	12.0	4.9	3.7	ハクリのため不明	内：黄茶色 外：灰黄茶色～暗茶色一部黒色	かなりの細砂を混入	やや不良	(2次)土器溜り-2(SK-)
128	高杯形土器	30.4			内面ヘラミガキのちナデ仕上げ，外面横・縦のヘラミガキ，下半はのちヘラおさえ	白黄淡茶色 茶淡褐色の化粧土を塗布	水こし粘土にかなり細砂を混入したもの(もろい)	良好	土器溜り-2
129	鉢形土器	33.8			体部内面ヘラ削り，口縁内面及び外面全体ハケナデ	茶褐色の化粧土を塗布している	多量の細粗砂を混入	良好	〃
130	甕形土器	17.7			口縁内外ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ削り	茶褐色	かなりの細粗砂を混入	良好	下段 SK02
131	〃	15.9			〃 ，体部外面ハケ，内面ヘラ削り	内：白淡茶色～暗茶色 外：化粧土（暗茶色）	多量の粗砂粒（1.5～2㎜前後）を混入	〃	SK02
132	〃	16.8			〃 ，体部内面ヘラ削り		多量の粗砂（0.5～2㎜前後）を混入	〃	〃
133	〃	19.7			〃	暗赤茶色	多量の細粗砂を混入	普通	SK03
134	〃	13.8			〃 ，体部内面ヘラ削り	淡赤茶色	かなりの細砂を混入	良好	SK02
135	〃	16.3			〃	茶淡褐色	微細砂をかなり混入	〃	〃

136	甕 形 土 器	15.0			口縁内外ナデ，体部内面ヘラ削り	暗茶色	わずかに細砂を混入	良好	SK02
137	〃	8.8			体部内面に指頭痕		多量の細微砂を混入	〃	〃
138	鉢 形 土 器	7.7	4.2	2.5	内面ハケ状工具，外面指押え	淡茶色	かなりの細砂を混入	〃	〃
139	〃	12.45	7.0	3.5	外面ハケ状工具，下部指押え	茶淡褐色	微砂多量 細砂若干）含む	〃	〃
140	底　　部			4.2	内面ヘラ削り，外面ハケ目	内：白淡黄茶色 外：暗茶色～黒暗茶褐色	多量の細砂を混入	〃	〃
141	高杯形土器	16.6			内面ナデ仕上げ	内：茶褐色 外：白淡茶色	多量の粗砂を混入	普通	〃
142	〃			18.0	内部荒いハケ目	内：淡黄茶色～暗茶色 外：黒灰色～黒色　白淡茶色～茶淡褐色	水こし粘土を用いている微砂が非常に多い	良好	〃
143	甕 形 土 器	14.1			口縁内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	暗黄茶色，暗灰黒褐色	かなり細粗砂混入	〃	D-13　pit3
144	〃	18.6			体部内面ヘラ削り，外面ナデ	黄茶淡褐色	かなり粗細砂混入微砂多量	普通	〃
145	底　　部			6.8	〃　，外面細かいヘラミガキ	白黄淡茶色 暗灰色～黒色（1/4）	かなり粗砂粒混入	良好	〃
146	高杯形土器	21.6			内面ナデ，外面上半ナデのちハケ，下半ヘラ削りのちナデ	淡黄茶淡褐色	多量の細砂混入	普通	〃
147	壺 形 土 器			10.6	内面指押えのちナデ，外面ヘラ削りのちナデ	白黄淡茶色，黒ハン	粗砂多く含む	良好	SD01
148	甕 形 土 器	27.4			内面ナデ，外面指押えのちナデ	白黄淡茶色	多量の粗砂粒混入	普通	〃
149	〃					黒褐色（下） 暗茶黒褐色（上）	細粗砂多量に混入	良好	〃
150	〃					淡赤茶褐色	かなりの粗砂粒混入	〃	〃
151	〃				内面ナデ仕上げ	暗茶淡褐色	多量の粗細砂混入	普通	〃
152	〃				〃	黒褐色	かなりの粗砂混入	良好	〃
153	〃				〃	白黄茶色	かなり多くの粗砂混入	〃	〃
154	〃				〃	暗黄灰茶色	細粗砂多く混入	〃	〃
155	〃				内外面ナデ仕上げ	淡黄茶色（化粧土）	かなり細砂混入	〃	〃
156	〃				内面ナデ仕上げ	淡茶色黒灰褐色	若干粗砂混入	〃	〃
157	〃				内面指ナデ仕上げ	黒褐色，黒色（小）	かなり粗砂混入	〃	〃
158	〃				内面ナデ	黒茶褐色	かなり粗砂混入	〃	〃
159	〃			6.7	底部裏面ヘラ押え	淡黄茶，淡褐色	粗砂多く混入 2 ㎜前後	〃	〃
160	〃			7.8	外面ヘラミガキ，内面はハクリして不明	黄淡茶色	多量の粗砂粒混入0.2～1 ㎜	〃	〃
161	〃			7.4	内外面ヘラミガキ，外面下部ナデ	淡黄茶色，黒色（1/4）	かなり細砂粒混入	〃	SD01（下層）
162	壺 形 土 器				内面指ナデ	白黄茶淡褐色	多量の砂粒混入 2 ㎜前後	普通	SD05

163	壺 形 土 器				内面指ナデのちナデ	淡赤茶褐色（上） 黒褐色（下）	多量の粗砂粒混入	良好	SD05
164	〃				〃	暗茶黒褐色	かなり多量の粗砂粒混入	〃	〃
165	甕 形 土 器				〃	黒茶褐色	多量の細砂混入	〃	〃
166	〃				〃	白黄茶色	かなりの粗砂粒混入	〃	〃
167	〃				〃	黒茶褐色	多量の粗砂粒を混入	普通	〃
168	鉢 形 土 器	12.8			ハクリしているため不明	黒灰色，暗黄茶褐色 黒褐色	かなりの粗砂粒混入	〃	〃
169	壺 形 土 器	21.9			内面ナデ仕上げ，外面ハクリで不明	白淡黄茶色	多量の粗砂粒混入	〃	〃
170	甕 形 土 器				内面指押えのちナデ	暗灰暗茶色	多量の細粗砂混入	良好	SD07
171	〃				〃	黒色，暗灰茶色 白淡茶黄色	粗砂粒多く混入	〃	〃
172	〃					白淡黄茶色 暗茶褐色	多量の粗砂粒混入	〃	〃
173	壺 形 土 器					白淡黄色 黒灰褐色（部分）	若干粗砂混入	〃	〃
174	甕 形 土 器				内面ナデ仕上げ	黄褐色 白淡黄茶色	かなり粗砂混入	〃	SK02
175	〃				〃	白淡茶色 灰白色～黒色（部分）	かなり多くの粗砂混入	〃	SX02
176	台付鉢形土器			5.4	内面ヘラ削りのちナデ，外面ナデ，底部ヘラ削り	赤褐色，黒灰褐色（部分）	多量の粗砂粒混入	良好	SD07
177	皿 形 土 器	15.0	4.5	7.2	内外共にナデ仕上げ，ヘラおこし	内：白淡茶色 外：白淡黄茶色，灰白色～黒灰色（一部）	細砂を多量に含むが水こし粘土を用いている	良好	包含層
178	壺 形 土 器	15.3			〃	黒灰褐色，白黄色	かなり粗砂混入	普通	D-28（下層水田）
179	〃					灰淡茶色	細砂かなり混入	良好	〃
180	〃					暗茶褐色	粗砂多量	普通	〃
181	〃					内：灰暗黄色 口：黒褐色 外：暗茶褐色	多量の粗砂混入	〃	水田層
182	甕 形 土 器					茶暗褐色	かなり粗砂混入	〃	〃
183	〃					内：黒灰茶褐色 外：黒色	多量の細砂混入	普通	〃
184	壺 形 土 器								水田層上面
185	〃（底部）			7.6	内外ナデ仕上げ，ヘラおこし	白淡黄色，明茶淡褐色（外） 内：暗灰茶色	かなり粗砂0.2～2㎜混入	普通	水田層
186	〃			7.8	ヘラおこし	淡黄色，黒灰暗褐色 暗黄茶色	粗砂かなり多く混入	〃	〃
187	壺 形 土 器	19.4			体部内面ヘラ削り，外面頸部ナデ，体部ヘラミガキ（転用器台？）	淡黄茶色，茶褐色	かなりの細砂混入	良好	溜り

188	甕形土器	12.4	20.8	4.3	口縁内外ナデ，外面頸部ナデ，体部ヘラミガキ（転用器台？）	茶褐色 淡黄淡茶色	若干細砂混入	良好	溜り
189	鉢形土器	12.5			〃　，内面ヘラ削り，外面ハケ目	胎土は赤茶褐色	多量の細砂混入	普通	〃
190	壺形土器	12.0			内外ナデ，体部内面ヘラ状工具	茶褐色	かなり細砂混入	普通	〃
191	甕形土器	12.8			外面クシ状工具のナデ	灰淡茶色	〃	良好	D-25 SD02
192	〃	13.6			口縁内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ナデ（ハケ）	白暗灰色 黒灰褐色	ごく若干細砂混入	良好	〃
193	〃	19.0			〃　，　〃	茶淡褐色 黒褐色（少）	若干細砂混入	〃	〃
194	〃	17.0			〃　，　〃	白黄淡茶褐色	かなりの細砂混入	普通	〃
195	〃	14.4			〃　，　〃　，体部外面クシ目	白淡黄淡茶色 暗灰淡茶色（下）	ごく少量の細砂混入0.1㎜以下	良好	〃
196	〃	7.3				内：黒褐色 白淡茶色	ごくわずかに細砂混入	〃	〃
197	〃	13.0			口縁内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	黒褐色	細砂多く混入	〃	〃
198	〃	17.4			〃　，　〃	内上：黒灰色　内下：黒灰茶色 外：黒色	かなり多くの細砂混入	〃	〃
199	底部			10.4	内面ヘラ削りのちナデ，外面ヘラ削り，下部はのちナデ仕上げ	淡黄茶淡褐色	多量の粗砂粒混入 max 3㎜	〃	〃
200	高杯形土器	20.2			内外面共にナデ仕上げ	暗茶淡褐色	多量の細砂混入	良好	〃
201	〃	21.9			〃　，外面下部ヘラ削り	白黄淡茶色	若干細砂混入	〃	〃
202	器台形土器			25.4	内面ヘラ削り，下部ナデ，外面上半クシ，下半ナデ	白淡茶色	〃	〃	〃
203	甕形土器	15.9			口縁内外ナデ，体部内面ヘラ削り	淡茶色（外下） 白淡灰淡茶色	かなりの細砂混入	〃	SD03
204	〃	14.5			〃　，　〃	灰白淡茶色	細砂多量に混入	普通	〃
205	〃	17.2			〃	暗茶淡褐色	〃	良好	〃
206	〃	26.4			内外面共にヘラ削り	黒茶褐色～黒色	多量の粗細砂を混入したもの	〃	斜面堆積
207	壺形土器	11.0			内面指ナデ	白淡黄色	微細砂多く混入	普通	D-21 SHpit
208	〃	7.2			〃　，外面ヘラミガキ	黄茶褐色	水こし粘土	良好	〃
209	〃	14.3			内面上部ナデ，下部ヘラミガキ，外面ハケ目，下部ヘラミガキ	黒茶淡褐色	かなり細砂混入	〃	〃
210	〃					表：黒色　裏：黒灰褐色	若干の細砂混入	〃	〃
211	〃	13.3			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り	茶淡褐色（胎土） 暗茶褐色（外表面）	かなり細砂混入	〃	〃
212	〃	22.2			内外共にヨコナデ，内面下部ヘラ削り	茶淡褐色 黒灰褐色	かなり粗砂粒混入	〃	〃

213	壺形土器	25.6			内外共にヨコナデ	白黄淡茶色	細砂かなり混入	良好	D-21 SHpit
214	〃	15.8			口縁内外共にナデ，体部内面ヘラ削り，外面上半ヘラミガキ	黄茶褐色	多量の細砂混入（微砂多い）	普通	〃
215	甕形土器	23.3			〃 ， 〃 ，外面クシ状工具	茶褐色 黒灰茶色～黒褐色	かなりの細砂粒混入	良好	〃
216	〃	18.4			口縁内外共にナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	暗黄茶色（上） 暗茶褐色（下）	かなりの細砂混入	〃	〃
217	鉢形土器	9.5	4.55	3.2	外面指ナデ	内：茶褐色 外：黒茶褐色	細砂多量に混入	普通	〃
218	〃	9.0	6.6	4.0	上部内外ヨコナデ，体部内外指ナデ	白淡茶色 黒灰淡茶色	若干の細砂混入	良好	〃
219	手捏土器			2.7	内外共に指ナデ	白淡黄淡茶色	多量の細砂混入	普通	〃
220	〃	8.0			〃	黄淡茶色，暗灰色	細粗砂多く混入	良好	〃
221	甕形土器	14.0			口縁内外ヨコナデ，，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	淡赤茶色，暗茶褐色 黒茶暗灰色	粗砂多く混入	良好	〃
222	〃	13.4			内外共にナデ，内面頸部ヘラ削り	内：黄茶褐色 外：黄灰色，黒灰色	かなり粗砂0.2㎜前後混入	普通	〃
223	壺形土器	13.7			内外面共にヨコナデ	白黄淡茶色	かなりの細砂混入	良好	〃
224	〃	19.3			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	白黄色（若干淡茶色あびる）	〃	普通	〃
225	甕形土器	13.8			口縁内面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面クシ状工具のナデ	茶褐色	かなり多くの細砂混入	普通	〃
226	〃	15.9			口縁内外共にナデ，体部内面ヘラ削り	黄淡茶色（上） 茶淡褐色（下）	多量の細砂混入	〃	〃
227	〃	15.9			口縁内面・外面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り	淡黄茶褐色	かなり細粗砂混入	良好	〃
228	〃	20.5			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面ナデ・ミガキ	淡黄淡茶色	かなり細砂混入	良好	〃
229	〃	16.4			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	白淡茶色	かなりの粗砂粒混入	普通	〃
230	〃	14.3			口縁内面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヨコナデ	暗黄茶褐色	多くの細砂混入	普通	〃
231	〃	14.8			〃 ， 〃	黒灰暗（茶）褐色	かなり多くの細砂混入	良好	〃
232	底部	6.8			内面ヘラ削り，外面ハケ目，底部ヘラ切り・押え	内上：黒褐色 内下：淡黄茶色 外：黒色，暗茶褐色，淡黄赤暗茶色	かなり粗砂粒混入	〃	〃
233	〃			4.8	〃 ，外面指のちハケ，底部へら切り・指ナデ	暗黄赤茶褐色	多量の粗砂混入	〃	〃
234	鉢形土器	21.5			口縁内部ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヨコナデ	内：白淡茶色 外：暗灰淡茶色	ごく若干細砂混入	〃	〃

235	鉢形土器	29.4			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面クシ目，ハケ目	内：黄淡茶色 外：暗黄茶色	砂粒（0.5～2㎜）多く混入	良好	D-21 SHpit
236	〃	27.5			〃，体部内面ヘラ・ヘラミガキ，外面指のちハケ	胎土：白黄淡茶色	細砂多量に混入	普通	〃
237	〃	20.8			〃，体部内面ヘラ削り，外面頸部ヘラミガキ，体部ナデ	内上，外：白黄茶褐色 内平面より下：黒色	かなり細粗砂混入	良好	〃
238	〃	17.0			〃，〃，外面指ナデ	白黄淡茶色一部に黒色，暗褐色	かなり多めの細砂混入	普通	〃
239	〃	20.8			〃，〃，外面ナデ	暗黄淡茶色	かなりの細砂混入	〃	〃
240	〃	14.7			〃，〃	黒暗緑色，黄茶色 胎土：黄茶色	多量の細砂混入	普通	〃
241	鉢形土器	14.0			〃，〃	暗黄茶色	かなり細砂多く混入	〃	〃
242	高杯形土器	19.2			外面上部ヘラミガキ，内面ハクリで不明	白黄淡茶色	微細砂多く混入	〃	〃
243	〃	13.8			内外面共にナデ	〃	多くの細微砂混入	〃	〃
244	〃	17.9			内面ヘラ削り（？）のちナデ，外面ナデ	〃	微細砂多く混入	〃	〃
245	脚部			11.2	内面シボリ，ナデ，外面ナデ	淡黄茶色 茶褐色（化粧土）表面	細砂多量に混入	〃	〃
246	〃			22.3	内面ヘラ削り，下部ナデ，外面ヨコナデ	淡黄茶褐色	かなり多量の細砂混入	良好	〃
247	鉢形土器	10.95	6.4	1.5	口縁内部ヨコナデ，体部指押えのちヘラミガキ，外面ヘラミガキ	½には暗赤茶褐色の化粧土 ¼暗茶褐色の化粧土 〃　でハクリし黒色を呈す	若干細砂を混入	〃	D-22 SH02 中央pit
248	壺形土器	13.8			内外面ナデ仕上げ	白淡黄色，暗黄緑色 黒茶褐色	微（多）細（少）細砂多量に混入	普通	SH03（W）
249	〃	12.6			口縁内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面荒いハケ目	暗黄茶褐色 茶褐色	かなり細砂混入	良好	SH03（E）
250	〃			5.8	内面ヘラ削りのちナデ仕上げ，外面下指ナデ，全体をハケナデ仕上げ	暗赤茶色 黒茶暗褐色	細（多）粗（若干）砂混入	良好	〃
251	甕形土器	13.2			口縁内外ナデ仕上げ，体部内面ヘラ削り，外面指のちハケナデ	暗黄茶色 黒茶暗褐色	多量の細粗砂混入粗砂若干少なめ	良好	SH03（W）
252	高杯形土器	14.1			口縁内部ヨコナデ，体部ヘラミガキ，外面ヘラミガキ	黒茶褐色）半々 茶褐色）	かなりの細砂混入	〃	〃
253	〃	14.5			内面ヘラミガキ，外面上半ナデ，下半ヘラミガキ	白淡黄茶色	かなりの粗砂0.5～1.0混入	〃	SH03
254	甕形土器	14.6			内面上半ヨコナデ，体部ヘラ削り，外面頸部・肩部ヘラミガキ，体部ハケ目	暗茶褐色 黒暗褐色（少）	かなりの細砂混入	〃	SH03（W）
255	鉢形土器	35.0	17.9	6.8	口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面荒いハケ目	暗茶褐色 黒灰暗茶褐色	細微砂かなり混入	〃	〃
256	壺形土器	35.45			内面荒いハケ目	内：暗茶色の花粧土塗布 外：暗茶～黒茶褐色	多量の細粗砂を混入	〃	SH04埋土中
257	高杯形土器	24.2			内面ヘラミガキ，外面口縁ハケ状工具，ヘラミガキ	淡黄茶褐色	水こし若干の細砂混入	〃	SH04（E）

258	甕形土器	13.4			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り	茶褐色	かなり多くの粗砂を混入	普通	SH04 (W) 中央pit
259	高杯形土器	28.9			口縁内外ヨコナデ，下半内外ハケ目	黄茶褐色	水こしかなり細砂混入	良好	SH04 (W)
260	甕形土器	8.1			内面上半ナデ，体部ヘラ削り，外面上半荒いハケ目，下半指ナデ	黄淡茶色 黒暗褐色（少）	水こし若干細砂混入	〃	D-22・23 SH06
261	鉢形土器	12.2			口縁内外ヨコナデ，内面体部ヘラ削り，外面ヘラミガキ	暗黄淡茶色	かなりの細砂を混入	〃	〃
262	甕形土器	12.0			内外共にヨコナデ	暗黄茶色（少） 黒茶褐色	〃	〃	SH04 (W) 中央pit
263	〃	13.0			内外面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り	黒茶暗褐色	かなり細砂混入	〃	SH06
264	〃	12.3			口縁内外面ヨコナデ，内面体部ヘラ削り，外面ハケ目	暗黄茶褐色	微細砂かなり混入	普通	〃
265	〃	14.2			〃 ， 〃 ， 〃	黒茶褐色	〃	良好	〃
266	〃	16.0			口縁内面ヨコナデ，体部ヘラ削り，外面ヨコナデ	暗黄色（少） 茶褐色	細砂多く混入する	普通	〃
267	壺形土器	13.3			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外部ヘラ削り（？）	暗黄淡茶色	かなりの細砂を混入	良好	〃
268	台付甕形土器			8.3	内面ヘラ削り，外面体部ヨコナデ，脚部指押えのちナデ仕上げ	白黄色（少） 茶褐色	かなり細砂混入	〃	〃
269	壺形土器	25.8			内外上半ヨコナデ，下半内面ヘラ削り，外面ナデのち荒いハケ目	白淡黄茶色	若干細粗砂混入	〃	〃
270	高杯形土器			9.0	内面ヘラ削り，外面ナデ	淡黄茶色	細粗砂多く混入	〃	〃
271	〃	21.5		11.3	杯内面ヘラミガキ，外面ケズリのちナデ，脚内面ヘラ削り，外面クシ状工具	杯：暗黄茶色 脚内：赤茶褐色	かなり多量の細粗砂を含む	〃	SH06 P-4
272	〃	21.3	13.65	11.2	内外口縁ナデ，杯内面ヘラミガキ，外面クシ状工具，脚内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	茶褐色	かなり細砂混入	〃	SH06 pit
273	甕形土器	14.2			内外面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り	黄淡茶褐色 黒茶暗褐色	若干の細砂を混入	〃	D-23 SH08
274	杯			10.2	内外共にナデ仕上げ，ヘラおこし	白灰色	若干細砂混入	〃	SH08
275	壺形土器	20.9			〃	淡灰色，黒灰色 暗茶褐色	多量の細砂を混入	〃	D-22 SD02
276	甕形土器	35.0			〃 ，内面下半ヘラミガキ	内：茶褐色 外：白淡黄色，茶淡褐色	多量の粗砂粒を混入	〃	〃
277	壺形土器	19.6			内外共にナデ，頸部内面シボリ（？）	白淡黄茶淡褐色	かなりの粗細砂を混入	普通	〃
278	甕形土器	14.9			〃	内：白灰色，暗灰色 外：白灰色	かなり多めに粗砂粒混入	良好	〃
279	〃	15.5			〃	白淡茶色	細砂を（かなり）多く混入	普通	〃

280	高杯形土器	17.3			内外面共にナデ，部分的に斜めのハケ目残る	内：淡黄茶褐色 外：白黄淡茶色	水こし，若干の微砂混入	良好	D-22 SD02
281	器台（？）			21.0	内面ヘラ削り，外面上半クシ目，下半ナデ	内：白黄淡茶色 外：白淡黄淡茶色	かなり細砂混入	〃	〃
282	底部			5.1	底部ヘラ削り（？），（モミ痕あり）	内：白淡黄茶色，暗褐色 外：黒灰色	多量の粗砂0.5㎜以下を混入	〃	〃
283	壺形土器	17.3			内外面共にナデ仕上げ	内：淡黄茶色，暗茶褐色 外：黒茶褐色	細粗砂かなり混入	〃	SD03
284	甕形土器	19.0			内外面共にナデ	内：黒灰色 外：黒暗褐色	多量の細砂混入	普通	〃
285	〃	15.0			口縁内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り	内：黒色，黒褐色 外：黒褐色，茶褐色	細砂多量に混入	普通	SD03
286	〃	12.8			〃	黒茶暗褐色	細粗砂若干混入	良好	〃
287	高杯？				指ナデ（？）	淡黄茶色 化粧土（内外）：茶褐色	若干細砂混入	〃	〃
288	底部			4.8	内面ヘラ削りのち指ナデ，外面荒いハケ目，底部ヘラおこし	赤暗茶褐色	かなり粗砂粒混入0.2～2㎜	〃	〃
289	〃			4.3	〃，外面ハケ，底部ナデ仕上げ	暗黄茶褐色 黒茶暗褐色	多量の細砂混入	〃	〃
290	高杯形土器	21.6			内外面共にヘラミガキ	暗黄茶褐色	水こし，若干の細砂混入	良好	〃
291	〃	24.4			ハクリのため不明	〃	細粗砂（多）混入	普通	〃
292	壺形土器	12.5			口縁部内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面横・斜のナデ仕上げ	暗茶褐色	かなりの細砂混入	良好	SK01（上）
293	〃	9.8			内外共にナデ	黒茶暗褐色	かなり細砂混入	〃	SK01
294	〃	10.8			〃	白黄（淡）茶色	水こし，若干細砂混入	〃	〃
295	〃	32.0			内外共に指ナデ後クシ状工具による仕上げ	白淡黄色，黄淡茶色，茶淡褐色 （化粧土あり）←淡赤茶色	細粗砂粒かなり良好	〃	〃
296	〃	19.0			内面ヘラミガキ，外面ナデ	淡黄暗灰褐色 黒灰暗褐色（少）	かなりの細砂混入（かたい）	〃	〃
297	〃	39.0			内面ナデ，外面ヘラ削り	黒色（部分）灰黒褐色 灰淡黒褐色（内）	〃	〃	〃
298	〃	11.6			口縁内面ナデ，頸部内面シボリのちナデ，外面縦のハケ目のち凹線，体部内面ヘラ削り	白黄淡茶色	細砂若干混入（水こし）	〃	〃
299	台付椀形土器	12.8	6.8	5.8	内面指ナデ仕上げ，外面指押えのちナデ仕上げ	暗茶褐色	かなり細砂粒を混入	〃	〃
300	壺形土器	14.8			内面，外面上半ヨコナデ，外面下半ヘラミガキ（？）	白淡黄淡茶色	〃	〃	〃
301	〃				内面ヘラミガキ，外面凸帯の上・下ヘラミガキ，中間ナデ	内：黒色 外：白淡黄茶色	粗砂粒（0.5～1㎜）かなり混入	〃	〃

302	壺形土器				内面ヘラミガキ	内：白淡黄淡黄色 外：淡黄茶色	多量の細砂混入	良好	D-22 SK01
303	甕形土器	16.6			内外面共にナデ	白淡黄色 淡赤茶褐色	細砂粒かなり混入	〃	〃
304	〃	13.6			口縁部内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	黒茶暗褐色	粗砂粒多量に混入	普通	〃
305	〃	15.5			〃 ， 〃 ， 〃	暗茶褐色黒茶褐色	かなり細砂混入	良好	〃
306	底部			5.6	内面指押えのちナデ，外面ハケ目，外面下部・底部指押え	淡赤茶色（一部） 黒茶褐色	細粗砂粒かなり混入	〃	〃
307	高杯形土器	23.5			内面・外面下半ヘラミガキ，外面上半ヨコナデ	白淡黄茶褐色	〃	〃	〃
308	鉢形土器	19.7			口縁部内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	白淡黄色，黒色（少） 淡黄茶色	細砂多量に混入	〃	〃
309	〃	15.5			〃 ， 〃 ，外面ナデ一部にハケ目あり	白淡黄色 （暗茶褐色の化粧土）	水こし細砂多量に混入	〃	〃
310	手捏土器	7.2	8.5	2.8	指押え，内外口縁部ヨコナデ仕上げ	白淡茶色（少） 淡黄茶色，化粧土（茶褐色）	多量の微，若干の細砂混入	〃	P-9
311	甕形土器	14.1	16.1	5.9	口縁部内外ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面上半ハケ目，下半ヘラ押え	淡茶褐色（上） 黒茶暗褐色（下）	かなり細砂混入	〃	P-15
312	〃	12.0			口縁内面ヘラミガキ，体部内面ヘラ削り，外面ナデ仕上げ	白淡茶色（少）暗赤茶色 茶暗褐色（内）茶褐色	多量の粗砂混入	〃	P-16
313	〃	8.4			内外面共にヨコナデ仕上げ	淡茶（淡褐）色	粗砂かなり多く混入	〃	P-17
314	〃	15.7			口縁内面ナデ，体部ヘラ削り，外面ナデ仕上げ	白淡黄淡茶色	多量の細砂混入	普通	〃
315	高杯形土器	23.5			内外面ナデ（？），外面下部はヘラ削り（？）	明茶褐色	多量の微細砂混入	〃	〃
316	〃			28.0	内面ナデ仕上げ，外面上半ヘラミガキ，下半ヨコナデのち凸帯貼り付け	淡赤茶褐色	かなりの細砂を含む	良好	〃
317	底部			8.9	内面ヘラ削り，外面・底部裏面指押え	淡赤褐色，暗黄茶褐色	多量の細砂混入	普通	P-18
318	甕形土器	16.0			内外面共にナデ仕上げ	内：暗茶褐色（下地） 外：二次焼成の媒	かなり細砂混入	良好	P-22
319	〃	12.5			口縁内部・外面ははナデ仕上げ，体部内面ヘラ削り	内：白黄茶褐色 外：黒茶暗褐色	〃	〃	P-23
320	〃	15.5			口縁内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ状工具	内下：明茶褐色 外下：明茶暗褐色 口：二次焼成の媒付着	かなり細砂粒混入	〃	P-25
321	〃	17.0			〃 ， 〃 ，外面荒いハケ目	黒暗褐色	若干粗細砂を混入	〃	P-27
322	〃	15.7			〃 ， 〃 ，外面指押えのちハケナデ仕上げ	黒茶褐色 茶暗褐色（内下）	かなり粗砂粒混入	〃	〃
323	高杯形土器			20.1	内面上半ナデ，下半ヘラ削り，外面ヘラミガキ	淡黄茶淡褐色	水こし細砂混入	〃	〃

324	脚　　部			11.8	内面クシ目，外面上・下部ヨコナデ，中間荒いハケ目	白淡黄茶褐色	かなり細砂を混入	良好	P-27
325	甕 形 土 器	17.2			口縁内部ヨコナデ，外面ヘラ先の押え	上：黒茶褐色 下：茶淡褐色	若干細砂混入	〃	P-30
326	〃	10.6			口縁内外面ナデ，体部内面ヘラ削り，外面下半ヘラ削り	黒茶暗褐色	細砂かなり混入	〃	P-31
327	鉢 形 土 器	18.8			内面ヘラ削り，外面上半ナデ仕上げ，下半ナデのちミガキ風の仕上げ	茶淡褐色	かなりの粗砂粒を混入	〃	〃
328	手 捏 土 器	3.1	1.65		指押え	黒茶暗褐色	若干細砂混入	〃	P-42
329	甕 形 土 器	13.4			口縁内部・外面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り	暗茶色	〃	〃	〃
330	高杯形土器	14.9			内外面共に荒いハケ状工具によるナデ仕上げ，外面下部ヘラ削り	茶淡褐色	ごくわずかに細砂混入	〃	〃
331	壺 形 土 器	14.1			内面ナデ，外面上半ナデ，下半ヘラミガキのちクシ目	内：黒褐色，白淡黄淡褐色 外：黒色	若干細砂を混入	〃	P-46
332	高杯形土器	22.7			内面ナデ仕上げ，外面上半ナデ，下半ヘラ削りのちクシ目	淡茶色 暗茶褐色	水こし（？）かなり細砂混入	〃	P-48
333	壺 形 土 器	12.0			内外ナデ仕上げ，体部内面ヘラ削り	黒灰色，黒褐色 白淡灰色	かなりの粗細砂粒を混入	普通	P-54
334	高杯形土器	34.6			口縁内外ヨコナデ，杯部内外ヘラミガキ	茶褐色	細粗砂混入	良好	P-56
335	〃	33.8	18.4	19.9	内外全体ヘラミガキ，裾内部下部ナデ仕上げ	淡黄茶色	細砂含む	〃	P-59
336	〃	27.4	14.6	15.3	杯部内外ヘラミガキ，脚内面シボリ，下半ヘラ削り	白淡黄色 黄淡赤茶褐色	多量の細微砂を混入	普通	〃
337	甕 形 土 器	13.65	16.0	3.2	体部内面上半荒いハケ目，下半ヘラ削り，底部指痕，外面ハケ目	内：暗茶褐色 外：暗茶色～暗赤茶色	多量の細砂を混入	良好	包含層
338	〃				内面ハケ目，外面タタキ目	暗茶色 外下：２次焼成の媒付着	若干の細砂を含む	〃	
339	高杯形土器	12.5	8.8	10.25	杯内外ナデ，脚内部ヘラ削りのちナデ仕上げ	灰白色	かなり細砂・微砂を含むものである	普通	包含層
340	〃	17.15	10.35	12.2	杯内外ヘラミガキ，脚内面ヘラ削りのちナデ	暗黄茶色	水こし粘土	良好	〃
341	高 台 付 椀	12.1	4.15	5.6	内外面共にナデ仕上げ	乳白色	細砂かなり含む	〃	〃
342	甕 形 土 器				口縁外面貼り付け突帯	白黄茶色	かなり多量の細粗砂混入 0.5mm以下（粗砂）	普通	D-20 SH01
343	〃				〃	白黄淡茶色	多量の細砂混入	〃	〃
344	〃				〃　，外面クシ描き沈線	黄茶淡褐色，暗灰色	かなりの粗砂混入	〃	SH01
345	〃				外面クシ描き沈線	黒茶褐色，黒褐色	粗砂多量に混入	〃	SH01
346	〃				〃	茶淡褐色，黒褐色	粗砂かなり多く混入	良好	SH01
347	〃				〃　，内面ヘラミガキ	暗黄茶暗褐色	かなりの細粗砂混入	〃	〃
348	〃				体部内面指押えのちナデ仕上げ	黄茶色，暗茶褐色	かなり細砂混入	普通	SH01
349	〃				体部内面ヘラミガキのち指ナデ仕上げ	白淡茶色，暗茶黒褐色	多量の細砂を混入	良好	SH01 pit-1

350	甕形土器				体部内面指押えのちナデ仕上げ，外面沈線	暗茶褐色	かなりの粗砂粒を混入	普通	D-20 SH01 pit-1
351	〃				体部内面指ナデ仕上げ，外面沈線	黒暗褐色（上），暗黒茶褐色 内：淡茶色	かなり粗砂粒混入	良好	〃
352	〃				〃	白淡茶色，茶淡褐色	若干の粗かなりの細砂混入	〃	〃
353	〃				内面ナデ仕上げ	黒茶褐色	多量の細砂混入	普通	SH01 pit-2
354	〃				〃	内：黒色 外：淡黄暗灰色	かなり細砂混入	普通	〃
355	〃				内面指押えのち上半ヘラミガキ，口縁端部キザミ目	暗茶褐色（外）	かなりの粗砂混入	良好	〃
356	〃				内面ナデ仕上げ	白淡黄色	多量の細砂混入	〃	〃
357	紡錘車				土器片利用	白黄淡茶色	細砂かなり混入	普通	〃
358	底部			5.2	外面底部ヘラミガキ	黒褐色，暗赤茶褐色 黄茶褐色	かなりの量の細砂混入	良好	SH01
359	〃			4.8	内面指ナデ，底部貼り付け，指押え，裏面ヘラおこし	黄淡茶色（少） 黒色～黒灰色	水こし若干の細砂混入	〃	〃
360	〃			5.2	〃，外面下部指押え，底部ヘラおこし	白黄色	水こし（もろい）	〃	〃
361	〃			16.5	内面ヘラ削り，外面指押えのちハケナデ	暗赤茶色 黒褐色（(媒）部分）	多量の粗砂粒混入0.2～3㎜	〃	〃
362	〃			9.8	内面ヘラ削りのちナデ，外面ナデ，底部ヘラ削りのちナデ	内：暗黄灰色 外：暗茶褐色	かなり多くの細粗砂混入	良好	SH01 pit-1
363	〃			7.8	内面指ナデ仕上げ，底部ヘラ切り，指ナで	淡赤茶色，黄淡白茶色	多量の細砂粒混入	良好	〃
364	〃			7.2	内面ヘラ削りのち指ナデ，外面ヘラミガキ，底部ヘラ切り・ナデ	白淡黄色，茶褐色 暗灰茶褐色	水こしかなりの細粗砂混入	〃	SH01 pit-2
365	〃			5.4	内面ナデ仕上げ，〃，〃	暗赤茶色，黒褐色	多量の細砂混入	良好	〃
366	壺形土器	16.4	47.7	11.0	頸部シボリ，体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	白淡黄淡茶色，茶褐色 黒茶褐色	粗砂粒多量に混入	〃	SH03
367	〃	17.5	41.6	10.2	〃，〃，〃，底部ヘラミガキ	白淡黄淡茶色	かなり粗砂混入	良好	〃
368	〃	12.0	30.3	10.0	体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ,ハケ目，頸部にヘラ先の刺突	白黄茶褐色	若干砂粒混入	〃	D-22 P-59
369	〃	15.3	31.8	9.1	頸部内面シボリ，体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	白黄淡茶色	かなりの細砂混入	〃	〃
370	〃	10.9			頸部外面凹線6本，ヘラ先の刺突，体部内面ヘラ削り	茶褐色 淡黄白淡茶色	〃	良好	〃
371	鉢形土器	17.5	18.7	9.2	体部内面ヘラ削り，外面荒いハケ目，底部ヘラ削りのちナデ	内：白黄茶色 約半分近くが黒色～黒灰色 外：淡黄白茶色～暗茶色	水こし粘土にかなりの細砂を混入	良好	〃
372	壺形土器	17.6			口縁内面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヨコナデ	淡黄茶色 暗灰褐色	若干（ごく）細砂混入	〃	〃
373	高杯形土器	26.2			内面ヘラミガキ，外面上はヨコナデ，中はヘラ削り，下はヘラミガキ	黄淡白色，茶褐色	細粗砂かなり混入	〃	〃

374	高杯形土器	18.5			口縁内面クシ目，ヘラ削り，外面クシ目あり，整形粗雑である	内外面共に白淡黄色 暗灰茶色，淡赤茶色	かなり細砂（非常に細かい）と多量に含む	良好	D-22 P-59
375	甕形土器	17.9	46.3	12.0	体部内面ヘラ削り，底部ヘラミガキ，外面上半ハケ目，中面下半ヘラミガキ	淡黄茶色，茶褐色 黒色～黒灰色	かなり砂粒0.5～3㎜を混入	〃	〃
376	壺形土器	12.2	26.8	8.2	頸部内面シボリ目，外面ヨコナデ，体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	白淡黄色，茶褐色	かなり粗砂を混入	〃	D-20 SH03
377	蓋形土器		6.4	13.6	外面指整形，内面ヘラ削り	黒色（½）白黄淡茶色	細粗砂混入（かなり）	〃	〃
378	壺形土器	10.6	21.0	6.7	体部内面ヘラ削り，外面ハケ目，下部指押え	淡黄茶色 黒暗茶褐色	かなり細砂混入（0.5～1㎜）	〃	〃
379	〃	12.4	29.0	8.4	体部内面ヘラ削り，外面上半ナデ，下半ヘラミガキ	淡茶褐色，白灰淡黄色 暗茶褐色	多量の粗砂（0.5㎜以下）混入	〃	〃
380	甕形土器	14.2	31.8	8.4	〃，外面ハケ目，下部指押え，頸部に刺突	淡黄色，茶淡褐色 茶褐色の化粧土	若干細砂混入	良好	〃
381	〃	15.5	27.3	8.0	〃，外面上半ハケ目，下半ヘラミガキ	白黄色，茶淡褐色 黒茶褐色（下¼）	多量の粗砂粒混入	〃	〃
382	〃	11.7	23.9	7.8	〃，外面ハケのちナデ仕上げ，底部ヘラおこし	茶褐色（化粧土）	かなり粗砂混入	〃	〃
383	〃	11.1	24.5	7.8	〃，外面指押えのちナデ仕上げ	白淡黄色，淡茶褐色 灰白色～黒色	〃	〃	〃
384	〃	12.0	24.6	7.4	〃，外面指押えのちナデ，下部ヘラ押え	淡黄色～茶褐色 黒灰茶色～黒色（一部）	かなり粗砂粒混入	〃	〃
385	〃	15.4	32.1	8.8	〃，外面ヘラミガキ，下部ヘラ押え	淡黄色，茶褐色	かなり細砂混入	〃	〃
386	〃	14.5	33.6	8.4	体部内面ヘラ削り，下半ナデ仕上げ，外面ヘラミガキ	淡黄淡茶色	かなり粗砂混入	〃	〃
387	〃	16.4	37.4	10.1	〃，下部ナデ仕上げ，外面ハケ目残る，底部貼り付け	淡赤茶褐色 黒茶褐色	細粗砂多量に混入	〃	〃
388	〃	18.8	39.7	8.3	体部内面ヘラ削り，外面ハケナデ仕上げ	淡茶褐色 （黒ハン（下部の一部））	多量の砂粒混入	〃	〃
389	〃	15.0	29.0	7.5	〃，外面ヘラミガキのちナデ仕上げ	黄茶淡褐色 黒色，灰白色	かなり砂粒を混入	〃	〃
390	〃	15.9	31.4	7.8	〃，外面ヘラミガキ	淡黄色，淡黄茶色 暗茶褐色	粗砂多量に混入	〃	〃
391	〃	12.4			〃，〃	白淡黄色，茶淡褐色 黒色，白暗灰色（内黒）	かなり粗砂粒混入	〃	〃
392	〃	14.2	33.6	8.6	〃，外面上半ハケ状工具，下半ヘラミガキ	茶淡褐色，白灰，黒色 黒ハン（下部）	細砂粒をかなり混入（多）	〃	〃
393	〃	15.6	31.6	8.0	〃，外面上半ハケナデ，下半ハケのちナデ仕上げ	黄茶褐色	多量の粗砂混入	〃	〃
394	〃	13.6	28.9	7.6	〃，外面ヘラミガキ	白淡黄色 黒灰～黒灰暗褐色	細砂多量に混入	〃	〃

395	甕 形 土 器	17.3	29.6	7.4	体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	茶褐色，黒茶褐色 黒色	かなり細粗砂混入	良好	D-20 SH03
396	〃	16.0	28.5	7.2	〃 ，外面上半ハケ，下半ヘラミガキ	黄淡茶色 黒色（二次焼成の媒）	細砂（多）粗砂若干混入	〃	〃
397	〃	14.7	27.1	5.8	〃 ， 〃 ， 〃	白淡黄色，白灰色 黒茶暗褐色	粗砂かなり混入	〃	〃
398	〃	15.4	24.2	5.8	〃 ， 〃 ，下半細かいヘラ削り	茶褐色，白灰淡黄色	細砂粒かなり混入	良好	〃
399	〃	15.3	27.2	6.6	〃 ，外面はハケのちナデ仕上げ	茶褐色，黒灰色（少）	細砂多量に混入	良好	〃
400	〃	14.3	24.8	5.4	〃 ，外面はハケのちナデ仕上げ，底部ヘラ削り	白灰茶色，白黄茶褐色（下部）	かなり細粗砂混入	〃	〃
401	〃	15.3	27.2	6.6	〃 ，外面上半ハケ，下半ヘラ削りのちナデ，底部ヘラ削り	淡黄茶色 茶褐色～黒茶褐色	かなり粗砂混入	〃	〃
402	〃	14.4	23.8	5.8	〃 ，外面ハケナデ調整，底部ヘラ削り	白灰黄色 暗赤茶色	多量の細粗砂の混入	良好	〃
403	〃	17.1	26.6	6.2	〃 ，外面上半ハケナデ，下半ヘラミガキ（？）	白淡黄色，黒色褐色 茶淡褐色	多量の粗砂を混入	良好	〃
404	〃	15.1	23.25	5.4	〃 ，外面ハケナデ，底部ヘラ削り	茶褐色（半分） 黒色～黒灰色（灰分）	かなり粗砂混入	良好	〃
405	〃	16.4			〃 ， 〃	淡黄色，茶褐色 黒茶褐色	〃	〃	〃
406	〃	11.6			〃 ，外面上半ハケ，下半ヘラミガキ	赤暗茶色，黒褐色 （二次焼成媒付着）	粗砂かなり混入	良好	〃
407	甕 形 土 器	16.85	33.0	9.2	内面ヘラ削り，外面ハケナデ	内：白淡黄暗茶色，赤暗茶色 外：暗黄茶色	多量の細砂 粗砂（若干）を混入	良好	D-19 土器溜り
408	〃	14.4	25.3	4.6	〃 ， 〃 ，下部指押え	赤茶褐色，黒茶褐色 黒色（下部）	粗砂多く混入	普通	〃-1
409	壺 形 土 器	29.4			内外面ナデ	内：白淡茶色 外：茶淡褐色	若干細砂混入	良好	〃-1
410	〃	19.4			口縁部内外ナデ，体部内面ヘラ削り，外面ハケ	淡黄白茶色	多量の細砂小石（1～2㎜）を混入	〃	土器溜り
411	甕 形 土 器	15.6			内面ヘラ削り，外面ハケナデ	暗黄茶褐色	粗砂・小石（多）混入	普通	〃-1
412	鉢 形 土 器	18.0	15.4	7.1	内面指押えのちヘラミガキ，外面ヘラミガキ,部分的にハケ目あり	黄淡茶色～茶淡褐色	多量の細砂を混入	良好	〃-1
413	甕 形 土 器	13.0	19.3	5.2	体部内面上半ヘラ削りのちナデ，下半ヘラ削り，外面ハケのち指ナデ仕上げ	赤淡茶色，淡茶色 黒色，暗黄淡茶色	多量の粗砂混入	良好	D-20 SH03
414	〃	16.1	19.4	6.0	体部内面ヘラ削り，外面ハケナデ仕上げ	黄淡茶色，赤淡茶色 黒色～黒茶褐色	多量の粗砂粒混入	良好	「こしき」SH03
415	〃	13.4	18.0	4.8	〃 ， 〃	暗黄茶色褐色，黒色，黒茶色 二次焼成の媒付着	砂粒0.5～4㎜若干混入	良	〃

416	甕形土器	13.9	10.2	5.5	体部内面ヘラ削り，外面指ナデ調整か（？）	暗茶色，赤茶褐色	細粗砂を混入（多）	良	D-20 SH03
417	〃	9.5	17.2	4.8	〃，外面指押えのちハケ目，こしきの未整品	暗赤茶色，黒色	〃	〃	〃
418	〃			5.9	〃，外面上半ナデ仕上げ，下半ハケ目	（暗）赤暗茶色 黄茶色（¼）	かなりの砂粒混入0.5～1㎜	良好	〃
419	〃	11.0			体部内面指押え，外面指押え	白淡黄淡茶淡褐色 一部黒色あり（黒ハン）	粗砂粒多く混入	良好	〃
420	鉢形土器	13.4			体部内面ヘラ削り，外面ハケのちナデ仕上げ	黒茶暗褐色，茶褐色	かなりの量の粗砂混入	良好	〃
421	甕形土器			10.3	体部内面ヘラ削りのちナデ仕上げ，外面ハクリのため不明	淡黄暗茶褐色	細粗砂の混入あり	良好	〃
422	高杯形土器	15.4	13.7	9.5	内外面ヘラミガキ，脚内部ヘラ削り	黒灰褐色	細粗砂混入（多）	良好	〃
423	〃	19.2			内面ナデ仕上げ，外面不明	白淡茶色 淡黄茶色，黒茶褐色（少）	粗砂粒多量ニ混入	〃	〃
424	〃		10.2	14.6	ハクリのため調整不明	黄茶色，赤茶褐色	粗砂多量ニ混入	良好	〃
425	鉢形土器	40.2	25.1	10.6	体部内面ヘラ削り，外面ハケ目，下部ヘラ削り，底部ヘラ削り	白黄茶色，暗茶色 黒茶褐色	細粗砂かなり混入	良好	〃
426		34.3	22.3	11.2	〃，〃，〃	黄淡赤茶色（黒色¼下部）	多量の細粗砂混入	〃	〃
427	〃	33.1	22.95	11.8	〃，〃，〃	白黄淡茶色 外面下部半分黒色～黒灰色	細粗砂を混入	〃	〃
428	〃	29.4	21.7	8.8	〃，外面上部ヨコナデ，以下はハケのち指ナデ仕上げ	白淡黄色，茶褐色 黒灰色（化粧土）	多量の細粗砂混入	〃	〃
429	〃	31.6			〃，外面は荒イハケ目	茶褐色，暗茶褐色（部分）	かなり粗砂，砂粒混入	〃	〃
430	〃	13.7	12.85	6.4	〃，外面指押え，頸部に2ケ1対の穴をうがっている	白淡黄色，茶淡褐色 灰白色，黒色（一部）	粗砂粒多く混入	〃	〃
431	〃	18.6	10.5	5.7	〃，外面上部ヨコナデ，下部は指ナデのちハケ調整	白淡黄色，淡赤茶色	細粗砂を混入（多）	良	〃
432	〃	19.8			〃，外面不明	白淡黄色，淡黄茶色	粗砂粒かなり混入	良好	〃
433	台付鉢形土器	24.4	21.1	12.7	〃，外面ハケのちナデ，高台裏面ヘラ削り	淡黄茶色～黒灰淡茶色	細粗砂を混入	良好	〃
434	〃	22.0	?	?	〃，外面下半ハケ目	白淡灰黄茶色	細砂（多）粗砂若干混入	〃	〃
435	〃	17.5	15.75	9.0	〃，外面ハケ目，高台部ナデ，底部はめ込み	白黄色～黒灰色	細粗砂を混入（多）	〃	〃
436	〃	20.4	16.9	8.8	体部内面指押えのちヘラミガキ，外面ヘラミガキ，上部ヨコナデ	茶褐色，黒色 赤淡茶色（一部分）	かなり粗砂粒混入	〃	〃
437	〃	16.7	10.5	7.5	体部内面ヘラ削り，外面不明，高台裏面ヘラ削り，底部はめ込み	黄茶色，赤暗茶色	細粗砂混入（多）	良	〃
438	〃			10.6	内面ヘラ削り，外面ナデ仕上げ，底部はめ込み	白黄淡茶色	〃	良好	〃
439	高杯形土器	14.5			内面ヘラ削りのちナデ，外面ヘラ押えのちナデ，裏面ヘラ削り	白淡黄灰色～黒灰色	〃	〃	〃
440	〃			10.5	内面ヘラ削り	白黄淡赤茶色	〃	〃	〃

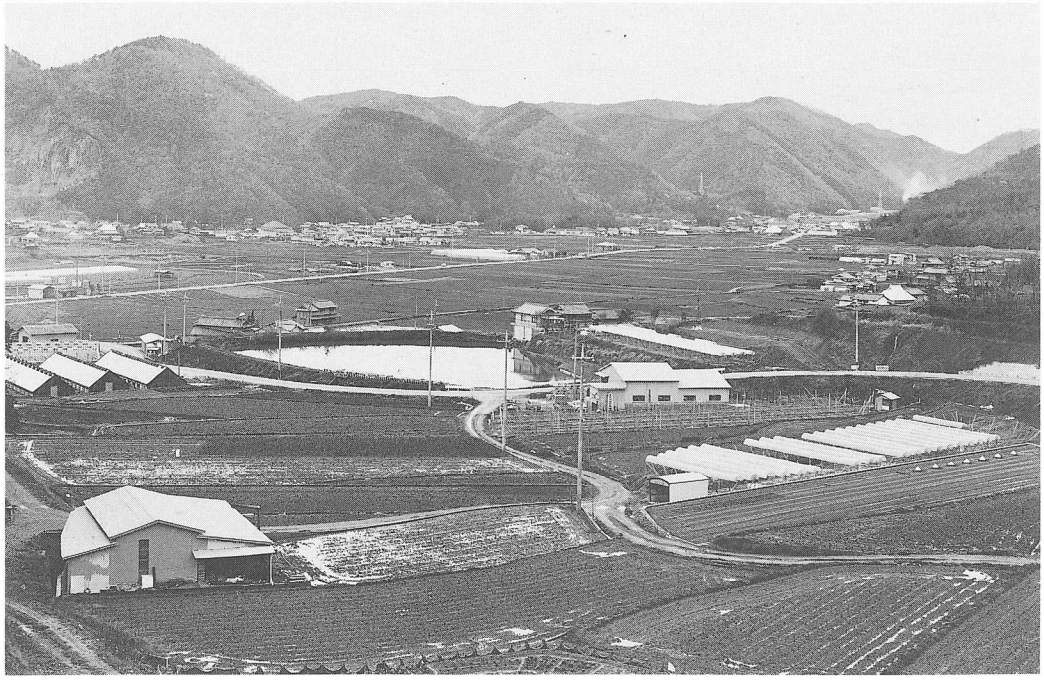
441	高杯形土器	20.5			内面指ナデのちヘラミガキ，外面上部ヨコナデ	白淡黄色，茶褐色 白灰色，黒色	粗砂粒かなり混入	良好	D-20 SH03
442	器台形土器	25.5	22.5	26.1	内面シボリで上部はヘラ削り，外面ハクリで不明，下部ナデのちヘラミガキ	白淡黄茶色	かなりの細粗砂混入	良好	〃
443	〃	22.5	21.5	22.1	内面上半ヘラ削りのちナデ，下半ヘラ削り，下部ヘラ削りのちナデ，外面上・下部ヨコナデ	〃	〃	〃	〃
444	鉢形土器	25.2			体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	黒色（一部） 暗茶褐色	かなり粗砂混入	良好	SH03 P-4
445	甕形土器	10.5	27.3	6.0	〃 ，外面には部分的にハケ目残る	淡黄淡茶色，茶淡黄色 黒茶褐色	細砂多量に混入	良好	SH03 P-4 に接するSK 下層SK
446	〃				内面指ナデ，口縁外面貼り付け突帯（一部分残る），沈線	茶淡褐色 黒茶暗褐色	多量の砂粒（0.5～3㎜）混入	普通	SH03 下層 SH P-7
447	〃				〃 ，口縁端部にキザミ目，外面に沈線	白淡黄淡茶色	かなり粗砂粒混入	良好	〃
448	高杯形土器			8.8	内面ヘラ削り（？）	白淡黄色 胎土は茶淡褐色		普通	SH03 P-4 に接するSK 下層SK
449	甕形土器	18.4			体部内面ヘラ削り，外面ナデ	淡黄茶褐色	細砂粒多量に混入	良好	SH03内 SK
450	杯蓋	13.8	4.9		外面上部ヘラ削り，下部と内面ナデ	暗青灰色	若干砂粒を混入する	良好	〃
451	〃	13.0			〃 ， 〃	黒青色	ごく若干細砂混入	〃	〃
452	〃	12.9			内外共にナデ	黒青灰色	ごくわずかに細砂混入	〃	〃
453	〃	13.4			〃	〃	若干細砂粒を混入	〃	〃
454	壺形土器				内面2ケ所2列の貼り付け突帯，上部突帯内に細通し穴	黒色～灰色 暗黄淡縁茶色	細粗砂かなり混入	良好	SE01
455	甕形土器	11.7			内外面共にナデ	内：白淡黄色 外：黒茶褐色	水こし若干の細砂混入	良好	SE01
456	〃				内面ナデ，外面に沈線	内：暗茶(褐)色 外：黒褐色	細砂混入	〃	〃
457	〃				内面ヘラ削りのちナデ，外面に沈線	内：淡黄茶色 外：白淡黄灰白色	細粗砂をかなり混入	〃	〃
458	〃				内面ナデ仕上げ，外面に沈線，口縁端部にキザミ目	内上：淡赤茶褐色～暗茶褐色 外：黒茶暗褐色	細粗砂粒かなり混入	〃	〃
459	鉢形土器	19.1			内外面共に指押えのちナデ仕上げ，外面に化粧土の塗布	茶褐色 黄淡茶色（白淡黄茶色内面）	細砂かなり混入	〃	〃
460	底部			8.8	内外面共にヘラミガキ	黒色（½），白黄淡茶色（½）	水こし若干細砂混入	〃	〃
461	脚部			18.6	内外共に指押えのちナデ仕上げ	灰白色～黒灰色	砂粒（0.5～3㎜）かなり混入	良好	〃
462	椀形土器	10.4	4.0	4.3	内外ナデ仕上げ，貼り付け高台	白淡黄色	水こし微砂多量混入	良好	SE02
463	〃	11.6			〃	〃	水こし微砂多量	〃	〃

464	小　　皿	10.6	2.8	3.4	内外指ナデ，貼り付け高台	白淡黄色	水こし，若干細砂混入	良好	SE02
465	〃	8.5	1.4	6.4	内外指ナデ，底部ヘラ削り	黄淡赤茶色	若干細砂混入	〃	〃
466	〃	7.6	1.3	6.4	〃　，　〃	白黄淡茶色	水こし細砂かなり混入	〃	〃
467	椀形土器	15.0				灰淡縁淡黄色	磁　器	〃	〃
468	土　　鍋	24.9			内面荒いハケ目，外面指押えのちナデ	黒色（内外 胎土→白淡灰色	かなり細砂を混入	〃	〃
469	土　　錘				長さ6.4cm，手捏ね	淡茶褐色 暗灰白色（少），暗茶色（少）	細砂かなり混入	〃	SE04
470	椀形土器	13.8			内外共に指ナデ	白淡茶色	多量の微砂混入	〃	〃
471	小　　皿	8.3	1.5	7.1	〃　，底部ヘラおこし	茶淡褐色	かなりの細砂混入	〃	SE05
472	〃			6.2	ナデ仕上げ，高台は貼り付け	乳白色	微砂多量	良好 (砂っぽい)	〃
473	椀形土器	16.8			口縁は玉縁になっている	白淡灰色	磁器（白磁）	良好	〃
474	〃	13.2			内外共にナデ仕上げ	乳白色	微砂多量	良好 (砂っぽい)	〃
475	壺形土器				内面指ナデ仕上げ（無頸壺）	白淡茶色 茶淡褐色	多量の細粗砂粒を混入	普通	SN SD01
476	甕形土器				内面ナデ仕上げ，外面に沈線	黄淡茶色，茶淡褐色（少）	粗砂粒かなり混入	〃	〃
477	鉢形土器				内面クシ状工具によるナデ仕上げ，外面に浅い沈線	白淡灰黄色	細粗砂かなり混入	良好	〃
478	甕形土器	15.3			体部内面ヘラ削り，口縁立ち上がりは貼り付け	白淡黄色	多量の細砂粒混入	〃	SN SD01
479	〃				外面に沈線と口縁端部にキザミ目	暗灰暗茶黒褐色	かなり粗砂粒を混入	〃	〃
480	脚　　部			10.1	内面は不明，外面はハケ状工具（上部），ヨコナデ（下部）	白黄淡茶色	かなり細砂混入	普通	〃
481	〃			24.3	内面ヘラ削り，ナデ，外面に5本の凹線	黒灰暗褐色	〃	良好	〃
482	壺形土器				内面指ナデ仕上げ，外面沈線	白淡黄色	多量の粗砂粒0.5～3㎜混入	〃	SD02
483	甕形土器	20.3			体部内外面共にヘラ削りのち指ナデ仕上げ	黄茶褐色，黒褐色	細粗砂かなり混入	〃	SD03
484	〃				口縁三角形の突帯と体部に沈線	黒茶褐色，暗赤茶色	粗砂粒（0.5～3㎜）多く混入	良好	〃
485	底　　部			8.2	内外面共にヘラ削り	白淡黄暗灰色	かなりの細粗砂混入	良好	〃
486	小　　皿	8.5	1.4	5.5	内外共にナデ仕上げ，ヘラおこし	淡黄茶色 黄暗灰色	〃	〃	SD04
487	〃	7.6	1.4	5.4	〃　，　〃	黒灰色 淡黄茶色	多量の細砂を混入	〃	〃
488	壺形土器	14.9			内面上半ヘラミガキ，下半シボリ，外面中程に刺突，下はクシ目	内外共：茶褐色の化粧土 外：暗茶褐色	かなりの粗砂を混入	〃	SD07（最下層）

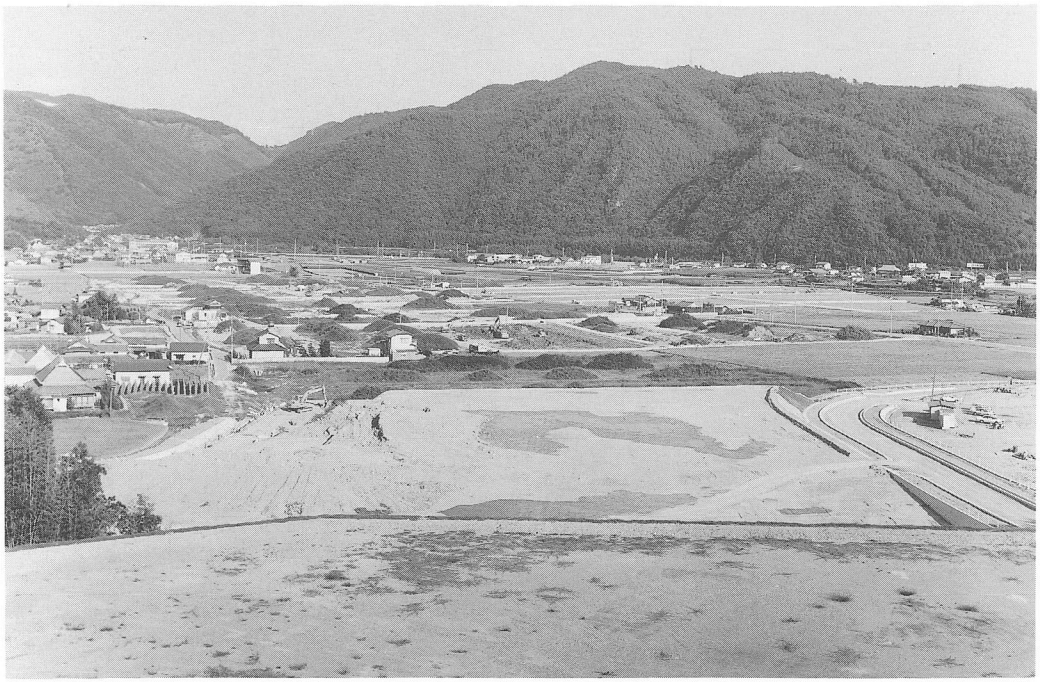
489	甕形土器	18.1			内外共にヨコナデ，外面に二次焼成の媒付着	白淡黄淡茶色	粗砂かなり混入	良好	D-20 SD07
490	高杯形土器	15.6			杯内外上部ヨコナデ，下部ヘラミガキ，脚内面ヘラ削り，化粧土あり	化粧土（暗赤茶色） 胎土は白淡黄色	水こし若干細砂混入	良好	〃
491	壺形土器	10.4			内面ヨコナデ，外面は縦のナデのち波状文	茶淡褐色	かなりの細砂混入	〃	SD08
492	甕形土器				内面ヘラ削りのちナデ仕上げ，外面に沈線	黒茶褐色	多量の細砂混入	〃	〃
493	〃	17.0			体部内面ヘラ削り，外面ハケ目	頸より上：白淡黄色，茶淡褐色 〃　下：黒灰暗褐色	細砂かなり混入	〃	〃
494	壺形土器	9.6			口縁内面布引き（？），外面７本の凹線，体部内面ヘラ削り，外面ヘラミガキ	淡赤茶褐色（胎土） 暗茶淡褐色（内・外）	水こし若干の細砂混入	〃	SK01
495	甕形土器	14.3			体部内面ヘラ削り，外面ハケ状工具によるナデ仕上げ	白黄淡茶色	細砂多量に混入	〃	〃
496	〃	19.3			〃　，外面には縦斜のハケ状工具の跡	〃	〃	〃	〃
497	〃	20.3			体部内面指ナデ（指頭痕残る），外面ハケ目	黒茶暗褐色，黒暗縁色 白黄色，暗茶色は部分	粗砂多く混入	〃	〃
498	高杯形土器	24.8			内面ヘラミガキ，外面上半ハケ状工具のナデ，下半ヘラミガキ	黄淡茶色	水こし若干の細砂混入	〃	〃
499	〃			6.4	内外共にナデ仕上げ	白黄淡茶色	若干細砂粒混入	〃	〃
500	〃	14.0			内面ヘラミガキ，外面下半にクシ目，若干残り，ヘラミガキによる仕上げ	〃　，暗茶色	かなり細砂混入する	〃	〃
501	脚部			14.5	内面ヘラ削り，下部ナデ，外面にはハケ状工具の痕跡残る	黒色，暗茶暗褐色	細砂かなり混入	〃	〃
502	甕形土器	25.7			体部内面指押えのちナデ仕上げ，外面に沈線，口縁端部にキザミ目	暗茶褐色 黒茶暗褐色	かなりの細粗砂混入	〃	SK03
503	底部			9.4	内面ヘラ削り，外面指ナデのち細かいヘラ削り	暗赤茶色，白淡黄色 黒灰色，淡黄茶褐色	多量の細砂を混入	良好	〃
504	〃			9.0	内面指ナデ仕上げ，外面はハクリのため不明	暗黄茶褐色 黒茶褐色	粗砂粒多量に混入	〃	〃
505	甕形土器	26.0			内面ナデ仕上げ，　〃	黒色（外） 白淡黄淡茶色	多量の細粗砂粒を混入	普通	SK04
506	〃				内面ナデ仕上げ，外面には沈線，口縁端部にキザミ目	黒褐色	粗砂混入	〃	〃
507	〃				貼り付け突帯にキザミ目あり，口縁端部にもキザミ目	黒灰暗褐色	粗砂粒多量に混入	普通	SK05
508	小皿	8.2	1.6	6.8	内外共にナデ仕上げ，底部はヘラおこし	白淡茶色	かなり細砂混入	良好	土壙墓-1
509	〃	8.1			〃	内：淡白黄茶褐色 外：淡茶色	微砂多，細砂若干混入	〃	〃
510	土製品				指ナデによる調整，端部には斜めに穴を開けている	表面：白黄淡茶色 内部：黒色	細砂多量に混入	普通	袋状 pit （焼土）北西部
511	甕形土器				内面ヘラミガき，外面10本の沈線と口縁端部にキザミ目	淡黄茶淡褐色	かなりの粗砂粒を混入	良好	P-6

512	小　　皿	8.7	2.6	5.1	内外共にナデ，ヘラおこし	白黄茶色	水こし若干（ごく）細砂混入	良好	P-9
513	〃	9.3	3.0	5.0	〃　，ヘラ削り	茶淡褐色	若干細砂混入水こし	〃	〃
514	底　　部			7.0	〃　，貼り付け高台	白淡茶色	かなり細砂混入	〃	〃
515	小　　皿	8.2	1.5	6.4	〃　，ヘラおこし	白淡黄茶色，暗灰色（一部）	微（多）細（少）砂混入	良好	〃
516	〃	8.3	1.4	6.4	〃　，　〃	黄茶淡褐色	水こし微砂多く混入	普通	P-18
517	高杯形土器	18.8	11.3	12.9	杯内面はミガキ風のナデ，外面ナデ，脚部以下の外面ハケ状工具による調整	黄色，茶褐色	微砂多く混入	普通	P-45
518	底　　部			6.1	内外共に指押えのちナデ仕上げ，高台は貼り付け	黄味がかった白色	粗細砂かなり混入	普通	P-14
519	甕形土器	18.2	31.2	8.0	体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り，ハケナデ等による調整仕上げ	淡茶色	粗細砂かなり混入	良好	SN 南側凹部
520	脚　　部			22.2	内部ヘラ削り・ナデ，外面には凹線	内：白黄淡茶色 外：白淡黄茶色	かなりの細砂混入	〃	〃
521	甕形土器	17.0			体部内面ヘラ削り，外面上部ハケ目，以下ヘラ削りのちハケナデ仕上げ	灰黄淡茶色，茶淡褐色 黒色（下部）	〃	〃	SN 土器溜り
522	〃	17.0			体部内面ヘラ削り，外面ナデによる仕上げ，口縁外面6本の沈線	茶淡褐色 （若干黄色味おびる）	〃	普通	〃
523	壺形土器	17.2			内外面ナデ仕上げ，頸部外面に荒いハケ目	淡赤茶褐色（口） 淡黄茶色	細砂多量に混入	普通	〃
524	〃				内面ナデのち貼り付け突帯，外面上半ヘラミガキ，下半ナデのち貼り付け突帯	黄茶色 黒灰茶褐色	多量の砂粒（0.5～3㎜）混入	良好	D-26 SK01
525	〃				内面指押え，外面上半ヘラミガキ，下半ハケのち貼り付け突帯キザミあり	白黄暗茶色 黒色	細粗砂かなり混入	〃	〃
526	小形鉢形土器	11.6	7.3	5.5	内外共にヘラミガキ，底面ヘラ削り	内外：黒色 胎土は灰色（暗灰色）	水こし粘土	〃	〃
527	〃	9.6	7.6	5.2	内外共に指ナデ，底面ヘラ削り	白淡黄色（上） 黒灰色（下）	〃	〃	〃
528	甕形土器				内面ヘラ削りのちナデ，外面沈線，口縁端部にキザミ目	黒茶褐色	粗砂粒かなり混入	良好	〃
529	〃				内外面共にヘラ削りのちナデ仕上げ，6本の沈線	赤黄茶色 黒色)	〃	良好	〃
530	〃				〃　，10本の沈線，キザミ目（口縁）	淡黄茶色（少頸部） 黒茶暗褐色	〃	〃	〃
531	〃				5本の沈線，口縁端部にキザミ目	白黄色（少）淡黄茶色 暗茶褐色	〃	良好	〃
532	〃				内面ヘラ削りのちナデ，外面ヘラ削り，口縁貼り付けキザミ目（口縁）	白黄淡茶色	細粗砂粒かなり混入	良好	〃
533	〃				内外共にヘラ削りのちナデ，4本の沈線とキザミ目（口縁）	白灰淡黄色 黒灰暗茶褐色) 混	砂粒0.5～2㎜多量に混入	良好	〃
534	底　　部			10.8	内面指ナデ仕上げか（？），底部ヘラ削り	白淡黄茶淡褐色	〃	〃	〃
535	〃			10.6	内面指ナデ，外面ヘラミガキ，底部ヘラ削りのちナデ仕上げ	淡黄色，暗茶褐色 黒色，黒茶暗褐色	多量の砂粒0.5～2㎜混入	良好	〃

536	小形鉢形土器	10.9	7.6		内面上半ナデ，下半ヘラ削り，外面指押えのち上部はナデ仕上げ	淡赤褐色，灰暗褐色 黄茶淡褐色	ごくわずかに0.1㎜以下混入	良好	D-26拡 SK01
537	高杯形土器	10.8			内外面共に細かいヘラミガキ，口縁部はヨコナデ，外面に沈線	淡黄茶褐色 内外共に茶暗褐色（化粧土）	細砂多量に混入0.1㎜以下	普通	SK04
538	〃	14.3			内面上部ヨコナデ，下部ヘラミガキ（？），外面上部ヨコナデ，下部へら削り（？）	白黄淡茶色（内）（上） 暗黄茶色，黒灰色（外）	細砂かなり混入	〃	包含層
539	〃	16.9	11.3	13.6	杯内外，脚外面ヘラミガキ，裾部はハクリで不明	暗茶褐色	かなり粗砂を含む	良好	包含層
540	〃	16.1	12.3	12.35	杯内面ハケ，外面ナデ仕上げ，脚裾内面ナデ，外面指押えのちナデ	上内：暗黄茶色 外：白淡茶色 下内：茶淡赤褐色	多量の細粗砂粒を含む	〃	〃
541	〃	15.1			内面ハケ状工具によるナデ，外面指押えのちナデによる仕上げ	淡黄茶褐色	多量の微砂混入	普通	D-26拡 包含層
542	〃	14.7			口縁内側はナデ，と外面下部にハケ目，他はハクリで不明	〃	微砂が大部分（砂っぽい）	〃	〃
543	〃	15.0			調整はハクリのため不明	〃	多量の微砂，若干細砂混入	〃	〃
544	底　　部			3.9	内面ハクリで不明，外面はハケ目，指ナデ，底部ヘラおこし	明茶淡褐色（内） 暗茶褐色（外）	若干粗砂混入	〃	〃



1．調査前（北東丘陵上から）

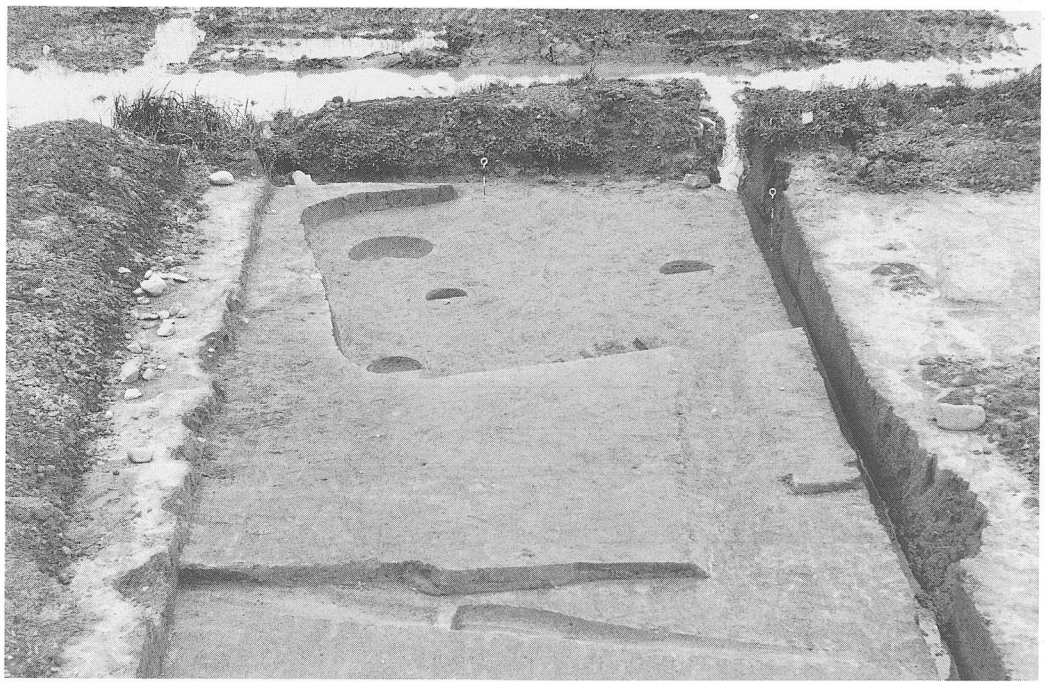


2．第 2 期工事区域（北西から）

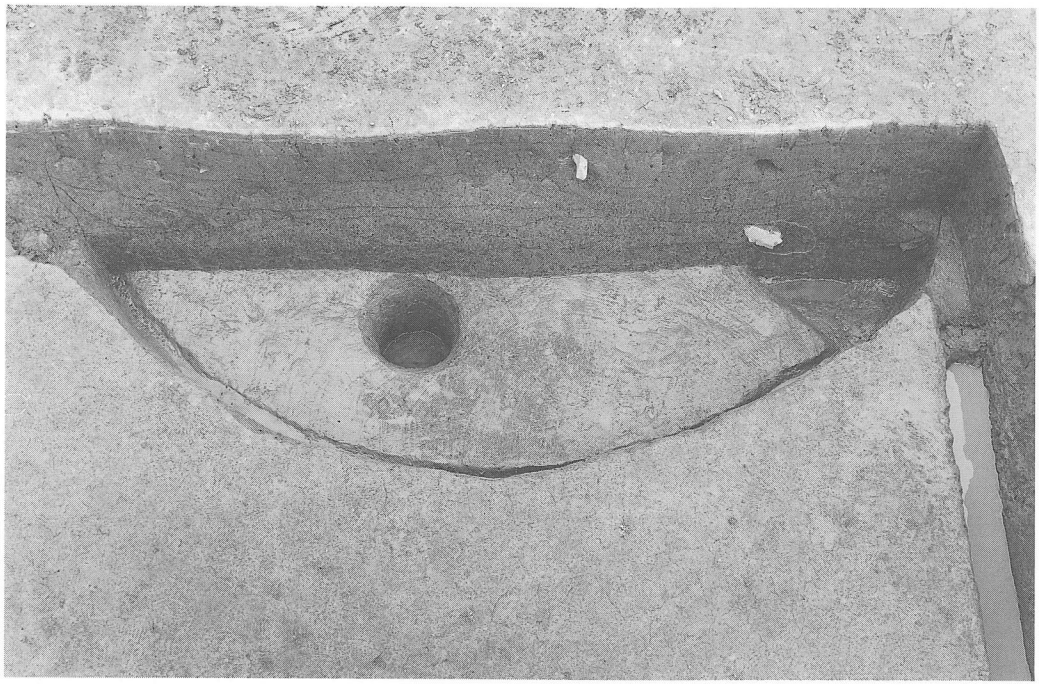
図版２

１．Ｄ12区遺構検出状況（東から）

２．Ｄ12区遺構検出状況（北から）

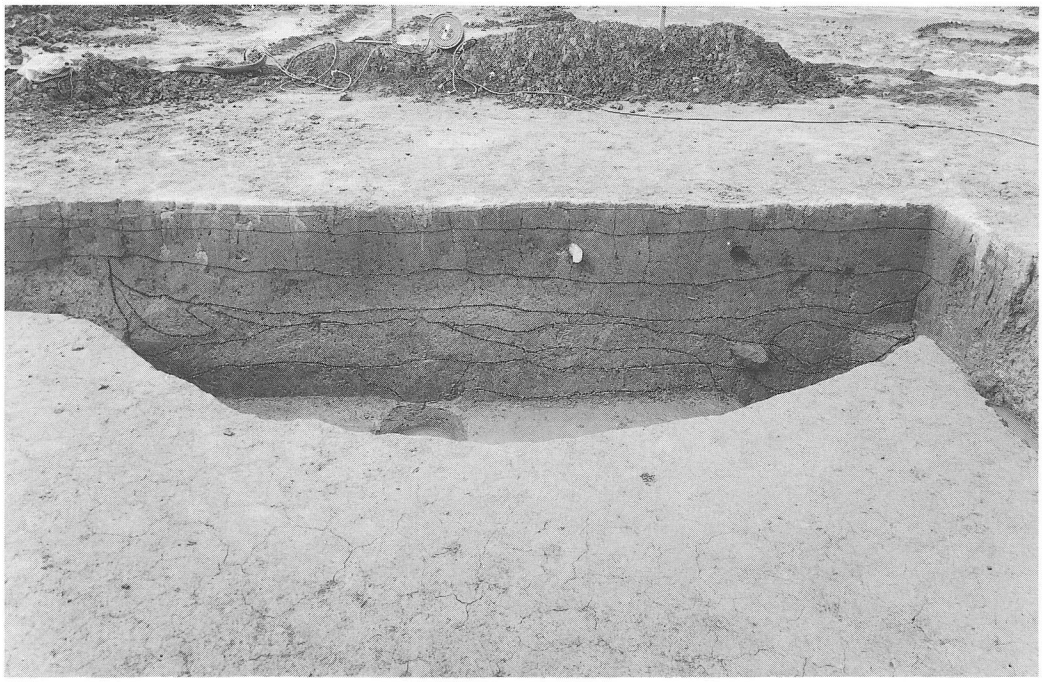


1．D12区 1 号住居址完掘状況（東から）



2．D12区 2 号住居址完掘状況（南から）

図版４



１．Ｄ12区２号住居址北壁土層断面（南から）

２．Ｄ12区３，４，５土器溜り完掘状況（北から）

1．D12区 5 号住居址内遺物出土状況・南北土層断面（西から）

2．D12区土器溜り全景（北西から）

図版 6

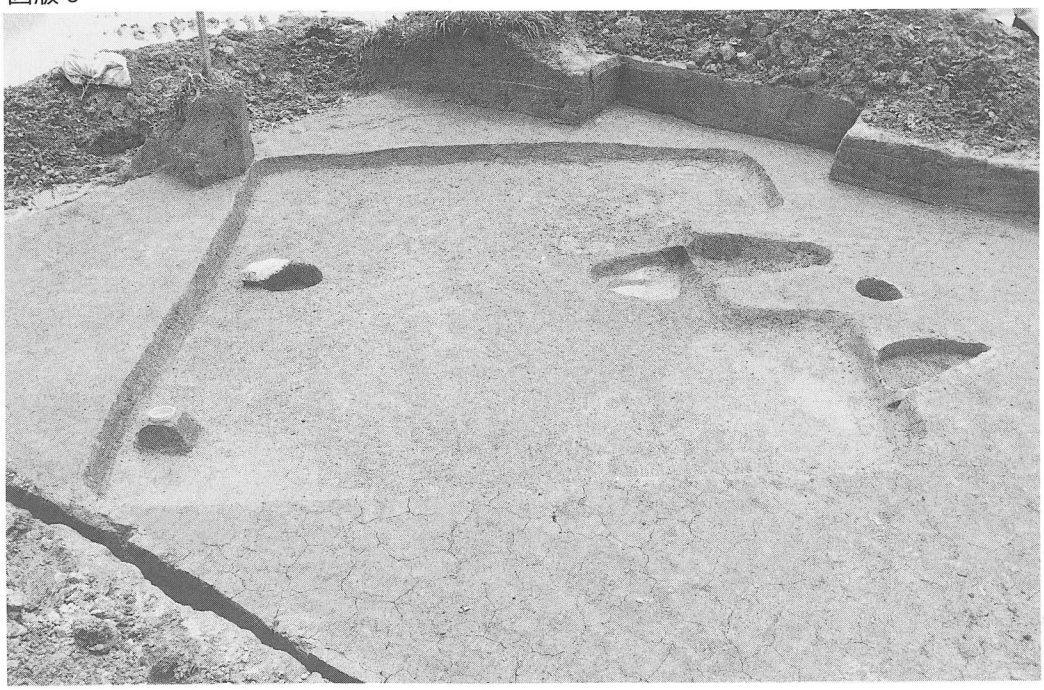
1．D12区下層遺構検出状況（北から）

2．D12区 6 号住居址炭化物検出状況（南東から）

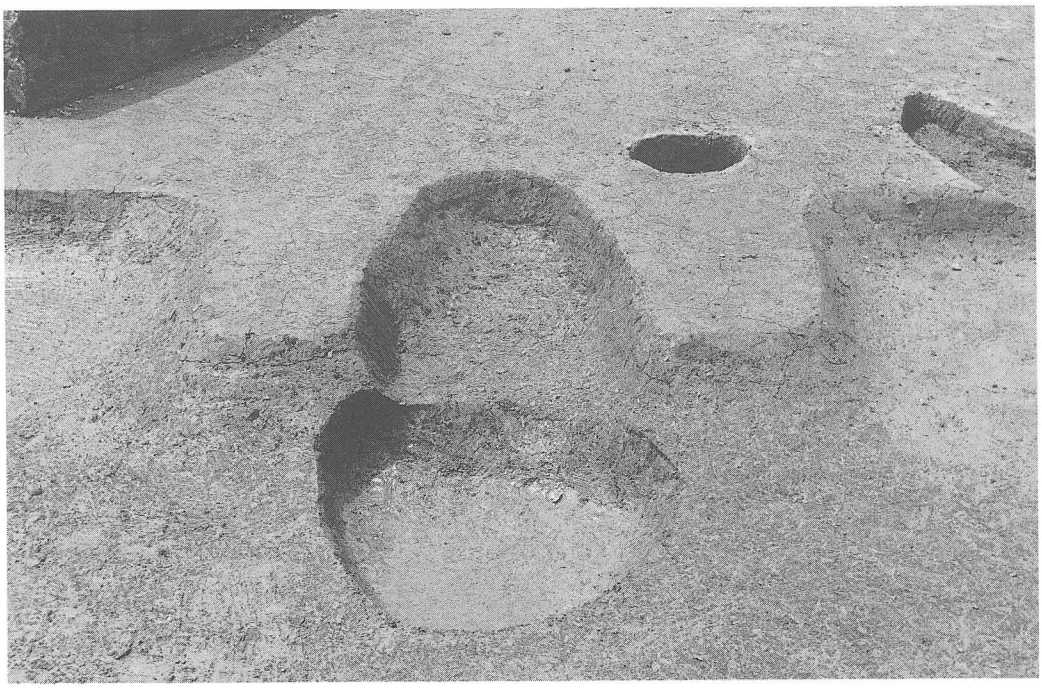
1．D12区 6 号住居址完掘状況（南東から）

2．D12区 7 号住居址検出状況（北東から）

図版 8

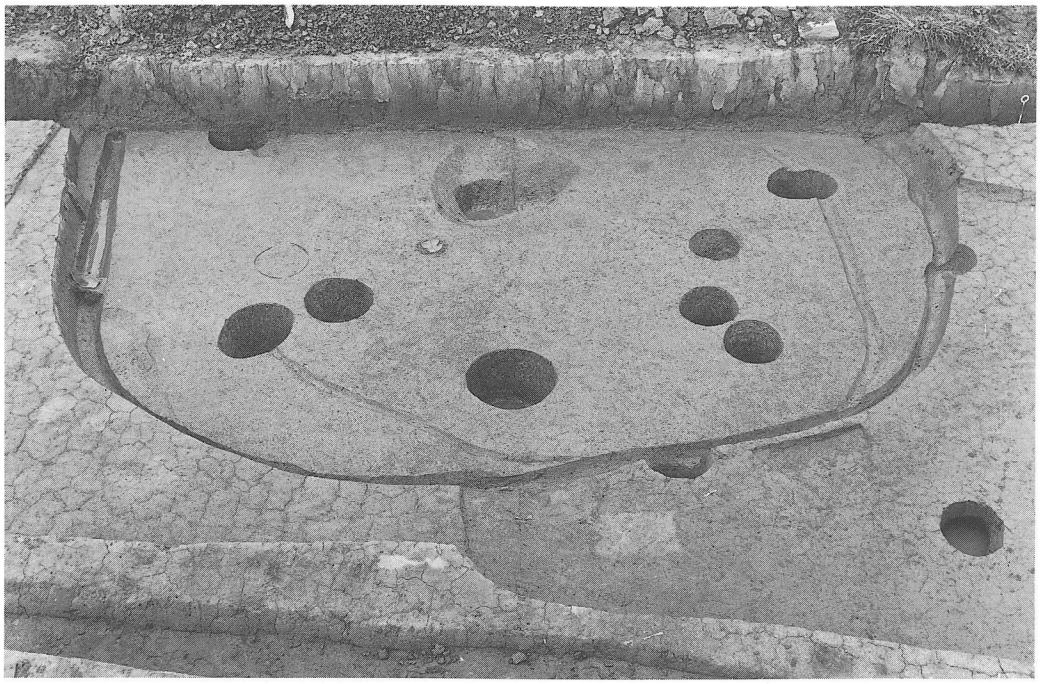


1．D12区 7 号住居址検出状況（北東から）



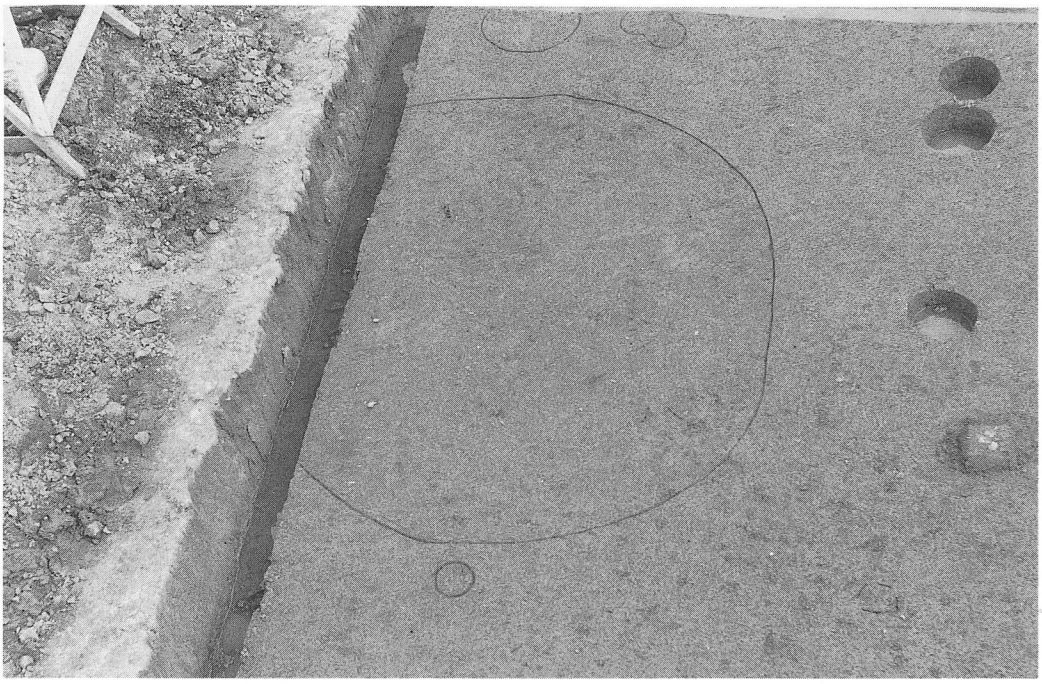
2．D12区住居址かまど検出状況（南東から）

1．D12区井戸（下）8号住居址（上）完掘状況（北から）

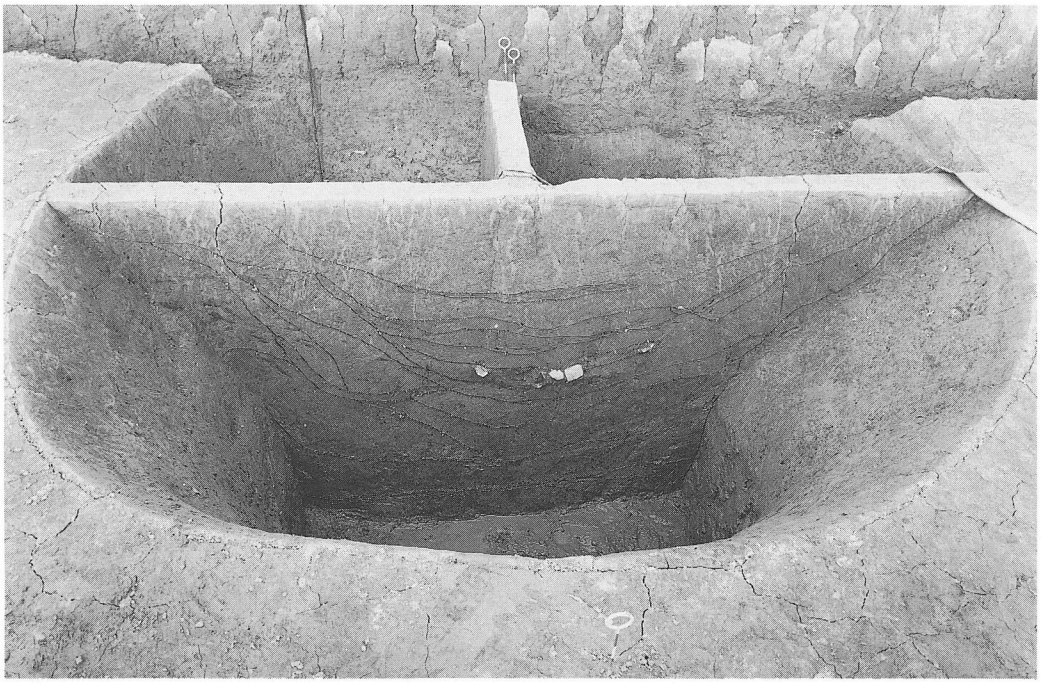


2．D12区8号住居址完掘状況（西から）

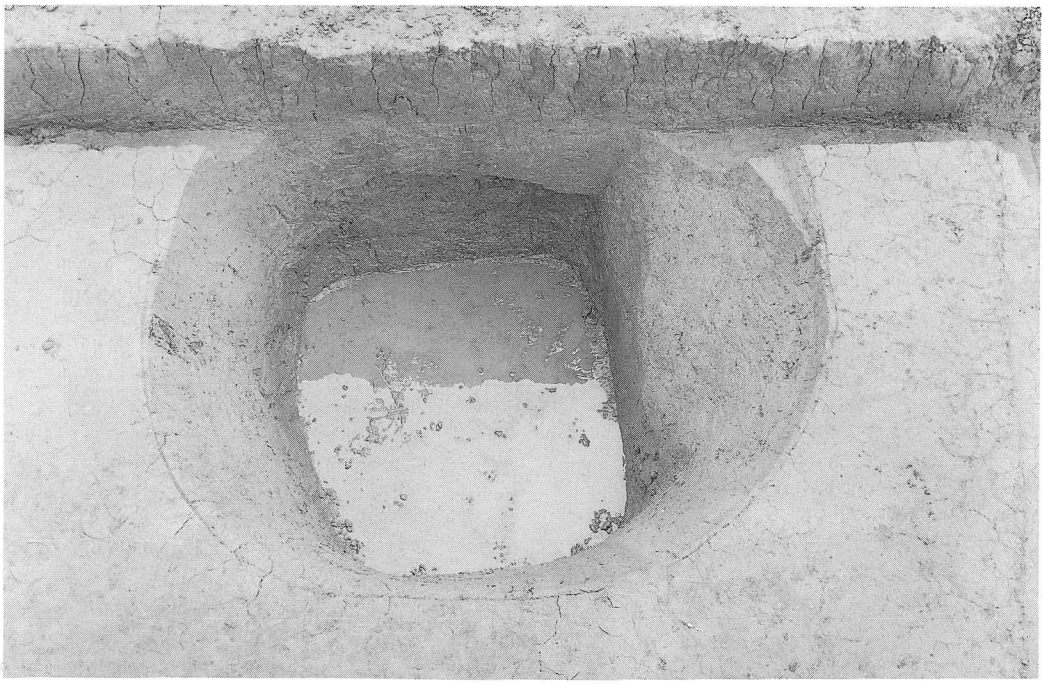
図版10



1．D12区井戸検出状況（北から）



2．D12区井戸南北土層断面（西から）



1．D12区井戸完掘状況（西から）

2．D12区建物全景（北から）

図版12

1．D12区下層遺構完掘全景（北から）

2．D19区（一次）遺構検出状況（東から）